

令和4年度 文部科学省補助事業  
「学校を核とした地域力強化プラン事業」  
**実践事例集**

学校と地域の連携・協働が滋賀のみんなを笑顔に！

『地域学校協働活動推進事業』

『コミュニティ・スクール推進事業』

『地域における家庭教育支援基盤構築事業』



滋賀県教育委員会

## －はじめに－

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、急激に社会が変化する中で、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化・多様化しています。

そうした状況の中、新学習指導要領の「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域が共有し、連携・協働することによってその実現を図っていくことが必要です。

本県におきましては、第3期教育振興基本計画の中で「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、「社会全体で支え合い、子どもを育む」という方針のもと、「家庭や地域と学校との連携・協働活動の充実」として、「持続可能な地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクールの導入」を推進しているところです。

地域学校協働活動とコミュニティ・スクールそれぞれが持つ役割を十分に機能させ、一体的な推進を図ることで相乗効果を発揮し、地域の教育力の向上と学校運営の改善に結びつけることが期待できます。このため、令和4年度も「学校を核とした地域力強化プラン事業」として「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」、さらに「家庭教育支援」の3つを総合的に推進し、県全体での展開を目指してまいりました。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、学校と地域の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」「地域づくり」に献身的に取り組まれている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いいたします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

# 〔目 次〕

◆ 事業の概要 ..... 1

## I 県の取組 ..... 8

(1) 推進協議会の概要 ..... 8

(2) 各研修会の概要 ..... 10

◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(市町事業担当者対象) ..... 10  
◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(新規導入市町等対象) ..... 11  
◇県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会 ..... 12  
◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(事業推進市町等対象) ..... 13  
◇「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会 ..... 14  
◇「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会 ..... 15

## II 市町の地域学校協働活動の取組 ..... 16

◇彦根市.....16	◇野洲市.....21	◇日野町.....26
◇近江八幡市...17	◇湖南市.....22	◇竜王町.....27
◇草津市.....18	◇高島市.....23	◇愛荘町※.....28
◇栗東市.....19	◇東近江市.....24	◇甲良町.....29
◇甲賀市.....20	◇米原市.....25	◇多賀町.....30

※愛荘町は町独自の取組

## III 地域学校協働本部の実践事例 ..... 31

◆令和4年度地域学校協働本部一覧 ..... 31

◇彦根市.....33	◇野洲市.....100	◇日野町.....165
◇近江八幡市...57	◇湖南市.....109	◇竜王町.....171
◇草津市.....80	◇高島市.....122	◇愛荘町※.....172
◇栗東市.....95	◇東近江市.....128	◇甲良町.....180
◇甲賀市.....96	◇米原市.....159	◇多賀町.....181

※愛荘町は町独自の取組

**IV 地域未来塾の実践事例** . . . . . 182

◆令和4年度地域未来塾一覧 . . . . . 182

◇彦根市 . . . . . 183	◇竜王町 . . . . . 198
◇湖南市 . . . . . 193	◇多賀町 . . . . . 199
◇米原市 . . . . . 195	
◇日野町 . . . . . 197	

**V 放課後子ども教室の実践事例** . . . . . 200

◆令和4年度放課後子ども教室一覧 . . . . . 200

◇近江八幡市 . . . 201	◇東近江市 . . . . . 212
◇草津市 . . . . . 205	◇日野町 . . . . . 215
◇栗東市 . . . . . 205	◇多賀町 . . . . . 218
◇野洲市 . . . . . 208	○放課後児童クラブの現状 . . . . 219

**VI 土曜日の教育支援活動の実践事例** . . . . . 221

◆令和4年度土曜日の教育支援活動一覧 . . . . . 221

◇湖南市 . . . . . 222
◇東近江市 . . . . . 226
◇竜王町 . . . . . 234

**VII 地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例** . . . . . 237

◆令和4年度家庭教育支援活動一覧 . . . . . 237

◇彦根市 . . . . . 238	◇湖南市 . . . . . 250
◇近江八幡市 . . . 242	◇高島市 . . . . . 252
◇草津市 . . . . . 244	◇東近江市 . . . . . 254
◇栗東市 . . . . . 246	◇日野町 . . . . . 256
◇甲賀市 . . . . . 248	◇竜王町 . . . . . 258

**VIII コミュニティ・スクール推進事業** . . . . . 260

# 令和4年度 学校を核とした地域力強化プラン

滋賀県教育委員会

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

## 趣旨

## 滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】 国 1/3  
滋賀府県 1/3  
市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

### 県 推進協議会の設置

- 総合的な教育支援活動の在り方の検討
- コーディネーター等を対象とした研修の企画
- 事業の評価

### 市町 運営委員会の設置

- 教育委員会と福祉部局等の連携方策
- 地域の人材確保方策の検討
- 支援体制の整備・支援活動の実施 等

### 統括的な地域学校協働活動推進員

(統括的な地域コーディネーター)

- ・未実施地域における取組実施を推進
- ・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

### 地域学校協働活動推進員 (地域コーディネーター)

- ・地域住民等や学校との連絡・調整
- ・地域学校協働活動の企画・推進等

地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を中心に、様々なボランティアが緩やかなネットワークを構築し、地域学校協働活動を推進

### CSの導入・促進

- CSディレクターの活用により、円滑なコミュニティ・スクールの導入および推進体制構築の支援

### 補助要件

- ①コミュニティ・スクールを導入していること、または導入に向けた具体的な計画があること
- ②地域学校協働活動推進員を配置すること

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進

### 地域人材等の参画

### 地域学校協働活動

協働活動サポート  
協働活動支援員  
特別支援・共生社会サポート  
学習支援員

多数のボランティア等

#### 地域学校協働本部

■地域と学校が連携・協働する仕組みづくり(本部)を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

(R4) 14市町 128本部

- ・学校支援活動・学校周辺環境整備
- ・郷土学習・学びによるまちづくり
- ・地域人材育成・地域行事への参加 等



#### 地域未来塾

■中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

(R4) 6市町 33教室

- ・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を提供



#### 放課後子ども教室

■放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実

(R4) 7市町 35教室

- ・活動拠点(居場所)の確保
- ・放課後等の学習指導
- ・自然体験活動支援
- ・文化活動支援 など
- 放課後児童クラブ(首長部局)と連携

#### 土曜日の教育支援

■すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施

(R4) 3市町 29教室

- ・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

## 趣旨

## 「コミュニティ・スクール推進事業」(県実施)

【補助率】 国 1/3  
滋賀府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

### CSアドバイザー派遣

- 各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言
- 市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進

### 研修の充実

- 学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。制度等への理解を深め、導入の促進と取組の充実を図る。

## 趣旨

## 「地域における家庭教育支援基盤構築事業」

10市町

【補助率】 国 1/3  
滋賀府県 1/3  
市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

### 地域人材の養成

- 家庭教育支援員の養成

### 家庭教育支援体制の構築

- 家庭教育支援チームの組織化
- 家庭教育支援員の配置

### 家庭教育を支援する取組の展開

- 学習機会の効果的な提供
- 親子参加型行事の実施
- 情報提供・相談対応

- 家庭教育支援チームの拡充を含めた地域における家庭教育支援体制の拡充・強化  
…訪問型家庭教育支援に取り組む家庭教育支援員の配置拡充を推進
- 学校と連携し、家庭をつなぐ機会を創出するための家庭教育支援員のコーディネート力や専門性の向上等に関わる研修機会の充実

# 地域学校協働本部

〔令和4年度 滋賀県教育委員会〕

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

「支援」から「連携・協働」へ

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

**趣旨** 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。



## 期待される効果

- 子どもにとって** ⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。
- 学校にとって** ⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。
- 地域にとって** ⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつけられる。地域の子どもの顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつけられる。

# 地域未来塾

〔令和4年度 滋賀県教育委員会〕

【補助率】	国	1/3
	都道府県	1/3
	市町村	1/3

－地域の力による放課後等学習教室－

## 現状と課題

- ・児童・生徒が、平日に学校の授業時間以外に勉強する時間が、全国と比較して短い。
- ・家で学校からの課題でわからないことがあったとき、そのままにしている中学生が約12%いる。  
【令和4年度 全国学力・学習状況調査結果より】
- ・家庭の事情に左右されず、誰もが学習できる環境づくりが必要。

## 『第3期教育振興基本計画』 (H31.3策定)

家庭の状況が多様化する中、子どもがしっかりとした学力を身に付けることができるよう、幅広い地域住民の参画により、放課後、土曜日、休日等における一人ひとりの子どもに寄り添った学習や居場所づくりの取組を支援します。

## 国の動向

- 地域住民等の参画による放課後等の学習支援・体験活動として位置づけを変更。
- ・ **全ての児童・生徒を対象**に、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により実施する **原則無料**の学習支援等
  - ・ 社会的経済的背景によらず、**誰もが学ぶことができる環境の実現**
  - ・ 地域での活動と学校の教育課程との連携を図り、教師だけでは取り組みにくい活動につなげる。

## 趣旨

# 地域未来塾



**中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施**

- ◆ 幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を提供
- ◆ 家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生への学習支援の場として、多様な視点からの支援を実現
- ◆ 部活動休業日（ノ一部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減を



## 教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員  
・教育活動サポーター等を配置

### 【内容】

- ① 自学自習の支援など補習的学習
- ② 講義・授業など、教科に即した発展的学習

### 【対象】

学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定

### 【場所】

実施主体の実態に応じて柔軟に設定  
(学校の余裕教室や地域の公民館など)

### 【回数等】

回数、定期・不定期不問

### ○県内の取組事例

- 〈中学校で実施・放課後の学習支援〉
- ・ 対象は、中1～3年生の希望者
- ・ 年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
- ・ 国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
- ・ 指導員は、教員OBや大学生

## 子どもたちの 学習習慣の定着 「学ぶ力」の向上

学校との連携

- ・ 活動スペースとなる余裕教室の提供
- ・ 学習プリントの提供
- ・ 児童生徒の情報交換
- ・ 参加を促す広報チラシ等の配布
- ・ ボランティアへの助言・サポート など

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、**貧困の負の連鎖を断ち切る。**

## 貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

### ■令和4年度実施

6市町 33教室

- ・ 彦根市 (20)
- ・ 湖南市 (4)
- ・ 米原市 (5)
- ・ 日野町 (2)
- ・ 竜王町 (1)
- ・ 多賀町 (1)

福祉部局からのアプローチ

○子どもの学習・生活支援事業  
生活困窮世帯の子どもを対象とした学習・生活支援事業。県および市が国の補助を受け、**13市2町**で実施(R4)

○地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂  
「はぐくみ基金」による実施団体への助成事業  
**13市5町164か所**で実施(R4.8月末)

# 放課後子ども教室

令和4年度  
滋賀県教育委員会

国 1/3

都道府県 1/3

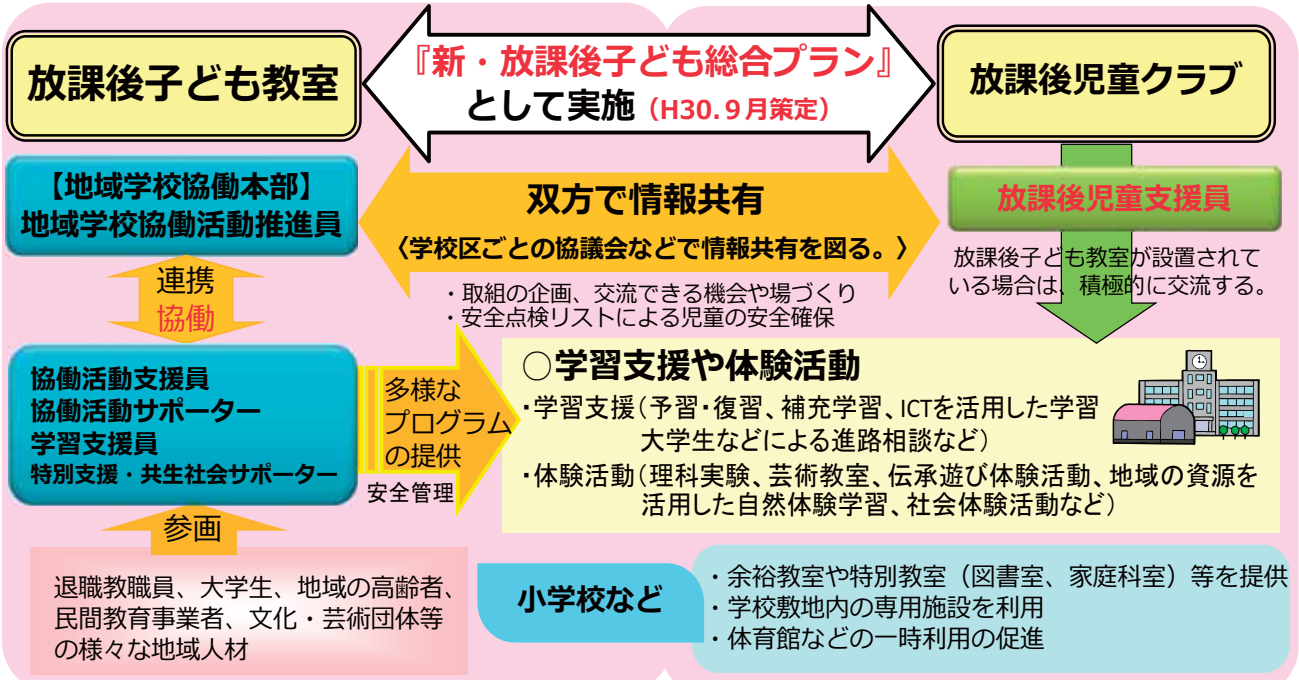
市町 1/3

## ～新・放課後子ども総合プランの推進～ 【補助率】

### 趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域住民等の参画を得て、学習支援や体験活動を実施する。

令和4年度実施：7市町35教室



### 県の取組

#### 学校を核とした地域力強化プラン研修会

地域学校協働活動推進員、コーディネーター、運営委員会委員、協働活動支援員、協働活動サポーター、学習支援員、特別支援・共生社会サポーター、ボランティア、専任指導員、放課後児童支援員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

### 市町の取組

#### 放課後子ども総合プラン運営委員会

- 事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
- ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ(学童保育)
○すべての子ども(小学校に就学している児童)	<b>対象</b>	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学習支援・体験活動の場	<b>内容</b>	○遊びの場・生活の場
地域学校協働活動推進員等のコーディネーターが中心となって、学習やスポーツ、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	<b>主な活動</b>	放課後児童支援員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○伝承遊び、学習(予習、復習、宿題等)、スポーツ、文化活動など	<b>スタッフ</b>	○遊び、学習(宿題)
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員 学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 特別支援・共生社会サポーター 特に配慮が必要な子どもたちへの支援	<b>実施場所</b>	放課後児童支援員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	<b>開催日</b>	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末(教室により異なる)	<b>利用者負担</b>	○平日の放課後、土曜(クラブにより異なる)
○無料(教室により保険、材料費などの徴収あり)	<b>県内数</b>	○月額5,000円～10,000円程度(施設により異なる)
○7市町35教室(令和4年度実施)		○19市町339クラブ19,905人(令和4年5月1日現在)



# 土曜日の教育支援活動

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

令和4年度  
滋賀県教育委員会

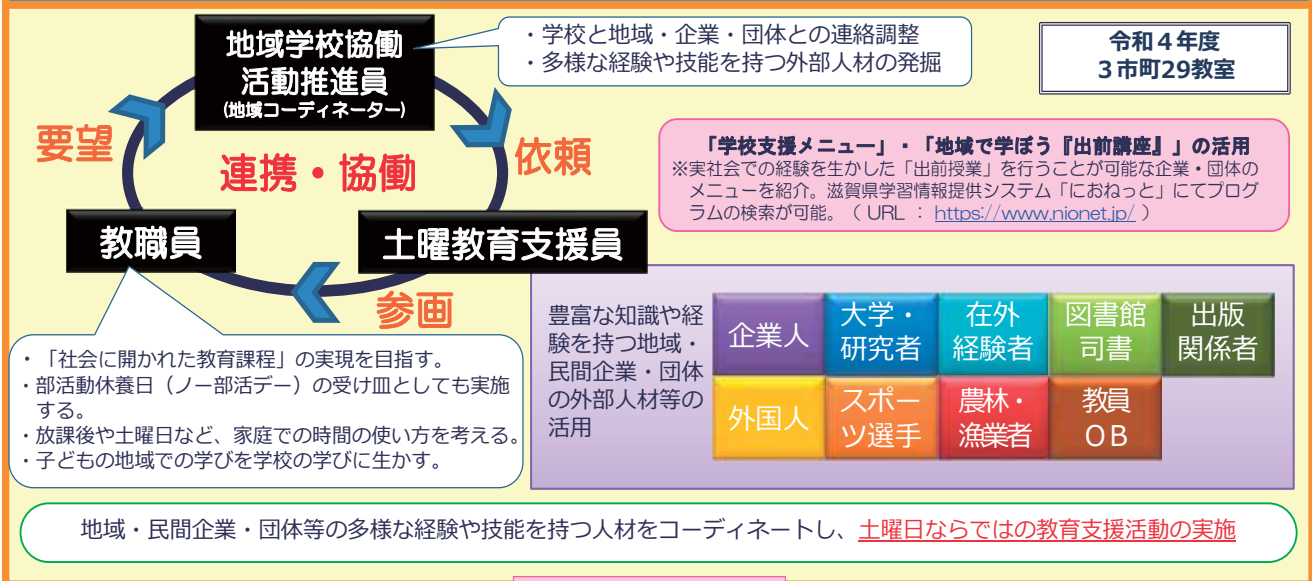
## 趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力<sup>(※)</sup>」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力



## 土曜日の教育支援活動の仕組み



● 地域の子どもの中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が**確かにつながり**、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、**「社会に開かれた教育課程」の実現**を図る。  
 ● 地域の豊かな社会資源を活用した**体系的・継続的な学習プログラム**を実施することにより、**「学ぶ力」の向上**を図る。

～土曜学習例～

- **学習意欲や学習習慣形成につなげる事例**  
 学力向上を図る補足的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室等
- **体験活動を中心とした事例**  
 自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏等
- **地域の歴史や文化を学ぶ事例**  
 地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの  
実社会で得られた  
**知識や経験を子どもたちへ!**

**外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。**



# 地域における家庭教育支援基盤構築事業

## 背景

家庭を取り巻く環境が変化する中、地域において、全ての保護者が安心して家庭教育を行うことができる支援体制の仕組みづくりを行い、地域のニーズを踏まえた家庭教育支援の取組を行うことが重要である。

## 目的

家庭や地域と学校との連携強化を図りつつ、家庭教育支援に関わる地域の多様な人材の養成、家庭教育支援を担う者等の配置、「家庭教育支援チーム」の組織化等を行う。そして身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施、家庭教育に関する情報提供や相談対応等の支援活動の実施に加え、支援が行き届きにくい家庭への対応を充実させることにより、地域における家庭教育支援の基盤を構築する。

### 「滋賀県家庭教育支援推進協議会」の設置

### 滋賀県

### 家庭教育員等に対する研修の実施

- 家庭教育支援活動の総合的な在り方を検討
  - 「訪問型家庭教育支援」の効果的な手法等の普及
  - 子育ておよび家庭教育支援の研修・交流 等に関する協議
- リーフレット「訪問型家庭教育支援」の手引きの活用



- 地域の協力者の確保や資質向上等の方策
- 家庭や地域と学校との連携・協働の推進方策
- 他の事業関係者等との情報交換・情報共有
- 人材育成に係る専門的な研修内容

等の内容で研修実施

研修等を受けた家庭教育支援員等による支援を通じ、社会に支えられた保護者が家庭教育支援員等へと循環していくことを目指す

## 市町で展開される事業内容

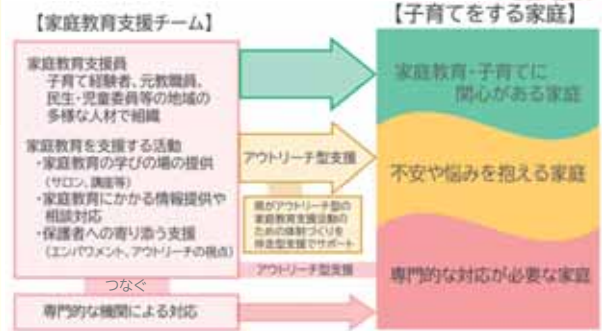
令和4年度実施  
(10市町)

彦根市 ・近江八幡市 ・草津市 ・栗東市 ・甲賀市  
・湖南市 ・高島市 ・東近江市 ・日野町 ・竜王町

### ①運営委員会の設置等

- 家庭教育支援体制の整備、支援活動の在り方検討
- 地域の人材確保や養成方策の検討
- 福祉部局等との連携方策 等  
行政関係者(教育委員会および福祉部局)、学校関係者、PTA関係者、社会教育関係者、学識経験者等幅広い分野の方々の参画を得て実施

地域全体で家庭教育を支える体制や支援が届きにくい  
家庭への対応を充実させることが必要



### ②家庭教育支援に関する推進体制の構築

- 家庭教育支援に関わる地域の多様な人材の養成  
支援活動の企画・運営・関係機関・団体への連携等を担う中核的人材を養成
- 家庭教育支援員等の配置  
家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う家庭教育支援員を配置するなど、**身近な地域における家庭教育支援体制を強化**
- 「家庭教育支援チーム」の組織化  
【チーム員構成例】  
子育て経験者等の子育てサポーターリーダー、民生・児童委員、元教員、保健師、SSW等
- 家庭教育支援員等に対する研修の実施  
県実施の研修を効果的な機会として活用。市町での実施も可能

### ③家庭教育支援に関する取組の実施

- 保護者への学習機会の効果的な提供  
就学時の健診や保護者会、参観日や企業内での従業員向け研修など、多くの親が集まる機会を活用
- 親子参加型行事の実施  
親子の自己肯定感や子どもの自立心などを養成するプログラム提供
- 家庭教育に関する相談対応や情報提供  
子育てに悩みや不安を抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭状況に応じ、家庭教育支援チームなどによる情報提供や相談対応を実施
- 保護者に寄り添うアウトリーチ型支援の実施  
自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な保護者など、**真に支援が必要な家庭**に対し、**家庭教育の自主性を尊重**しつつ、保護者の居場所に出向き、保護者に寄り添い情報提供や相談対応を実施する。  
「家庭教育の基盤構築を支援する地域の人材育成事業」を活用し、市町への伴走型支援をすることで県内で**支援が届きにくい家庭への対応の普及**を図る。

# 滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

※「地域と学校の連携・協働体制構築事業」を含む。

令和4年度  
滋賀県教育委員会

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となつて子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」への転換を目指すことが必要であり、平成29年4月学校運営協議会の設置が努力義務化された。  
・「学校運営協議会制度」に関する研修機会の拡充を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。また市町や県立学校のコミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築等に対して助言を行うアドバイザーを県に配置し、各市町や県立学校を訪問して助言を行うとともに、県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進する。

## 趣旨

### CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業「地域と学校の連携・協働体制構築事業」として実施 補助率：国1/3

#### ①CSアドバイザー派遣

市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言や設置後のアフターフォロー

#### ②コミュニティ・スクールの研修の充実

推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

#### ③推進協議会の開催

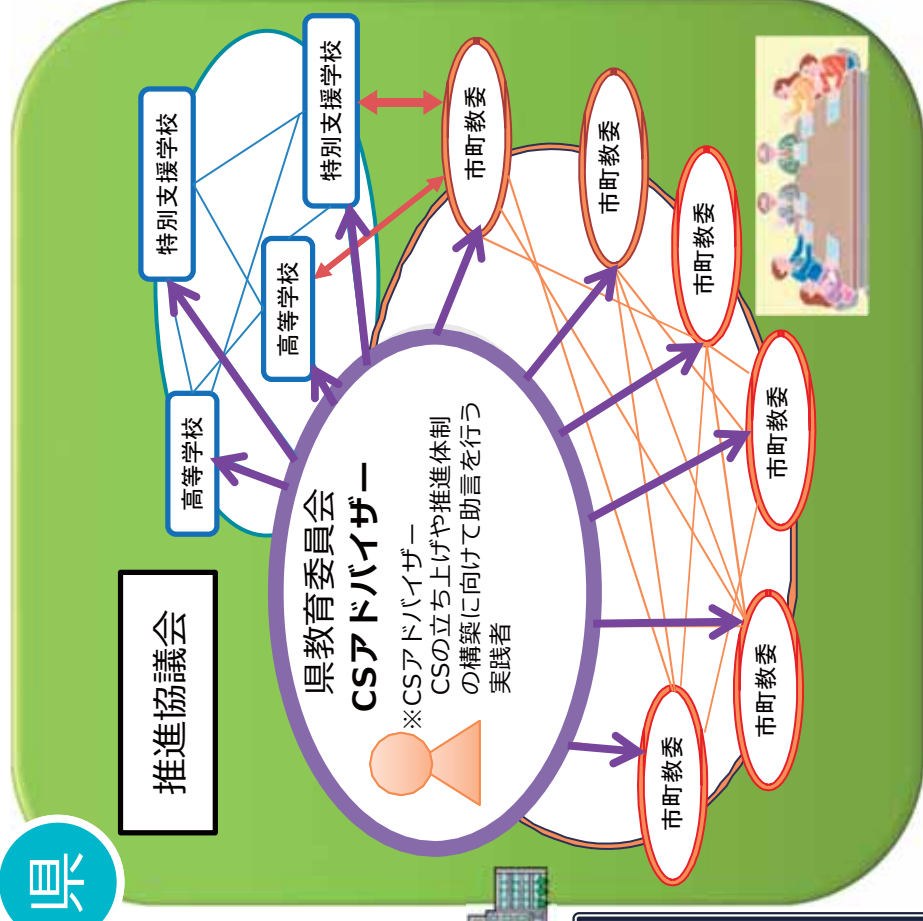
#### ④学校運営協議会設置（県立学校）

コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- 学校教育の質の向上および学校支援活動の充実
- 地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開
- 地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上

→ 社会総がかりで子どもたちを育む

## 県



↑ 地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

# I 県の取組

## (1) 推進協議会の概要

### ◆ 推進協議会委員 (敬称略・五十音順)

No.	氏名	所属等	No.	氏名	所属等
1	伊藤 照男	滋賀県CSアドバイザー	5	中村 敦夫	滋賀県立甲良養護学校 校長
2	上村 文子	滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー	6	矢田 充宏	彦根市立鳥居本小学校 校長
3	木村 真由美	近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課 指導主事	7	山元 尚美	湖南市立石部南小学校 地域学校協働 活動推進員 学校運営協議会委員
4	武井 哲郎	立命館大学経済学部 准教授 滋賀県CSアドバイザー			

### ◆ 第1回推進協議会

#### 1 協議会概要

期 日：令和4年6月6日（月）14:00～15:30

会 場：滋賀県庁北新館 5-F会議室

※会場参加およびオンライン参加による開催（下線の参加者は、Zoomによる参加）

出席者：伊藤座長、武井副座長、木村委員、中村委員、矢田委員、山元委員

事務局：県生涯学習課（8名）、高校教育課 杉原参事、幼小中教育課 畑主幹、特別支援教育課 左谷参事、子ども・青少年局 一戸主任主事

- (1) 開 会 県生涯学習課長 挨拶
- (2) 座長、副座長選出
- (3) 協 議
  - ①令和4年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
  - ②今年度の力点について
    - ・「持続可能な地域連携の推進方策について」
    - ・「市町に対しての家庭教育支援に係るアプローチについて」



#### 2 協議要旨

- ・ボランティアが高齢化している。辞められる方に次の方を紹介してもらうことで、持続可能な取組となる。
- ・まちづくり協議会の方や子育て支援団体の方などと連携がとれるとよい。
- ・関連する地域の組織と、福祉部局が行っている活動を、どうやって整理していくのが重要。
- ・チェックリストを使うなどして、導入して5年10年経った地域・学校では、どういう風に今やっている活動を整理して深めていけばよいか考えていくとよい。



- ・高等学校、特別支援学校にとっては地域は広い。子どもたちの生活とどう結び付けていくかが大切。
- ・何を最も大事にしたいのか地域の方と話し合いながら、焦点化をしていくことが大事。
- ・学校のことをまず知ってもらうという事が大事。子どもたちや、先生たちはどんな取組をしているかを知ってもらう。市町の教育委員会サイドのリーダーシップも非常に必要。
- ・家庭教育支援員が、CSの組織の一員となり、CSで熟議される内容の中に、不登校の課題等について共有が図られた事例がある。家庭教育支援とCSの相乗効果が期待できる。

## ◆第2回推進協議会

## 1 協議会概要

期 日：令和5年1月16日（月）14:30～16:00

会 場：滋賀県庁北新館 5-F会議室

※会場参加およびオンライン参加による開催（下線の参加者は、Zoomによる参加）

出席者：伊藤座長、上村委員、木村委員、中村委員、矢田委員、山元委員

事務局：県生涯学習課（8名）、高校教育課 杉原参事、特別支援教育課 左谷参事、子ども・青少年局 木津室長補佐 兼係長

- (1) 開 会 伊藤座長 挨拶  
(2) 報 告

令和4年度滋賀県各事業の取組と国の動向について

- ① 県実施事業について
- ② 各市町における地域学校協働活動の取組状況について
- ③ コミュニティ・スクール導入状況およびCSアドバイザー会議・派遣について
- ④ 県および市町における家庭教育支援の状況について
- ⑤ 情報提供（文部科学省「令和4年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況について」より）



- (3) 協 議

今後の地域と学校の連携・協働体制の推進の在り方について

テーマ：コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に向けて必要なことは何か

第2回CSアドバイザー会議（令和4年12月6日開催）で出された課題

- ① CS導入にあたり、担当課がどこなのかがいまいになっている。  
（学校教育主管課と生涯学習・社会教育主管課との連携がとれていないことが多い。）
- ② 一般の教職員の理解が深まっていない。  
（一般の教職員がCSについて知る機会が持っていない。）
- ③ 学校運営協議会の委員があて職になっていることにより、動きにくくなっている。

## 2 協議要旨

- ・生涯学習・社会教育主管課に教員籍がいることで、学校とも連携が取りやすい。校長会等に出て、本事業の趣旨や進捗状況の説明をしたり、学校教育主管課の職員にも働きかけたりしやすい。
- ・一般の教職員の理解が深いかというと、そうではない。県作成のCSリーフレットを年度初めの職員会議で配布して「本校はCS設置校である」という説明をしたり、年3回の学校運営協議会の後に打ち合わせで内容を伝えたりしている。とにかく職員にアナウンスをすることが大事。
- ・CSで育った子が増えていくことで、理解がさらに進んでいくだろう。
- ・子どもの姿が良くなっていくことでCSのメリットを感じることができる。



- ・学校運営協議会の委員をあて職ばかりで決めるのは改善すべき。子どもの姿を語れる人に学校運営協議会の委員になっていただくとよい。子どもたちもそこに携わることで委員もやりがいを感じ、動きが活発になっていく。
- ・つなぐことが得意な人、企画することが好きな人など、様々なタイプの人を委員にしていると強みを生かせるのでよい。
- ・広報誌、CSカレンダー、市作成のCSリーフレットなど、取組の見える化が大切である。

## (2) 各研修会の概要

### ◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（市町事業担当者対象）

**1 趣旨** 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。

県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。

**2 主催** 滋賀県教育委員会

**3 対象** (1)「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者  
(2)各市町生涯学習・社会教育主管課担当者  
(3)各市町学校教育主管課担当者

**4 日時** 令和4年4月26日（火） 14:00～17:00

**5 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室 オンライン（Zoom）参加も可能

**6 内容**

- 行政説明
  - ・滋賀県における地域と学校の連携・協働推進方針について
  - ・事業概要について
  - ・今年度の研修について
  - ・補助金事務および事業実施の留意点について
- 情報交換
  - ・県内のプラン事業の推進状況について
  - ・各市町における課題や成果等について
- 講演
  - ・演題：「こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」
  - ・講師：西 孝一郎 氏



（京都光華女子大学子ども教育学部 准教授、文部科学省CSマイスター）

**7 参加者数** 34名（来場19名、オンライン15名）

**8 講演の概要**

講師より、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の目的や地域学校協働活動との関係性、社会に開かれた教育課程をカリキュラム・マネジメントで実現していくことについて等、御教示いただいた。「マネジメント」という言葉を「うまくやること」という言葉に置き換えての分かりやすい表現や、「OKからLet'sへ」のように印象に残るキャッチフレーズで取組について説明いただいた。最後に、コミュニティ・スクールで育った子どもが大学生になった時のエピソードを紹介くださったことで、コミュニティ・スクールがとても価値あるものであることを参加者みんなでも共有することができた。

**9 参加者のアンケートより**

- ・今まで聞いたCSの講演会の中で一番分かりやすく“すとん”と落ちた。
- ・難しく考えていたことを分かりやすく、具体をイメージできる言葉にかみくだいて御教示くださったので、理解が深まった。
- ・最後に子どもが大人になって感じたことを聞けて、コミュニティ・スクールの成果が見られ、背中を押してもらえた。



## ◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象）

- 1 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を今後導入予定である、または令和4年度に導入の市町担当者、および市町立校園関係者  
(2) 学校運営協議会 関係者  
(3) 地域学校協働活動 関係者  
(4) 県および市町の社会教育委員  
(5) 地域連携担当教職員（新しく担当される方や希望者される方など）
- 4 日時** 令和4年6月7日（火） 13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室 オンライン（Zoom）による参加も可能
- 6 内容** ○講演 演題：「コミュニティ・スクールを創造する～めざす子どもの力がつかなければCSではない～」  
講師：高木 和久 氏 文部科学省CSマイスター  
滋賀県CSアドバイザー
- グループ協議 ミニ熟議体験「子どもの課題・改善方法・当事者として何ができるのか」  
情報交換
- 7 参加者数** 62名（来場26名、オンライン36名）
- 8 講演・グループ協議の概要**

講師より、地域学校協働活動や学校運営協議会の基本的な役割と、両者が一体となって推進するための仕組みや、陥りやすい課題についてお話いただいた。

学校運営協議会は「①学校運営に関する基本的な方針の承認をする」「②運営に関して意見を述べることができる」「③教職員の採用・任用に関して意見を述べるができる」の3つの主な役割があることが、既存の類似の制度と違う。しかしこの役割が曲解されたり、十分に理解されない点があったりすることで導入に二の足を踏む現状があり、正しい理解を進めていく必要がある。

また、学校運営協議会の中心となる「熟議」の役割や効果、進め方などについて説明をいただき、「どのような子に育てたいか／育ててほしいか」というビジョンを学校と地域が共有することの大切さを説明していただいた。大人の活動そのものを主体とするのではなく、子どもの自主性・主体性を育てるという視点を大切にしたいコミュニティ・スクールにしていくべきであるをご指導いただいた。

ミニ熟議体験では、参加者が校種・役割別グループを作り、日々関わっている子どもたちの様子を思い浮かべながら、子どもたちの持つ課題を出し合い、「どのような力をつけてほしいのか」「そのためにどんな取り組みができるか」について語り合った。

**9 参加者のアンケートより**

- ・御自身がお考えになる理想と現実がかけ離れていることについて、思っているところを忌憚なく語ってくださることで、「こうあるべきだ」というメッセージがより強く伝わってきた。目指すべきビジョンをしっかりと見据えなければならぬと感じた。
- ・ボランティアをはじめ、地域の方と話し合う機会を持ち、共有することが大事だと改めて感じた。また、教員も地域の方も子どももそれぞれが学校をみんなの学校ととらえることが大切だと思った。
- ・さまざまな取組において、「子どもにどんな力をつけたいか」を意識しながら進めていく必要があることを改めて実感することができた。
- ・子どもの良さや課題は似ているところがあり、自校の取組と重ね合わせて考えることができた。校内で連携することで満足するのではなく、地域や家庭との連携をもっと進めながら、子どもたちの見せるさまざまな表情をキャッチしていきたいと思った。
- ・具体的な話が多く、自校のことを頭に浮かべながら考え聴くことができた。特に、地域の子どもの活動の弱点は、学校活動の弱点にもなりつつあるので、教職員全体で考えていくべき課題だと感じた。



## ◆県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

- 1 趣旨** 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象（主に県立高等学校関係者を対象とする）**
- (1) 県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
  - (2) 県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
  - (3) 県および市町の社会教育委員
  - (4) 「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- 4 日時** 令和4年7月7日（木）13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室 オンライン（Zoom）による参加も可能
- 6 内容** ○事例発表：「長浜北高等学校におけるコミュニティ・スクール導入から現在までの取組について」  
発表者：長浜北高等学校 校長 北村 登志子 氏  
○講演 演題：「県立学校におけるコミュニティ・スクールの有効的な活用について～好事例に学ぶ～」  
講師：<sup>こうやま しんいち</sup>香山 真一 氏（文部科学省CSマイスター）  
○情報交換
- 7 参加者数** 53名（来場22名、オンライン31名）
- 8 事例発表・講演・情報交換の概要**

事例発表では、県内の県立学校で初めてコミュニティ・スクールを導入された長浜北高等学校の主な取組である「N-プロジェクト」と「高校生Challenge&Creation」について御紹介いただいた。育てたい生徒像を明確にすること、学校運営協議会によって地域と学校が一緒に生徒を育てていくこと、そのためにビジョンを共有し、学校運営を共に考えることを大切にされていることを教えていただいた。

講演では、文部科学省CSマイスターの香山先生より、岡山県立<sup>わけしずたに</sup>和気閑谷高等学校の校長としてコミュニティ・スクール（CS）を導入されたご経験をもとに、CSの可能性を5つの観点から考察する方法について御紹介いただいた。

情報交換では、会場・オンラインともに4～6人のグループに分かれ、研修会の感想や自身（学校・学年・地域）の取組等をお話しいただいた。

**9 参加者のアンケートより**

- ・CSの充実に努めようとしてきたが、どうすれば一層の活性化が図れるだろうかとヒントが欲しいと思い参加した。長浜北高の取組の根底にある、地域の活性化の意識を大切にしたい。また、学校だけでなく、地域、市教委、行政の支援を得る努力も必要だと感じた。
- ・香山先生のお話には、事例を含む示唆に富んだ内容が多く、今後、学校運営協議会の事務局として役立てたいと思った。特に、スクールポリシー策定の手順やスクール・ミッションの再定義の話、CSを5つの観点から考え可能性を探る話など興味深く聞くことができた。
- ・情報交換で、すでに導入をしている学校の担当者に話を伺えたのがよかった。





## ◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象）

- 1 趣旨** 将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙い、対象者への研修会を開催する。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動をすでに導入している、(導入2年目以上) 市町担当者、および市町立校園関係者  
(2) 学校運営協議会 関係者  
(3) 地域学校協働活動 関係者（推進員・地域コーディネーターなど）  
(4) 県および市町の社会教育委員  
(5) 地域連携担当教職員（選択研修受講者や希望者）
- 4 日時** 令和4年8月26日（金） 13:30～16:30
- 5 会場** 男女共同参画センター（G-NET しが）大ホール  
オンライン（Zoom）参加も可能
- 6 内容** ○講演 演題：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進  
～『次のステージ』への進め方～」



講師：山本 裕一 氏

青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 学部特任教授

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター

## ○パネルディスカッション

- ・「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のよりよい一体的推進を図るために、できることは何か」
- ・パネリスト：4名 神部 直 氏（米原市立坂田小学校校長）  
木村 真由美 氏（近江八幡市教育委員会生涯学習課指導主事）  
植田 正子 氏・谷 紀子 氏（湖南市立下田小学校地域学校協働活動推進員）
- ・助言・総括：山本 裕一 氏

**7 参加者数** 159名（来場76名、オンライン83名）

**8 講演・パネルディスカッションの概要**

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進はたいへん有効なものであるが、一体的推進を進めることは容易ではなく、「教育は学校が責任を持って行うべきもの」という教員の意識、「地域は余計な口出しをせず、教育は学校に任せておけばよい」という地域の意識を変え、双方ともに腑に落ちる理解が必要である。「支援」にとどまらず、地域と学校がどれだけの熟議を重ねてきたかにより、「協働」の実質化を図ることができる。学校は地域の形成者であり、地域は学校の運営に参画するという当事者意識を持つことにより、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動はよりよい一体的推進を図ることができる。

パネルディスカッションでは、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のよりよい一体的推進を図るために、できることは何か」をテーマに、パネリストそれぞれの視点で話し合っていた。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が有効に作用するためには、学校運営協議会の中に地域学校協働活動推進員の方が参加するようにするなど、委員選出にも工夫が必要であることや、地域連携担当教職員が中心となり、地域と学校をつなぐ体制をしっかりと整備することが必要であること等が出された。

**9 参加者のアンケートより**

- ・学校の教育課程で学んだことが、地域の中で生かされることで、子どもたちの自己肯定感が高まったり、地域に貢献できる機会となったりするところには、「なるほど」と感じた。子どもも、教師も、地域の人も、それぞれに役割があり、当事者意識をもって参加することの大切さについて学ぶことができた。
- ・先進事例から、学校は、地域のサポートを受ける立場ではなく、サポートをする立場であるということを知ることができた。学校の教育課程で学んだことを実際に活かし、地域の方々から認めてもらうことにより、子どもたちの自己肯定感に結びつくということを改めて感じた。学校と地域で子どもを育てていくことの重要性を感じた。

## ◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

**趣旨** 子どもを育てる上で不安を感じる保護者や身近に相談相手がいない状況にある保護者を、乳幼児期から就学期以降にわたり切れ目なく支援するために、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されているところである。

この度、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報の共有や交換をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るための機会としてニーズに応じた研修会や交流会を実施する。

- 滋賀県家庭教育支援推進協議会からのご意見やアドバイスを受け、令和4年度は「家庭教育支援員」のスキルアップを目指すための専門的な内容の研修会（家庭教育支援専門研修会）を新たに実施。
- 受講対象者を広げるとともに、参加者も家庭教育関係者をはじめ、子ども食堂関係者やフリースクール関係者等も幅広く参加いただき、滋賀県内の家庭教育支援のつながりをつくる機会にもなっている。

### 1 家庭教育支援基礎研修会（家庭教育を学ぶ基礎的な研修内容）

日 時	令和4年6月24日（金）13:30～16:30	参加者数:117名
会 場	滋賀県庁東館7階大会議室 オンライン（Zoom）参加も可能	
内 容	○行政説明「家庭教育を取り巻く現状や課題から見える家庭教育支援」 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室 室長補佐 中上 郁夫 氏 ○講 演「地域のニーズに応じた家庭教育支援について」 講 師 森下 順子 氏（和歌山信愛大学 教育学部子ども教育学科 准教授） ○情報交換	

### 2 家庭教育支援専門研修会（家庭教育支援員を中心とした専門的な研修内容）

日 時	令和4年9月9日（金）13:30～16:30	参加者数:94名
会 場	滋賀県庁東館7階大会議室 オンライン（Zoom）参加も可能	
内 容	○講 演「よりよい家庭教育支援活動の実践に必要な支援員のスキルとは」 講 師 芦澤 万里子 氏（泉大津市家庭教育支援チームリーダー） ○情報提供「家庭教育支援活動の種類と効果的な取組方法について」 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 ○情報交換	

### 3 家庭教育支援実践交流会

日 時	令和5年1月27日（金）13:30～16:00	参加者数：74名
会 場	滋賀県立男女共同参画センター 大ホール	
内 容	○講 演 演題「地域ぐるみで支える家庭教育支援の可能性と持続性」 ～地域でつなぐ・紡ぐ・創る～ 講 師 上村 文子氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー） 講 師 西村喜久子氏（滋賀県スクールソーシャルワーカー） ○実践事例発表（東近江市および竜王町の取組） 東近江市教育委員会事務局生涯学習課 指導主事 長井 裕 氏 竜王町教育委員会事務局学校教育課 岨中 庸子 氏 家庭教育支援員 櫻井絵里子 氏、鎌田とみ子 氏 ○情報交換	

令和4年度参加者合計：285名

#### 全3回の参加対象者

国庫補助事業実施および実施検討市町担当者、学校関係者、家庭教育支援員、家庭教育支援チーム関係者  
 各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会生徒指導・教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者、民生委員・児童委員、子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂関係者、フリースクール関係者、県および市町の社会教育委員、社会教育主事、社会教育士等

## ◆「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会

**1 趣旨** 本県では、幅広い地域住民等の参画により、未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行う体制を構築するために「学校を核とした地域力強化プラン」を進めている。

本報告会は、標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の報告や情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後のステップアップの方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。

**2 主催** 滋賀県教育委員会

**3 対象** (1) 地域学校協働活動関係者（推進員、コーディネーター、ボランティア等）  
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者（協議会委員等）  
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者  
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者（行政担当者等）  
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員  
(6) 県および市町の社会教育委員

**4 日時** 令和5年1月20日（金） 13:30～16:30

**5 会場** 滋賀県庁新館7階大会議室 オンライン（Zoom）参加も可能

**6 内容** ・事例報告① 竜王町立竜王西小学校

「ふるさと学習推進プロジェクト～地域（ふるさと）を語れる子に、地域（ふるさと）を誇れる子に～」  
報告者：竜王西小学校 校長 武久 雅則 氏、竜王町地域学校協働活動推進員 岡山 厚子 氏

・事例報告② 高島市立湖西中学校

「学校地域合同防災学習の取組」

報告者：湖西中学校 地域連携担当教諭 落合 孝夫 氏、新旭地域学校協働活動推進員 大藤 耕平 氏

・講評：「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏

**7 参加者数** 161名（来場48名、オンライン113名）

### 8 報告・情報交換会の概要

竜王西小学校では、ふるさと学習を具体的な取組を進めるために、学校運営協議会で学校と地域の願いを共有し、活動のイメージが持てる構想を提案することを重視して、組織の見直しを図った。学校側と地域のメリットを明確にし、地域学校協働本部との連携を密にしてフレキシブルな実動体制を構築することが重要であるとされた。

湖西中学校では「災害時に中学生が地域を支える大きな力になることで自分や家族の命を守ることができる」という方針から学校運営協議会で学校地域合同防災学習が提案・承認され、防災学習・避難訓練を行った。地域の方々との協力や普段の助け合いを必要だと感じる事ができた生徒が多かった。

グループ協議では、各校園・各本部の実践の成果や課題について交流し合った。地域学校協働活動は単なる「学校の便利屋」ではない。子どもの育ちを中心に据えた活動であることを、管理職だけでなく一般の教職員たちも理解する。子どもがどのように育ったかという議論を展開し、PDCAサイクルによって振り返りながら小さな成功例を積み重ねる。以上のことが、持続可能な取組を続けるために必要であるとの助言があった。

### 9 参加者のアンケートより

・2本の報告ともに、子どもたちに自分の住む地域に意識を向けさせるような仕掛けを学校、地域で取り組まれ、具体的な取組を地域の人の得意なことで気軽に参画する形が、結果としてコミュニティ・スクールの取組につながっていることが分かった。何も難しいことをするのではなく、それぞれの立場で、地域、学校に関わりつながりを持つことの大切さを実感した。

・学校運営協議会と地域学校協働本部が上手く連携して、行動・取組に結びついている点が素晴らしい。推進委員が当事者として子どもたちのためにみんな

で取り組めるかが大切になってくる。「毎日ミーティング」などそのような仕組みを作っておられる2校の取組は勉強になった。「できそうなことを、できる人が、できるように」の考えのように柔軟な考えを持たないとなかなか進んでいけないと思う。そのようなカリキュラム・マネジメントが必要なのだろう。また、教職員の理解も必要で、同じ方向ベクトルで取り組まないと進まないし、続かないだろう。



## 彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

### ■本年度の具体的活動

#### ・実行委員会の開催（年2回）

第1回 5月20日（金）書面会議、事業資料配布 6月21日（火）書面結果の配布・交流

第2回 1月27日（金）各本部の実践交流・次年度に向けた協議

#### ・学校訪問（10～11月） 市内15小・中学校

各支援地域協議会(委託先)およびコミュニティ・スクール導入校、次年度導入予定校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の推進状況把握と導入に向けた課題を共有し、助言を行った。



【手引き概要版】

### ■本年度の成果

- ・学校運営協議会と地域学校協働本部のつながりを意識し、一体的な推進への理解が深まった。地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ・コミュニティ・スクールの理解や導入促進に向けて、教頭会研修会の実施、コミュニティ・スクールの手引きの改訂やパワーポイント資料や動画作成を行い、活用を呼び掛けることで、令和6年度での市内全小中学校導入に向けての機運が高まった。
- ・社会教育委員の会議において、社会総がかりで子どもを育てるために、家庭教育の充実や企業との連携、コミュニティ・スクール導入に向けての議論を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進員は委嘱していないが、委嘱について検討している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度、新たに4校で学校運営協議会を設置し、本市の学校運営協議会は12協議会(13校)となる予定である。これまでの成果と課題をもとに導入を加速していきたい。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・マスク着用、手指消毒、健康チェック、喚起を確実に実施している。
- ・地域未来塾では、基本的な感染防止対策とともに、個別指導による密接を避けるための座席配置や子ども達と学習支援員との間の衝立設置など、各校の状況に応じた工夫をして実施に努めている。
- ・コロナ禍で一旦中断した活動を、コロナ禍前の従来の活動に戻していくことが難しい活動がある。

## 近江八幡市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

今年度、市内5つの就学前施設、全12小学校、全4中学校が学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）として、地域と学校の協働活動の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。また、市内全ての公立幼稚園、こども園、小学校、中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

### ■本年度の具体的活動

5月～8月	各校園の第1回学校運営協議会への出席及び説明
4月28日（木）	学校を核とした地域力強化プラン事業説明会
7月22日（金）	第1回地域学校協働活動推進員交流会
10月27日（木）	第1回コミュニティ・スクール研修会
11月24日（木）	第2回コミュニティ・スクール研修会
12月23日（金）	第2回地域学校協働活動推進員交流会
2月22日（水）	第3回地域学校協働活動推進員交流会



【 地域学校協働活動  
推進員交流会の様子 】

### ■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員の交流会を学期末に計3回実施した。  
学区ごとに活動内容やボランティア協力者に関する情報交換を行った。また、推進員を務める上で困っていることなどのご意見をいただき、今後の協働活動推進の参考にすることができた。
- ・各校園については、コロナ禍が続く中、子どもの貴重な経験・体験を充実させようと地域と学校が連携し検討、実施することができた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・コミュニティ・スクール研修会を実施し、管理職や地域学校協働活動推進員の理解を深めることができた。しかし、現場の教職員への周知が足りず、あまり認知されていない現状がある。  
今後、教職員用リーフレットとCS通信を作成し、周知を図る。
- ・学校運営協議会の熟議が進むよう、学校と地域の理解と協力を得ながら、伴走支援を行う。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内23校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ1名の地域学校協働活動推進員を委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・令和3年度より、市内5つの就学前施設、12の公立小学校、4つの公立中学校の合計21校園に学校運営協議会を設置した。各校園のコミュニティ・スクールの取組の充実を図るため、関係者向け研修会と地域学校協働活動推進員の交流会を行い、学び合う機会を持った。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・感染対策を講じながら、これまで中止されてきた活動が行えるようになった。広い会場をとったり、人数を分散して行ったりするなど、子どもたちの体験を充実できるよう実施を前向きに検討し、取り組むことができた。

# 草津市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに学び合う「地域学習社会」づくりを目指している。

特に今年度からは、地域課題解決型の学習に向け、子どもたちが身近な課題に主体的にかかわることで、地域社会の一員としての意識と行動力を身につけられるよう、より地域に密着した活動を進めている。



【 情報交換会 】

## ■本年度の具体的活動

### (1) 運営委員会

- 第1回（4月7日）地域協働合校推進事業の趣旨、学校運営協議会との連携推進について説明
- 第2回（2月9日）一年の振り返り、実績報告書について説明

### (2) 地域コーディネーター

- 業務説明会（4月15日）地域コーディネーターの機能と業務について
- 情報交換会（7月22日）社会に開かれた教育課程と地域協働合校について、1学期の情報交換総括会議
- （1月31日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

### (3) 研修

「コミュニティ・スクールくさつ兼地域協働合校全体研修会」（10月25日）

対象：学校運営協議会委員、地域連携担当者（各校）、市立小中学校PTA会長、地域コーディネーター、まちづくり協議会長（各地域）、市関係課職員

内容：草津市の取組概要について説明後、湖南省立石部南小学校 地域学校協働活動推進員 山元尚美氏による実践発表。その後、「コミュニティ・スクールと地域協働合校の一体的な推進をめざして」をテーマにしてパネルディスカッションを実施。老上小学校 地域コーディネーター 山本 忍氏と常盤小学校 地域コーディネーター 稲垣 保善氏と山元 尚美氏をパネリストにお迎えし、日頃の取組や活動していく上で大切にしていることなどお話いただいた。会場の参加者からも意見が出る場面も見られ、活気のある研修会となった。

### (4) 広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布  
草津市HP掲載

## ■本年度の成果

地域課題解決型の活動を目指し、地域協働合校での学びを従来のように学校内で完結するのではなく、学びを地域に発信して共有できるよう、各校が工夫やアイデアを生かして取組を進めた。また、情報交換会や全体研修会において地域コーディネーターの発表の場を設けることにより、優良事例の共有を図った。地域コーディネーターの連携による新しい事業の実現、同一中学校区の地域コーディネーター同士の自主的な会議の開催等、ネットワークのつながりによる新しい取組が展開できた。

## ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

学校と地域が目標やビジョンを共有しながら有機的に連携し、社会全体で子どもを育てていく体制を盤石にすることが重要であり、活動への協力者、後継者の育成や発掘が大きな課題である。

## ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年4月から地域学校協働活動推進員として20名を委嘱している。

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年4月から市内全小中学校（計20校）に学校運営協議会を導入している。

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

回数を分けての実施やリモートによる発表等、各校で工夫を図ってもらった。

## 栗東市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かにたくましく生きる人の育成』を目標とした。

### ■本年度の具体的活動

地域学校協働本部事業を1中学校区で、放課後子ども教室事業を6小学校区で実施したが、会議等は新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議等に変更し実施した。放課後子ども教室は新型コロナの影響により当初の計画よりも少ない回数での実施となった。

### ■本年度の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約等あったが、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的の達成はできた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の検案事項になっている。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2023年度より随時導入予定

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

手指消毒及び検温の実施、活動中・活動前後の密対策をとりながらの活動を行ったが、特に放課後子ども教室における子ども達の活動中の密対策は仲間づくりの観点から、難しいこともあった。

# 甲賀市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育活動」を実現するためには、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで教育を行う体制を構築することが必要である。

そのため、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動「地域学校協働活動」を推進する。

また、活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

## ■本年度の具体的活動

### ・地域学校協働活動連絡会の開催

- |     |       |     |                |
|-----|-------|-----|----------------|
| 第1回 | 4月6日  | (水) | 事業に関する資料配布及び説明 |
| 第2回 | 8月31日 | (水) | 各地域の実践報告       |
| 第3回 | 2月予定  |     | 次年度に向けた協議      |

### ・情報交換会の開催

地域学校協働活動推進員及び地域学校協働本部や学校運営協議会の関係者が参加し、各地域の状況把握や懸案事項に関する情報交換を行った。

## ■本年度の成果

- ・市内の小学校4校に地域学校協働本部を新たに設置し、幅広い地域住民等の参画により、地域の実情に応じた取組ができた。また、子どもたちは、学習活動等を通じ地域の方々と交流し、一緒に取り組むことで、意欲がわき、活動そのものが活性化された。
- ・学校運営協議会で熟議された内容を踏まえた地域学校協働活動（学習支援、環境支援）の取組ができた。
- ・社会教育委員の会議において、各地域学校協働活動推進員から現況を報告していただき、情報交換を行った。このことにより課題を集約することができ、次年度に向けてのあり方を考える機会となった。

## ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

持続可能な取組とするため、地域と学校の「連携・協働」が重要であり、継続的・安定的な実施をするため、人材の確保と推進体制の構築が必要である。

## ■地域学校協働活動推進委員の委嘱状況

令和4年度から教育委員会委嘱（7名）

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

現在、学校運営協議会は小学校4校に設置している。

今後、コミュニティ・スクール設立に向けた校内の組織体制の話し合い等を進め、学校の管理職を対象とした研修会を実施する。また、地域の方にご理解をいただくために必要に応じて事業の説明を行うなど、コミュニティ・スクールの推進を図っていく。

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍でPTAや地域の活動が減っているが、徐々に再開の兆しもあり、コロナ対策を十分に行ったうえで、できる限り活動を中止しないよう事業の継続を進めていく。



【 社会教育委員の会議 】



## 野洲市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域、保護者、PTA等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する体制を作っている。

また、コミュニティ・スクールの設置推進に向けて、「ひとづくり」と「まちづくり」をコンセプトに掲げ、次世代のまちの担い手づくりに重点を置き、「意見を言うだけの組織」から「一緒に行動できる組織」へ、及び「地域の活性化」から地域に生きる「子ども育て」を目指している。

### ■本年度の具体的活動

年6回、地域学校協働活動推進員連絡協議会を開催した。各校の取組の発表や高島市、湖南市の小中学校へ視察研修に行き、参考にしながら、自校の地域学校協働活動の実践に生かした。そのうち、2回は学校長も参加し、実践発表や交流・協議し、自校の今後の取り組みに生かす具体的な方法を検討する時間を設けた。

### ■本年度の成果

各学校の地域と学校が協働して、子どもたちの学びを支える活動を紹介し、交流することで、地域学校協働活動の新たな取組へとつながる学校もあった。また、他市への研修で地域学校協働活動の取組を参考にし、自校の地域や学校での実践活動に生かすことができた。また、令和5年度からのコミュニティ・スクール設置と地域学校協働活動の一体的推進を行うため、教職員と地域の方の研修会において、自校の強みや課題を生かした取り組みを出し合い、未来志向の話し合いができた。



【 各学校の取組発表会 】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

各学校の既存の応援団の仕組みを生かしたり、新たに企業連携を進めていたりそれぞれの地域や学校の特徴を活かした取り組みが進んできているが、どう広げ、継続的に協働していくか、今後検討していく必要がある。



【 視察研修会 】

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各校1名ずつ配置し、時期については、学校と地域学校協働活動推進員の状況に合わせて、5月、7月に委嘱状を交付した。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和5年度より市内小中学校に導入を予定している。令和6年度より市内幼稚園、こども園に導入予定である。令和4年度は各校に準備委員会を立ち上げ、協議を行った。野洲市としても伴走支援を行い、校内研修会で説明したり全体会議を開いたりして導入促進に努めた。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

予定していた取り組みがコロナ感染症の広がりの影響で中止になった活動も多かった。

## 湖南省における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本市では、「楽しくて力のつく湖南省教育」を標榜し、「子どもたちの育つ力を信じ、夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、学校教育に取り組んでいる。「生きる力の根っこ」となる「自尊感情」は、「学びの保障」、「仲間づくり」、「ふるさと意識の醸成」の取組の三本柱により育てている。本市は、平成19年度の岩根小学校に始まり、昨年度には全ての小中学校がコミュニティ・スクールとなった。市を挙げて、児童生徒の「生きる力の根っこ」を太くするために、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」の機運が高まっている。

### ■本年度の具体的活動

○市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会 年2回

第1回 4月19日(火) ・湖南省教育方針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知

- ・地域コーディネーター委嘱状授与
- ・地域学校協働活動推進事業等の進め方について
- ・コーディネーターに期待すること 等

第2回 各中学校区において開催

石部中校区 12月1日(木) 甲西北中校区 11月29日(火)

甲西中校区 11月30日(水) 日枝中校区 12月5日(月)

- ・取組状況・情報交換、ボランティアの募集工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想意見交流

○地域学校協働活動推進事業等成果報告会(兼：運営委員会) 令和5年2月17日(金)

1) 功労者感謝状贈呈 2) 実践発表：甲西北中の取組

3) 研修：「地域と学校の連携・協働で湖南省の未来を拓く」講師：谷口茂雄 氏(前湖南省教育長)

### ■本年度の成果

- ・管理職を交え、地域学校協働活動推進員の連絡会を開くことで、成果と課題を明確にし、共有することができ、次年度の推進の方向性も確認できた。このことにより各中学校区内での連携の意識が高まった。
- ・今年度もコロナ禍の中にあつての活動であったが、感染防止対策を講じた上で、どのようにしたら子どもたちとともに活動ができるか試行錯誤しながら地域住民の参加や支援を得て、工夫ある取組が多く見られた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域学校協働本部や学校運営協議会の創設時から中核となって活動してきていただいた方が高齢とされているため、今後委員の世代交代が求められる。持続可能な事業継続には一部の方に負担が偏らないような人的な広がりや継承、また各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立が必須であり、地域まちづくり協議会、地元企業等との連携・協働を一層進めていく必要がある。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・4月に、29名の地域学校協働活動推進員を委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内全13小中学校に学校運営協議会を設置済み。この内、2小学校1中学校では地域の特性を生かし中学校区学校運営協議会を設置している。あとは各校設置である。また、多くの学校運営協議会では委員に地域学校協働活動推進員を含んでいる。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・感染防止対策意識の向上により、会議時間の短縮や参加人数の厳選など、より合理的な在り方を模索することにもつながった。コロナ禍後にも通じるものとした。
- ・コロナ禍にあつては、さらなる学校と地域の相互理解や強固な連携が求められる。

## 高島市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通し「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の間をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

### ■本年度の具体的活動

#### ○地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

協議会では、担当地域の推進員から本部活動の報告や課題などについて意見交換を行った。

#### ○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進

各校の学校運営協議会に、地域学校協働推進員が参加し、子どもたちを支える地域学校協働活動を通じて感じたことやどのような活動に地域の方が参画できるか意見交換をした。



【CS・地域学校協働活動フォーラム】

#### ○コミュニティ・スクール・地域学校協働活動フォーラムの開催

地域学校協働活動推進員と学校管理職を対象に「コミュニティ・スクール・地域学校協働活動フォーラム」を開催し、講師に文部科学省地域学習推進課地域学校協働活動推進室の宮崎雅史氏を招き、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進にかかる先進事例について研修を行った。

### ■本年度の成果

地域学校協働活動推進員協議会では、各本部の活動状況や課題について、情報共有を図るとともにその解決に向けて意見交換を行った。特に、収束が見えないコロナ禍における地域学校協働活動において地域の方に参画してもらうための周知方法などの各地域の取り組みについて意見交換を行うことにより、円滑な地域学校協働活動につなげることができた。また、学校運営協議会で熟議の取り組みが広がっていく中、今年度は一部の学校で児童生徒の参画が見られるなど、多様な意見を踏まえて学校の課題解決に向けた情報共有を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動を広げるため、より多くの人に参画してもらえよう周知に取り組んでいくとともに、コロナ禍でも安心して活動に参画いただける工夫について、引き続き取り組んでいく。また、今後も学校と地域の方が共に熟議を重ね、目的や課題、活動内容などについて情報共有を図ることで活動の広がりにつなげていく。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

中学校区ごとに地域学校協働活動推進員を委嘱し、8名を配置している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の19校全てに学校運営協議会を設置している。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

グラウンドなどの環境整備や登下校時の見守りなど、子どもと触れ合う機会の少ない活動を中心にを行い、九九道場などの学習支援は、アクリル板設置やマスク着用、手指消毒等、感染予防対策を引き続き取り組んでいく。

## 東近江市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

### ■本年度の具体的活動

- ・本部長及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（4月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（5月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催  
（小学校：6月・10月／中学校：7月・11月／小中合同：3月）
  - （1）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
  - （2）県研修会等の報告
- ・県教育委員会主催研修会への参加

### ■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員連絡会では、校種毎に連絡会を実施して横のつながりを重視した。また、中学校区毎の推進員連絡会の開催を推進員に要請して、中学校区で連携できる体制作りについての呼びかけを行った。
- ・本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同会議を開催した。
- ・コミュニティ・スクール導入推進のため、実施校を対象とした先進校視察を実施し、今後の熟議に向けた研修機会とした。また市内の学校運営協議会委員の交流会を開催した。
- ・放課後子ども教室では、長期休業期間を中心に7教室実施した。
- ・ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめた東近江市地域学校協働本部実践事例リーフレットを作成した。



【合同連絡会：中学校区での顔合わせ】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を支援し推進していく。
- ・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
- ・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・平成30年度から教育委員会委嘱（令和4年度29名）

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・令和3年度、市内2小学校に導入
- ・令和4年度、市内2小学校に導入（合計4小学校）
- ・令和5年度から新たに、市内1小学校1中学校にて導入予定

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策を各本部にて実施し、できる範囲での活動が実施されている。

## 米原市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

### ■本年度の具体的活動

#### (1) 学校運営協議会委員研修会

本年度は感染症対策を行ったうえで、委員対象の研修会を実施した。山東小学校の事例発表ならびにCSアドバイザー北辺禎雄先生、県立大学上田洋平先生の講義を実施した。

#### (2) 教育フォーラムの開催

中学校区	日 時	内 容
柏原中学校区	11月30日	・はびろ学習ラリー
大東中学校区	11月30日	・鈴木孝氏（日本ペップトーク普及協会）講演
伊吹山中学校区	中 止	・学区内のコロナの感染拡大のため
米原中学校区	11月30日	・収穫感謝祭（焼き芋パーティー）
河南中学校区	11月9日	・各校からのプレゼン発表、宇治原ひとみ氏講演
双葉中学校区	11月19日	・勅使河原郁恵氏講演会

### ■本年度の成果

○市内すべての小中学校（9小学校、6中学校）および市内の各園が参画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各校区で実情に応じた協働活動を実施した。

○すべての学校に学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。

### ■課題と今後の協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係の更なる構築を目指す。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況…令和2年度より委嘱を実施。令和4年度の委嘱は21名。



【北国協往還ふるさとウォーク  
（伊吹山学区）】

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・平成30年度 中学校3校をモデル校として新規に導入  
（伊吹山中、米原中、河南中）
- ・令和元年度 小学校7校、中学校1校を追加  
（山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
- ・令和2年度 小学校2校、中学校2校を追加  
（柏原小、坂田小、大東中、双葉中） ※市内全小中学校に設置完了

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

○教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は多くの中学校区で中止となったが、その中でも書面決済などの方法で、地域連携や保幼小中連携を進めるなどの工夫は行っている。

## 日野町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

「ふるさとを愛し、ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域に誇りを持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして、地域と学校が連携・協働して学校生活を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢と志をもち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りをもてる子どもたちの育成を目指している。

### ■本年度の具体的活動

小学校では6年目、中学校では5年目を迎えることとなった。本町では、令和2年度末に学校運営協議会規則を定め、令和4～5年度をめどにすべての小中学校をコミュニティ・スクールへ移行するための準備期間として本年度を位置づけ、協働活動の意義の再確認と活動の充実を図った。

### ■本年度の成果

今年度、これまでの地域学校協働活動の取組を基盤に2校でコミュニティ・スクールを立ち上げ学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図りながら取組がスタートした。今後、立ち上げを計画している学校・地域・関係者を含めた「日野町コミュニティ・スクール合同研修会」を開催し、町全体で各域の課題と方向性を確認できた。

また、放課後子ども教室・地域未来塾についても、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、少ない人数で個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。なかでも、日野中学校の地域未来塾については、日野町少年センターの協力のもと、開催数を増やし放課後学習の場を設けることができた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今後のコミュニティ・スクールへの移行に伴い、CS及び地域学校協働活動について夏の教職員全体研修で教職員としてどうかかわっていくか、何ができるかを協議し、一定理解が進んだ。

これからも継続して保護者・地域・教職員への啓発を行うとともに、町内のすべての学校に学校運営協議会が立ち上がった後も、情報交換・実践交流する機会をつくり、それぞれの地域・学校が発展していく仕組みを考える必要がある。



【 CS合同研修会 】

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）6名、青少年育成町民会議会長、日野町少年センター所長、学識経験者、小中学校長会代表、町PTA連絡協議会代表、各地区公民館代表、各小中学校教頭6名で日野町地域協働活動推進協議会を組織し、各学校区の協働本部が家庭や地域との連携を図っている。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和4年度から2校が学校運営協議会を導入し、残りの学校も令和5年度に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールへ移行する計画である。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

県生涯学習課のオンライン研修会に各校単位で管理職やコーディネーター・学校運営協議会委員が共に参加することで意見交換を行い、今後の自校の取組の参考とすることができた。また、コミュニティ・スクールへの移行に伴う手順や課題等を明らかにし、具体的な実践に結び付けることができた。

## 竜王町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本町では、公民館に地域学校協働本部の事務局を置いていることで、優れた技術を持つ地域の方の情報を把握することができ、公民館を拠点として、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通じて地域や家庭の教育力向上をめざしている。

また、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、今までの一方的な「支援活動」から、「連携・協働活動」になることを目指し、地域と学校が子どもたちを支援することや、まちづくりに資すること等「双方向」の関係性を築いていきたい。竜王キッズクラブでは、様々な体験を通じて、学年の異なる子どもたちが地域の方と交流を深め、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけることを目指す。

### ■本年度の具体的活動

地域学校協働活動：地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催、  
広報紙の発行、ボランティアの募集

土曜日の教育支援：各クラブでの活動（原則土曜日開催）

### ■本年度の成果

地域学校協働活動：地域コミュニケーションが密になるとともに、  
子どもの成長を見ることができた。

土曜日の教育支援：普段の学校生活では交われない異学校の児童が、  
クラブ活動を通じて、一緒に学び体験をすることで交流を深めることができた。



【 絵本読み聞かせ 】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動：学校の支援依頼に対しボランティアを派遣しているが、自ら支援チームを組織し支援できる体制の構築までは至っていない。リーダーの育成が必要不可欠。リーダー人材の発掘と育成が必要。

また、ボランティア登録者数は年々増加しているが、支援内容により支援に協力できる人に偏りがある。

学校支援依頼が届いてから派遣するまでの期間が短く調整に苦慮している。

土曜日の教育支援：講師の高齢化により継続するには、講師の発掘・継続が必要。

クラブ活動内容のマンネリ化が進んでいる。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

地域学校協働活動推進員を5名委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・町内の1園・2小学校・1中学校にコミュニティスクールを設置済。今後も地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、支援活動を更に発展させ、コーディネート機能を充実しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。



【 書道クラブ活動 】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

地域学校協働活動：学校支援を行う際のコロナウイルス感染症対策の徹底（マスク、消毒、検温等）。

土曜日の教育支援：健康チェックカードを配付し検温の実施や体調管理を行っている。

## 愛荘町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

愛荘町は令和3年度からすべての校園が学校園運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働・連携する学校園づくり」を進めている。

地域と学校園が連携・協働して子どもを育てることにより、愛荘教育のさらなる充実と地域住民にとっては自らの学びの成果を活かす場の拡充を図り、この活動を通して子どもと地域住民のつながり・絆が強まり地域教育力が向上していくことを目指している。

### ■本年度の具体的活動

#### (1) 実行委員会

- ・第1回（7月28日）地域学校協働活動と地域ボランティアの拡充について
- ・第2回（1月27日）学校園運営協議会・地域学校協働活動推進員の取組充実  
講演会「コミュニティ・スクールを活性化する地域・家庭・学校園の連携・協働による取組」  
講師：北辺禎雄氏（滋賀県CSアドバイザー）

#### (2) 推進部会

- ・6回開催（4月、6月、8月、10月、12月、2月）：自校園の地域学校協働活動の取組交流
- ・研修会：10月20日 講師：高木和久氏（文科省CSマイスター）  
テーマ「学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員の役割」

#### (3) 学校園運営協議会委員研修会

- ・研修日：5月11日  
講師：高木和久氏（文科省CSマイスター）  
演題：「コミュニティ・スクールを創る」

#### (4) 広報活動

- ・愛荘町ホームページに「学校園応援ボランティア募集」を掲載（12月）
- ・町PTA連協と連携して、町ホームページに「『こども110番のおうち』募集中」を掲載



【学校園運営協議会委員研修会】

### ■本年度の成果

- 隔月開催の推進部会では、各校園の様々な取組について資料により交流する時間を重視してきた。部会の中で得た情報をもとに、新たな地域ボランティアによる学習場面の広がりや地域へのお便りの発行に至ったという部員の声が届いている。
- コロナ禍で様々な角度から感染防止対策を講じて、地域住民の方々と子どもとの関わる場を試行する実践が多くあった。特に、地域学校協働活動推進員の地域内でのつながり力を活かして、子どもに関わる応援の輪が広がっている。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- 学校園運営協議会での熟議を広げ、地域の教育力を校園に活かす機会や子どもが地域行事に参加・活躍する場を創造できることを期待している。
- 愛荘の子どもを育てる中核になる家庭教育への支援も大事にしていく。様々な状況下にある保護者を支えることや保護者同士が組織・集団の中で関わり合い、高め合う機会となる情報提供に努め、子どもとのコミュニケーションを図るボランティア活動への勧誘もしていきたい。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況および学校園運営協議会の導入状況

- ・町内2幼稚園、4小学校、2中学校すべての校園に地域学校協働活動推進員を委嘱している。また、すべての校園において学校園運営協議会を設置している。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策を各校園で実施し、可能な限りの活動が実施されている。



## 甲良町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本町では、「知・徳・体」の調和のとれた心豊かでたくましい子どもの育成のために、学校・家庭・地域が参画し、協働と互いの支援で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指している。特に、「確かな学力」「仲間づくり」「地域の子育て活動の活性化」をテーマに、子どもと大人が共に考えを出し合い、体験、活動を共にすることで、人と人、人と地域がつながり、地域を知り、共に育っていこうとする人づくり、まちづくりを目指している。



【 学校運営協議会会議 】

### ■本年度の具体的活動

本町では、学校運営協議会設置規則を令和3年に施行し、全ての小中学校をコミュニティ・スクールへ移行するための準備期間として本年度を位置づけ、地域学校協働活動の意義の再確認し、小学校1校を先行実施させ、その取組の成果と課題を検討した。



【 飼育小屋解体作業 】

### ■本年度の成果

昨年度立ち上げた小学校1校のコミュニティ・スクールにおいて、感染症対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。町内の学校のより一層のコミュニティ・スクール推進に向け、校園長会にて、進捗状況の報告や意見交流を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

それぞれの地域や学校の実情や特性、地域と学校の連携・協働の推進状況や活動の発展段階をふまえて、地域学校協働活動が一層推進できるように、積極的な取組を目指す。そのために、それぞれの学校の教育課程の実施にあたり、地域資源の活用や放課後等を活用した社会教育との連携を図り、地域と共有・連携しながら実現させていきたい。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

学校に設置している地域学校協働本部に地域学校協働活動推進委員を1名配置し、委嘱している。今後は、社会教育法に基づき、地域学校協働活動推進委員設置要綱等の法整備および予算の確保等を進めていく。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

町内1校に学校運営協議会を設置済み。今後順次設置予定。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

新型コロナウイルス感染症対策を各本部にて実施し、できる範囲での活動を実施

## 多賀町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

多賀町は、「まちづくりは、ひとづくり」との基本認識に立ち「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、健やかに、たくましく、自分の将来に希望と夢を持てる子どもが育つまち、子育て世帯を地域ぐるみで応援するまちづくりに向けた施策を充実させている。大人は、子どもとの活動を通して知識や経験を子どもたちに伝え、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

### ■本年度の具体的活動

#### (1) 登録者に対するボランティア研修会の開催

初の試みとして、「図書の修繕研修会」を実施した。初級・基本編の内容を研修し、3つの園で多くの方が破れた絵本を定期的に修繕した。初級・基本編に続く研修を希望する声が多く好評だった。

#### (2) 読み聞かせ・安全見守り・屋外での環境整備活動の充実

中学校特別支援学級での花作り・野菜作りでは、ボランティアの指導により、生徒たちも生き生きと活動できた。また、こども園での自然保育活動への見守りの継続実施と共に幼稚園の園外活動の見守りも開始した。

#### (3) 「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、土曜日の午前中、提携塾から派遣された講師による3教科の講座（土曜講座）を実施した。



【ササ舟を作ってプレゼント】

### ■本年度の成果

- (1) こども園での自然保育時の安全見守りは2年目で、地域の方とのふれあいが積極的に行われ、園児たちの楽しみの一つである。また、幼稚園では、新こども園の建設に伴い、近隣施設での活動が増え、通年で道路の見守りを行った。ボール遊び等にも加わり、園児も楽しい時間を過ごしている。
- (2) 4年生の福祉学習では、ユニバーサルデザイン等について教えていただいた。点字や白杖、盲導犬、手話など、会話・歌も交えた内容で児童が身近に触れることができた。
- (3) 土曜講座では、中学生の学力向上を図ることができた。また、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

毎年活動を楽しみにして下さる方以外にも広く活動を知っていただくために、広報等を活用したり、FAXや有線放送、FM放送、口コミ等で随時ボランティア募集したりしている。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町の学校園では、現在学校運営協議会を設置していない。多賀町に相応しい学校運営協議会の導入に向け、CSアドバイザーの指導による研修を重ね、今後の方向性を探っている。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

土曜講座を換気のできる多賀中学校に変更した。また、少人数の活動、屋外の活動を中心に行った。

令和4年度 地域学校協働活動本部一覧 15市町 133本部

No.	市町名	本部長	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園、金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝西小学校、稲枝北小学校 稲枝東幼稚園、みづほ会みづほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園	7	12	4
		金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園			
		馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵こども園			
		北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園			
		武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園			
		老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園			
		八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校			
		島小学校地域学校協働本部	島小学校			
		沖島小学校地域学校協働本部	沖島小学校			
		岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校			
		金田小学校地域学校協働本部	金田小学校			
		桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校			
		桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校			
		北里小学校地域学校協働本部	北里小学校			
		武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校			
		安土小学校地域学校協働本部	安土小学校			
老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校					
八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校					
八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校					
八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校					
安土中学校地域学校協働本部	安土中学校					
3	草津市	志津小学校地域協働校	志津小学校	0	14	1
		志津南小学校地域協働校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働校	草津第二小学校			
		洪川小学校地域協働校	洪川小学校			
		矢倉小学校地域協働校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働校	常盤小学校			
松原中学校地域協働校	松原中学校					
4	栗東市	栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校	0	0	1
		伴谷小学校地域学校協働本部	伴谷小学校			
5	甲賀市	水口小学校地域学校協働本部	水口小学校	0	4	0
		貴生川小学校地域学校協働本部	貴生川小学校			
		土山小学校地域学校協働本部	土山小学校			
		中主小学校地域学校協働本部	中主小学校			
6	野洲市	篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校	0	6	3
		祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校			
		三上小学校地域学校協働本部	三上小学校			
		野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校			
		北野小学校地域学校協働本部	北野小学校			
		中主中学校地域学校協働本部	中主中学校			
		野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校			
		野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校			
7	湖南市	石部小学校地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小学校地域学校協働本部	石部南小学校			
		三雲小学校地域学校協働本部	三雲小学校			
		三雲東小学校地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小学校地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小学校地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		菩提寺北小学校地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小学校地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小学校地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中学校地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中学校地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校			
日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校					
8	高島市	高島学園地域学校協働本部	高島中学校、高島小学校	0	13	6
		マキノ地域学校協働本部	マキノ中学校、マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校			
		今津地域学校協働本部	今津中学校、今津東小学校、今津北小学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木中学校、朽木東小学校、朽木西小学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇川中学校、青柳小学校、本庄小学校、安曇小学校			
		新旭地域学校協働本部	湖西中学校、新旭南小学校、新旭北小学校			

9	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校					
能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校					
朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校					
10	米原市	柏原学区地域学校協働本部	柏原中学校、柏原小学校	6	9	6
		河南学区地域学校協働本部	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校、伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園			
		米原学区地域学校協働本部	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区地域学校協働本部	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園、大原保育園			
双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校、おうみ認定こども園					
11	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
日野中学校地域学校協働本部	日野中学校					
12	竜王町	竜王町地域学校協働本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校、竜王こども園	1	2	1
13	愛荘町	愛荘町地域学校協働本部	秦荘幼稚園	2	4	2
		愛知川幼稚園地域学校協働本部	愛知川幼稚園			
		秦荘東小学校地域学校協働本部	秦荘東小学校			
		秦荘西小学校地域学校協働本部	秦荘西小学校			
		愛知川小学校地域学校協働本部	愛知川小学校			
		愛知川東小学校地域学校協働本部	愛知川東小学校			
		秦荘中学校地域学校協働本部	秦荘中学校			
愛知中学校地域学校協働本部	愛知中学校					
14	甲良町	甲良西小学校地域学校協働本部	甲良西小学校	0	1	0
15	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝たきのみやこども園、多賀ささゆり保育園	3	2	1

## 子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして

彦根市	活動名 : 東中学校区地域学校協働本部	東中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ①昼休みの図書室開館…図書委員会とボランティアが協働して開館。
- ②不登校生徒への支援（木曜ルーム）…地域力を生かした不登校生徒の支援。校内にあるリカレントルーム（別室授業）とは違い、時間の過ごし方を生徒が自ら考えて決定し、それをボランティアがサポートすることを中心にしている。教員でも家族でもない地域の大人との斜めの関係で子どもを元気づけることを目指す。



【 昼休み図書室開館 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ SNSを活用して、地域コーディネーターとボランティア、教員が情報共有。
- ・ マスク・消毒・換気・密を避ける等の徹底

- ①ボランティア募集のチラシを、図書委員長・副委員長・教員と一緒に作成。月々のボランティアの当番表を、図書委員長・副委員長にも渡し、常に意識を持ってもらうようにはたらきかけている。ボランティアには、生徒（図書委員）をお客さんにしないような言葉がけを心がけてもらっている。
- ②保護者との連携を密にして、生徒が参加しやすいような場づくりを心掛けるとともに、生徒の来校を確実に把握して、他の生徒とのほちあわせを防ぎ、またボランティアの来校が空振りにならないようにしている。

### ■ 事業の成果

- ①ほぼ毎日昼休みの開館ができ、たくさんの生徒が利用することができた。図書委員が自分たちの仕事として自覚し、ボランティアへの感謝も強くなった。ボランティアの中にも「生徒をお客さんにしない」という意識が育っている。
- ②学校に登校できず、長期欠席だった生徒が登校するようになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日々忙しい業務のうえ、コロナ対策などでさらに多忙化している学校が、地域と何かをしようとすると、さらに仕事が増えるため、なかなか新しいことに取り組もうという空気は生まれにくい。まずは学校の困りごとに目を向け、一緒に解決していくことで、信頼関係を築き、次の一歩を踏み出すステップにしていきたい。

特に不登校への対策は、不登校が子どもから学力や社会性を身につける機会を奪うだけでなく、子どもの自尊感情を傷つけ、大きな社会問題になっている「引きこもり」につながる深刻な問題であるにも関わらず、人手が足りない学校にできることは限られている。この事業でこれまで培ってきたネットワークを生かし、地域の力を借りて、これまでとは少し違う方向の支援を学校の中で展開していきたいと考えている。教員と地域の住民が、「子どもの幸せ」を真ん中に協働する空気をつくっていききたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

特になし



【 木曜ルーム うどん作り 】

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員
- その他（担任・学年主任・担当教員（部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

## 「城東ちょこっとボランティア」さんとともに創る豊かな城東っ子の学び

彦根市	活動名 : 東中学校地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：75人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

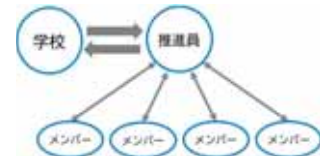
- 高学年家庭科でのミシンの学習サポート
- 校外学習（低学年の町探検、6年生の彦根城ボランティアガイド等）の引率サポート
- 5年生外来魚釣り引率・活動サポート
- 4年生「やまのこ」野外活動サポート
- 3年生リコーダー学習ゲストティーチャー
- 特別支援学級校外学習（さつまいも苗植え・いもほり）引率・活動サポート



【 2年生町探検引率サポート 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域学校協働活動推進員が、SNSでボランティア登録をしたメンバーのグループを作り、連絡ツールとして活用した。



### ■ 事業の成果

- 2年生町探検など、方面ごとに少人数に分かれて行う活動で、各グループのサポートについていただくなど、子ども一人一人の関心に応じた活動が展開できた。
- 3年生音楽科の学習で初めて出会うリコーダーについて、地域在住の専門家に出前授業をしていただくことで、リコーダーへの関心が高まり、学習への意欲につながった。
- 高学年のミシンの学習サポートでは、1テーブルに1人程度のサポートをしていただくことができた。特に初めてミシンの学習に取り組んだ5年生の児童にとっては、個別に丁寧に支援していただいたおかげで、基礎的・基本的な技能の習得につながった。
- 特別支援学級の活動では、子ども一人一人の特性をよく理解していただき、適切な関わりをしていただいたおかげで、どの子どもが満足感を感じられる活動となった。
- SNSを活用することで、学校⇄推進員⇄メンバーの連絡がスムーズに、かつ確実に行えた。学校からのお願いを転送する形で、推進員からメッセージを一齐配信してメンバーを募集するなど、効率よく、また、間違いなく連絡を取り合うことができた。



【 5年生ミシンの学習サポート 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域・学校ともに無理・無駄のない活動を  
本事業のおかげで、子どもたち個々に応じた豊かな学習活動が展開できている。持続可能な活動にしていくため、今年度のように、無理なく・無駄なく、連絡・準備・実施していくことが重要である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 「佐和山応援隊」保護者・地域の方とともに

彦根市	活動名 : 東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：53人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他〔長期休業前の印刷物の作成〕			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本年度も地域コーディネーターの発信により、年度当初に支援内容に応じて『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方53名に登録いただき、学校行事等の様々な教育活動を支援していただいた。学校の様々な教育活動に協力していただく方々を『佐和山応援隊』としてまとめ、地域コーディネーターが取りまとめてくださる形がしっかりと定着している。多くの方々に協力をお願いできる体制が整った中で、コロナウィルス感染拡大に応じた協力内容の在り方を考えながら支援の在り方を考えることができた。

- 朝のさわやかタイムでの「ミニ英語タイム」【低学年】
- 校外学習の引率・見守り支援【3年生】
- 長期休業前の印刷物の印刷【全校】
- 図書ボランティア「ポケット」の図書室環境整備
- 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ【全校：金曜日】
- 体力テストの活動補助【全校】
- 運動会の保護者参観受付
- ハチマキの作製【6年生】
- 音楽学習発表会の会場消毒作業・入場児童の手指消毒補助【全校】



【 夏季休業前の印刷物の印刷支援 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍での教育活動協力や支援は、その時々状況を見て依頼を判断するようにした。活動時には、応援隊の方も子どもたちも安心して支援をしたり受けたりできることを第1に考え、担当教員と地域コーディネーターがその都度支援内容を確認しあいながら実施した。また、音楽活動の支援については、直接の楽器演奏支援はしていただけない代わりに、音楽学習発表会で会場の消毒作業に当たっていただいたり、家庭科にかかわる支援として、子どもたちが運動会で使用するハチマキの作製をお願いしたりするなどして、間接的な支援を行うようにした。

### ■ 事業の成果

佐和山応援隊として、支援内容を予め確認していただいで募集しているので、必要な時に迷わずに支援依頼を出すことができ、大まかな人数把握もしやすかった。また、応援隊として数年目になる今年度は、毎年度同じような支援を同じ方がしてくださることもあり、依頼から活動実施への流れがスムーズになったように思われる。

前述のとおり、コロナ禍の現状を踏まえつつ、新たな協力をお願いすることができ、活動の幅が広がった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

年度当初の応援隊募集や行事等の協力依頼については、文書での案内を行っているが、日にちが迫っての協力依頼や少人数の協力依頼時には、地域コーディネーターの個人携帯で連絡調整をしていただいている。本事業が応援隊として地域コーディネーターの方に取りまとめていただくようになってからの課題であるが、連絡手段を個人に頼っている実情の改善が必要である。

『佐和山応援隊』としての活動が定着してきた今だからこそ、子どもたちのよりよい教育環境のために、教職員と地域・保護者が連携して教育に当たっているということを感じ、お互いに声を掛け合える関係性を大事にしていきたい。そして、担当する教員や地域コーディネーターが中心となって、充実した活動について定期的に話し合う機会をもつようにしたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 教務・学年主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名：東中学校地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：68人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。今年度新は新型コロナウイルス感染症対策を踏まえながら、クラス単位での読み聞かせを復活させ、その様子を録画したものを、全校で共有した。生で伝わる読み聞かせのよさを子どもたちは身をもって感じるようになった。本の整理や季節に応じた掲示物の作成にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていただいている。

#### ○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため今年度も「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「警察署出前授業」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」6年生の「職業体験談」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。今年度特に地域の歴史研究サークルさんとのつながりが生まれたことが大きい。地域の歴史を学ぶ心強い存在として、今後もつながりを持続したい。子どもたちの学習を支えていただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。



【 3年生 地域学習の様子 】

#### ○「旭森ボランティア」の活動

6月、保護者対象にコロナ禍における学校での子どもたちの安全管理と学校の教育活動を支える①徒競走大会 ②水泳授業の監視・消毒 ③マーチング指導 ④5・6年生の家庭科・裁縫学習 ⑤3年生の地域学習⑥音楽集会 ⑦6年生のゲストティーチャー（職業体験談）⑧就学時健康診断（案内） についてのボランティアの募集を行った。10名の登録があり、コロナの感染状況に合わせながら、音楽集会時の楽器の消毒や就学時健康診断での案内役、マーチング指導等を行っていただいた。旭森小学校における新たな地域と学校の協働の大きな一歩となった。

### ■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

#### ○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーを講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。地域コーディネーターの方が事前に公民館に向いたり、手紙や電話連絡をしたりしていただくことで連携がよりスムーズに図れたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

#### ○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者による密を避けながらの授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を行った。また各ご家庭からの参観人数も1名と制限を行った。保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。参観が制限される中で、日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行えている評価も得ている。今後も定期的な更新を行っていききたい。

### ■ 事業の成果

○密を避けるための取り組みの中で、クラス単位の交流や分散参観の実施など新たな形態の協働の在り方が模索できた。

○コロナ禍で保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を是非広げていきたい。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

○Teamsなどの活用でリモートを用いたゲストティーチャーや地域の方との連携の場を探っていく。

○小さな集団での協働や関わりのあり方のよさを今後も探り、活用していく。

### ■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）  
 報告書記入者（ ） 主幹教諭（ ）



## 地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校	学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・中学生の地域での貢献について
- ・コミュニティ・スクールと地域の関りについて
- ・地域の活動に学校の教育活動が協力することについて



【 前庭の花壇の整備 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校の前庭の花壇の整備を、コンピュータ・ボランティア部、生徒会と協働して行った。
- ・地域の方に笹を用意していただき、生徒が七夕飾りを制作し校舎内に飾った。
- ・地域の方の所蔵の美術作品を校内に展示し、生徒の情操教育を行った。
- ・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生と小学生の地域貢献」に向けての意見交換会を計画した。（新型コロナウイルスの感染拡大のため中止）
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード・ニューイヤーカード」を生徒と民生委員児童委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。また、生徒が育てたウクライナの国花である「ひまわり」の種を添えて、平和への思いを込めて届けた。
- ・社会福祉協議会と連携し、フードロスへの取組を行い、生徒の福祉、人権、環境への学習を深めた。
- ・滋賀大学と連携し、平和についての絵本を翻訳された学生さんとの交流会や、ポーランドの中学生とのWEB交流会を行い、平和学習を進めた。
- ・彦根南ロータリークラブから支援をいただき、彦根の伝統芸能「狂言」の舞台鑑賞会を実施し、郷土の歴史や文化について学びを深めた。
- ・スポーツ振興会、青少年育成協議会と連携し、イベントの役員やボランティアに中学生が参加し活躍できた。



【 クリスマスカード大作戦 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合わせを行った。
- ・活動の際には、感染症対策のため、検温や広い場所、マスクの着用などに徹底した。

### ■ 事業の成果

- ・地域の方とのふれあいを通じて、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。
- ・クリスマスカードの取組が、地域の方に受け入れられ、楽しみにされている高齢者の方も少なくなく、中学生が地域で活動する取り組みとして根付いている。活動後、地域の方から多くのお礼の手紙等をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
- ・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の諸団体の役員の方々が代わられていることも多く、地域の方への丁寧な説明を行い、つながりを深めていきたい。また、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかり行うことが大切である。
- ・小学校との連携をさらに進めるとともに、小中9ヵ年をかけて地域と豊かにつながることでできる核となっていく。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・コロナ禍収束後の活動をふまえての、コミュニティ・スクールとしての年間計画の見直しを図っていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（生徒会担当教員）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 児童の豊かな学びを地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 4年生 車いす体験 】

#### （2）学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官だけでなく、子ども安全リーダーや学区の交通安全協会の方に来ていただき、通学路を想定したコース設定等により、交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。



【 6年生 湖東焼体験 】

#### （3）地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りにお手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。返事をいただいた児童もあり、お手紙を通して交流することができた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全体的には、基本的な感染対策を学校（児童、教職員）、係わってくださる地域ボランティアがそれぞれに徹底していくことで、昨年度以上に体験的な活動や校外での学習を実施することができた。また、With コロナの考え方が進んだことも実施への追い風となった。一方で、読み聞かせでは、ボランティアに高齢の方もおられることから、児童とボランティアの距離を確保できるようにした。絵本が見えにくくなることもあり、大型絵本の使用や教室のモニターに絵本を映し出すなどの工夫をした。

### ■ 事業の成果

コロナ禍の中、児童と地域の関わりが薄くなっていったが、地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域学校協働活動推進員や地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、当該年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換できるようにしたい。

令和5年度に学校運営協議会を設置することから、地域学校協働活動推進員の役割をより明確にするとともに、運営協議会での議論を具現化できる多様な地域ボランティアを募集していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

彦根市	活動名 : 西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動を参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
- ・地域ボランティアや登下校の見守りの積極的な募集を行う等、人員の確保を行う。



【セーリング体験の様子】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○学びを豊かにする学習支援

- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。  
 ※のぞみ「野菜を育てよう」、1年生「昔遊び」、3年生「クルーザー体験」、4年生「松原内湖の話を聞こう」
- ・全校児童が参加する「ふるさと探訪オリエンテーリング」を、地域の方々との協働による活動として3年ぶりに実施することができた。

#### ○読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）

- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。

#### ○学習環境の整備

- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。
- ・プールの掃除を、地域の方に協力いただいた。



【校地内の環境整備】

### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・今年度は創立130周年記念事業もあり、校地内の環境整備にご尽力いただいた。運動場の草刈りや植栽の選定、城北の森の大きかりな伐採等を実施いただき、整然とした美しい環境となった。そのことを子供たちや保護者に適宜発信し、感謝の心を育てている。
- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、地域の方々の協力を得、異学年による色別の班に分かれて、安全面等に留意して実施することができた。
- ・また地域の方を招聘した出前授業は、場所や時間、人数等を工夫して可能な限り実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、大型テレビに絵本を映し出したり、子供たち同士の距離をとって前方を向いて集まったりする等、挿絵の見せ方や読み方、集まり方などを工夫していただき、お話の世界に浸ることができた。

### ■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちがもてるように努めている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていききたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていききたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子は本校のホームページに掲載しています。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(担任) 報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校地域学校協働本部	中央中学校 学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：14人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) PTA活動である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りや運搬車両（8台）の手配についての助言をし、伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- (2) 校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備や、地域学校協働本部活動掲示板を作成・補修し啓発に取り組んでいただいた。
- (3) 「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの生徒の制作した作品等を、地域の公民館に1週間展示していただくとともに、その設営や後片付け等で支援していただいた。
- (4) 公民館の文化祭や地域の公園で行われたフェスティバルに吹奏楽部が演奏する機会を設けていただくとともに、会場の準備や楽器の運搬に支援していただいた。



【 学校清掃作業での協働活動 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○コロナ禍のなかで中止となった地域行事（夏祭りや地域の運動会）が多かったが、公民館で行われる文化祭や地域の公園で行われたフェスティバルにおいて吹奏楽部が演奏する機会を持つことができた。屋外で演奏することで、密を回避し多くの方々に鑑賞していただくことができた。  
 学校と地域の公民館とのつながり連携を意識して、生徒作品展示や公民館事業に相互に協力することで、地域とともにある学校につながった。

### ■ 事業の成果

○毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただいております、スムーズな協働活動ができるようになってきている。  
 ○学校と地域さらに地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働本部事業の活動スタッフの高齢化・固定化の解消が依然課題となっている。新たな人材を発掘していく必要がある。  
 ○地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高めていけるようにする。また、支援の輪を広げ、図書室の常時開館など活性化を図っていく。  
 ○本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：26人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

5月と9月に学年花壇や特別支援学級の花壇の土起こしや土づくり、畝づくりやマルチかけなど、花の栽培や野菜作りのための準備をしていただいた。学期初めて、教師にとって多忙な時期であるが、丁寧に整えてくださったおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの取組をスムーズに行うことができた。また、正門付近にある花壇では季節に合った植物を植えてくださり、子どもたちの心に季節感や彩を添えてくださった。



【 全校ふれあい遠足 】

#### （2）本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校が長年続けてきた「全校ふれあい遠足」において、彦根城までの行程の安全指導のボランティアをしていただいた。地域学校協働本部登録メンバーと保護者に広くボランティアを募り、合計17名のお手伝いをいただいた。各たてわり班に1名から2名のボランティアに付き添っていただいた。交通量の多い交差点や観光客の集まる場所での安全確保をしっかりと行うことができた。



【 読み聞かせボランティア 】

#### （3）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動を育成するために、朝学習の時間を活用して国語の学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせ」の時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域学校協働本部事業登録メンバーから、「子どもたちと関わり共に楽しめる活動」という意見を受け、「全校ふれあい遠足」で一緒に歩いていただいたり、2学期末の「学校クリーン作戦」で大掃除と一緒にいただいたりした。感染予防の対策を講じながらではあるが、共に活動することで自然と会話が生まれ、笑顔で交流を楽しんでいただくことができた。

○本校では例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、地域学校協働本部事業登録メンバーに集まっていただき、1年間を見通した活動計画を立ててきた。しかし、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、今年度も紙面による総会に代えた。年間の活動計画等についてはコーディネーターと協議して立案し、昨年度登録のメンバーの方へ送付し、承認の返答を紙面でいただく形で総会とした。

### ■ 事業の成果

○学年花壇づくりでは、普段から畑仕事をされている方や、樹木の知識が豊富な方がボランティアとして活動してくださっている。栽培の方法や留意点、樹木の剪定の是非や適した時期など教員が詳しく知らないことを教えていただき大変勉強になった。  
○下校時に気になった子どもの姿を教えていただくなど、学校が把握していない事柄を伝えていただくことによって児童理解や生徒指導に生かすことができた。安全を見守るだけでなく、子ども達全体を見守ってくださる存在は、大変ありがたく感じている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○この数年来、地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化といった課題が続いている。毎月のように来校して作業をしてくださっている方々は、もう何年も本校をお支えいただいている方ばかりである。なかなか新規のメンバーが増えない。それどころか、近年は健康上の理由から退会を申し出られる次第である。新たな人材を発掘していくことが大きな課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもの様子やお知らせとともに学校ホームページで紹介している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：81人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動

・金城見廻り隊の方々、毎日の登下校の際に、通学路の要所に立ち、あいさつの声かけやコミュニケーションをとり、子ども達の安全を見守ってくださっている。

#### (2) 体験活動への支援

・3年生社会科「昔のくらし体験」、1年生「昔のあそびを楽しもう」の学習活動にゲストティーチャーを、4年生学校行事「荒神山活動」、5年生・6年生家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。

#### (3) 朝読書の読み聞かせ

・年間を通じて、毎週月・金曜日の朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。

#### (4) 学習環境の整備

・校舎周辺の樹木の剪定や教材園の補修等を実施していただいた。



【 1年生「大型絵本の読み聞かせ」 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍における登下校については、マスク着用でのあいさつ声になり、届きにくくなるため、声とともに目線を合わせた声かけやコミュニケーションをとり、子ども達の安全を見守ってくださっている。

来校いただいている学習活動や読み聞かせ等は、コロナ前の回数に近い状況にまで戻すことができている。3密対策や検温・消毒等を行い、実施してきた。新しい生活様式に合わせながら、継続していきたいと考える。

### ■ 事業の成果

○通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。

○地域の様々な人々によって、自分たちは守り育てられていることを、子ども達が感じ取ることができた。

○ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。



【 3年生「昔のくらし体験」 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと

○子ども達が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させていくこと

○ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること

○再来年度実施のコミュニティスクール実施等について、どのように進めていくと有効になっていくか

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/kinjyo-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## 彦根南サポートオフィス 12年目の取組 ～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会	：	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）グリーンカーテンづくり（6～9月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで8年目。今年度も、地域のボランティアや生徒の手により、支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどに頑張り、何とかグリーンカーテンをつくり上げることができた。

#### （2）環境整備作業

11月に学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢50名程度で行った。また12月には卒業式を見据えて、特別支援学級生徒と協働してプランターの花植を行った。

#### （3）図書室環境整備

今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。

#### （4）地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度もコロナ禍の影響を受け、中学生が地域に積極的に出かける活動は大部分を見合わせた。



【 地域の方と生徒による花植え 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを定期的に作成し、地域への啓発を行った。
- 校区の小学校の地域コーディネーターと担当の教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。
- 自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、ほとんどの事業で今年度は見合わせている。

### ■ 事業の成果

- ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、多くの親子での申し込みが比較的多かった。
- 毎年、地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。
- 中学校で、今年度新たに花植え作業を行った。地域の方の参加はまだまだ少ない状況であるが、今後定着化を図るとともに、地域の方にもっと参加いただけるよう周知を図っていきたい。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- 今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせた。今後は感染症対策を講じながら、どのように連携を進めていけばよいか、さらに協議を重ねていきたい。
- 学校運営協議会の設置に向けた取組について、関係者が熟議する場の設定や先進地の取組に学びながら、加速していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（社会福祉協議会）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本年度から、校区の社会福祉協議会の方とも連携を取り、学校ボランティアをしていただくこととなった。年度当初に、計画書を作成し協議することで、いつ頃どのようにご協力いただくか熟議することができた。その際には、例年ご協力いただいている他のボランティアの方との活動とかぶらないように気を付けた。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○徒競走発表会における学習支援

以前のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことはせず、今年も2グループの分散発表会で実施した。テント内で見学する児童の指導や運営など学年の教員だけではできない補助をボランティアの方をお願いできた。

#### ○読書ボランティアによる読み語り

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。以前のようにボランティアの方の周囲に児童を集めて聞かせるのではなく、机の場所で聞くようにした。教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいただいた。

#### ○社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生や3年生の生活科や総合的な学習の時間に地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。見学場所で密にならず小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。



【 校区の校外学習の引率 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

ここ数年自粛していた活動も、上記のように実施の方法を工夫することで活動できるようにした。また、学校で新型コロナウイルス感染症が流行しているときは、活動を延期するなど、ボランティアの方の不安も減るよう柔軟に実施するようにした。

### ■ 事業の成果

○徒競走発表会では、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、児童も日頃の成果を発揮することができた。

○児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。

○以前から人数確保が大変であった、「校区内の校外学習の引率」にご協力いただくことになり、毎回10名ほど来ていただけ、児童の安全面や活動時の密を防ぐ上でたいへん助かった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

本年度も新型コロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいていた本校では、特に感染が多い時期は、協力していただきにくい状況が生まれてしまった。中でも、長年続けている「幌踊り」体験が、計画していた時期に実施することができず、学習の流れとは大きく違う時期に実施することとなった。本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ICT等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 主幹教諭 ）



つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要				
開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人				
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援				
<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動				
<input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

■ 事業を考案する主体  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 読書活動支援

地域の方々が、週に1度、図書の整理や修繕、年中行事や季節に合わせ、図書室内のデコレーションなど、子どもたちが読書に親しめるように工夫して活動してくださっている。また、朝の活動の時間には、各学級で絵本の読み聞かせをしてくださっている。秋のお話会では、ひこね市児童図書研究グループの方々に、紙芝居や読み語り等をしていただいた。

(2) 第5学年 家庭科「ミシンでソーイング」

5年生は、ミシンを使っのトートバック製作に取り組んだ。初めてのミシン学習で、準備、使い方を丁寧に指導する必要がある。ボランティアの方々は、近年、毎年来ていただいでいて、子どもがどのようなところにつまづきやすいかよく把握されている。操作手順を助言したり、苦戦している児童に声をかけたりして、熱心に支援いただいた。

(3) 栽培活動支援

1年生が、生活科の学習で、お世話になった6年生の卒業式のために、チューリップやパンジーを育てる。近隣の花屋を営む方に、花苗の扱い方や世話の仕方を指導いただきながら、一緒に植え付けをしていただいた。パンジーは根をほぐして植えつけることや、枯れた花を取り除くと、また花芽が出てくることなどを教えていただき、子どもたちはたいへん驚いていた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 家庭科のミシンの学習では、密をさけるため、学級の人数を半分に、同じ授業を担当が2回行うようにした。
- お話会では、児童を近くに集めることをせず、ボランティアの方と児童との距離を取るようにした。



【 秋のお話会 】

■ 事業の成果

継続的に支援いただくことで、学習のねらいを理解していただきやすい。地域の顔見知りの方であったため、困ったときでも声をかけやすそうであった。

本校の子どもたちは、毎年のお話会、朝の読み聞かせを楽しみにしている。また、図書室に行けば、季節や学習内容に合った本が、タイムリーに並べられていて、読みたい本がすぐに見つけられる環境が整っている。このことが読書意欲の高揚につながっている。

コロナ禍で、以前と同じように学習が進められず、あきらめてきた活動もあるが、1年生の生活科の屋外での学習支援は今年度初めてお願いできたものである。このように地域の方の支援により、新たに工夫してより効果を上げる活動ができた。



【 球根・花苗の植え付け 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 毎年実施している活動とその支援は今後もできるだけ継続しつつ、活動をHPなどを通して発信することで、様々な教科や領域の地域ボランティアをさらに発掘していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 次年度、学校運営協議会を立ち上げる予定をしている。これまでの地域ボランティアの方々とのつながりを継続しつつ、新たな協働体制を模索したい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## ふるさとを愛しふるさに学ぶ「We Love かめやま」

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。今年度も1年から3年までの児童がボランティアの指導でさつまいもを植え、収穫することができた。

#### （2）3年 総合「亀山っ子探検隊」

3年生は、毎年地域に出かけて地域を知る学習をしている。一昨年はコロナ禍にあっけ出かける活動を自粛していたが、昨年度より、感染症対策をしながら地域に出かけることにしている。地域コーディネーターと担任とで事前打ち合わせを十分行い、校区を4つに分け、それぞれの地域で、公民館、蘭の栽培ハウス、太鼓部屋、神社、寺などの特徴的なものを紹介できるように、行先や日程を組んだ。また、見学先で地域の方からお話が聞けるよう地域コーディネーターに手配いただき、大変実りのある学習になった。



【 サツマイモの収穫 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

一昨年度はコロナ禍にあっけ地域に出かけたり地域の方を招いたりする活動を自粛していたが、昨年度より感染症対策をしながらできるだけ通常の学習活動ができるよう工夫した。感染症対策のため、現地に出かける際にも少人数にしたり、広い場所を確保したりするなど工夫し、安全に実施している。

地域コーディネーターは、学校の事情や子供の実態について理解していただいているので、学校と連携を密にし、交渉や話し合いができています。また、校区内の地域コーディネーターと担当教員が定期的に会議をもって、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。



【 3年 亀山っ子探検隊 】

### ■ 事業の成果

- 地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができています。
- 支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを目指したいところであるが、難しい面もある。
- 今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ： <https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各担任）

報告書記入者（ 校長 教頭 ）

## 未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：4人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）緑のカーテンプロジェクト（取組9年目）

- ・5月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターへの苗植えを推進員の指導のもと、生徒と地域の方、職員で実施した。環境委員会や各部活動および地域コーディネーターによる水やりを毎日行い、10月上旬に支柱の撤去を行った。
- ・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

#### （2）花いっぱい運動と学校行事などへの参加協力

- ・今年度は年間4回（3か月に1度のペースで実施）、花いっぱい運動を行った。
- ・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動を行い、地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。



【5月 緑のカーテンプロジェクト】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・実施に当たっては、マスクの着用と参加生徒には事前に家庭での検温および当日の健康観察を行った。
- ・長時間の作業にならないよう、時間配分に気をつけて行った。
- ・行事ごとに地域コーディネーターと担当で、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
- ・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。
- ・活動の様子をHPや学校通信に掲載し紹介した。

### ■ 事業の成果

- ・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
- ・緑のカーテンプロジェクトは取組9年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちで良くしていく意識づけになった。
- ・花いっぱい運動や葉刈作業では、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることを生徒が実感できた。



【9月 花いっぱい運動】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。また、PTAの参画もより一層促していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。  
<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

**見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」**

<b>彦根市</b>	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	<b>河瀬小学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
------------	--------------------	--------------	---

地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：65人			
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）	□地域行事への参加		■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「大豆はかせになろう」（3年）

3年生では総合的な学習の時間に、国語科で学習した「すがたをかえる大豆」で学んだことから関連させて「大豆はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。6月末には、地域の方が育てておられる大豆畑を見学させていただき、11月には、大豆の収穫体験を行わせていただいた。また2学期には、大豆からできる醤油についての製造過程を教えていただく体験学習を行った。また今年度は、地域の方の協力を得て、3年生が収穫した大豆と5年生が収穫したお米を使って味噌づくりにも挑戦した。地域の方の中にこの取組に協力して下さる方がおられるので、充実した活動ができている。



【大豆収穫体験】

(2) 「町探検」（2, 3年）

今年も2年生の生活科、3年生の社会科で町探検に出かけていった。普段何気なく見たり、通ったりしている地域だが、この学習を機会に、これまで知らなかった河瀬の歴史や地域の良さについて学んでいる。2年生は、秋の町探検では「サニーリーフ」と「葛籠の黒大豆圃と豆つづら施設」に見学に行かせていただいた。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【町探検（サニーリーフ）】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○醤油の製造過程を教えていただく活動や味噌づくり体験は、家庭科室で行った。コロナ対策として、手洗いマスクの徹底、教室の換気、クラスごとの実施等、感染対策を十分にして実施した。

○「町探検」では、2年生では地域の様子を知り、3年生ではさらに地域の方や地域の歴史や特徴を調べ知るなど、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。また2学年にわたって取り組むことで、より探究的に学びにつながった。

■ 事業の成果

「大豆はかせになろう」

○学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。

「町探検」

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。

○早めに、お願したい内容と日時をコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただけ、よりよい「連携・協働」に向けての準備ができる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○コロナ禍の中なので、なかなか地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、学校行事の案内を届けることができていない。今後、状況を見ながら学校での子ども様子を見ていただいているようにしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域力を学校に 学校力を地域力に

彦根市	活動名 : 彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:2人(兼務2人) ボランティア登録数:80人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他( )

### ■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

#### (1)「高宮駅コミュニティセンター」での作品展

地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。

#### (2)読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日に設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

#### (3)各学年の学習支援

郷土学習の充実に向けての学習支援を行っている。

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

#### 【読み聞かせ活動】

コロナ禍以前は、教室内の机を後ろに下げ、読み聞かせをしてくださる地域の方の所に集まって話を聞いていたが、現在は、自席で話を聞くなど十分な距離を取りながら活動を進めている。

#### 【高宮っ子たんけんたい】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。学習を通して、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。

#### 【栽培活動】

本年度は、春に向けて、「きれいな桜草を咲かせよう」というテーマを掲げ、栽培活動に取り組んだ。その際、植物について詳しい方に協力していただきながら活動を進めることができた。

### ■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。また、コロナ禍だからこそできる活動を通して、地域から学校への協力だけでなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかされた。コロナ禍であるがゆえの活動を見だし、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者(PTA役員)、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。

### ■ その他(学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会の立ち上げに向けた組織づくりを検討していく。

### ■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学年主任)



【高宮っ子たんけんたい】



【栽培活動】

報告書記入者(地域連携担当教職員)

## 地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：200人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 地域住民と中学生の交流の場として、地域の行事（文化祭や公民館行事など）への積極的な参加をお願いしたい。
- 地域の伝統文化（小野町のたいこおどり）の継承という視点で、中学生の参加・育成ができるとうい。
- 部活動に、地域住民の経験者が指導者になってほしい。
- 自然に触れる体験を大切に子どもたちの心を育んでほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験した。  
森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。



【 男鬼森林学習の様子 】

#### (2) 地域との連携

中学校の前庭の葉刈り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。  
学区文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写の作品等を展示した。

#### (3) さんあかレンジャー

あいさつ運動を小学校で行い活躍している。今年度は、学区文化祭にも参加した。11月に1年生より新メンバーを選出した。



【 学区文化祭・吹奏楽部の演奏 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策をしっかりと行って、男鬼森林学習を実施した。マスク着用、手指の消毒、三密にならない間隔等について、事前にしっかりと協議し、生徒にも徹底させた。
- 地域の交流を主とする行事については学区文化祭以外は中止（宿場祭り、学区運動会）になり、感染拡大防止を図った。3学期に予定していた「お年寄り交流」も中止した。

### ■ 事業の成果

- 地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や学区文化祭での活動に特に表れている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。また、3年生の卒業研究で「鳥居本の活性化」をテーマにして、鳥居本の自然・宿場町（歴史）・近江鉄道・過疎化について考察をし、未来につなげていく活動ができた。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。今年度は、体育大会を小中合同で開催できた。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容等について共通理解した。

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○5・6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。



【 ミシンでソーイング 】

○読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8：15～8：30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 図書室環境整備 】

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウィルスの感染には十分配慮しつつ、子ども達の学習活動は可能な限り停滞させないことを念頭に置き、地域の方の支援もいただくこととした。ミシン支援では支援いただく方の配置や十分な手指消毒、確実なマスク着用等に留意いただいた。読み聞かせ活動では、子ども達が集まってお話を聞くのではなく、各自の座席に着席して密を避けるスタイルをとり、感染予防を図った。

- 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていききたい。

また、地域にある団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

- その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

- 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域のバックアップが見える支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人 ボランティア登録数：74人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ 地域運動部活動事務局 ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（稲枝駅前環境美化活動）

- ・稲枝地区青少年育成協議会と稲枝地区公民館との共催で稲枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的に行い、稲枝駅利用者への心の安らぎを感じてもらうことができた。特に、今年度はプランターへの水やりボランティアに生徒が6人も手を挙げてくれ、美しい花で飾ることができた。



【 稲枝駅前環境美化活動 】

#### （2）読書活動支援

- ・コロナ禍年度当初に、学校の先生・読み聞かせボランティアの代表の方・地域コーディネーターの連絡を、グループラインを有効に活用して年間の読み聞かせ計画・調整がスムーズにできた。隔週火曜日で月2日実施が基本であるが、学校行事等に合わせて実施できた。読み聞かせボランティア同士の交流をおこない、よりよい読み聞かせを指向している。

#### （3）部活動支援

- ・地域運動部活動推進事業の実践研究校として、2年目の活動を実施している。

#### （4）運動場周辺樹木葉刈り

- ・運動場周辺の金網から出ている枝や、横に広がっている枝や葉っぱをチェーンソーで葉刈りする。
- ・校庭にある全ての樹木に対して葉刈りができるとよい。年次計画を立てて実施すると良いと思われる。



【 野菜の収穫 】

#### （5）特別支援学級への学習支援

- ・本年度は、天候にも恵まれほぼ計画通りに、野菜の栽培（学習）が実施できた。いろいろな野菜を収穫したとき、生徒は喜びと共に充実感を味わっていると思われる。

### ■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍での活動となるので、三密を避け基本的な生活様式を守った上で、できる範囲内の活動を実施する。

### ■ 事業の成果

- ・コロナ禍の中、様々な事業が制限されたり、中止されたりする中でも、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったと思われる。
- ・活動中に、「将来農業をやろう」という生徒がいて、この活動も意義のあるものだと感じられた。
- ・収穫した作物を使ったカレーパーティーなどはできなかったが、屋外での焼き芋などを実施することができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域コーディネーター、ボランティア共に高齢化となっているので、支援活動を継続するには新しい人材発掘が重要である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 特別支援学級担当教員 ）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）



## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度 : 平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 ボランティア登録数 : 56人 ■学習支援 (授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・コミュニティ・スクールの在り方・本校の学校運営方針についての説明
- ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

#### (1) 1・2年生 「親子で紙飛行機大会」(PTAひびきあい親子活動)

1・2年生のPTAひびきあい親子活動では、講師に紙飛行機名人の楠井様をお迎えし、2種類の紙飛行機の作り方を教えていただいた。最後には、親子でステージから作った紙飛行機を飛ばして、飛んだ距離を測定した。子どもたちは大喜びで、思い出に残る活動となった。稲枝地区公民館と青少年育成協議会の皆様には、会の進行、紙飛行機作りや記録測定のサポートなどをしていただけて大変助かった。



【 親子で紙飛行機大会 】

#### (2) 4・5・6年生 「教育講演会」

本校卒業生でプロダンサーとしてご活躍中の赤田様とプロダンサー3名の皆様をお迎えし、4・5・6年生に「夢の見つけ方～届け！先輩からのメッセージ」と題してご講演いただいた。夢がまだ見つからない人には「好きなことを見つけること」、見ついている人には夢の叶え方をお話いただき、子ども達は、軽快な語りとプロダンサーとしての動きに魅了され、改めて『夢』を持って叶えていきたいと感じることができた。



【 教育講演会 】

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。
- ・活動実施にあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指消毒を徹底して行った。
- ・読み聞かせ時に、モニターを用いたり、Web会議ツールを利用したりすることにより、密集や密接を避ける対策を講じながらも、子どもたちと講師(地域人材)とがつながるようにして活動を進めた。

### ■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能をもった人から学ぶことで、子どもの学ぶ意欲を高めることができる。
- ・地域の方と出会い、様々な体験をすることで、多様なものの見方や考え方に触れることができる。
- ・地域のために活躍する人や地域のよさに気づき、ふるさとを大切に思う子どもの育成につながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・教職員が積極的に地域人材を活用した学習を計画する。
- ・ボランティアとして活動してくださる方を確保していくことが重要である。

### ■ その他 (学校運営協議会との協働等)

コミュニティ・スクールの取組を進めるにあたり、地域や保護者の理解を得られるように、情報を発信していく必要がある。  
 ※ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。

(<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>)

### ■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他 ( 教務主任 )

報告書記入者 ( 地域連携担当教職員 )

## 「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域での行事活動が縮小されることが増え、地域の伝統行事などについて知らない子どもたちも多い。地域学習等でこれからも地域のよさを伝えていきたい。
- ・コロナ禍でマスクをしていることから表情が分かりにくいことも多いが、挨拶運動などの活動を通して、元気に挨拶できる子を増やしていきたい。



【 フラワーサポーター苗植え 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

特色ある学校づくりとして、本校では毎年、地域の方と協力し学校の花壇作りに取り組んでいる。学校のメイン花壇だけでなく、サブ花壇、中庭、昇降口などは四季折々の花でいっぱいである。毎年、全校の子どもたちが花壇のデザインや、デザインに込めた願いを考えている。今年度は「美しいきずな」をテーマにしたデザインである。「花の栽培活動を通して、命の大切さや、思いやりの心を育みたい」という願いのもと、フラワー委員会や5、6年生の子どもたち、地域のフラワーサポーターの方々と共に活動に取り組んできた。苗の植え替えや除草、水遣りなど子どもたちと地域の方々が一緒になって取り組むことができた。

また各学年の学習内容に応じて地域の方々から話を聞いたり、一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では、芋掘り・焼き芋体験をしたり、地域の商店や神社についての話を聞いたりした。中学年では、地域に伝わる絵や文化財について実物を見たり、説明を聞いたりした。高学年では、地域の歴史や湧き水(井)について学んだり、田植え体験、ニゴロブナの放流体験を行ったりした。

### ■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

どの活動においても、マスクの着用、手指消毒、距離を空けることを徹底した。しかし、夏場や屋外での活動では、熱中症予防のため、距離を十分空けた上で、マスクを外すなど、その場の状況に応じて対応した。学習支援では、教室を2つに分けて少人数指導を行った。少人数に分けることで個別に支援する時間が確保できるとともに、距離を十分に空けることができ感染症予防にもつながった。木工教室では、前半、後半の2グループに分けることで、人の密集を避けることができた。また一度に参加する人数が少なくなったことで、道具を使い回さずに活動することができた。



【 木工教室 】

### ■ 事業の成果

フラワーサポーターの方々と一緒に種まきや苗の植え替えをすることで自然と会話が生まれ、地域や学校での出来事について交流することができた。また、地域の方と一緒に花の世話をすることで、学校だけでなく地域みんなの花壇として大切に育てていこうとする意識が高まった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、昔の体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔の稲枝と比べることで、町の様子や遊び方など時代によって変化してきたものや、何十年も昔から変わらず大切にされている場所や行事などに気がつくことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や内容の確認など、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。年度当初に年間計画を確認し、早めに地域コーディネーターの方と話す場面を設定するなど、計画的に進めていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（担当教諭）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## ふるさとに誇りを持ち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：168人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・挨拶運動やスクールガード、学習支援等で地域の方と子どもたちが関わることでお互いに顔なじみとなり、挨拶がしっかりできている子も多い。
- ・子どもの数が減ってきたことに加え、コロナ禍もあってか、地域で遊んでいる子を見かけることが少なくなってきた。
- ・学校で行っている地域との関わりのある学習は継続してもらいたい。



【 へちまの棚づくり 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○栽培活動支援

昨年度より、年度初めの4月に、地域の方にお願ひし、栽培活動で使用する学年の畑の整備をしていただいている。今年度は、昨年度の大雪で崩れてしまった4年生の理科の学習で使用する栽培用の棚を作成してくださった。そのおかげで立派なへちまやひょうたんが多く収穫できた。

#### ○稲村かるたオリエンテーリング

10月に全校で、「稲村かるたオリエンテーリング」を行った。創立百周年記念に作られた「稲村かるた」に掲載されている寺院や史跡を、ボランティアの方や保護者とともに訪れ、建物を見学したり、地域の方やお寺の住職から話を聞いたりして、豊かな歴史を肌で感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う心をさらに高めることができた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域連携担当教員を通して、ボランティアの方を探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、日程が重ならないように配慮した。
- ・感染症対策のため、検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。また、話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
- ・今までは、地域の青少年指導員や民生委員に声掛けをして参加していただいていた「稲村かるたオリエンテーリング」を、昨年度に引き続き今年度も、地域コーディネーターを中心に少人数で引率を実施した。また、清掃活動についても、まちづくり協議会の役員を中心に少人数で対応をしてもらった。

### ■ 事業の成果

○子どもたちの環境整備が整い、安心して過ごすことができる。

- ・地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちの「身近な地域の人に教えてもらった」という意識が働き、地域への愛着も深まった。「稲枝北小学校の子どもたちのために、地域の方々がいろいろと支援をしてくださっていること」を、子どもたちに事前指導をすることで、子どもたちもこれらの取組を意識し、感謝の気持ちをもって地域の方に接している。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が進んでいるため、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。新しいボランティアの方の加入を積極的にすすめ、人材確保にあたっていきたいと考える。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

本校は、地域の方から様々な支援をいただいて教育活動を進めている。今年度から、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の制度は取り入れて運営にあたっている。「地域に開かれた教育活動」の理念のもと、より一層の地域との連携を深めながら、活動を行っていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク7年目の取組

彦根市	活動名 : 若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印</p> <p>開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人</p> <p>■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援</p> <p>■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり</p> <p>□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動</p> <p>■郷土学習 ■その他 [ 土曜支援「教室」(第1, 3週の土曜日午前) ]</p>			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
- 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
- ・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について
  - ・年間の活動内容について
  - ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 「若葉の森」の環境整備活動

本校には、地域の方も「若葉の森」として親しみをもっている2000本を超える樹木が敷地内に植えられている。開校当時からこの「若葉の森」の木々を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等で樹に関わる学びを深めている。

常設の支援（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加え、特設の環境整備部により敷地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。



【 環境整備部による葉刈り 】

② 命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。

この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいて進めてきた。今年度も新型コロナウイルス感染症予防を考慮して、地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能なかぎり3密を回避しながらの畝立て、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。

③ プログラミング学習を通じた高校生との交流

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り、防災教育の一環として6年生が防災かまどベンチ製作に取り組んできていたが、昨年度から新たに電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【 プログラミング学習 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は、ウィズコロナの視点から、地域コーディネーターとの連携を大切に、感染症予防対策を講じながら制約された状況下においても、できることは実施していくという方向で進めてきた。ボランティアの皆さんは高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選しながら、図書支援（読み聞かせ・図書室整備）や学習支援（校外学習・ミシン実習補助）を行った。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーテーションを設置して、感染予防を図っている。

■ 事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○7年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域みんながつながり・ふれあい・育もう！子どもは地域の宝もの！

近江八幡市	活動名：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：15人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

八幡学区の自然、文化、伝統などの良さを地域の方々とも子どもや保護者、教師が一緒になって知り地域を大切に思える子どもたちの育成をめざす為にはどのような取り組みを進めていくとよいか。また、地域と園とどのような取り組みからつながっていくことができるか。取組や内容、人材確保について協議する。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○絵本の読み聞かせ

毎月各学年1～2回、絵本ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施。また、傷んだ絵本の修繕。

#### ○歌指導

コロナ感染症感染対策をとりながら、5歳児を中心に歌や楽器の指導を実施。歌う時の姿勢や歌声の出し方、思いを相手に伝えるような歌い方などを学ぶ。

#### ○芝生や環境整備

ボランティアや地域の方々による園庭の芝生の整備を春から秋にかけて週1回実施。また、地域の方が育てられた花やメダカを園内外の環境に設置。

#### ○未就園児の託児

参観や研修会では、ボランティアや地域の方々による未就園児の託児を実施。



【 絵本の読み聞かせ 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方々やボランティアの取組や活動の様子を情報誌で地域や保護者へ発信し、関心を高める。

コロナ禍において、検温や手指の消毒、マスクの着用を依頼する。空気清浄機やサーキュレーターを設置する。

### ■ 事業の成果

地域の方やボランティアとかかわる機会を大切にしてきたことで、親しみをもったり、感謝の気持ちをもったりすることができた。地域の方々に大切に思われていることへの気づきとなった。

広い園庭の青々とした芝生の上で思いっきり体を動かしたり寝転んだりして体を動かす心地よさや楽しさを十分感じる事ができた。花やメダカなど自然に対する興味や関心が育つきっかけとなり幼稚園生活の楽しみが増えた。

託児の実施で、参観では在園児と保護者が1対1で十分関わり、ゆったりと参観することができ、子どもの安心感や満足感へつながった。また、研修会についても落ち着いて受けることができ保護者にとっても子どもにとっても有意義な時間となった。



【 歌指導 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

一部のボランティアが重複して活動に参加しているため、ボランティア活動への興味や関心を高め増員を図り活動を継続していきたい。その為、ボランティア同士のネットワークを広げたり活動の様子を情報誌等に掲載したりしていく。

いろいろな取組や活動が立案できてきたので、地域の方々とのネットワークや人材確保、活動の実施について計画を進める。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域に根差した子どもの健やかな育成を願い、八幡学区の良さを活かした活動や事業の取組、子どもたちの姿や園の様子・課題から学校運営協議会として協働できることについて活発な協議を重ねている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

## 保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・・

近江八幡市	活動名：金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ・幼児の育ちや保育内容について毎回参観を行い実際の姿から協議を進めている。その意義は大きい。  
 ・保護者ニーズや金田学区の課題について話し合い、保護者・園・地域の三方からよりよい幼稚園の在り方について継続した話し合いを行っている。今後、運営協議会のテーマに迫っていきたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
 ・週1回の読み聞かせ活動は、今年度も新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながら年間を通して実施した。子どもたちは、ボランティアの方に親しみをもち、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。今後も継続していきたい。  
 ・「篠田神社」に出かけ、地域の行事である和薬花火の話聞いた。今年度は事前に地域の方と連携し、DVDで神社や花火について観ておいたことで、当日も子どもたちは興味深く話を聞き、伝統文化にふれることができた。他にも近くの「若宮神社」やコスモス畑へ出かけたりし、地域の自然にも親しんでいる。  
 ・地域の方から毎年招待していただく栗林での栗拾いは、20年以上続く秋の楽しい行事となっている。手作り紙芝居で地域の方の思いを伝え、お世話をして下さっている方がおられるから栗拾いができることを分かりやすく知らせている。  
 ・栽培活動では、地域の畑の先生に畝づくりから苗植え、世話の仕方など年間を通して教えていただき、一緒に収穫を喜びあった。収穫したサツマイモでやきいもパーティーを行い、お世話になった地域の方を招待し、ふれ合う時間をもつことができた。



【 コスモス畑を散策 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
 ・園が必要としている支援にボランティアの方の得意分野を生かしていただけるように推進委員と連携をしている。  
 ・Withコロナの観点で、感染症予防対策を行いながら無理なく安心して実施できる内容を考えながら取り組んできた。  
 ・園畑や園周辺の除草や葉刈り、芝刈りは、園児には直接見えない時間に活動して下さることが多い。たくさんの地域の方にお世話になっていることを機会あるごとに子どもたちに知らせ、感謝の気持ちを持てるようにしている。



【 やきいもの様子 】

■ 事業の成果  
 ・コロナ禍でもできることを考え、少しずつ活動を広げている。その中で地域の方々と温かなふれあいや、地域のよさを感じることが子ども達の経験につながっている。また、ボランティアの方がやりがいを感じ、楽しく積極的に活動して下さっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 ・ボランティアの高齢化が進んでいる。園児の保護者の参加も増えるようにボランティアの登録を呼びかけたり、活動内容を考えたり、人材発掘の方法を工夫していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）  
 ・毎回、子どもの日常の様子を参観していただくことで、子どもたちの様子や成長の過程を確認することができたと共に、保育の中で大事にしたいことなどを考える機会も増え、よりよい子どもの育ちについて協議を深めることができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

自分が好き・人が好き・馬淵が好きな まぶちっこ ～地域の人とのかかわりをとおして～

近江八幡市	活動名：馬淵こども園地域学校協働本部	馬淵こども園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：22人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○地域に開かれたこども園として馬淵こども園の良さを地域に発信していくことが大切である。また、地域の人とのかかわりの温かさを知り、地域を大切に思う子どもの育成に向け活動内容の検討や地域の方の人材について共有していく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 園の環境整備として花の苗植えや芝生管理。
- 保育参観時に保護者が安心してゆったりと参観できるための未就園児の託児。
- 未就園児の絵本貸し出しのサポートや地域の未就園児の親子がこども園での遊びや行事への参加の際の見守りや保育補助。
- 園外保育に出かける際の子どもたちへの交通指導や園外での活動を楽しめるよう見守りや保育補助。
- 運動会・焼きいも・秋まつり・年末お楽しみ会等、園行事への参加、運営補助。
- フラワーアレンジメント体験等、子どもの体験教室の運営。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 活動を実施するにあたり、マスクの着用・参加者の検温・手指の消毒の実施や時間短縮を行った。また、活動中は3密を避け、感染拡大予防の徹底に努めた。園外保育では事前に内容や対応の在り方についての打ち合わせを行い、意識の向上に努めた。
- 地域の方や未就園児とのふれあい活動等その時の感染状況を鑑みながら、できる範囲内での活動を検討していった。
- 地域のボランティアの方々の得意分野について把握・連携し、いきいきと活動・協力していただけるよう依頼した。



【 園庭の花苗植え 】

■ 事業の成果

- 子どもたちの園生活や活動、園環境が充実し、安心安全に過ごすことができた。
- ボランティア活動を通して、子どもたちと親しみを持った関わりや園教育・園運営に対する理解をより深めていただくことができた。
- 実際に子どもとかかわってもらったり、具体的にしてくださったことを子どもに見せたり知らせたりすることで、感謝の気持ちをもったり地域の方々に大切に思われていることを知ったりすることができた。



【 あきまつり 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 人材の高齢化が進み、地域の方々やボランティアの方々の人材発掘が課題となっている。学校運営協議会で投げかけたり、地域・保護者にもボランティア登録のおたよりを配布したりして、登録者数を増やしていきたい。また、地域の方の得意なことを生かして、様々な形で子どもたちとかかわっていただけるよう、活動内容も考慮していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 地域学校協働活動推進員に学校運営協議会の委員になっていただいている。行事やボランティアに参加のほか、日頃の様子を参観していただく機会も増え、よりよい子どもの育ちについて協議をすることができた。また、今後どのような協働活動ができるのか推進員と検討を重ねていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

## 心わくわく みんなが輝く 北里幼稚園ボランティア活動

近江八幡市	活動名 : 北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：15人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

コロナ禍で、園児や幼稚園の様子を協議会委員さんに見ていただく機会が減っているため、行事のリハーサルに会議を開いたり、写真等で園の様々な取組の様子を伝えたりした。まだまだコロナ禍は続くと思われるが、安全に留意しながら行事を進めていくこと、また地域のつながりや人との関わりは大切であることを確認し合い、幼稚園で子ども達がいろいろな経験をできるようにしていくことを話し合った。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

毎年お世話になっている近隣の町の老人会の方々と芋苗植えや芋ほりを行い、やり方を教えていただきながら、交流を持つことができた。また、七夕の笹をいただいたり、5歳児は月に一度地域のボランティアの方に英語を教えていただいたりしている。地域ボランティアと保護者ボランティアによる読み聞かせを隔月でしていただき、子ども達の読書環境がより豊かなものになっている。

園外保育では付き添いのボランティアの方に来ていただき、安全を確保しながら地域の季節ごとの美しい風景を子ども達が楽しむことができた。地域に出かけ様々な人と出会い関わりを持つことを今後も大切にしていきたい。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

感染状況等を鑑みて実施するかどうかを判断し、活動前には検温と手指消毒を行い活動内容によって人数を分けたり、換気や加湿をしたりして安全に活動できるように心がけた。

### ■ 事業の成果

『地域で育てる 地域を愛する 地域の子ども～北里で 遊んで つながり 大好きに～』をめざす子どもの姿として様々な活動に取り組んでいる。幼稚園での活動を協議会委員さんと話し合い、共通理解していくことで、どんなことを大切にしていきたいかがより明確になっている。コロナ禍により制限も多いが様々な人と関わりいろいろな経験をすることは幼児期の子どもの育ちを豊かにし、地域を愛する気持ちの芽生えにも繋がっている。



【 英語であそぼう 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの方の高齢化が進んでいることから、新たなボランティアの獲得やボランティアの方同士のつながりを大切にしていきたい。長年継続している活動もあり、今後もそのつながりを大切にしながら活動を発展させていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

ボランティアの方に協議会委員になっていただき、ボランティアの立場からのご意見等聞かせていただいている。また、地域の協議会委員さんが、協議会で話された手作りの遊具を子ども達にくださることもあった。



【 絵本読み聞かせ 】

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 副園長 ）

報告書記入者（ 副園長 ）



げんき・いきいき・あづちっこ ～つながる・ひろがる・ボランティアの輪～

近江八幡市	活動名：安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園	学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：53人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・令和4年度の経営管理計画について
- ・地域学校協働本部活動について
- ・子どもの様子および保護者の現状と課題について
- ・目指す子ども像について
- ・子どもたちの遊びの姿について
- ・園評価について



【 絵本の読み聞かせ 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 子どもの見守り・保育補助・託児

4月中旬から入園当初の3歳児クラスの保育補助を実施した。地域の方とPTAの方で子どもたちを温かく見守ってくださり、初めての園生活となる3歳児の子どもたちが安心して園生活のスタートをきることができた。また、年間を通じて参観日には未就園児の託児に大勢の方が協力してくださった。

(2) 図書ボランティア・おはなし会（愛称：まんまるさん）

まんまるさんのおはなし会を月に1回、各クラスで実施した。子どもたちが興味をもちそうな絵本を毎回選んでくださり、楽しいひとときとなった。図書ボランティアの方々には絵本のカバーつけや、修繕をしてくださり図書環境が充実した。

(3) 環境整備

園庭の除草作業や芝刈り、樹木の剪定、花壇の花植えなどを環境ボランティアの方が実施してくださった。大人が園庭で作業している姿に興味をもって見たり、子どもたちから話しかけたりすることも多く、ボランティアの方々へ感謝の気持ちをもつことにつながった。



【 花壇の花植え 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍ではあったが園児たちが楽しい園生活を送れるよう、ボランティアの方々が得意とする分野で活動していただき、地域学校協働活動推進委員と連携し事業を実施した。

■ 事業の成果

参観日に未就園児（弟妹）の託児をおこなうことで、保護者は安心して園児と関わり園生活に触れることができた。託児の希望者は多く、未就園児にとっていろいろなボランティアとの関わりも良い経験になった。また、絵本の読み聞かせや環境整備に関する活動も定着し、ボランティアの方々を身近な存在として意識することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

様々なボランティア事業に幅広く参加して下さる方もいるが、今一步踏み込めない方も多い。登録してもそれぞれのペースで自由参加でもよいことを伝え、楽しく活動していってもらえるようアピールしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で、子どもたちのありのままの姿や課題について協議を重ねてきたことで、いろいろな角度から子どもを見ることができ、「安土の子ども」として同じ目線で見つめ、共有することができた。今後も地域の方々子どもたちをつなぐために学校運営協議会と連携をして事業を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

## “にこにこ きらきら 武佐っ子”を育む あったかい支援の力

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：15人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校 ■地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ①保育教材作り（布製おもちゃ作り）

布製おもちゃ作りを中心に、人形の服や、ままごとのごちそう・誕生ケーキ・ピアノカバーなどの制作を行う。今年度も新型コロナウイルス感染症の予防の為、ボランティアの方々の各家庭で制作してもらう。出来上がったおもちゃを使って一緒に遊んでもらうことはできなかったが、子どもたちの遊ぶ様子を写真で見てもらったり、遊んでいるときのエピソードを口頭で伝えていくことで、人形の服をさらに着替えやすいように袖口を大きく作り直したり伸縮性のある素材に変えたり子どもたちがより遊びやすいように工夫しながら作ってもらうことができた。

#### ②栽培活動

さつまいもの収穫を園児と一緒にする。さつまいもがおこししやすいようにツルを伸ばすなど環境を整えていただいた。

#### ③行事支援

やきいもや餅つきなどの行事の補助をしていただく。もみ殻への火の広げ方や餅の丸め方など、職員や子どもたちにコツや方法など、長年の経験を元に教えていただくことができた。

#### ④あいさつ運動

毎月1日、15日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶しながら園児や保護者を迎える。保護者会役員や5歳児もあいさつ運動に参加することで、他の保護者への啓発につながっている。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を保護者向けに通信を発行し、情報発信を行っている。
- ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の予防のため、保育教材作りは園で作成してもらうのではなく、各家庭で制作してもらえるよう布や型紙や材料などを用意し依頼する。作成したおもちゃを使って、一緒に遊んでもらうことができないので、材料を家庭に届けに行く機会に子どもの遊びの様子を伝えたり、会えない方には手紙で知らせたりした。



【 さつまいもの苗植え 】

### ■ 事業の成果

- ・おもちゃ作りでは、職員だけではなかなかできなかったことを協力していただき、保育環境の充実につながり、園児の活動がより広がった。また、フェルトやネル地で服を作っていたことで伸縮性があり子どもたちも着せ替えがしやすく繰り返し楽しむ姿につながり、温かみを感じられる保育環境になった。
- ・行事支援では、経験豊かな方から方法や知識などを教えていただくことができた。また、保育の中に取り入れることで、子どもたちの興味・関心につながった。



【 もちつき 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の予防のため、作っていただいた布製おもちゃで一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』などは実施できなかった。
- ・行事支援については、事前の打ち合わせと当日のスケジュールの確認を行うことで、活動がスムーズに実施できている。今後もていねいな対応を心掛ける。
- ・地域の方や保護者の方にも、ボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。

### ■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園 長 ■副園長 地域連携担当教職員 ■その他（ 主幹保育教諭 ）

報告書記入者（ 主幹保育教諭 ）

## は・あ・と・がだ いじ〜地域の方と心でつながる老蘇こども園〜

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数： 1人 ボランティア登録数： 25人		
<input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等）      ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）      ■学校行事支援		
<input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り      □部活動支援      ■学校周辺環境整備      □学びによるまちづくり		
<input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）      ■地域行事への参加      □ボランティア・体験活動		
<input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習      □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園    □学校運営協議会    ■地域学校協働活動推進員等    □行政    □その他（    ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 栽培活動→さつまいもの畑作り、苗植えや育て方のアドバイスをさせていただき、収穫も一緒におこなっている。また、花を育てるにあたり、プランターの土作りや栽培のアドバイス・花苗植への作業をさせていただいている。
- 環境→運動会に向けて地域ボランティアの方、保護者、職員が協力しあい園庭整備をおこなっている。園庭の大木の剪定もしてくださっている。
- 絵本→月1回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをさせていただいている。ポルトガル語を母国語とされるボランティアの方にも来ていただくことで、多文化に触れる機会となっている。
- 避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ2次避難→避難訓練後に老蘇コミュニティセンターと連携し、防災についての話や施設の見学をおこなっている。
- 手作り玩具→地域ボランティアの方と共に乳児クラスの絵本用のウォールポケットを製作した。



【 老蘇コミュニティセンター施設の見学の様子 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- コロナ禍ということで、参加していただく場所や人数等を考慮した参加方法をとるようにしている。
- 収穫後のお楽しみパーティーに来ていただき、ボランティアの方と交流をしたり、年度末にお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたりする中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。
- 卒園児の保護者に声をかけ、継続してつながっていただけるように、ボランティアの登録をお願いしている。

### ■ 事業の成果

- ボランティア活動を通して、地域の方に親しみを感じていただき園運営の理解に繋がられた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- まだまだ続くコロナ禍、保護者の方だけでなく、ボランティアの方においても、行事の規模を縮小したり、形式を工夫したりすることで、参加していただきやすい工夫をした。次年度も実施に際して様々な配慮が必要である。
- ボランティアの方が地域や多方面でも活躍されていることもあり、募った日に先約がある日があった。また、登録されている方の高齢化も進み、行事の内容によっては体力的に難しいこともある為、今後の新たな人材確保に努める必要がある。



【 さつまいもの苗植え 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長    ■教頭    ■地域連携担当教職員    □その他（    ）

報告書記入者（    副園長    ）

## 地域とつながり、愛情あふれる協働活動

近江八幡市	活動名：八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：144人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他〔 〕		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域連携のあり方 ・放課後の児童の過ごし方 ・今後のPTA活動

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

ボランティアの新規登録者が17名、登録者の合計は144名となった。

- ①環境整備…樹木剪定・枝葉処理、生け花、図書室整理、運動会テント設営・撤収、カーテン作り
- ②本の読み聞かせ…全学年毎週火曜日・朝10分間、布絵本（主任児童委員）
- ③学習支援…ミシン補助、ソーイング補助、八幡堀学習、ヴォーリス学習、茶の湯体験、九九の聞き取り、英語ボランティア、学習補助
- ④児童引率補助…町たんけん、観光ボランティアガイドによる引率
- ⑤クラブ活動支援…琴、茶、生け花、絵手紙、着付け
- ⑥栽培活動支援…夏野菜・北之庄菜作り、へちまの棚作り、さつまいも作り
- ⑦その他…賞状筆耕、ベルマーク作業、そうじの指導、雑巾づくり  
学生ボランティア（教員志望の学生）の積極的な受け入れ

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域の感染状況を踏まえ、子どもに直接関わる活動の可否を判断した。
- ・入校時の検温、健康観察カードの記入により健康状態を確認した。
- ・昇降口を入ってすぐの位置にボランティアルームを設けており、ボランティア活動の前後にも児童との自然な交流ができるようにしている。
- ・児童、保護者、地域に活動内容を幅広く知ってもらうため、学期末には「ボランティア通信」を発行し、校内には活動風景の写真を掲示している。
- ・運動会や6年生を送る会等の行事にボランティアの方を招待し、児童がいきいきと活動する様子を参観していただいている。
- ・授業参観時、保護者に「ちょいボラ」を呼びかけ、気軽にボランティア活動に参加してもらうようにした。

### ■ 事業の成果

- ・多くの方と触れ合いから、児童は愛情を感じ、地域とのつながりを深めている。来校されたボランティアの方に、自らあいさつする児童が増えた。
- ・学習支援やボランティア活動を通じて、教員が地域の方から直接お話を伺うことで、地域理解を深めることができた。
- ・地域で活躍されている様々な職種の方を招いてキャリア学習を行い、仕事の内容や働くことの意義について学ぶことで、児童は大人への憧れや将来への希望を持つことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・コロナ禍で、学年対象の講演を学級ごとに行ったり、学年を2分割に行ったりすることになり、講師の方の負担が増えた。
- ・今後、ボランティアの方との連絡をオンライン化していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会の開催前に事前協議を行って協議内容を絞り、活発な意見交換ができるようにしている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）



【 お琴体験 】



【 へちまの棚作り 】

## 地域とともに育てよう！「ふるさとを愛し 瞳輝く島っ子」を

近江八幡市	活動名：島小学校地域学校協働本部	島小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：360人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等  
行政 その他（島学区まちづくり協議会）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動にかかわる内容等）

- ・地域で学ぶ、地域の人から学ぶことで郷土愛を育てる。
- ・読書活動の充実、家庭ではたらかさけ。
- ・子どもが主体になれる防災体験について。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援

##### ○ふるさと学習 環境学習 防災学習

2年「まちたんけん」（大中見学「農園」「牛舎」など）「権座でおいも」（権座のお話・いも植え・いも掘り）

3年「ヨシ・菜の花学習」（ヨシちまき・ヨシの働きとくらし・ヨシ原の保全・ヨシ刈り・よし笛・よし笛・菜種栽培等）

「まちたんけん」（地域の特徴・砂防ダム見学）

4年「ヨシ・菜の花学習」（菜種栽培・収穫・油を使ったクッキング 松明づくり・地域伝統の祭りと技を学ぶ）

「大中学習」「地域の祭り」（地域の農業とくらし）

5年「ヨシ・菜の花学習」（松明奉納）「たんぼの学習」（SDGs）

1・5年「島小わくわく野鳥観察会」（船で渡合・権座・西の湖を巡り、探鳥）

##### ○授業支援（昔遊び 昔体験 ミシンボランティア 音楽体験 米づくり等）

##### ○エディブル・スクールヤード活動への支援（全校、白王山ハイキング）

##### ○行事支援 島アドベンチャー（全校、白王山ハイキング）

運動会「島っこ体育発表会」支援

#### （2）見守り活動

- ・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」
- ・地域の方による登校、下校時の見守り「みまもり隊」
- ・地域の方、保護者による朝の見守り「行ってらっしゃい運動」

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 食を伴う活動についても調理の仕方やグループ分けなどを工夫し、健康観察やマスクの着用・消毒を徹底して実施した。
- 人材育成の観点から、推進員やゲストティーチャー、地域ボランティアの方と担任が打ち合わせをすることを大切に。その後のフォローなどを管理職がするようにした。
- 地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ホームページなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。
- 「防災学習」や「SDGs」の視点での連携について。

### ■ 事業の成果

- まちづくり協議会との連携で、新たな活動や子どもたちの学びにつながる人との出会いを作り出すことができた。
- 地域の自然や伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いだ思いや生き方にふれることができた。
- エディブル・スクールヤードの取組を様々な教科や活動に結び付けることができた。
- 地域の方の支援を受け本校ならではの学習を大切に、地域の方とのつながりを実感できた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組まなければ学習が深まらない。担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。
- 学校運営協議会を活用し、新たな視点からの意見をいただくとともに教育活動の後押しをさらにお願する。

### ■ その他 島小ホームページ <http://www.fureai-cloud.jp/shima-es/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 教頭 地域連携担当教員 その他（担任）

報告書記入者（ 教頭 ）



【 2年 権座でおいも 】



【 全校 島アドベンチャー 】

## 沖島を愛し、自ら地域に親しむ、心豊かでたくましい沖島っ子の育成

近江八幡市	活動名 : 沖島地域学校協働本部	沖島小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人） ボランティア登録数：10 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 地域（島民）とのふれあいの場・機会づくり
- あいさつができる子どもの育成
- 特色ある教育活動について
- 学校の存続に向けて

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 郷土料理体験（ふなずし作り）：地元漁師の方に指導していただいた（3回）。
- 「沖島アイス」販売体験：地元産サツマイモを材料に製造されているアイスクリームの販売体験をした。
- 沖島オリエンテーリング：島内の店舗や施設、寺社を訪問し、ふれあい交流をした。
- 沖島太鼓の演奏：全校児童で取り組み、学校行事や地域行事で披露している。
- 漁業体験（地引網漁）：地域の主産業である漁業を体験。沖島漁協の方々にご指導していただいた。
- 創立 130 周年記念事業：島民運動会にて地域の方々とは人文字を作成し空撮した。



【 ふなずし作りを名人に教えてもらう 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 自治会、老人会、まちづくり協議会等と学校との協働の場を設定すること。
- コロナ対応のため、地域の方々の理解を得ながら既存行事の内容見直しをはかり実施すること。
- 地域産業や伝統文化にふれる機会を設定し、地域への愛着を育むこと。

### ■ 事業の成果

- 地域の方々とのふれあいの機会が学習活動に盛り込まれたことで、地域の願いや思いを身近に感じ取れる児童の育成につながった。
- 地域学校協働活動推進員と学校との連携により、地域財（人・場・もの）の適切な活用がすすみ、計画的に学習活動を実施できた。



【 創立 130 周年記念撮影 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 島民の高齢化と島内の過疎化により、地域の魅力ある財が消失してしまわないか心配。それに伴い、学校との連携が希薄化しないよう学校から積極的にふれあいの場や機会を提案する。
- 在籍児童数を確保するため、近江八幡市の通学区域弾力化制度等を利用してもらえる学校情報の発信を工夫すること。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校HPや学校だよりで地域および保護者に学校生活の様子を発信している。  
(<http://www.fureai-cloud.jp/okishima-es/>)

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：180人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校経営方針について 子どもの読書について  
児童の服装について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○2年生では、学校菜園にて野菜栽培に取り組んだ。地域ボランティア「野菜の先生」の方々に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫した。  
 ○3年生では、ふるさと学習の一環として、地域の花火師さんを招いて特色ある産業について学習した。花火模型を使いながら分かりやすく教えていただいたり、安全に十分配慮したうえで、運動場での打ち上げ実演を行ってもらったりした。  
 ○5年生では、地域ボランティア「裁縫お助け隊」の方々に、家庭科実習の裁縫の時間に実技指導の補助をもらった。個別の指導が行き届き、子どもたちの技能の習得につながった。



【 3年生 ふるさと学習 】

### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○ボランティアの方々に協力いただく時間を学年の時間割調整によって分散したり、活動において密を回避したりするよう計画立てたりした。また、様々な制限がある中でも、子どもたちにとって実りのある学習となるように、地域学校協働推進員を通じて綿密に打ち合わせを行った。  
 ○学校だよりを学区全戸に配布したり、学校ホームページで活動の様子を詳しく紹介したりしながら、支援活動等を随時地域に発信している。

### ■ 事業の成果

○地域ボランティアの方々の協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを知ったり、学んだりすることができ、ふるさとに愛着をもつ子どもの育成につながることができた。  
 ○地域ボランティアの方々に礼状を作成することで、社会性や感謝の心を育むことができた。  
 ○教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動の推進につながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働推進員を通じて、地域ボランティアの方々と学校教育目標や学校経営の位置づけを共有しながら、学習活動の目的やめあてを明確にして打ち合わせを行っていく必要がある。  
 ○地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○前述の「地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題」に関わって、学校運営協議会にて熟議をはかることができると思われる。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（ 教頭 ）

## ふるさとに誇りを持ち、夢に向かってのびる金田っこ

近江八幡市	活動名：金田小学校地域学校協働本部	金田小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他【伝統芸能鑑賞、防災学習】						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・通学路の安全について ・読書活動の推進について
- ・地域共生型福祉推進モデル事業の実践について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 1年「生き物探検」「秋みつけ」・・・地域の自然に触れ、環境を守る活動に取り組み、人々と触れ合う。
- 2年「地域の自然に親しむ」・・・地域の自然に触れ、環境を守る活動に取り組む人々に学ぶ。
- 3年「ホテルを守る活動について知ろう」「朝恋トマト作り」「金田の祭りを調べよう」「地域の消防設備を知ろう」
  - ・・・地域の伝統や環境を守る活動に取り組む人々と触れ合う。
  - ホテルが住む川を守る金剛寺の取組や朝恋トマト作りに学ぶ。
  - 地域の防災予防について学ぶ。
  - 浅小井町の祭り・篠田の火祭りを継承する人たちに学ぶ。
- 4年「福祉学習」「地域の水害を防ぐ」「寺子屋」
  - ・・・住む人にやさしい地域づくりを考え、地域を守る人々と触れ合い学ぶ。
- 5年「田んぼではたらく人々」「環境学習」「手縫い名人になろう」・・・地域の環境について考える。
- 6年「ミシン名人になろう」「平和学習」
  - ・・・地域の平和について考える。



【 1年 秋みつけ 】



【 3年 地域の消防設備見学 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努め、発見や感動のある学習を目指した。
- 担当学年の主任と地域学校協働活動推進員との連携をとり、打合せ時間を確保した。
- 広い場所を確保し、マスクの着用、換気や消毒につとめた上で、講話を聴いた。

### ■ 事業の成果

- 地域に愛着と誇りをもって活動されている方々の話を聞いたり、仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習、体験ができた。
- 金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。
- 地域の安全を守る活動（スクールガード、地域の消防、地域の川の整備等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災や安全に対する意識の高まりが見られた。
- 放課後子ども学習「寺子屋金田」では、コミュニティセンターを学習の場として、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 大規模校で、どの学年も人数が多い。（140名～160名）その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人数確保や日程調整が難しい。コロナ禍で、子どもたちを分散させる配慮をすると、学級単位で講話・体験をお願いすることになり、1日に4～5回、お話をさせていただくことになる。その負担は非常に大きい。
- 講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が急務である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学期に1度集まっていたいただき、協議会を開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。
- 高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）



共に伸びる ～ 自分から みんなと 最後まで ～

近江八幡市	活動名 : 桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：120人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他( )

- 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)
  - ・第1回(5月)… 学校経営管理計画の承認・今年度の活動計画について
  - ・第2回(7月)… ふるさと学習、子どもの居場所づくりについて
  - ・第3回(11月)… 子どもの居場所づくり、登下校の見守り活動について
  - ・第4回(2月予定)… 活動報告、学校評価に対しての方針案、来年度の活動について



【 生ごみプロジェクト  
～大根づくり～ 】

- 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)
  - 4年 環境学習：生ごみプロジェクト  
 地域ボランティアの方々の指導により、給食の残飯をたい肥化したものを、畑に肥料として入れ、栄養たっぷりの大根を育てる取り組みを行った。1学期はたい肥の作り方、2学期は大根の苗植えと育て方、3学期は収穫の仕方についてのお話をいただき、一緒に作業のお手伝いをしていただいた。お世話になった方々を収穫感謝祭に招待し交流を深めた。



【 九九の学習ボランティア 】

- 4年 地域ふるさと学習：日野川フィールドワーク  
 日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。日野川の歴史や先人の知恵などを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたり、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークを行ったりしてふるさとへの思いを高める学習に取り組んだ。
- 2年 九九の学習ボランティア  
 子どもたちの九九の学習の支援のために、地域のボランティアの方に依頼し、一人ひとりの九九を聞いていただいた。地域の方に聞いていただき、ほめていただくので、子どもたちにとって大変励みになり、九九の学習がさらに深まった。

- 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)
  - 学校支援ボランティアさんの活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に活動時期や内容を周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。また、地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、学校支援の輪を広げる取組を進めた。
  - 日頃お世話になっているボランティアの皆さんに対し、子どもたちからのメッセージカードや、収穫した大根の収穫感謝祭に招待する取組など、コロナ禍の中でも可能な範囲で、積極的に地域の方との交流を工夫した。

- 事業の成果
  - 地域の方々が朝や休み時間を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。また、ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数の目で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。また、子どもたちの学習への励みの一つにもつながっている。
  - 図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。
  - スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、学校ボランティアとして定着してきているが、高齢化が進み無理をされている部分もみられる。この活動が継続していくためにも、まちづくり協議会・他の地域団体との連携を図り、新規募集を含めた組織的、継続的な仕組みの見直し・工夫が必要である。

- その他(学校運営協議会との協働等)  
 「支援」から「連携・協働」に向けて、さらに地域人材を確保し、一歩進んだ地域住民による学校との連携・協働を充実させ、地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、ビジョンをもって進めていくことが大切である。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各担任)  
 報告書記入者( 教頭 )

## 地域とともに体験学習を・ボランティアさんはできるときにできることを

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：約150人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校支援グループとしての活動から気づいた子どもの様子について
- ・地域や登下校中の子どもの様子や通学路の安全について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 校内的での学習活動：地域学習や専門分野でのゲストティーチャー、家庭科でのミシン実習補助
- 安全見守り活動：自転車での校外学習のルートづくりと付き添い、危険箇所の安全見守り
- 校外での体験学習：まち探検での施設案内と取組説明、白鳥川での観察観測の指導、たんぼのこ活動の補助
- 環境整備活動：図書室の掲示物作成や本修繕の整備と貸出補助、校地内樹木の剪定作業、昇降口清掃、落ち葉そうじ
- 文化活動：朝読書での読み語り、校舎内生けこみ、木エパズル広場  
※これらの活動を円滑に行うための、毎月の学校支援グループ代表者会（学校運営協議会を含む）の開催。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・検温と手指消毒の実施と体調を考慮し無理をしない活動を実施した。
- ・室内での活動はマスク着用や必要な距離を保つようにした。
- ・コロナ感染状況により活動時期や活動内容に変更があることを前提に計画した。

### ■ 事業の成果

- ・コロナ禍ではあるが、活動を継続できるよう工夫をしながら実施することができた。
- ・地域ボランティアの方やゲストティーチャーがくり返し来校される機会があることにより、児童や学校との温かい関係性が感じられる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアグループの次の世代をいかにつくるか、人材確保についてどのグループについても話題になっている。
- ・子どもや学校教育に地域の方が関わっていることが、保護者にも実感してもらえはたらきかけが必要。こうしたことが次のボランティア人材確保にもつながるのではないか。
- ・子どもが地域で活動する機会（学校と地域の双方向の関わり）をいかにつくっていくか。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・本校が従来から実施してきた学校支援グループ代表者会と学校運営協議会の持ち方の工夫をし、学校や地域が目指す子どもたちの成長をめざすための熟議を重ねていく。
- ・すべての教職員が学校運営協議会との協働について、日々の教育活動との関係性や仕組みを理解する機会をもつ。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 ■その他（各教員）



【 2年地域学習ゲストティーチャー 】



【 5年白鳥川での学習指導 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域でともに育てる馬淵の子

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：39人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等） 放課後子ども教室の運営について

#### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 農業、栽培に関する活動…ヘチマ栽培、野菜栽培、稲作体験
- ・ 歴史、伝統文化に関する活動…地域の祭り、古墳・史跡見学
- ・ 平和学習に関する学習…戦争体験、校区への疎開体験の聞き取り活動
- ・ 地域防災に関する活動…消防団見学、河川学習、水害被害の聞き取り
- ・ その他 読み聞かせ活動・フラワーアレンジメント



【 6年社会 疎開体験講話 】

#### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ 地域ボランティアには必ずマスク着用と検温への協力を求めた。
- ・ 学習補助、児童活動支援は、接触、密接を前提とするため、また高齢のボランティアが多いことから依頼をとりやめた。
- ・ 地域ボランティアの授業参加は、児童と一定の距離が確保できる講話形式のみとした。また、現地に出かけて、屋外で話を聞く形式を主体に計画した。
- ・ 授業者と地域ボランティアとのマッチングや日時の調整について、推進員があらかじめ十分に授業者の要望を聞き取って仲立ちした。具体的な活動内容や支援方法などについて、授業者、推進員、支援者が事前の打ち合わせを行って決定した。



【 ツツジの剪定作業 】

#### ■ 事業の成果

- ・ 感染症拡大防止の対応のため地域と協働した活動を一部制限せざるを得なかったが、その中で可能な内容や方法を模索することによって、新たな活動や地域ボランティアの発掘につながった。
- ・ 推進員の役割に対する教員の理解、事業についての地域への周知が進んだことにより、様々な分野で授業のねらいに応じた効果の高い支援が得られるようになった。推進員や地域ボランティアとの協働によって、教員の地域理解が深まり地域の素材を教材化する力が高まった。
- ・ 継続した活動を行うことによって、児童は顔馴染みとなった支援者の来校を楽しみにするようになり、支援者は児童への理解が深まって効果的に支援を行え、継続することにやりがいを感じるという好循環が生まれている。

#### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域との連携、協働の効果を高めるには、事前の授業者と地域ボランティアの打合せが重要であり、推進員の限られた勤務時間内で効率的に行うよう工夫する必要がある。
- ・ 1人のボランティアが複数の分野の活動に関わる場合も多いため、各学年の活動の日程を早期に調整する必要がある。

#### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 推進員が、学校運営協議会の場で学期ごとに地域学校協働活動による取組を報告し、委員は活動について理解を深めた。運営協議会での情報交換によって、次年度の活動に向けて、地域の願いをくみ取ったり新たな地域の素材を活動に生かしたりすることや、地域人材の発掘につながることを期待される。

### ■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ 各担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 未来のきたさと（喜多郷土）をつくる 子どもを育むコミュニティ・スクール

近江八幡市	活動名：北里小学校地域学校協働本部	北里小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 21 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：110人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]						

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
- ・ボランティアの在り方について
  - ・登下校時の児童の安全確保について
  - ・「わたしたちのきたさと」作成について
  - ・子どもの学力について
  - ・ふるさと学習について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り・稲刈り・脱穀・糶摺り・精米という米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、11月11日に実施したシンポジウムでは、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など5年生児童が総合的な学習の時間に調べた環境学習の内容を壁新聞にまとめ、ポスターセッションの形式で発表した。また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、パネル数は100枚程度になった。5年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。



【メダカシンポジウム】

(2) 子ども安全地区懇談会

北里学区青少年育成会が主催し、「地域で子どもを守るために」をテーマとして、民生委員や自治会、まちづくり協議会、駐在所、幼小中のPTAが一堂に会して子どもの安全について話し合う地区懇談会は、平成12年から続いている。昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、学校が行う地区懇談会と合同で行った。駐在所から地域の現状、幼小中から各校園の様子を伝え、その後、各方面から意見をいただく。この懇談会は、あらゆる方面から貴重な意見を聞くことができ、北里学区民が一体となって子どもの安全について考える良い機会になっている。この懇談会で出た意見は学校に持ち帰り、学校運営に役立てている。また、学校で開催する地区懇談会を兼ねて行った。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- メダカシンポジウムでは学級別に発表を行い、発表する学級の保護者だけを会場に入れることで、密集をさけた。
- 子ども安全地区懇談会は参加者を絞って行い、密集を避けるように開催された。

■ 事業の成果

○事業開始から14年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 平成21年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。
- 地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○平成31年度からコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げた。4年目になり、より実効的なコミュニティ・スクールの在り方を考え、協議会での協議内容も検討している。学校の記念行事で作られたウッドデッキなど施設が老朽化し、その対応策などを検討した。他にも通学路など子どもが安全に学校生活を送るための意見をいただき、学校運営の支援をいただいた。今後も、地域の担い手として活躍できる子どもの育成を目指して、地域ぐるみの活動を考えていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）  
 報告書記入者（ ） 教頭（ ）

## 保護者支援・子どもの居場所づくりと地域を愛する子どもの育成

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：73人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他〔 〕			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○年間の活動内容の確認を行った。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 地域の特徴・産業等や生き方学習等について、ゲストティーチャーを招き、お話をしていた。
- 体験的学習で、茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらった。
- 畑づくり、花壇の整備などの学校環境づくり等に協力いただいた。
- 低学年における読み聞かせをボランティアさんにより進めている。



【 3年生ゲストティーチャー 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ゲストティーチャーとしてお話いただく取組を中心に行った。
- 畑づくり、花壇の整備など、できるだけ野外での活動を中心に実施した。

### ■ 事業の成果

- ゲストティーチャーの専門的な内容や経験に裏打ちされたお話、生きざまを聞くことにより、教科書を中心とした授業だけでは得られない、実感を伴った学習となった。
- 自分の生まれ育った地域について、地域の方のお話を聞くことで、より身近なものとして学ぶことができ地域を愛する子どもたちの育成につながった。
- 畑づくり、花壇の整備など、教員の力では難しいことを、専門的な支援をいただきながら進めることができた。



【 読み聞かせボランティア 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）、ボランティアさんの高齢化が進み、後継者について考える必要がある。
- コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや教員との打合せ、聞き取りが不十分になることがある。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 本校は、昨年度からコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会で活動内容を検討している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（                      教頭 ）

## 学校保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

近江八幡市	活動名：安土小学校地域学校協働本部	安土小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：155人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

#### (1) 全校児童対象の活動

学年	項目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	・読書ボランティア「によきによき」さんに、毎週木曜日、朝読書の時間に、2学年ずつ各学級で読み聞かせをしていただいている。また、毎学期1、2回、昼休みに開催して下さるお話を楽しみにしている。
	見守りあいさつ運動	・日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんが参加して、校門であいさつ運動を実施した。

#### (2) 学年の活動と連携・協働した活動

学年	項目	具体的な取組内容
3年生	安全・防災学習	・地域の消防団10名の協力で、学区の災害対策の学習と放水消火訓練を行った。
3年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫、ちまきや野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
4年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りをし、環境について学習した。
5年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々との協力を得て行った。
5年生	ふるさと体験学習	・地域の老人会の協力を得て、しめ縄づくりを体験し伝統行事を学んだ。
6年生	キャリア教育	・飲食店や美容業で働く方から、仕事内容ややりがいを聞き、将来への生き方を考えた。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学区にある西の湖は県の干拓事業により残された自然であり、そこに住む動植物の観察や水質などの環境学習を西の湖を守る地域の方々から学んだ。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○日常的に地域学校協働活動推進員と学校が連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域学校協働活動推進員から、多くの有益な情報を得ている。

○読書ボランティア「によきによきさん」と教職員や地域学校協働活動推進員が、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。

### ■ 事業の成果

○地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

○地域学校協働活動推進員が教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校運営協議会の活動に地域学習やボランティアの人材バンクを位置付けて、学校と地域がより深くかかわる組織づくりを進めていく。

○地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）



【 3年安全・防災学習 】



【 4年西の湖学習 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 老蘇の自然・文化・人に支えられた老蘇っ子の「ふるさと学習」

近江八幡市	活動名：老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校	学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ふるさと学習をはじめとする学校教育活動、及び地域による学校支援
- ・老蘇学区における福祉的課題に対し、SDGs子ども見守り隊として、子どもたちが社会的な繋がりを果たすことについて

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）豊かな自然から学ぶ

（全学年）・ピオトープでの体験活動

（4年）・西の湖学習 ・ヨシ灯り作品作り （5年）・ニゴロブナの放流

（特支）畑でとれた大根でおでんを作ろう

#### （2）歴史・伝統・文化から学ぶ

（1年）・昔の遊び体験 （2年）・神社の見学 ・たけのこ掘り

（3年）・昔の暮らしについての聞き取り

（4年）・ゴミ処理についての学習 ・教林坊・杉原邸・奥石神社の見学 ・ふるさとの偉人についての聞き取り

（5年）・シーサー作り ・和太鼓作り・湖魚の伝統料理作り

（6年）・お茶碗製作・お茶たて体験・和太鼓体験・信長時代の文化・演奏会・瓢箪山古墳と安土城考古博物館の見学

#### （3）地域の働く人から学ぶ

（2年）・野菜の栽培・ハチミツ採取体験・まち探検・郵便局の見学 ・コミセンの見学

（3年）・ネギ農家見学・イチゴ農家見学 ・れんこん掘り ・消防署の見学・営農 農家の見学

（4年）・防災拠点としてのコミセンの役割

（5年）・自動車部品工場見学・JA営農見学・米作り学習 （6年）・木箱作り

（全校）・登下校の見守り・絵本の読み聞かせ・芝生管理委員会



【ニゴロブナの放流】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ禍における感染対策を講じて工夫した取組を実施した。
- ・教科の学習や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。
- ・以前から引き続き行われている活動が多いので、これをきっかけに活動の意義やねらいを明確にして実施した。
- ・活動の様子を「地域支援だより」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにしている。

### ■ 事業の成果

- ・自然や歴史、文化、人などについて知ることで、“老蘇”のよさを再発見し、そこに住んでいる自分にも愛着と誇りが持てる。
- ・多くの人と出会い触れ合うことや様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができ、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ふるさと学習を通して「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するためには、課題作りの段階で個々の課題意識を高めること、児童の主体性を生かす工夫が必要であり、協働による課題解決の場の設定し、考えたこと調べたことを自らの言葉で表現する力を付けられるよう。
- ・子どもたちの活動が単発で終わらず、それぞれ効果的に単元全体の構成を熟考して実施する必要がある。
- ・快く受け入れてくださる地域の方や事業者の方も多く、今後も協働活動の維持、また精選、拡大を検討していく。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・地域の文化、歴史、人材など地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域からスムーズに受けられる。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（教務主任、各担任）

報告書記入者（ 教頭  ）

## 「地域が学校づくりに参画する学校」をめざして！

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約80人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・令和4年度学校経営方針
- ・地域学校協働本部事業の目的と事業内容
- ・登下校中の交通安全
- ・全国学力・学習状況調査の結果
- ・学校評価の結果



【 生徒の企画・運営による学校サミット 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 1年：被服実習支援、着付け実習支援、書道実習支援、八幡FW支援
- 2年：水泳実習支援、職場体験、書道実習支援
- 3年：水泳実習支援、芸術鑑賞
- 全学年：八中サミット、図書館司書支援、ゆるキャラ着ぐるみ制作、美術部支援
- 太鼓部：地域行事での公演活動

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・水泳実習支援を3年ぶりに実施するなど、感染症対策をした上で、できる限りコロナ前の活動に戻すことができた。
- ・ただ戻すだけでなく、活動内容の精選、新規登録者の開拓等を行った。
- ・スクールボランティアからスクールサポーターへと名称を変更することで、地域の方に学校を支援しているという立場から、学校運営協議会と同様に、ともに学校をつくるという参画意識を持っていただく工夫をした。

### ■ 事業の成果

- ・昨年度初めて学校運営協議会にも参加していただき開催した八中サミットを、今年度は生徒が企画・運営することで実施した。前回以上に地域・生徒・保護者・学校の四者が、学校の課題について熟議する機会となった。
- ・昨年度誕生したオリジナルゆるキャラ『でっちゃん』の着ぐるみを、地域の方との協働によって製作することができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・スクールサポーターの高年齢化が進み、登録者が減少傾向にあることが課題である。保護者への積極的な募集や学区の小学校のボランティアさんに中学校へも足を運んでいただく等の工夫を行い、登録者数のさらなる増加や小中連携の活性化につなげたい。
- ・ゆるキャラ着ぐるみ制作では、スクールサポーターや学校運営協議会委員の他に地域の左義長保存会の有志の方の協力を得るなど、協働の輪を広げて活動できた。今後もより多くの地域の方に参画してもらえる活動を企画していきたい。



【 ゆるキャラお披露目会 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ホームページにて随時活動について公開しています。
- 右の二次元コードからご覧ください。



### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）



開巻有益 ～心ときめく図書館の充実を目指して～

近江八幡市	活動名：八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：15人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [ 読み聞かせボランティア ]		

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学 校 地域学校協働活動推進員 行 政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
読み聞かせボランティアの運営について。

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
学校司書、地域コーディネーターとの連携した活動。  
行事や学習内容に合わせた特設コーナーの設置。  
季節や時期に応じた図書館内、図書館前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫。  
PTAによる学級文庫の蔵書充実のための支援・協力。  
図書ボランティアによる書架整理、学級文庫書架の製作。  
近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。



【 図書ボランティアによる掲示板 】

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
コロナ感染状況や読書ボランティアの参加人数を考慮し実施する学年、クラスを変えた。  
学校行事や授業での学習内容を把握し、教員、学校司書、地域学校協働活動推進員、ボランティアが連携し、特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行う。  
生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように配慮する。  
季節や時期に応じた図書室内、図書室前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫をする。

- 事業の成果  
図書館の雰囲気向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（POP）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。  
ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。  
図書館の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書館利用者が増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。  
地域の方に読み聞かせをしていただくことで、普段の朝読書とは異なる雰囲気を取り組むことができた。



【 読み聞かせボランティア 】

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、本事業として地域コーディネーターを配置されたことと、市から週2回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになった。しかしまだ定着とまでは至っていないため、事業の継続を望む。  
読み聞かせボランティアの募集

- その他（学校運営協議会との協働等）  
 ※開巻有益…読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

- コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域とともに子供を育てる地域学校協働本部事業

近江八幡市	活動名：八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・2度目となる学校運営協議会において、「地域が支える職場体験学習」というテーマで熟議を行った。協議会委員6名がそれぞれの経験から職場体験学習への思いを交流した。その後、5月時点で受け入れを表明している事業所の一覧を確認し、委員それぞれが新たに紹介可能な事業所の候補を挙げていき、そのリストを担当者に渡した。
- ・3度目の学校運営協議会において、将来の「西中の行事」について熟議を行った。



【 熟議による委員の思い 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算を活用し、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へ届けることを行っている。
- ・本校は地域行事への生徒の参加を積極的に推進している。今年度は生徒会本部や特別支援学級の生徒が地元の文化祭に参加した。その他にもボランティアとして募集された生徒が役員として運営に携わることも毎年行っている。
- ・地域学校協働活動推進員の働きかけ等で、学生ボランティアを積極的に登用することができている。今年度も地元の大学生4名が登録し、毎週大学の空き時間を利用して参加している。内容としては教員の職務や生徒の学習活動のサポート、質問教室への参加、がある。
- ・キャリア教育（職場体験学習）において、地域学校協働活動推進員を含む学校運営協議会委員が積極的に受け入れ事業所の新規開拓を行った。
- ・部活動において、ソフトテニスをはじめ数多くの部において、地域の方々からの支援を受けて活動する様子が見られた。



【 花いっぱい運動 ひまわり贈呈式 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・今年度はコロナ禍への対応として、職場の環境（机、収納棚の配置、整理整頓等）について推進員と積極的に改善に努めた。改善計画の策定にあたっては地域学校共同推進委員が積極的に参加し、換気や作業動線の面で職員室や特別教室の環境が良くなった。

### ■ 事業の成果

- ・保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。
- ・今年度も学区民の運動会が中止となかったが、様々な機会をとらえて生徒が地元で活躍する場を作っていただいている地域の方々（自治会、まちづくり協議会）には学校として心から感謝したい。全生徒というわけにはいかないが地域に帰って「認めてもらう」機会を持つ生徒が今後も増え続けるよう学校から働きかけていきたい。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校の教育活動に関心を寄せておられる方は、他の校区と比較しても多数存在する。しかしその存在を活かすには、「登録」等の手段で、常に連絡を取れる状態にしておく必要がある。
- ・生徒が地域で、または地域の方が学校で安心して活動するためにはやはり「保障」の問題もしっかり確認しておく必要がある。様々な制度が用いられているが、今後はよりよい環境になるよう内容を精査していきたい。
- ・この事業において、教職員が地域に出向いて活動することは当然必要となる。より活動の質を高めるためには、その時間帯は平日の昼間ではなく、勤務時間外の平日夜間、または休日である。振替等を用いて多くの教職員が地域とかかわれる時間を生み出すことが今後の課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・推進員が今年度より学校運営協議会の副会長として活動しておられるので、積極的に橋渡しを行っていただいている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ ）  
 報告書記入者（ ） 教頭（ ）

ふるさとに愛着と誇りを ～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～

近江八幡市	活動名：安土中学校地域学校協働本部	安土中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 学校の運営方針について
- ふるさと学習の推進について
- 服装や校則などについて
- 中学生の地域行事への参加について
- 生徒の学校生活等の様子や学校の課題について
- コロナ禍の学校行事の取組み方について
- 挨拶や通学マナーについて

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域と協働した環境整備活動

- ・環境ボランティアとPTAが協働で中庭の植木の剪定など、整備を行った。また、環境ボランティアと環境委員の生徒が協働でアジサイの剪定を行った。
- ・環境委員と安土学区少年補導委員で、パンジーの苗400株を学校のアプローチ道沿いに植え、環境整備を行った。



【 アジサイの剪定 】

(2) 総合的な学習の時間「ふるさと学習」で、地域の専門家と協働

- ・地域ボランティアによる講演やガイドを受けて、「安土城趾」「観音寺城趾」の地域学習、現地でのフィールドワークを行った。
- ・西の湖のヨシの学習において、地域の専門的な方から講演いただいた。
- ・中庭の茶室「天正庵」で、代表の生徒が地域の専門家から茶道の指導を受け、全教室に映像を配信して、茶道教室を実施した。



【 茶室での茶道教室 】

(3) 読み聞かせ、図書館ボランティア

- ・朝の会で、地域ボランティアによる読み聞かせを実施している。
- ・民生児童委員会を中心としたボランティアに昼休みの図書室開館を依頼し、毎日開館できている。多くの生徒が利用し、地域の方と接する機会にもなっている。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域の方による講演は、生徒人数を減らして複数回に分けて実施した。
- リスクの高い茶道などの活動は、リモートで視聴しながら各学級では茶道具を使ってシュミレーションする形で実施した。

■ 事業の成果

- 地域の方に得意分野を活かした活動内容（講演やガイド、環境整備や図書館ボランティア等）で参画いただき、教育活動を深めることができた。
- 中学生と地域の方との交流により、中学生を理解いただいて職場体験の受け入れなどでも協力いただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域ボランティアのスタッフを充実させるように図る。（地域への呼びかけ方の工夫など）
- 地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討し、双方にとってよりよい活動につなげる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校づくりに関して、生徒代表者数名と学校運営協議会委員との間で意見交流会を実施
- 安土中学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/azuchi-jh>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 志津のお宝発見！地域と作る私たちの学校

草津市	活動名：志津小学校地域協働合校	志津小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：200人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○総合的な学習の時間での支援に関わって、子ども達が地域に愛情をもち、将来地域のために活動できるようにどのような学習活動をプログラムしていけばよいか熟議し、志津のお宝は「自然」と「歴史」であることをもとに系統的な学習を仕組んでいこうと話し合った。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）3年総合的な学習の時間「志津のお宝発見」

3年生の社会科の発展学習で、志津学区の町探検をして地域の方々から自然や歴史について話を聞いた。伯母川を見に行き魚を調べたり、地域のお寺や学校にある城跡を見学して詳しく教えてもらったりした。参観日には、保護者グループごとに調べたことを発表し、地域に対する愛情をもつことができた。

#### （2）全校「けん玉一本勝負」とけん玉クラブ

毎月1回朝の時間に決められた技を一発勝負でどれだけの人ができるかを「けん玉一本勝負」と名付けて競っている。また、4年生以上はけん玉クラブもあり、地域の方にも教えてもらっている。技の上達だけでなく、子ども達の集中力や自己肯定感を高めるために行っている。また、地域の世代間交流にも長年寄与している。



【 志津のお宝発見 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○コロナ禍における対応として、リモートでのオンライン学習を実施した。見学や体験をするときは、一度に大勢が集まらないようにクラスごとに時間を分けたり、見学先を子ども達が選んで少人数で学習したりした。  
 ○活動後には、子ども達を書いたお礼状や感想文などを講師や地域ボランティアの方々に渡して、今後も支援や交流をお願いしている。

### ■ 事業の成果

○子ども達にとって、地域の人と関わり地域のことを学ぶ中で、地域に対する愛情も芽生えてきている。学習発表会を通して、志津の宝である「自然」や「歴史」を子ども達が意識して守っていこうとする態度が感じられた。



【 けん玉一本勝負 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○まだまだ十分ではないが、地域の課題に対して子ども達が提案や発信できるように総合的な学習の時間を3年から6年まで系統的に計画し、地域協働合校との取組と連携していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○各学年で作っているESDカレンダーとも関連を図り、地域協働合校の取組を活かしていく。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域の方と一緒に、学び育つ南っこ！！

草津市	活動名：志津南小学校地域協働合校	志津南小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：125人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・各学期の学校（児童）の様子
- ・SOSプロジェクトについて
- ・各学期の地域協働合校の取り組みについての紹介や協力依頼
- ・学校と地域との連携について意見交流

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 「りょうぶの道散策」（4年生）

「NPOシニア自然大学 京とおみ自然文化クラブ」の方々にご協力いただき、地域の方も加わって、自然豊かな「りょうぶの道」（若草緑地）の散策を行った。秋の木々や葉、実っている実や草花等について、その場で説明いただいた。



【 「りょうぶの道」の散策 】

#### (2) 「立命館大学との交流」（全校）

「立命館大学BKCD地域連携課」の方にご協力いただき、1年生から5年生は、学生の方々に小学校に来ていただき、ダンスや紙飛行機制作、プラネタリウム等を体験させていただいた。6年生は、大学キャンパスに行き、大学内の施設等の見学や体験学習をさせていただいた。



【 立命館大学との交流 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域コーディネーターや担当していただく地域の方々と、綿密な事前の打ち合わせを実施した。打ち合わせの際には、感染予防を意識し、マスクの着用や手指の消毒の徹底、そして、活動の際にも、同様の対応を大人も子どもも行った。

### ■ 事業の成果

「りょうぶの道散策」では、小学校区内にある自然豊かな道を歩きながら、専門の方々から秋の木々や落ち葉、草花等について直接説明を聞くことができたことは、児童の実体験として良い学習の場となった。

立命館大学との交流については、学年のニーズに合った内容で、年齢が近い学生の方々に教えていただいたり、触れ合ったりできたことは、児童が物事に興味を持つ良い経験の場となった。大学キャンパス見学も6年生児童にとっては有意義な時間となった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の方と学校との互いの思いや意図をしっかりと話し合いの中で確認して実践することが大切である。今後も、そのような事を意識し、互いにとって有意義な活動にしていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

年に4回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。そこで出された意見や助言等を参考にして次の活動に生かしている。

### ■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

**ふれあい 学び合い 心をひびかせる 草津っ子**

<b>草津市</b>	活動名： <b>草津小学校地域協働合校</b>	草津小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
------------	-------------------------	---

地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印	
開始年度：平成 27 年度	地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：120人
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等）	<input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援
<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り	<input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり
<input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）	<input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動
<input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習	<input type="checkbox"/> その他 [ ]

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
  - なでしこガーデンの整備について
  - 創立 150 年事業について
  - 稲作、さつまいも作り等について



【 1 年 さつまいもの収穫 】

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
  - (1) 「なでしこの花を育てよう」
 

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、なでしこの苗を植え、水やりや草引き作業等、日々世話をし、育てている。
  - (2) 「米づくり（5年）」 「花を育てよう（3年）」 「さつまいも作り（1年）」
 

第5学年の総合的な学習の時間では、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしており、草ひきなどの世話も児童と共に実施している。さつまいもづくりや花の植え替えも実施しており、例年だと、収穫後に「お米パーティー」や「さつまいもパーティー」を開催し、収穫したお米やさつまいもをともにいただきながら交流を深めている。今年度は、会食等の活動ができないため、学んだことの発表会に参加していただいたり、収穫した作物を持ち帰っていただいたりした。参加された地域の方々も児童の姿に感動され、交流の場を楽しみにされている。

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - 昨年度に引き続き、密を避けるために、学年ではなく学級単位での活動を基本にし、他者との距離をとることを意識して行った。マスクの着用、事前事後の手洗い消毒の指導も徹底した。
  - 事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺い、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取り組みになるように話し合った。
  - 活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。
  - 児童との交流がその時限りになるのではなく、感謝の気持ちを感想文やお礼状として渡すことで、ボランティアの方々のやりがいにつながるよう取り組んだ。

- 事業の成果
  - 何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。
  - 継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。
  - 関わりが深まることで、児童は、収穫の喜びとともに「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
  - 継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場を設定した。学校の各職員にもっと活動内容を伝えることで、よりよい関係を目指したい。
  - ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をしていただいているおかげで、学習は予定通りに進んでいる。「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性も感じている。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解を行うようにした。
  - ボランティアの方々の高齢化が目立ちはじめたこともあり、PTAや地域の方々への参加協力を得られるよう地域へ発信した。そのことで新しくボランティアとして参加された方もいた。
  - コロナ禍ということもあり、児童活動について制限するものがあった。見学や資料提示等で補った。

- その他（学校運営協議会との協働等）
  - 例年、年4回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年担当教員）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！

草津市	活動名：草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：103人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 ■その他（草津駅前商店街・草津川跡地公園（de愛ひろば））

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関する内容等）

地域と学校で連携しながら取り組み、子どもたちが地域社会とのつながりや、自分たちができることなどを考えていく機会になっている。学校評価の中で、保護者、児童ともに「あいさつをする」という項目の評価が低い傾向にあった。学校と地域が連携して、子どもたちが進んであいさつできるようにしていきたい。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【6年生 わたしたちができること～提案します草二小創立50周年、私たちの小さな一歩宣言～】

草津第二小学校区は、駅前まで今でこそ多くのマンションが立ち並んでいるが、駅前の商店街や街道の歴史が残る街並みである。

6年生では、一人ひとりが身の回りにある身近な問題を自分事として捉え、母校の創立50周年に向けて説得力のある「私たちにできること」の提案文を書き、地域の方に発信した。身の回りにある環境問題を取りあげ、具体的な事実や考えをもとに、「私たちにできること」を提案した。今年、草津第二小学校創立50周年の節目であり、保護者、地域の方などに広く発信した。校区内にあるショッピングセンターや駅、まちづくりセンターなどにも子どもたちの提言ポスターを掲示していただいた。また、学校のホームページにも掲載し、より広く環境問題について自分たちのメッセージを伝えることができた。



【 学区公共施設にて掲示 】

【2年生 すいせんの球根を植えよう～花いっぱい～】

かつて天井川であった旧草津川の跡地（de愛ひろば）東西約7キロが整備され、市民の憩いの場となっている。草津川跡地公園マネジメント・パートナーズの協力を得て、その広場に、2年生がすいせんの球根を植えた。子どもたちは、来年の春にすいせんのきれいな花が咲き、笑顔あふれる広場になることを楽しみにしている。



【de愛ひろばにてすいせん球根植え】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍も3年目を迎え、感染防止を十分とる中で、概ね学びを継続することができた。しかし、不特定多数の方と直接交流するような学習は避けた。6年生では、各施設にポスターを掲示したり、ホームページに動画をアップして啓発したりすることで自分たちの環境問題に対する提言をより多くの方に伝えた。

### ■ 事業の成果

自分たちの学びといろいろな「人」「もの」「こと」の関わりを通して、「地域」に親しみを持つことができた。自分たちが作成したポスターが掲示してある施設に家族と出かけて施設の人と交流したり、自分たちが植えた苗を見に行ったりするなど、子どもたちが地域の人々とのつながりをより深める機会になった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域協働合校コーディネーターから各場所の担当者へ連絡を取り、学習への協力の有無を確認した。コロナ禍ではあったが、快く引き受けてくださるところがほとんどだった。その後の連絡などは担当学年で行った。連絡先が多く打ち合わせなどの連絡も多かったため、地域コーディネーターとの役割分担の工夫を考え（今年度初の取り組みのため）、今後、調整がよりスムーズにできるようにしていく必要がある。地域協働合校のいろいろな取り組みを通して、子どもたちに地域社会との関わりや、自分ができることなどを考える機会にしていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

各学年、児童が体験し、感じ、考えて学ぶ機会を大切にしている。活動内容は、学校運営協議会や、学校ホームページや学年・学校だよりなどで保護者に知らせている。

### ■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（各学年担当）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

草津市	活動名 : 渋川小学校地域協働校	渋川小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：200人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ・地域の教育力を生かし、活力ある学校  
 学校運営協議会では、地域の方に地域協働に関わる学習の様子を紹介している。  
 また、地域の中で学習の内容に合った人材がいらっしゃるかという相談をしている。  
 1月の渋川ESDミュージアムは、地域の方にも見に来ていただけるよう発信をしている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
 ○ふるさとの人や自然、暮らし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働校事業を進めている。全校の学びの成果を展示物にまとめ、交流、発信「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」を開催し、保護者や地域の人々に発信している。  
 ○5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に滋賀の5つの食文化財を中心に郷土料理の魅力について考えた。学習では、琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食して味わった。また、日野町から和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えたと、家族と共に味わった。学習のまとめでは、新聞やプレゼンテーションソフトにまとめ発信した。



【 琵琶湖の漁師さんと湖魚 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
 味わうことで、味覚に残り、記憶に残る。このことを大事に体験を積み重ねてきた。コロナ禍では、みんなで調理をする活動に制限があったことから、子ども達による調理実習は、控え、ゲストの講師が調理実演を行い、子どもたちが少量を味見できるようにした。また、下学年の栽培活動でも、ゲストの調理がどうしてもかなわない時は、レシピと栽培した野菜を持ち帰った。

■ 事業の成果  
 本報告では、2事例であるが、すべての学年が地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。



【 琵琶湖真珠のお話 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかりと設定して見直しをもって取り組みたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）  
 人との出会いを通し、体験的な学習を実現させるために地域の方が学校に足を運びやすいように学習サポーター募集等の呼びかけをすることを協議。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）



## 地域の先生に学び、地域に誇りをもてる子に！

草津市	活動名：矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：6人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（矢倉サンヤレ踊りYプロジェクト、居住組）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

1年の焼き芋パーティーの招待状を子どもたちから受け取り、大変うれしかった。コロナ禍で地域との関わりが少なくなってきた中、いっしょに活動することで、子どもたちのコミュニケーション力が育まれるのではないかと。教師も積極的に関わるとよいとのご意見を伺った。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○「矢倉サンヤレ踊り」について知ろう（全学年 道徳）  
 「矢倉サンヤレおどり」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをお祝いして、サンヤレ踊りを伝承されている居住組さんに来ていただいて、踊りを見せていただいた。また、実際に「サンヤレ」という囃子詞を唱えたり、うちわをもって踊りを踊ってみたりしながら、地域の祭りについて知ることができた。



【 サンヤレ踊り 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

1部が1、2、3年生、2部が4、5、6年生に分かれて、分散して行った。踊りを体験する場面では、代表の児童2～3人が衣装を身につけたり、踊り手さんが打ち鳴らす楽器に合わせて、学年ごとにその場で踊ったりし、臨場感が味わえるように工夫した。

### ■ 事業の成果

今回初めて居住組さんの協力を得て、神事であるサンヤレ踊りを学校で見せていただいた。児童は実際に目の前でサンヤレ踊りを見ることで、地域に誇れるお祭りを受け継いでいきたいという思いを持つことができた。また、教師も地域の祭りについて知るよい機会になった。



【 踊りの体験 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

居住組さんは、これからはサンヤレ踊りをより多くの方に知ってもらい、広めることで地域の伝統を守ってほしいという思いを持っておられる。今回だけに終わらず、今後も続けていけるよう、コーディネーターが間に入り、スムーズに計画や実施ができるように努めたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会に、まちづくり協議会会長や、地域コーディネーターにも参画していただいている。地域協働合校の取り組みについても紹介し、よりよい活動になるよう助言などをいただいている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 手をつなぎ、心通わす 誘・融（融け合う）老上

草津市	活動名：老上小学校地域協働合校	老上小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：170人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 本校研究事業スクールESDに関する取組について（地域協働連携のあり方について）
- 各学年の取組とボランティア・地域の協力の今後について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○米や野菜の栽培・収穫

「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、子どもたちの農業体験を行っている。米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、感謝の気持ちが持てるようにめあてを設定し、学習を進めた。地域住民と協働する姿から世代間の交流も図られている。学校では、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係をつくることで、地域の活性化にもつながっている。

#### ○老上 花の輪プロジェクト

3年生が「老上 花の輪プロジェクト」の取り組みを行った。地域の方やゲストティーチャーのご指導のもと、学区や学校を花で彩り、児童の郷土愛の醸成とともに地域と学校が連携して地域のあり方を考え、行動する活動となっている。



【 草ふみ 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域コーディネーターや各学年の担当が連絡調整を行いプログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいもしっかりと伝えることで学校と地域の取り組みがつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置され、いつでも地域住民が確認できるようになっている。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、収穫した作物で一緒に調理したり、食したりする活動はできなかったが、児童が家庭へ持ち帰り、家族間で話題を共有しながら味わうことにしている。



【 タネダンゴづくり 】

### ■ 事業の成果

- 子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。
- 推進委員は世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、家庭内で地域の話が話題にのぼるなど、家庭教育的な役割も果たしている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 取り組みを充実させるため、入念な打ち合わせや準備が必要となる。今後も継続して取り組みを図っていくためにも、学校・地域双方の負担を軽減していくことが必要である。また、地域の方の高齢化も進んでいるため、新規の推進委員・ボランティアの確保も必要である。情報の発信や円滑な情報の共有のためにも地域コーディネーターの果たす役割がより必要不可欠である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校ホームページ <http://www.oikami-p.sk.ed.jp>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## やってみよう! 2022 ～地域とともに協同(協働)する学校～

草津市	活動名: 老上西小学校地域協働校	老上西小学校	学校運営協議会: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 75人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- 地域協働校の活動方針や実施した内容について
- 郷土に関する学びを深める学習について

### ■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

#### (1) 栽培体験活動

1年生のさつまいも、2年生の大根、5年生の米などの作物を、農業合校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。収穫した作物は、家に持ち帰り、収穫の喜びを感じることができた。



【 5年生 稲刈り 】

#### (2) 学習支援

5・6年生の家庭科の学習で、裁縫の学習支援をしていただいた。

担任の目が行き届きにくいところの支援をしていただいたおかげで、安全に配慮しながら、きめ細かい支援を行うことができ、子どもたちは、充実感を得ることができた。



【 4年生 サンヤレ踊り 】

#### (3) 読書活動の推進

図書ボランティアの方には、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献いただいている。

毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を使って読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせを大変楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

#### (4) 郷土学習

3年生の校区探検の際に、宮司さんや地域の歴史に詳しい方に、それぞれ現地でお話を聞かせていただいた。

下笠サンヤレ踊り保存会のみなさんに、草津市に伝統的に伝わるサンヤレ踊りについて、実演を交えながら教えていただいた。また、草津市教育委員会歴史文化財課の方から、草津市の歴史や文化に関するお話を聞かせていただいた。(4年生)

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- 年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成、配布し、保護者や地域の方に1年間の見通しを持てるようにしている。
- サポーターのみなさんには、検温や消毒をお願いし、感染症対策を徹底した。

### ■ 事業の成果

- 地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な学習を安全に実施することができた。
- 郷土について学ぶ取組を、3・4年生で新たに行うことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 感染症対策を実施しながらできそうな活動が定着しつつある。
- 郷土について学ぶ活動を、充実、発展させていきたい。

### ■ その他(学校運営協議会との協働等)

- 学校ホームページ <http://www.oikaminishi-p.sk-edu.jp/>

### ■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他( )

報告書記入者( 地域連携担当教職員 )

すきです玉川 わたしも参加 つくるよろこび

草津市	活動名：玉川小学校地域協働合校	玉川小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保・見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域行事への参加 □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ 地域関係団体 ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域協働合校による取組について、主に以下の2点について相談・検討し、活動の充実に努めた。

- ①どの取組においても、学年の子どもの実態に応じて毎年内容を検討し、柔軟に変更することを大切にすること。
- ②子どもたちが地域の課題解決に貢献できる取組の実施を目指し、それぞれの立場から様々な情報提供や、授業の補助を行うこと。  
学校運営協議会で相談・検討を行ったことにより、下記に紹介する新たな地域課題解決型学習に取り組むことができた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（守れ！地域の交通安全 ～交通安全ワッペン設置活動～）

玉川小学校区には、南草津駅や国道・バイパスなど自動車の交通量が多い道路の他に、自転車が行き来する小さな路地が入り乱れる住宅地が存在している。そのため、登下校時には地域・保護者の方々が立哨・見守りをしてくださっている。そんな中、「自分の安全は自分で守る」「地域のために自分にできることは何か」について、検討したところ、例年、自治会や交通安全協会が行う「交通安全ワッペン設置」活動に5年生児童が参画することとなった。まず、活動を行うにあたり、自治会長を招いて事前授業を行った。自治会長から、交通事故が起こらないための工夫や取組、安心・安心なまちづくりについての地域・保護者の思いを伝えていただき、子どもたちは活動への意欲・関心を高めることができた。その後、子どもたちは自分の住む地域の交通危険箇所を調べ、ワッペンが必要な場所や枚数を考えるとともに、設置場所ごとに20のグループに分かれ、それぞれ実施計画を作成した。設置当日は、保護者・地域関係者が各グループにつき添い、それぞれ設置場所に出かけ該当箇所での設置活動を行った。また、再度、交通安全上の期間箇所の確認を行い、危険箇所を地図に記録し、「安全マップ」として保存した。



【 自治会長による事前授業 】



【 交通安全ワッペン設置の様子 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

本活動で最も留意すべきことは、活動中の児童の安全確保であった。学区内の多方面に向き、それぞれの場所で活動を行うため、多くの大人による見守りが必要となる。そのため、各自治会をはじめ、交通安全協会、保護者、PTA本部・地域委員にも協力を依頼し、児童の安心・安全を確保するとともに、安全上の理由で活動が制限されることがないよう努めた。地域・保護者による協力体制が充実している玉川小学校ならではの活動であった。

■ 事業の成果

これまでの地域協働合校の取組の多くは、地域から提供いただいた活動に受け身的に参加することが主であった。今回、初めて地域の課題解決活動に主体的に取り組んだことで、子どもたちは「地域の方に支えられ生活している」ことや「自分も地域に貢献できる」ことに気づくことができた。これをきっかけに自分の住む地域や、自分に関わる人々への関心や愛着が高まることを願っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

本活動に限らず、これまでの取組を見つめ直し、児童が主体的に関わる地域課題解決型の内容にできる範囲で修正していくことが重要だと考えている。例年通りとせず、毎年、年間指導計画について検討する機会を確実に設けたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

引き続き、学校運営協議会の場で、取組について検討する時間を設け、新たな活動や発展的な活動に取り組んでいきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 報告書記入者（ 地域連携担当教職員 \_\_\_\_\_ ）

素敵な出会い みんなで創るまち 南笠東 ～大人も子どもも 共に地域で学びましょう～

草津市	活動名 : 南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約100人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ クラブ活動講師 ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・昨年度に引き続き、「みな小おうえんたい」の活動写真などを学校だよりや学校ホームページに掲載した。
- ・まちづくりセンターにも掲示することで、「みな小おうえんたい」の活動をより多くの方に知ってもらうようにする。
- ・「みな小おうえんたい」のボランティア人数のさらなる充実につなげていくこと。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・かけ算九九検定（2年）  
2年生が練習してきた九九を「みな小おうえんたい」のみなさんに聞いて頂いた。1度にたくさんの方にきいていただけたことで、一人ひとりが何度も挑戦することができた。子どもたちの中で、教師の他にも地域の方に聞いてもらったことで、より意欲的に取り組む姿が見られた。また、地域の方への親しみが増したと考えられる。
- ・家庭科エプロンづくりの支援  
5年生の家庭科「エプロンづくり」の学習支援に来ていただいた。たくさんの方にきていただき、一人ひとりにきめ細かな支援を行うことができた。
- ・学校周辺の道路のゴミ拾い（日赤さんといっしょに）  
ボランティア委員会の児童と「みな小おうえんたい」「日赤奉仕団」の方々と、学校周辺のゴミ拾い活動を行った。児童と地域の方が一緒に活動することで、郷土愛の育成にもつながった。



【 かけ算九九検定 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・屋外での活動（さつまいも植えや収穫、まちたんけん、狼川たんけん）も実施できているが、コロナ対策、熱中症対策の中での実施になった。天候によっては中止や延期をした。
- ・事業実施については、担当学年からの要望を地域連携担当者に伝えることで、活動内容の充実につなげた。



【 掲示板 】

■ 事業の成果

- ・校内掲示板を活用したことで、校内でも児童や保護者がいつでも活動内容を知ることができた。
- ・地域の方々が大変協力的で、子どもたちと関わることに喜びを感じてくださっている。もちろん、子どもたちにとっても大きな喜びとなり、地域で出会った際に、挨拶や交流している姿も見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・引き続き、学習支援を中心に実施を進めるとともに、ボランティア数の確保に努めたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会に、地域コーディネーターやまちづくりセンターの職員も参画していただいている。
- ・HPにて、活動を紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～

草津市	活動名 : 山田小学校地域協働校	山田小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度(地域協働校事業は平成 10 年度) 地域学校協働活動推進員等数：1 人 ボランティア登録数：70 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容  
 ・山田校区ならではの特色ある取り組みを継続して行っていく。  
 ・地域との関わりを深めるとともに、新たな人材の発掘を行っていく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) ニゴロブナ稚魚の放流【4年生】

山田漁業協同組合の皆さんの協力のもと、琵琶湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。今年度は、天候の影響で琵琶湖での放流はできなかったが、学校にて放流に関するお話を聞くことができた。学んだことを踏まえて、後日自分たちができることを提案・発表する場を設けることとなっている。この活動を琵琶湖の環境を考えるきっかけとし、5年生の琵琶湖環境学習につなげていく。



【 ニゴロブナ稚魚の放流(講話) 】

(2) 室戸台風殉難慰霊式

本校では、今から 88 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。例年、地域の方々にも参加していただき、被害にあわれた方の記録をもとに話を聞き、亡くなられた方々を追悼するため、全校で持ち寄った花を献花している。また、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌い自然の偉大さについて考えさせるきっかけとしている。



【 室戸台風殉難慰霊式(リモート) 】

ここ数年は、コロナ感染拡大防止のため、代表児童のみ体育館に集まり、他の児童については、教室からのリモートでの参加としている。

(3) その他

読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、地域の農家の方々からネギやアスパラガスについての講話等。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域との窓口を担任から、地域コーディネーターに移行していくことで、スムーズに調整が進み、より有意義な活動になるようにしている。
- ・今年度も、コロナ禍の対応として、全校児童で集まることは避け、リモートでの実施とした。また、学年を集める場合は、一人ひとりの間隔が開けられる体育館を使用するとともに、換気と手の消毒等を実施した。

■ 事業の成果

- ・校内の掲示板上に『地域協働校コーナー』を設け、各学年の取組について紹介することで、多くの子ども達が掲示板を見ている。また、「〇年になったらこんなことができる!」「この場所に行ってみたい。」と自分達が住む地域への関心も非常に高い。
- ・歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。アンケート等でも「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度も、コロナ禍において、高齢の方を学校に招いたり、行事に参加してもらったりすることが大変難しい状況であった。次年度についても、感染状況等をもとに十分に検討しながら進めていきたい。

■ その他

- ・学校運営協議会に地域コーディネーターと担当教諭も参画し、今年度から連絡調整を年間 4 回実施している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 その他（ ） 報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て

草津市	活動名 : 笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校運営基本方針 … 地域との連携に注力する。委員から「協力を惜しまない」旨の承認を得た。
- ・今年度の取組と課題 … インクルーシブ教育の推進。コロナや電子機器等の影響による体力の低下の懸念。家庭とも協力。
- ・地域の活力の活用 … 支援ボランティアの幅広い発掘。各団体の取り組みを知り、横断的なつながりを。地域課題を取り上げた学習の成果を地域でも掲示・発表して、地域も学ぶ手立てを。
- ・ボランティア … 学校のニーズとマッチングするような組織編成の工夫。



【 花の苗植え 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）栽培活動

中庭の「ふれあい花壇」では、環境美化委員会の児童がボランティアの協力を得ながら、季節の花の栽培活動を行うことができた。3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用の青花を栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染める体験もすることができ、地域の産業について理解を深めることができた。

#### （2）地域の人から学ぶ

2年生の生活科では、地域の商店等の協力を得て、それぞれのお店の工夫や思いを聞かせていただき、地域のお店に関心と親しみをもつことができた。地域の6年生の総合的な学習の時間では、学区の「ふるさと絵」から、伝統の「サンヤレ踊り」や「上笠天満宮」などに関心を持ち、フィールドワークで取材を行ったり、ゲストティーチャーを迎えて話をうかがったりしたうえで、自分たちでも調べ活動を行って地域について理解を深めることができた。特別支援学級の子どもたちは、学区の民生委員児童委員さんと製作活動を通して交流を行った。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備していただいたりと、積極的に関わっていただいた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・学習支援などにあたっては、年度や学期の初めに地域コーディネーターと打ち合わせを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。
- ・ゲストティーチャーによる講話については、リモート中継やタブレットPCの録画機能を活用し、対面での実施を回避した。

### ■ 事業の成果

- ・継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、読書や下校パトロール、授業支援などスムーズに活動できた。
- ・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・継続してボランティアに協力して下さる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。年間計画を見直す過程で、併せて必要となるボランティアについて整理していきたい。
- ・ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間をとることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように記録の方法を工夫していくことが必要である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

笠縫小学校ホームページ [www.kasanui-p.sk.ed.jp](http://www.kasanui-p.sk.ed.jp)

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子

草津市	活動名 : 笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：85人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本校独自の教育活動である「葉山川学習」（葉山川を基点とする環境学習）や「東っ子句会」を大事にして継続させ、支援していきたいとのこと。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

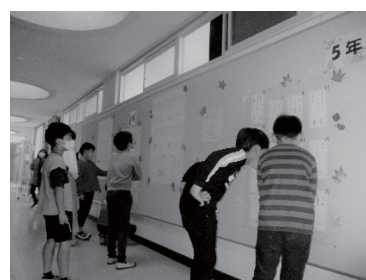
草津市は、俳諧の祖「山崎宗鑑」生誕の地であり「俳句のまち草津」としての取組を行っている。

本校でも、3年生以上のすべての児童が俳句を作ることにより言葉のセンスを磨き、季節や季節の移ろいを感じ、地域の自然や暮らし方の変化を敏感に感じ取る力を付けようと、長年に渡って俳句作りの取組をしてきた。

そして、それらの俳句を掲示し、子ども達とすべての教職員そして地域の方々がよいと思う俳句に票を投じて優秀句を決める「東っ子句会」を行っている。

3年生以上の子どもたちは1票を持ち、3年生と4年生・5年生と6年生が相互に投票する。学校の教職員と地域の方は4票を持ち、各学年に1票ずつを入れる。

投票期間が終われば、地域学校協働活動推進員が開票し集計をして、学年ごとに3つの優秀句が決まる。結果が出るのを誰もが心待ちにし、今や「東っ子句会」は本校になくはならない教育活動として定着している。



【 俳句を選ぶ子どもたち 】

「虫にがす ここでいいかと 聞いてみる」（3年生） 「風ふけば きんもくせいが 空をとぶ」（4年生）  
 「新学年 『いま何階よ』 『あと2階』」（5年生） 「あぜ道の 赤いじゅうたん 彼岸花」（6年生）  
 （令和4年度 「東っ子句会」優秀句より）

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

以前は、学区の「地域ふれあい東まつり」に参加した多くの地域住民が「東っ子句会」に投票してくださっていた。しかし、そんな大規模な学区の行事ができないコロナ禍においても、なんとかこの取組は継続したいと考え、子ども達が様々な学習でお世話になっている支援者のみなさん、民生委員児童委員さん、まちづくりセンターの方たち、スクールガードの方々に、案内を出したり声をかけたりして、投票のために来校してもらう努力をしている。

### ■ 事業の成果

学校の中だけでなく、地域の方々の評価も反映されるので、優秀句に選ばれた児童は誇らしげに賞状を持ち帰る。地域の方も「どれも素晴らしい」と悩みながらも一つを選んでくださる。「この取組もすっかり定着しましたね。」と投票に来た地域の方が声をかけてくださるまでになった。

また、開票の結果は、子どもや教職員だけでなく、地域の方々にとっても気になる関心事であり「今年はどれが選ばれたのか。」と尋ねられるほどである。学校だよりやまちづくりセンターの通信にも結果が掲載されている。



【 投票に来た地域の方と 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナ禍でも、徐々に地域の人々と直接ふれあう学習活動を再開しつつあるが、学習支援者の高齢化が大きな問題である。新しい支援者の開拓と活動そのものの再構築をすることが求められる。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（該当学年教員）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）



## ふるさと常盤から豊かな生き方を学ぼう

草津市	活動名：常盤小学校地域協働合校	常盤小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：約300人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 地域コーディネーターの複数体制について
- 地域の協力体制のお願い 今までの地域学習を継続させるために地域の方の高齢化が問題である。他に協力していただける方はいないかという相談

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ❖「もっとしりたい たんけんたい」（2年生）  
常盤小学区にある公共施設（まちづくりセンター・郵便局・派出所）や、お店（いとや・ケーキ屋・コンビニエンスストア）に行き見学したり、そこで働く人と話をしたりする中で「常盤の素敵」を見つける。地域の方は、たいへん協力的で、子どもたちの「知りたい」という気持ちを第一に店内や施設内を時間の許す限り見せてくださったり、働く上で大切にしておられる気持ちの部分も丁寧に話してくださったりする。子どもたちの用意した質問にも、2年生にわかりやすく説明してくださったおかげで、タブレットPCで写真をつなげて、クラス内で紹介するだけでなく、老上小学校の2年生とオンラインで紹介しあうことができた。草津市内でも少し距離が離れている校区の様子を教室にいながら、簡単に知ることができたのはたいへんよかった。



【 見学・質問の様子 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 必ずマスクを着用し、密にならないように、今まで室内で聞いていた話を外で伺ったり、教室から体育館などの広い部屋を活用したりして、友達との距離をとって活動をした。出かける際には、消毒液を持参し、手指消毒もまめにおこなった。



【 老上小学校とのオンライン交流 】

### ■ 事業の成果

- 事前に地域コーディネーターと担任、学校担当で地域の方々「ふるさと常盤」を愛する気持ちや、後世に伝えていきたいという思いが子どもに伝わるように、目の前の子どもに何を学ばせることが必要か相談してきた。
- 校区だけにとどまらず、他校との交流を通して他校の地域の様子を知ったり、比べたりする中で、「ふるさと常盤」に対する思いがさらに深くなった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域コーディネーターの交代、各事業でお世話になっているボランティアの方々の高齢化による世代交代が「今まで通り」とは行かなかったことや、教職員の人数が少ない上にコロナ禍における予測不能なことの対応に追われ、じっくり計画することができない後半であった。しかし、地域コーディネーターの方をはじめ、地域の方の協力的な姿、学校運営協議会の方々の支えがあったからこそ、計画していた地域学習を大幅に縮小することなくできたことは、感謝の一言に尽きる。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 毎回、学校運営協議会で進捗状況を報告して、各委員から相談、助言等を得ている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参加できる社会づくり

草津市	活動名：松原中学校地域協働合校	松原中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：210人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 学校の運営方針について
- 校内研究を含めた生徒の学力向上について
- 地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- スクールESDくさつ推進事業に係る地域人材と学校をつなぎ、継続した活動にするための手段・方法について
- 学生服・制服改定について



【 畑作業 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 畑作業  
地元農家の方の指導のもと、畑作りをはじめとした農業、体験活動を行った。
- 部活動支援員による部活動指導  
地域の方の専門的な知識や技術力を活用し、生徒の競技力向上にむけた活動を行った。
- 図書室ボランティア  
生徒が本に親しみを持てるよう、ビブリオバトルの開催や書架の整理など工夫を凝らした活動を行った。
- 環境整備作業  
生徒とPTAが協力して学校の環境を整備するための活動を行った。
- コミュニティ教室（2月の実施）  
キャリア教育の一環として、1年生を対象に地域の方から「働くことの意義」や「やりがい」について講話をしていただく予定である。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 感染リスクを回避するため、密を避け、マスクの着用や手指消毒などに努めた。
- 地元の農作物を使った料理や食べ方などを知る機会として、総合的な学習の時間で調理実習を行う予定だったが、コロナ禍のため実施することができなかった。

### ■ 事業の成果

- 教職員では満たせない「専門的な知識」、「多くの目で細やかにみること」、「安心安全面のサポート」などにより、生徒の学習や体験の充実を図ることができた。
- 地域関係者やボランティアの方々とのふれあいにより、生徒たちにとって温かいつながりをもつことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域関係機関との連携を通じて、地域ボランティアの充実を図る。
- 地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討していく。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校運営協議会における熟議を通じて、地域課題解決型学習に向けたアイデアを出していただいております。地域人材活用に係るパイプ役を担っていただいている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

～地域と学校がともに子どもを育てる「おらが学校」をめざして～ 栗中サポーターズクラブ

栗東市	活動名：栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 19 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：38人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

安全で落ち着いた学習環境の支援

- ・学習環境支援…三者懇談会期間中の立番・駐輪場の見守り支援 玄関前生け花支援 家庭部と合同で地域の方からいただいた中古タオルの雑巾づくり支援
- ・学校行事支援…1年県内班別自主研修出発時の手原駅周辺での見守り支援 入学式・卒業式での体育館生け花支援
- ・環境整備支援…中庭・グラウンド草刈り支援 樹木の伐採 自習コーナー本棚制作
- ・図書室支援…消毒作業 本棚の整理 新書納入にかかる作業の支援
- ・通学時のマナーアップ…近隣の交差点や学校付近の交差点での立番



【 1年県内自主研修 手原駅周辺の見守り 】

豊かな心の醸成

- ・栗中コミュニティガーデンでのエコロジー委員と季節の野菜作り支援
- ・聾話学校と本校それぞれが育てた野菜の合同販売会の実施(地元民生委員さんの協力を得て 聾話学校高等部販売接客5名参加) 生徒たちの活動を取り入れる 生徒会執行部…チラシ作り 家庭部…販売する野菜のレシピ制作 美術部…門に貼る看板制作
- ・部活動参加の生徒と近隣地域のごみ拾い清掃「みんなの生活向上部活隊」支援
- ・部活動支援…家庭部浴衣着付け教室支援 家庭部員と一緒に雑巾作り支援



【 聾話学校と合同野菜販売会 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・サポーターさんの中には高齢の方もおられるため、活動場所を教室棟から離し特別棟や校舎外での活動を中心とした。
- ・毎月、通信でサポーターさんの活動の様子を保護者や地域の方にお伝えするとともに、地域の役員さんには、校区内コミュニティセンターを通じて通信が渡るよう工夫した。

■ 事業の成果

- ・コロナ禍によりPTA環境整備作業ができなくなり、サポーターさんがかなりの頻度で草刈り支援をしてくださった。
- ・近隣の聾話学校高等部さんと、民生委員さんのご縁で、お互いの学校で育てた野菜を、サポーターさんの強力なご支援のもと、地域の方に販売することができた。本校生徒は事前の取り組みに、聾話学校生は当日に参加、地域の方に購入していただき、両校や地域の交流の場となった。収益で自習コーナーに置く本を購入、生徒も気軽に本を手に取り活用できている。自習コーナーの本棚は、サポーターさんが作ってくださった。
- ・苗植えや収穫の際、生徒たちは楽しそうに取り組んでいた。
- ・コロナ禍での雑巾作りは、校舎内をきれいにするために役立っている。また、地域の方が中古タオルを届けてくださることがあり良い意味で学校に関心を持ってもらえるきっかけとなっている。
- ・県内自主研修の駅周辺支援では、車の往来が激しい箇所での立番や、電車に乗る機会が少なくなり戸惑う生徒への支援ができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の役職を兼ねておられる方も多く、視野が広く素晴らしい知恵と技量を備えておられる。しかし、立ち上げから14年が経ち、高齢化により力仕事の加減、混雑する時間帯での車の来校など配慮すべきことが増えてきた。今年度は、保護者サポーターさんなど5名の方が新たに加入、今後への展望が持てるようになった。子育てや仕事への配慮など無理のない計画をする。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・会長をはじめ数名の方が学校協議会のメンバーとしても学校に参画していただき、しっかり連携できている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域担当職員 その他（生徒指導主事）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

心を合わせて子どもをはぐくむ 伴谷小CS ～ わくわく のびのび ばんだにっ子 ～

甲賀市	活動名：伴谷小学校地域学校協働本部	伴谷小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：11人 ボランティア登録数：15人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他（伴谷自治振興会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- （1）学校、保護者、地域が連携し、子どもたちが心豊かに成長できるかを考えて、一丸となって取り組んでいく。
- （2）地域の人的資源を最大限、学校教育に活かし、学校教育の充実だけでなく、地域に生きる子どもたちを育てていく。
- （3）地域との連携を増やし、子どもたちが地域の行事などに積極的に出かけ、学んでいける環境づくりに取り組んでいく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

初めてCSを実施したことであり、日々の学習支援を中心に活動を開始した。

- （1）学習支援（算数科・家庭科・体育科・総合的な学習）  
今年度は、学習支援を具体的にいただいた。算数科での九九の定着を図るために、子どもたちが暗唱した九九を、しっかり言うことができるか、家庭科のミシン学習の補助、運針の支援、体育科の計測など、学習に必要な支援をいただいた。
- （2）環境支援（プール掃除・畑づくり・学校の環境整備）  
プール掃除や畑の耕運、学校周辺の環境整備をしていただき、子どもたちの校舎や周辺が学習・生活しやすいように、清掃、整備をしていただいた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・支援のスケジュール調整を地域コーディネーターと学校の地域連携担当教員が綿密に打ち合わせ、スムーズに進むように工夫している。
- ・コロナ対策として、三密をさけ、子どもたちに関わってもらえるよう、基本的な感染対策をしっかりとしている。



【 環境整備・畑の耕運 】

■ 事業の成果

- ・学習支援が充実してきており、具体的な学習指導において、きめ細やかな指導が可能となり、子どもたちの学習理解や定着がすすみ、充実した授業になっている。
- ・子どもたちは、地域の方が学習支援などで活動の様子を見てみると、意欲がわき、一緒になって取り組むことができ、活動そのものが活性化された。



【 おりがみ教室 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域での理解を進め、地域が学校支援を進める機運を醸成していきたい。また、積極的に地域と連携できるように進めていきたい。
- ・保護者の方は、普段、なかなか学校支援にかかわる機会が少ないので、さらに関わってもらえるように、周知、啓発を続ける必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会と連携をしているが、今後どのように広げ深めていくのか、地域に根ざす協働活動ができるように進めたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（                      教頭                      ）

## 水小に出かけよう！ふれ合おう

甲賀市	活動名：水口小学校地域学校協働本部	水口小学校	学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：8人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・これまでの支援団体の活動整理、団体間ネットワークの構築
- ・学校に必要な支援の整理
- ・予算案の検討

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ボランティアや自主的な活動にお任せしていた子供の登下校見守り活動を、「スクールガード連絡会」として組織化した。校区のマップを活用して、現在の活動場所を把握。危険箇所等の情報交換をしながら、より効果的な取り組みにしようとして協議した。
- ・夏に行われた毎年恒例のPTA主催による運動場の草引き作業。終了後まだ草が残っている現状を見て、地域学校協働本部主催にて「愛校作業Ⅱ」の実施を決定。三週間後の実施に向けて地域への広報・協力団体への連絡・役割分担などの調整などに入る。当日は100人以上の地域の方が集まり、トラックで土を入れたり、運動場以外にも整備が進んだりと大がかりなものとなった。



【スクールガード連絡会】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

基本的な感染対策の徹底を呼び掛けた。協力してくださる地域の方々の中には高齢の方もおられるので、検温・消毒・会場の換気などには可能な限り配慮している。

### ■ 事業の成果

愛校作業Ⅱについては、その取組の成果が見えやすいこともあって、地域協働本部の取組を保護者や児童に周知できる良い機会となった。運動会前には児童がお礼のメッセージを書いたので、それを寄せ書きにしてCS室に掲示したり広報誌上に掲載したりすることで、双方向のメッセージのやり取りが実現できた。



【地域の皆さんによる「愛校作業Ⅱ」】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

課題は「年間計画等見通しを持った活動」と「予算」である。

本年度は様々な活動に対するボランティア募集をその都度行った。募集時期の短さや周知の難しさもあり、参加者の確保がままならなかった。次年度は年間を通した活動を整理し、余裕を持ったボランティア募集を行いたい。予算についても同様であり、年間の計画の見通しが立てば、計画的かつ効率的に予算執行が望める。

今後、学校で行っていた行事に地域が参加する（合同防災訓練等）、地域で行っていた活動に児童が参加する（敬老会や公民館活動等）ことも含め、地域の方々と児童がふれ合う機会をさらに増やしていきたい。地域の方々ととのふれ合いの頻度を上げることが、今年度及び来年度のテーマである。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

本年度は、定例の学校運営協議会に地域協働本部役員4名が参加し、その連携を図った。立ち上げの本年度としては、両組織の役割や違いを認識するのに効果的であった。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ ） 校長（ ）

## はじめよう やってみよう（「スマイルプロジェクト」を地域とともに）

甲賀市	活動名：貴生川小学校地域学校協働本部	貴生川小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成4年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：39人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]						

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・前年度の学校評価で子どもたちのあいさつがしっかりとできていないとの結果から、本年度は「スマイルプロジェクト」と名付け、あいさつ運動に取り組むこととした。
- ・協議会の中では子どもたちだけでなく、PTAや地域も一緒に取り組む必要があるとの意見が出され、区長会や自治振興会とも連携して取り組むこととなった。地域と学校が共同でのぼり旗を作成し地域に掲げることで意識付けを図った。
- ・子どもの自己評価は向上しているが、保護者・教職員の評価はあまり変化が見られず、今後、具体的に目に見える取組みが必要である。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・飯道山登山（6年生）、庚申山登山（4年生）  
ふるさとを知り、ふるさに愛着を持つことを目的に地元の登山を行っている。飯道山登山は本校の伝統行事であるが、昨年度より庚申山を加え、子どもの体力づくりや仲間づくりにも生かしている。
- ・「夕やけ教室」（毎週水曜日放課後）  
子どもたちの学習習慣の確立と居場所づくりを目的に3、4年生の希望者対象に放課後教室を行っている。本年度5年目を迎え、民生児童委員やボランティアの方々で運営を行っている。また、月に1回体験活動でスポーツや作品作りも行っている。



【 飯道山登山 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ゲストティーチャーやボランティア参加者との打合せや振り返りを推進員が中心となり、しっかり行っている。教職員の意見やゲストティーチャー、ボランティアの思いを交流させながら、より効果的な活動を目指している。特に子どもが「お客さん」にならないよう事前学習を十分行い、子どもの自主性が生かせるようボランティアの役割を明確にして活動を行うよう心がけている。
- ・コロナ対策を十分に行ったうえで、できる限り活動を中止しないようにしている。



【 夕やけ教室 】

### ■ 事業の成果

- ・事業に対するねらいや取り組みを推進員と担当者が丁寧に打合せして、地域の方々に伝えることで、学校と地域の思いを生かし、子どもたちへの効果的な学習につなげている。推進員が地域に出向き、地域人材を発掘し、学校に情報を提供することで、取組みに広がりを持たせたり、深めたりすることができ、教職員の働き方改革にもつながっている。
- ・協働本部を組織する各種団体が子どもにかかわる活動を交流することで、それぞれがバラバラに行ってきた活動が学校運営協議会との連携や協働できる道が探られている。
- ・推進員が担当者と一緒に企画立案することで、ゲストティーチャーを依頼したり、ボランティアを募集したりしやすくなっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・多くの活動でボランティアに頼っているが、特定の人がか数多くの活動にかかわったり、人数が増えていかなかったりする現状がある。公式LINEを活用し、活動を広げていくことで、ボランティアの拡大に努めたい。また、PTAが組織としてどうかわっていくのかも課題である。まだまだ学校運営協議会の活動が広く認識されていない現状もあり、今後、保護者、住民への広報活動が重要となる。紙面だけでなくホームページやSNSの活用も進めていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・コロナ禍でPTAや地域の活動が少なくなってしまう。子どもたちのふれあいの場を復活するため、学校運営協議会や協働本部がPTAを支援することで事業の復活を進めていこうと考えている。
- ・地域で行われるイベントに、クラブや委員会活動を通じて子どもたちが参画できるよう、推進員や地域連携担当教職員が区や自治振興会と連携を図りながら進めていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

地域の力を学校へ！ 学校の力を地域へ！ 一笑懸命 取り組もう！

甲賀市	活動名 : 土山小学校地域学校協働本部	土山小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度 : 令和4年度 地域学校協働活動推進員等数 : 2人 ボランティア登録数 : 10人 <input type="checkbox"/> 学習支援 (授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ( )

■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

東海道五十三次の 49 番目の宿場である土山宿の街道を校区としていることや、甲賀市初の統合校であることなど、本校ならではの郷土学習「土山学」にかかわる活動の具体。

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

①東海道持久走大会

コースの大半に街道を使わせていただいて持久走大会を行った。地域学校協働本部から巡視員として、2名の協力を得た。この冬一番の冷え込みだったが、多くの地域住民の方々の応援を受けた。



【 東海道持久走大会 】

②信楽焼とのコラボ企画～世界に一つのマイお箸置き～

地域企業 (土山ハイウェイサービス) の協力を受け、お箸置きの絵付け体験を行った。信楽くろみ作業所で焼成していただき、できあがった作品は、児童が1人2個ずつ家庭に持ち帰って家族と一緒に使っている他、学校に来られたお客様へのお土産としてお渡しして喜ばれている。

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ①東海道は地域の皆さんの生活道路でもあるため、早い時期から地域の皆さんへの説明とお願いを丁寧に行った。
- ②学校日より「土っ子」に記事として取り上げ、地域の企業の学校への協力のありがたさをアナウンスするなどした。

■ 事業の成果

- ①当日は、たいそう冷え込んだが、寒い中、地域住民の方々がお住まいの前で応援してくださった。前日に街道で本校職員が準備をしていると、「楽しみにしているよ。」「いよいよ明日やな。」など、お声掛けをいただいた。小学生のお子さんがおられない世帯の方にも小学校の行事を楽しみにしていただけた。
- ②甲賀市内の企業の協力 (地域の力) を学校にいただき、形に残るよい取組となった。



【 絵付けを施したお箸置き 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①②ともに、地域とのかかわりを深く持つことができた取組となったが、毎年継続させるだけではなく、発展させることも考えていく。また、地域企業に学校が協力していただくのみならず、「双方よし」の関係をめざしたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会と地域学校協働本部の委員さんは、一部兼任していただいている。両方のことをよくお分かりいただいでいて、連絡調整が円滑に行えている。

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ( 事務職員 )

報告書記入者 ( 校長 )

★ 心豊かでたくましい実践力のある中主っ子 ★ つながる・ひろがる・かがやく!

野洲市	活動名 : 中主小学校地域学校協働本部	中主小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：52人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			



■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 学習支援

- ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の学習支援  
（中主のすてき発見学習、福祉学習ゲスト、田植え稲刈り体験学習支援等）
- ・環境学習支援  
（村田製作所とひまわりプロジェクト、ヨシの苗植えとびわ湖への植え替え支援等）
- ・学習補充における支援（算数のびこタイム）
- ・読み語りボランティアによる読み聞かせ

(2) 学校行事支援

- ・学校外で実施した運動会支援（準備や後片付け、登下校引率や見守り、駐車場誘導等）

(3) 環境整備

- ・校内の除草作業や樹木の伐採等
- ・読書ボランティアによる読書環境づくり  
（掲示物、本の整頓や修繕、しおりづくり支援等）

(4) 見守り&寄り添い活動

- ・登下校の引率や見守り支援 ・愛の声かけ運動



【みてみて！聞いて聞いて！中主のすてき】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- (1) 感染拡大防止のため、例年実施の活動の見直し  
（近距離で行うミシンや手縫い、調理実習等の家庭科学習支援は今年度は見送り）
- (2) 感染対策を十分考えた上で実施する活動  
（距離感や換気などの感染対策を徹底して、保護者や地域の方を招く学習等）



【花いっぱいになあれ！ひまわりプロジェクト】

■ 事業の成果

- ・学校の教職員だけでは満たせない「専門的な立場での関わり」や「たくさんの目できめ細やかにみること」、「安心安全面でのサポート」等により、児童の学習の充実とともに、不安感を減らし安心して学校生活を送れる環境づくりを支えていただいた。
- ・地域ボランティアの方との触れ合いにより、その人柄にも触れ、温かい繋がりができた。
- ・単元の学習の出口を見据え、[地域や保護者の方と事前打合せ→まちたんけんサポート→活動の振り返り→目的意識と相手意識をもってまとめ&表現活動→発表会]といった一連の流れを仕組み、児童の主体的協働的な活動に進化させることができた。
- ・学校、家庭、地域や関係機関が一体となり、学校行事をすすめることができた。学校だけではできないことに快くご協力いただき、教職員の負担軽減にも繋がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域協働活動推進員と地域連携担当教員が連携し、主旨の確認、年間の活動の見通し、次年度のシステムを確認しておくようにし、有効活用ができるようにする。
- ・優しく丁寧に関わってくださっている地域の方々への感謝の気持ちを常にもち表現できる児童、郷土愛の育成を図る。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

次年度から始まるコミュニティスクール実現に向けた準備会を実施。地域と学校でどのような子どもを育てていくのか具体的な話し合いを進め、目標とビジョンを共有し、子どもを育てる当事者としてPDCAを進める主体的組織づくりを行っていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）  
報告書記入者（ ） 教頭（ ）



## しのこの豊かな心を育てるための活動～応援から協働へ～

野洲市	活動名： 篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：登録なし ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校運営協議会は設置されていないが、準備委員会で次の点について話し合った。「コミュニティースクールの目的は何か」「子どもたちにどのような力をつけてほしいか」「そのためどのような考え方や活動が必要か」
- ・準備委員会や学校運営協議会で話し合ったことをどのように学校の教職員や地域住民に伝えていくか。
- ・教職員がコミュニティースクールを理解し、教育活動に落とし込んでいくための具体的なプロセスと方法。
- ・これまでの学校応援団の活動をどのように整理し、地域学校協働活動に移行していくのか。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校応援団から継続している読書活動推進の取り組みでは、引き続き週1回の読み聞かせと月1回の図書整理を実施。図書整理と読み聞かせの両チームでミーティングを実施し活動目的と計画を話し合った。また、毎週水曜日にある長い昼休み時間を利用して、「しのっこサロン」を開催。テーマを決めて子どもたちが楽しめる一つの居場所づくりに挑戦した。第1回は「生きもの」をテーマにDVD視聴や読み聞かせ、図書館の生きもの辞典や図鑑などを紹介した。
- ・図書整理ボランティアさんが有識者であることから、他校のボランティアや行政関係者とも交流し、篠原小学校の図書室への想いや考え方を共有した。
- ・12月末に教職員と地域住民で篠原の地域を学ぶ研修会を実施した。



【 し の こ サ ロ ン の さ ま じ ゃ り 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ミーティングは極力少人数で実施。
- ・換気や消毒の徹底。
- ・コロナの感染状況を見つつ活動の時期を調整した。

### ■ 事業の成果

- ・保護者ボランティアがいろいろな想いや考えを出し合い、それをカタチにすることで、子どもたちへの関心や活動への意欲が高まった。
- ・新しく取り組んだ「しのっこサロン」では、子どもたちの興味をひく様々なアイデアが出た。市立図書館の協力を得て図鑑や辞典、絵本を紹介した際、興味を持った本を図書館で借りたいと思った時に困らないよう、本の情報カードを配置するなど、サロン終了後のことにも考えを広げた取り組みができた。
- ・教職員と地域住民が、互いに地域を知り学校を知ることによって、これからの篠原の子どもたちに何を伝えていくか、ベクトルを合わせる第一歩となった。



【 地 域 を 学 ぶ 研 修 会 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・読書活動推進ボランティア以外の活動をどのように進めていくか。新しい人材の発掘が必要である。
- ・仕事を持つ保護者やシルバー世代にも気軽に活動してもらえるよう、広報活動などでボランティアの魅力を発信していく。
- ・教職員と地域住民の学び合いを継続し、本校ならではの取り組み方を見つけていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員 ）

## 祇王の子どもを地域ぐるみで育てる取り組み

野洲市	活動名：祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

令和5年1月26日（木）に学校運営協議会準備委員会を開催する予定

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ①児童クラブ活動（グラウンドゴルフクラブ、昔遊びクラブ）へのボランティア派遣
- ②5年生家庭科（手縫い、ミシン）ボランティアの派遣
- ③5年「ほほえみ祇王米」圃場提供、田植え・稲刈りの指導
- ④スクール農園の草刈り・畑の耕し

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・体調がすぐれないときは、遠慮なく休んでいただく。
- ・マスク着用で来校していただく。
- ・一緒に活動に参加していただき、児童の手本となっていただく。



【 ミシンの使い方を教わる 】

### ■ 事業の成果

児童と一緒に活動していただいたことで、児童もボランティアで来ていただいた方も、ともに楽しんで和やかに活動することができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

人材の確保と日程調整が難しいので、早めに学校の予定を地域学校協働活動推進員に知らせる。



【 稲を刈った後の束ね方を教わる 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会準備委員会を経て、本格的に学校運営協議会が始動するにあたり、連絡を密に取り合いながら話し合いの日程を調整していく。

そして、協議会の中で学校、コーディネーター、学校外部の委員とで、きちんと意見を整理しながら熟議ができるようにしていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（            教頭            ）

「地域を大切に！3UP（やさしく、かしこく、たくましく）」＜三上っ子応援団の取組＞

野洲市	活動名：三上小学校地域学校協働本部	三上小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：個人登録40人 SG登録143人 同窓会役員登録12人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
 ■学校 ■地域学校協働活動推進員 □行政 ■その他（本部内の各団体：同窓会）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 天保義民の生き方に学ぶ（6年）

6年生は、総合的な学習の時間に、郷土の偉人「土川平兵衛」や天保義民の生き方について学んでいる。読本「郷土の偉人」を用いて事前学習を行い、地域ボランティアを講師に招いて10月18日（月）にはフィールドワークを行い深く学ぶことができた。

毎年10月15日に行われる天保義民祭への参列はここ3年とりやめているが、次年度は参加の予定で、一層、理解が深まると楽しみにしている。

子どもたちは土川平兵衛の生き方や義民の心を学び、日々の生活や将来に生かしてくれると信じている。



【 天保義民フィールドワーク 】

(2) 瓢箪の栽培と作品制作（4年）

5月16日（月）、学校応援団のボランティア2名の指導で瓢箪苗の植え付けを体験した。苗を植え、その周辺に溝をつくり、その溝に水を流す。その後、水やりや雑草を抜いて成長を見守った。応援団の方は事前の土づくり、苗植え後の見回りや支柱を立てるなどお世話になった。9月には瓢箪を収穫し、穴を空け水につけていただいた。1か月後、10月19日（水）、腐った種を抜いて乾燥させた。絵付けをし、地域の祭りに出品。この体験で、瓢箪の歴史を学び、育て、地域行事に参加することができた。



【 ひょうたんの種抜き作業 】

(3) その他、特徴的な活動

- ①郷土学習（2年）「まち探検」でのフィールドワーク ②稲作体験（5年）  
 ③地域の工場見学（5年） ④マラソン大会でコースの各ポイントの見守り  
 ⑤左義長体験（6年の組み立て参加と全校での体験） ⑥三上山登山 など

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ①3～6年生で行っている三上山登山は出発の時間に差をつけて密にならないようにした。  
 ②感染が厳しい状況下でも行事の取り止めはせず、低中高学年のローテーションなど工夫して実施した。

■ 事業の成果

- ①学校目標の3UP（やさしさUP、かしこさUP、たくましさUP）の実現に向け、豊かな地域人材を活用することができた。  
 ②子どもたちは、郷土（三上）の自然や人々、文化のよさや素晴らしさを学ぶことができた。また、新しく地域の工場見学などを行い、地域とのつながりが一層広がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ①学校教育目標の実現をめざして地域・家庭との連携で行う「3UP運動」を、本事業の柱（テーマ）に位置づけて進める。  
 ②地域学校協働本部のもとに様々な地域の諸団体と連携を図るとともに、学校による企画だけでなく地域等による企画も進めていく中で、子どもが地域行事等に参画する場や機会をつくる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校応援団の会長やコーディネーター、コミュニティーセンター等の協力を経て、学校運営協議会の設置に向けた準備委員会を立ち上げており、次年度からコミュニティー・スクールに移行する。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 □地域連携担当教員 □その他（ ）

報告書記入者（ 校長 ）

「できる時に・できる範囲で」温かい学校支援を！

野洲市	活動名：野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要			
開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人			
■学習支援（授業補助、学力補充等）		■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	
■子どもの安全確保、見守り		■学校周環境整備	
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□学びによるまちづくり	
■郷土学習		□ボランティア・体験活動	
□その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働活動で取り組んできたこれまでのノウハウ（各種サポート事業）を、次年度からの学校運営協議会にも積極的に取り入れ、これまでの取組が継続できるようにする。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校からの依頼支援は、コーディネーターが支援ごとに参加サポーターを調整・決定し、学校の担当者に報告している。

☆各学年校外学習 引率補助

☆5・6年生 家庭科授業指導補助（手縫い・ミシン）

☆3年生：昔のくらし学習支援 4年生：そろばん授業指導補助

☆委員会活動補助



【 朝の読み聞かせの様子 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○学校からの依頼支援のほかに応援団独自の支援をしている。

☆朝の読み聞かせ … 朝学習の時間に各クラスにおもむき、絵本の読み聞かせを実施

☆図書美化 … 図書室の整備、図書の整理、図書の修理などを実施

☆落ち葉清掃 … 11月～12月に校門付近・駐車場周りの落ち葉清掃を実施

☆給食エプロン修理 … 子どもたちが使っている給食エプロンを預かって、ゴム交換やボタン付けなどの修繕作業を実施

○活動の詳細は、「応援団通信」や学校応援団の校内掲示板、学校HPでお知らせしている。



【 環境整備活動の様子 】

■ 事業の成果

(1) 児童にとって

地域の力が学校へ入ることにより、より豊かな学習効果を得られた。

(2) 教員にとって

授業中に支援が必要な児童への支援が充実した。

(3) 地域住民にとって

学校や地域の子どもたちが身近に感じられ、学校での活動に生きがいなどを見いだすことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍による感染症拡大予防のため、時期や人数などを制限しながらの実施となった。

・登録されている人数は多いが、活動されているのは一部の人に偏っているので、「学校の役に立ちたい」と思っている人と学校をよりスムーズに結んでいくシステムづくりが必要である。

・「できる時に・できる範囲で」温かい支援をモットーにこれからも取り組む。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・地域学校協働本部の代表が、今後は学校運営協議会の代表を務め、様々な意見交流ができるようにする。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

子どもたちが、地域の大人との関わりから「よりよい生き方」を学ぶきっかけ作りとなる活動

野洲市	活動名：北野小学校地域学校協働本部	北野小学校	学校運営協議会	： □有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務なし） ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ 地域、学校、ボランティア等によるコミュニティスクール研修会 ]				

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

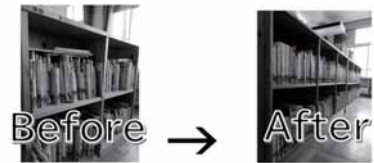
■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他（学校応援団推進委員会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（ボランティアが依頼を受けて活動する形態が主流）

- （1） 学習支援（家庭科：手縫い、ミシン操作補助、生活科：体験補助等）
- （2） 読み聞かせ（全クラス1回/年、10分/回）
- （3） 環境整備（除草作業、学級園（畑）整備、学校図書室：蔵書管理、清掃、その他整備）等
- （4） 見守り活動（登下校、校区探検引率）
- （5） その他（給食エプロン修繕、正面玄関活け花、児童向けイベント）



50音順に並べたり、背表紙でそろえたりすると見違えるほど美しくなりました。

【 図書整備の状況を広報紙に掲載 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

ボランティアには、昨年度から実施している学校が求める安全管理（問診票）等に従うよう要請している。（4月から11月末）。

ボランティアへの参加については、事前登録制をとっており、会の趣旨への賛同、見聞内容の守秘義務について誓約書を取り交わしている。これにより、問診票の提出が廃止された現在においても、参加者の把握が可能となっている。また、各ボランティア活動後には、使用した用具等の清拭や、手洗い等を欠かさず実施している。



【 「何かが変わる北野小コミュニティ・スクール」研修風景 】

■ 事業の成果

家庭科では、実技の習得に関しボランティアの助力が欠かせない。それは単に作業を滞らせないということだけでなく、児童が挑戦し乗り越える瞬間に立ち会う存在がいるということの価値である。また、ボランティアの中には十年來の経験者もあり、本科における様々な知見を担当教員に伝えることができている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・新規人材の勧誘、学校と協働できる新たな着眼点を見出すことなどが課題。
- ・本年度2学期より、学校図書室の環境整備取り組んでいる。現状は、十進分類等の不整備、図書の種類によって受け入れ処理方法が複数存在すること、蔵書の量や形状に合わせた開架状況ではないことなどが課題。そこで、市立図書館や管理職、担当教員と連携しボランティアの実働による状況改善が図れるよう取り組んでいる。本件では現在、野洲市による予算措置で市内横断型の蔵書管理システムの導入が予定されている。
- ・また、図書室の設備（椅子）の老朽化に対し、「張替え」作業を企画した。材料の準備が整い次第、今後は新たな切り口でボランティアを募り、コミュニティを広げたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・令和5年度の学校運営協議会の設立に向け、校長、教頭、教務、地学協推進員と準備会を持った。
- ・学運協への理解を促すために、学校応援団の恒例イベントを利用し、11月5日（土）「何かが変わる北野小コミュニティ・スクール」と題した研修会を開催した。教員、自治会関係者、PTA、応援団等、36名の参加があった。
- ・その中で、学校と地域の課題や強みを話し合い、それらを反映した事業案を出し合った。案の内容はもとより、新しい関係づくりという目当てが遂げられたことが成果である。これらを次の投げかけの材料にすべく、準備会でさらに討議を進めたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（依頼者となる各教員）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 中主学区いきいきプロジェクトを地域とともに推進～地域の力を学校へ、学校の元気を地域へ

<b>野洲市</b>	活動名： <b>中主中学校地域学校協働本部</b>	<b>中主中学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他〔配食ボランティア、小中合同あいさつ運動〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校    ■地域学校協働活動推進員等    □行 政    ■その他（社会福祉協議会）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・中主学区カレンダー作成（4月）
- ・「キラキラ中主タウン」生徒会による地元地域清掃活動（7月）
- ・地域読書ボランティアによる読み聞かせボランティア講座（7月）
- ・幼稚園児への読み聞かせボランティア活動（コロナ禍のため中止）
- ・小中合同あいさつ運動（7月）
- ・中学生地域貢献活動（7、8、12月）
- ・おにぎり講習会、配食ボランティア（11月）
- ・チュッピーフェスティバル（12月）

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・健康観察、検温、マスク、手洗い、換気、手指消毒等の徹底
- ・活動後の消毒
- ・三密にならないようにソーシャルディスタンスを意識した活動

■ 事業の成果

地域学校協働活動をととして、地域の人たちに教えてもらうことやほめてもらうこと、時には叱られること全てが、生徒の成長の糧となっている。中主学区カレンダーの作成、配布も定着し、幼小中連携の意識が醸成されている。CS導入に向けた体制づくりも進んでいる。地域活動へ参加することで、自分たちの住む地域の自然や歴史はもとより、連綿と引き継がれてきた教育に対する期待や思いにふれ、ふるさと中主を愛し、仲間や後輩を大切にすることが高まりつつある。



【 読み聞かせボランティア講座 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ①地域学校協働活動の実施にあたって
  - ・教育課程に位置付けた取組の推進  
（「社会に開かれた教育課程」の実現を図る）
  - ・地域学校協働本部の立ち上げと組織的な活動の実施
  - ・地域学校協働活動推進員と地域コーディネーター（学校）の役割の確認と連携
  - ・幼小中一貫教育に向けた組織体制の整備・構築
- ②教職員の意識改革
  - 地域学校協働活動は、生徒の教育効果のみならず、教員の負担軽減にもつながることもふまえ、教員が地域と積極的につながる意識の醸成
- ③コミュニティ・スクールを意識した推進体制の構築
  - 持続可能なくみづくりに向け、地域ボランティア、NPO、社会福祉協議会等との連携促進
- ④地域と学校・生徒との熟議
  - 事業の形骸化、目的化を防ぐため、子どもに着けたい力や事業目的等について「熟議」の実施
  - 生徒の主体的取組の促進



【 おにぎり講習会  
チュッピー弁当づくり】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

本年度、コロナ禍において予定した活動が実施できなかったが、中主学区地域学校協働活動コーディネーター会議を行い、協働活動の進め方や具体的な取組について協議した。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長    ■教 頭    ■地域連携担当教職員    ■その他（事務職員）

報告書記入者（      校長・教頭      ）

## 地域も学校も元気になる協働活動

野洲市	活動名：野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：8人（兼務8人） ボランティア登録数：26人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [ 人権学習 ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域とともに めざす子どもの姿
- ・地域学校協働活動の計画
- ・コミュニティ・スクール・学校運営協議会の発足にむけて  
体制づくり  
今後の課題 など

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校学区には、近江富士と言われる三上山がある。全国各地から登山のために訪れる人は多いが、本校生徒の中には登ったことのない生徒がたくさんいる。今回、「野洲中に通っているのに三上山に登ったことがないのは残念だ」という地域の方の声を受けて、三上山登山を計画した。三上学区青少年育成会議に後援していただき、多くのサポーターを得て実施した。下山後は、豚汁をふるまってくださった。



【 三上山登山：三上山山頂にて 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍であることや安全面をふまえて、生徒の募集人数を40名以内にした。登山になれた地域サポーターと教員が先頭、中間、最後尾に3～4人入り、道案内と安全確保を行った。また豚汁をいただく場所を屋外とし間隔を開けて食べた。

### ■ 事業の成果

終了後、感想を複数の生徒が発表した。「地元の自然に触れられてよかった」「豚汁を食べておいしくて、お腹も心もいっぱいになった」「このような機会を得て楽しかった」などの言葉が聞かれた。その言葉を聞いて地域の方々も大変喜んでおられた。「小学生には関わりやすいけれど中学生は少しハードルを感じる」とおっしゃっていた地域の方々の、「中学生観」の変化が見られた。



【 三上山登山：下山後、豚汁に舌鼓 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今回、青少年育成会議の後援があったので、地域サポーターの協力が得やすかった。他の活動においても、コーディネートのあり方と実働してもらえるボランティアの確保が課題である。また、めざす子どもの姿を実現するためにはどのような活動をするのがいいか、今後も熟議していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

野洲市は来年度からコミュニティ・スクール・学校運営協議会を発足させる予定である。今年度、年間を通して実施したさまざまな地域学校協働活動をさらに活性化させ、地域も学校も元気になるような取組にしていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各活動に関わる担当教職員）

報告書記入者（ 校長 ）

**地域総がかりとなって子どもを育む学校づくりの実現に向けて**

野洲市	活動名: 野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 令和元年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 0人 <input type="checkbox"/> 学習支援 (授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)  
学 校 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他 ( 自治会 )

- 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)
- ・外部指導者による部活動指導
  - ・図書館ボランティアによる平日昼休みの図書室運営
  - ・地域学校協働活動推進委員によるグラウンド等校舎周辺の環境整備活動
  - ・生徒の自治会活動への参加推進



【 図書ボランティアによる図書室運営 】

- 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
- ・今年度については、コロナ禍、生徒・保護者は参加させず、教職員とPTA、推進委員での活動とした。

- 事業の成果
- ・部活動では外部指導者のおかげで、生徒たちが専門性の高い指導を受けることができ、顧問にとっても学びの場になった。
  - ・図書ボランティアさんのおかげで、蔵書の整理、読書環境の充実が図れた。
  - ・環境整備活動は、生徒有志、PTA事業とタイアップを図り、実施することができた。
  - ・地域で中学生の役割を持たせることにより、中学生が地域に貢献する認識が変化した。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
- ・コロナ禍の影響によって、学校と地域の連携が希薄になりがちではあったが、今後、できることは何かを検討しながら、活動のねらいを明確にして、拡充したり新たな協働をつくり出したりしていけるかが課題である。
  - ・学校運営の効率化を図り、学校と地域が協働できることを整理し、地域連携担当教員がスムーズに活動できる環境づくりを行う。また、地域と協働するための人材の確保も図り、地域との連携を進めていきたい。さらに、生徒が地域で活動するための受け皿を進め、学校の中だけでなく、地域での活躍の場を作り出していきたい。

- その他 (学校運営協議会との協働等)
- ・学校運営協議会の設立に係る準備委員会を2回開催し、目指すものや組織メンバーを協議し、R5年3月を目途に委員会を設立する予定である。

■コーディネーターと協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)  
校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他 ( )

報告書記入者 ( 教頭 )



## ふるさと石部の歴史を知ろう！

湖南省	活動名：石部小学校地域学校協働本部	石部小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：150人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・「ふるさと石部」を支え、「ふるさと石部」の未来を切り拓く力をもった子どもを育てる。
- ・「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育てる。
- ・自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、わが町に誇りをもつことにより、地域を愛し、地域を大切にしようとする子どもを育てる。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### 【ふるさと石部を知ろう！歴史学習】

東海道五十三次の51番目の宿場町として栄えてきた石部の歴史を知る。地域の方の案内を聞きながら、旧東海道(石部駅～石部小学校)を歩く。

#### 【昔のくらしの道具体験】

昔の道具を使い、道具の移り変わりを学習する。

#### 【もちつき、しめ縄づくり】

田んぼの学習で田植え、稲刈りを体験した後、収穫したもち米でもちつきをし、刈り取ったわらでしめ縄をつくる。



【 歴史学習の様子 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

#### 【ふるさと石部を知ろう！歴史学習】

石部駅～石部小学校までの旧東海道を歩き、途中、旧旅籠屋の中の見学も取り入れた。小学校に到着してから、歴史地図を見ながら歩いた旧東海道を確認した。コロナ禍もあり、郷土料理の芋つぶしはお土産とし、各家庭でいただくこととした。

#### 【昔のくらしの道具体験】

石部小学校の郷土資料室に展示している、昔の道具(七輪、炭火アイロン、湯たんぼなど)を使い体験した。炭火アイロンを使うための炭づくりとして、七輪で火おこしをした。

#### 【もちつき、しめ縄づくり】

自分たちが育てたもち米を杵と臼でもちつきし、もちを食べることや刈り取ったわらでしめ縄を編み、1年を通して田んぼの学習をすることができた。



【 しめ縄づくりの様子 】

### ■ 事業の成果

#### 【子どもの感想】

- ・いろいろな初めてに出会うことができました。
- ・昔は炭をつかってアイロンがけをしていたことにびっくりしました。

#### 【教職員の感想】

- ・地域の方に教えていただきながら旧東海道を歩くことは、歴史を知るきっかけになる。
- ・昔の道具の学習はするけれど、実際に使い方を教えていただけるのは、ありがたい。
- ・日本の文化であるしめ縄づくりも貴重な体験活動である。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

授業で学習はするけれど、深く掘り下げた「地域を知る」「歴史を知る」学習を行えるのは「地域力」である。子どもたちに継続的に関わっていただける地域人材が必要である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 郷土を愛し、地元が大好きな子どもを育てよう！

湖南省	活動名：石部南小学校地域学校協働本部	石部南小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：175人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

「子どもと地域がひびきあう」をキャッチフレーズとし、「ふるさと意識の醸成」「子どもたちの自主性の育成」の取組として、学校田を中心に5年生が年間を通して、田植え、稲刈り、もちつき、しめなわ飾りづくりを体験して地域の方に農業の大切さや伝統行事を教えていただいた。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

5月17日 田植え  
 6月27日 草取り  
 9月26日 稲刈り  
 11月17日 もちつき  
 12月15日 しめなわ飾りづくり



【 脱穀機をつかっている様子 】

農業ボランティア「ふれあい農業いしべ21」の皆さんに、年間を通して農業体験を学び、収穫したもち米を使いもちつきを体験した。

コミュニティ・スクール委員と森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」のみなさんに協力いただき、しめなわ飾り作りを体験した。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

多くの地域ボランティアさんが関わってくださるため、試食が安全にできるように消毒の仕方や調理の手順等をボランティアさんに共通理解していただいた。

しめなわ飾りづくりでは作業がスムーズに行えるように、事前にアイパッドで撮影したしめなわの編み方を子どもたちに見せた。

### ■ 事業の成果

年間を通して学校田に関わることでもち農業の大変さや大切さ、米の育て方を学び、調理の仕方、収穫した後の稲わらの活用方法を学ぶことができた。

地域ボランティアも子どもたちと関わることで、喜びや達成感を感じてくださり、やりがいをもって子どもたちと関わってくださるようになった。



【 稲わらリースを編む様子 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアが高齢の方が多くということから、収穫時に昔の道具の脱穀機を使って脱穀を体験していたが、次年度からは昔の道具の説明と脱穀作業を子どもたちに見てもらい、刈り取った稲はコンバインで脱穀することで、作業がスムーズに行くように話し合った。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域ボランティアとコミュニティ・スクールと一緒に活動ができ、お互いがコミュニケーションをとる場が増え、育てていきたい子どもの姿を共通理解することができた。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

子どもたちの支えになる地域の力！！ 見守り隊！！ ～地域のあたたかいまなざしに守られて～

湖南省	活動名：三雲小学校地域学校協働本部 (みくもっ子地域学校協働本部)	三雲小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：290人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ( )

■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

・「らくらく勉強会」(放課後宿題教室)を昨年度に引き続き継続している。

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ・登下校の安全確保【各地区スクールガード】  
【通学ボランティア】登下校の見守り、同行。
- ・教育環境の整備【環境ボランティア】花壇植栽、草刈り、修繕等。  
【掃除ボランティア】掃除の仕方の指導、支援。  
【図書ボランティア】図書室の整理整頓、見守り、お話会等。  
【昼休みの見守り】折り紙教室の開催。
- ・学習、行事の支援【家庭科：ミシン】ミシンの使い方の支援。  
【体育科：持久走大会】危険箇所の立ち番。誘導。  
【体育科：運動会】駐車場、保護者の誘導。  
【クラブ活動】4つのクラブ活動において地域の方に講師を依頼している。  
【生活科：町探検】2年生活科「町探検」の引率見守り。  
【総合：ボランティア学習】3年総合学習で地域ボランティアへのインタビュー活動。



【 折り紙教室の様子 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・ボランティアの方には、手指消毒、マスクの着用をお願いしている。
- ・独自の事業(折り紙教室等)は、学校と協議の上、開催を決定した。
- ・環境ボランティアの草刈り作業を早朝より開始したことで熱中症のリスクを軽減し、従来よりも作業時間を短くした。
- ・折り紙教室の開催時に参加人数が多く、密を避けるために学年毎に開催した。



【 パンジーの植え替え 】

■ 事業の成果

- ・上記のようなボランティア活動が、長期にわたり継続していることから、児童や教職員に浸透している。また、小学校で関わりを持ったボランティアが、引き続き中学校でも活動しているので児童に寄り添う9カ年の見守りができている。
- ・ボランティア活動が、児童にも浸透しており、花植えの問いには多くの児童が自発的に参加する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域と学校が双方向に働く活動となるように、ボランティア代表者会や懇親会等の機会を持ち両者の願いを共有している。
- ・熱心な活動が児童の育ちに対して過干渉とならないように、助言を促すこともある。
- ・活動の発信に際して個人情報を守ること、SNS等への投稿を控えてもらうように、呼びかけている。
- ・紙面によるメンバー募集に頼らず、地域の中で活動の趣旨に賛同して下さる人材をネットワークから探している。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・地域コーディネータが、学校運営協議会の役員として参画している。

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ( )

報告書記入者 ( 地域学校協働活動推進員 )

## 繋がるボランティアの輪

湖南省	活動名：三雲東小学校地域学校協働本部	三雲東小学校 学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：110人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 甲西中学校区小・中9年間を通して関わる（見守る）地域を目指す。
- ・ 小・中9年間を通して自分で考える力のある子へ育てる。
- ・ 主体性を育む教育について正しい認識を保護者に啓蒙していく。
- ・ 子どもの居場所づくり、学力補充。



【 草刈りボランティア 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 裁縫・ミシンボランティアから草刈りボランティアへ。
- ・ 地域の見守りボランティアから草取り・ミシンボランティアへ。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ 新規で参加したボランティアからの声をしっかり聞く（学校に来て、ボランティアに参加して気づいたことや感想、学校への質問など）。
- ・ いつでも連絡できる体制づくり。
- ・ 消毒、マスク着用、教室の換気。
- ・ 草刈りの作業については、中休み、昼休み等子どもが屋外で活動する時間をさけて設定する。

### ■ 事業の成果

- ・ 校報、ボランティア通信等で活動の様子を地域へ知らせている。既存を含め、新規でボランティアに参加いただく方が増えたことで地域の方が学校へ足を運んでくださる機会も増えた。
- ・ 何度も来ていただくうちにボランティアの方から親切な申し出（草刈りボランティア）があり、別のボランティアとして活動していただけることになった。
- ・ 運動会前に子どもたちが運動場の草刈りを計画し、全校児童参加の活動となった。この活動に地域の方も参加いただき、ほめたり、励ましたりしながら交流ができた。
- ・ ボランティアへの参加回数が増えるにつれ、学校を身近な場所だと思っていたできるようになった。子どもたち、ボランティアの方ともに声をかけやすくなった。



【 子どもたちとの草刈り 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 今年度は、ボランティアの方のネットワークで新たに参加してくださる方が増えた。このネットワークを活用して地域に学校を支援していただくボランティアグループを作ろうと計画している。今後は依頼に応じていただくだけでなく、子どもが計画する活動に合わせた支援をお願いし、地域とのつながり、交流を深めていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 地域で子どもを育てる活動をめざして

湖南省	活動名：岩根小学校地域学校協働本部 ( 根っこ応援団 )	岩根小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要</p> <p>開始年度：平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：220人</p> <p> <input type="checkbox"/>学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援  <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/>クラブ活動支援 <input checked="" type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/>学びによるまちづくり  <input checked="" type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/>地域行事への参加 <input type="checkbox"/>ボランティア・体験活動  <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習 <input type="checkbox"/>その他 [ ]         </p>			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員 行 政 その他（まちづくり協議会）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・子ども主体となる学校行事のありかたについて

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校は今年度、コミュニティ・スクールとなって16年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症の影響で、経済的に不安定な状況に置かれる家庭が増え、子どもたちを取り巻く状況がますます厳しくなっている。特に、放課後一人で過ごす子どもへの支援が早急であると考え、今年度から地域3ヶ所で宿題教室を開始した。新たな取組として紹介する。放課後に学習できる「場所」と「それを見守る人」を提供することで、家庭学習や自主学習の習慣の確立を図ることを趣旨としている。



【 らくらく勉強会 中学校の一室で 】

### ○ 「地域で子どもを育てるらくらく勉強会」

対 象：1～3年生で放課後に学習するための「場所」や「見守る人」が必要な子どもなら誰でも可能

活動場所：岩根まちづくりセンター コミュニティ・ハウス  
甲西北中学校の3ヶ所

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学校の教室ではなく、あえて地域の公共施設である岩根まちづくりセンターやコミュニティ・ハウスで実施することによって、気軽に地域の方が子どもの見守りに来ていただけるようにしている。各会場にボランティアが直接訪れ、近所の子どもとふれあう場としたかった。



【 らくらく勉強会 まちづくりセンターにて 】

### ■ 事業の成果

地域の方が見守り、温もりのある言葉がけをすることにより、児童・保護者が「地域の支え」を実感し、自尊感情が向上した。また、「岩根小地域」に対する郷土愛を培うことにもつながった。

子どもと関わる中で、地域の方もやりがいを感じ、地域で子どもを育てる意識が高まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもを取り巻く家庭環境は、コロナ禍でさらに厳しいものとなっている。それに伴い、放課後、居場所が見つからない児童も増加している。今年度、コミュニティ・スクール活動報告会を実施し、本地域の課題を地域の方と共有し、それぞれの立場で取り組んだことの成果や今後の方針について話し合った。今後も、定期的に熟議する場を設け、地域と学校が密に連携できるようにしたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 校長 ）

## 子どもたちの出来る力を支える地域と「菩っこを育てる会」

湖南省	活動名：菩提寺小学校地域学校協働本部 (菩っこを育てる会)	菩提寺小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：3人(兼務2人) ボランティア登録数：200人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- 「菩っこを育てる会」登録ボランティア組織の再構築を検討。
- こども110番設置について、各自治体への協力について。

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- 毎年恒例の全校きらめき遠足を今年度も実施することができた。行き帰りや現地での児童の安全面など一日見守ってくださるボランティアや、危険個所での見守りボランティアを地域・保護者に募り、多くの方が参加してくれた。
- 6年生の「菩提寺学」では、フィールドワークから始まり、地域のゲストティーチャーの話を聞き、学習したことをパネルにする作業を地域の方のサポートを受けながら進めることができた。できた作品は、菩提寺まちづくりセンターに展示して、広く地域の方にも見てもらうことになっている。



【 4年 大根売りプロジェクト 】

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- 読み聞かせボランティア「おはなしコロリン」のみなさんは、毎週月曜日の給食時に校内放送で読み聞かせをしている。コロナ禍での黙食だが、楽しみのひとつになっているように思う。
- 畑の先生(地域ボランティア)と4年生が、自分たちの育てた大根を販売するプロジェクトを実施した。自分たちで考えて販売までの準備を用意し、当日(校内持久走大会)、畑の先生と一緒に貴重な体験をすることができた。

### ■ 事業の成果

- 密になるような活動にはボランティアの依頼を躊躇することはあったが、校外活動など制限が少ない環境の場合は、タウンメール等で募集することができた。
- 町たんけんなど校外で活動するときは、多くの人の目が児童を見守り、安全に活動することができた。
- 学校敷地内の花壇や畑、中庭の池など、なかなか手が回らない場所を、ボランティアがいつの間にか世話してくださり、季節の花等が学校を彩ってくれている。



【 ボランティアがお世話  
くださる中庭池の蓮 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 2年前に組織を改革したが、うまく運営できていないことがあり、再度組織改革を考える必要があるように思う。登録いただいたボランティアの運営も十分とはいえない現状なので、次年度に向けて熟議していきたい。

### ■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- コロナ禍になり、従来の学校生活を知る児童が全校の半分の人数になっている。制限のある生活が当たり前ではないことを、なにかの形で発信できたらと思う。

### ■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他 ( )

報告書記入者 ( 地域学校協働活動推進員 )

## 菩提寺北小学校 あすなろアートカーニバル開催（あすなろ応援団活動・CS・PTA合同）

湖南省	活動名：菩提寺北小学校地域学校協働本部 （あすなろ応援団活動）	菩提寺北小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ あすなろ運動会 あすなろアートカーニバル ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他 あすなろボランティア

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・昨年同様にコロナ禍であり大人数の集う「あすなろカーニバル」「防災キャンプ」などは今年度も中止とした。しかし、子どもたちや、学校を応援してくださっている地域の方に心に残る・思い出に残ることが何かできないか熟議を重ねてきた結果、「あすなろカーニバル」の開催意義や趣旨を壊すことなく、安全にできる「アートカーニバル」を開催することとなった。
- ・運動会の持ち方についても昨年度より熟議を重ね、その結果今年度、午前中は学校行事として競技や集団演技などを中心に行われ、午後からはCS主催で、レクリエーション（楽しさ・面白）を前面に出して児童・先生混合の仮装リレーを開催した。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- アートカーニバルを11月26日（土）開催  
古くはがれていたプールの壁面に、みんなの気持ちを表現した壁画を制作した。学校アンケートから多く見られたワード（夢や目標・ふるさと・協力・笑顔・あいさつ・平和・ルールを守る）などをイメージし、個々様々な色彩で繋がりあって幾重にも重なり虹となるモザイク画をデザインとした。



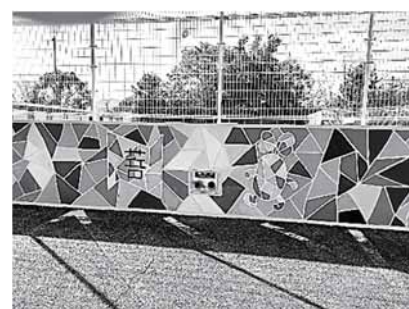
【 壁画制作中の子どもたち 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ペイントするまでの下地準備がとても大変で、CS理事・PTAが中心となり、ほぼ1か月間の週末は作業を行い、当日のペイント作業がスムーズにいくようにした。  
また、参加者は地区別で1部と2部に分けて密にならないように配慮し、外での作業ということもあり感染対策を講じることができた。

### ■ 事業の成果

- 大変きれいに仕上がり、門・駐車場に面しているので登下校の児童や来校者の方々から、学校が明るくなり生き生きとを感じるなどの感想も頂いている。  
そして、3年間コロナ禍で何もできなかったのが、いつまでも残る壁画に思いを込めて色を付けていった子どもたちの心に残ることができたのが何よりの成果だと思う。



【 完成した壁画 あすなろレインボー 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 今回は、プールの前面壁の制作で、まだ横の部分とプール入り口が残っているのでこれをどうしていくか、ペイントしていないところがさらに汚く見えてしまうので、今後どこまでするのか課題となった。また、あすなろカーニバルをもう一度復活させたいとのみんなの願いもあり、さらに熟議が必要だ。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校運営協議会・PTA・あすなろ応援団活動・地域、すべてをひとつに繋げて事業を進めていけているので、色々な意見も聞かせてもらい、さらに発展していけたらと思う。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

『おりがみ展覧会』 ～得意なことを認め合い、自己表現できる環境づくり～

湖南省	活動名：下田小学校地域学校協働本部	下田小学校	学校運営協議会	：	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務2人） ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]						

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 下田小学校学校運営協議会を組織している4つの委員会で協議した内容を学校運営協議会理事会にて熟議している。  
 ・大成委員会：学校評価アンケート（保護者・児童）の作成、考察  
 ・地域連携委員会：通学路の危険箇所と登下校の見守りについて、PTA主催事業への協力方法や役割分担について  
 ・ボランティア委員会：ボランティアに参加している地域の方々からの要望や対応について  
 ・150周年記念事業実行委員会：令和6年の下田小学校創立150周年にむけて記念事業等の企画、立案

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
 下田小学校には、おりがみで作品を作ることが得意な児童が多く、休み時間に教室やなすびいずルームで作品を作っていたが、今までそれらの作品を発表できる場がなかった。コロナ禍で学校行事が縮小されていたこともあり、児童が楽しんで参加できるイベントとして『おりがみ展覧会』を企画し、令和4年1月から3月に実施した（令和3年度）。今年度も1月から3月にかけて実施する予定で、現在準備を進めている。

■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
 ・コロナ禍での実施ということもあり、他学年との交流をなるべく避けるために参加対象をクラスごととし、作品の展示期間もクラスごとにずらした。密を避けるため、広い空間（児童昇降口前廊下）での展示とした。  
 ・参加クラスで作品のテーマを決定し、そのテーマに沿って作品を制作し展示用に作成したプラダンのボードに飾りつけをした。  
 ・展示を見ての感想をメモ用紙に書いてもらい、展示期間終了後、感想の書かれたメモ用紙を参加クラスに掲示した。  
 ・感想を書くのは児童だけではなく、先生方やボランティアの方々にもお願いした。

■ 事業の成果  
 ・得意なことを発表できる場ができたことで、今までは何となくおりがみで作品を折っていた児童が目的をもって作品を折るようになり、自信がついたように思う。  
 ・3月に5年生が「卒業する6年生へ」というテーマで展示を実施。6年生へのメッセージを卒業式に6年生保護者にも見てもらうことができた。  
 ・作品を見て感想を書くことで、お互いのことを認め合える機会ができた。  
 ・たくさんの方から感想をもらい、感想を書いてくれた方々にお礼がしたいということで、お礼のためにおりがみで作品を作る児童がいた。感想を書いてくれた方々にその作品を配ることができ、展示した側と感想を書いた側のどちらにとっても楽しい活動となった。



【 卒業式の時期の展示 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 昨年度は1月に企画立案し参加申し込みを実施したため準備期間が短かったため、今年度は9月に実施の有無を問うアンケート調査を実施し、11月より参加希望クラスの募集を始めている。展示がない期間もあり、昨年度はコーディネーターが作品を展示したが、今年度は地域の方々や作品を作り展示することも面白いのではないかと検討している。

■ その他（学校運営協議会との協働等）  
 令和6年度の創立150周年記念事業の一環として、学校内に保管されている昔の道具等の活用策を検討するため、展示室が設置されている岩根小学校へ視察に伺った。岩根小学校では、まちづくり協議会との連携によって実現したと聞き、視察後、下田まちづくり協議会に協議したところご理解をいただくことができた。今後の支援や協力をお願いし快く引き受けていただいた。  
 令和6年度の150周年記念イベントまでに展示室が公開できるように、場所の選定や展示物の収集等も含め、150周年記念事業実行委員会と学校運営協議会理事会にて熟議を進めていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）



## ふるさと水戸 「あい」のある学校、地域、つなぐ水戸っ子

湖南省	活動名 : 水戸小学校地域学校協働本部	水戸小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

昨年度の学校アンケートでCSの活動についてあまり知られていないことがわかりPRしていく方法を考えた。アンケートや日々の様子から子どもたちの生活面、学習面での困りごとを把握し地域と学校で子どもたちをどう育てていくか熟議を重ねている。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

2年生 まちたんけん  
 3年生 地域の人にインタビュー  
 4年生 さつまいも植え～収穫、お芋パーティ  
 5年生 たんぼのご学習、環境学習、ミシン学習  
 その他、外国にルーツを持つ子どもたちの交流会、読み聞かせ、運動会での展示物作成



【 お芋パーティ 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・屋外での活動は基本的な感染対策をとり、教室では密にならないようにし地域のゲストティーチャーからお話を聞き質問は自分の席ですることとした。
- ・ミシンは3人に1台で余裕をもって行うこととした。
- ・外国にルーツをもつ子どもたちの交流会は体育館でダンスの班と家庭科室でプラバンづくりの班に分けて行った。
- ・ボランティアが安心して活動できるよう事前の打ち合わせを数回に分け、先生との打ち合わせは重要なポイントの確認のみとした。

### ■ 事業の成果

- ・2年生では地域のいろいろな場所や人を知るために出かけ、3年生では地域の方に学校に来ていただき詳しくお話を聞くことができた。4年生ではまち協が管理する水戸菜園でお芋を育て収穫の喜びを知り、子どもたちが企画したパーティを開いてお世話になった方を招待。クイズやゲーム、人形劇など様々なアイデアでボランティアも喜んでおられた。
- ・5年生でたんぼや茶釜川のことを学び、地域の環境美化活動として何が出来るかを子どもたち一人一人が考えられていた。授業の後に自治会の清掃作業を案内したところ、参加した子どもたちの姿が見られた。
- ・まちたんけん、ミシン学習には保護者ボランティアも多くコロナで学校に足を運ぶ機会が減っている中で保護者同士の交流も楽しんでおられた。今年はないの？と聞かれたことでボランティアが負担ではなく楽しみにしておられるとわかった。
- ・外国にルーツをもつ子どもたちの交流会にボランティアが参加したのは3年ぶり。大きくなった子どもたちの姿を見て安心しておられた。読み聞かせは月に1回だが子どもたちが楽しみにしている。様々な「ことば」に触れられる大切な時間となっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

課題はボランティアの高齢化やコロナで中止している活動に参加していた方に声をかける機会がなくなっていることと地域の行事が中止となり子どもたちが活躍する機会が減ったこと。学年が上がるごとに地域の一員と自覚できるような学習ができたように思うのでたんぼ、茶釜川、公園、水戸菜園などの資源を使って子どもたちの学習がさらに深められるとよい。保護者がボランティアに楽しく参加しながら保護者同士、地域の方ともつながれるような場をコーディネートしていきたい。



【 交流会 プラバンづくり 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

水戸小学校ホームページ <https://mi-to-el.konan.andteache.jp>  
 では校報・ボランティア便りなど子どもたちの様子を発信し地域との連携を図っている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（教科担当教員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進委員）

## 学校に地域の力を、地域に生徒の活力を！

湖南省	活動名：石部中学校地域学校協働本部	石部中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：83人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [入学試験面接指導等]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校経営方針の承認について
- ・学校の現状と生徒の課題について
- ・生徒の地域貢献活動について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・中学校区の小学校が開催する「いしべっ子夏休み学習教室」「みなみっ子夏休み子ども教室」にボランティアスタッフとして参加。後輩たちの学習を見守ったり、受付や準備・片付け等を手伝ったりもした。
- ・コロナ禍で中止になっていた地域の夏まつりが、3年ぶりに4区で開催され、スタッフとして参加。準備・片付け、模擬店のスタッフ等を担当した。



【 夏まつりスタッフ 】

### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・事前調査を集約し、各地域の担当者を招いて「地区別集会」を開催した。中学生に対する期待と責任を果たすことの大切さや、コロナ禍前は好評な行事で、中学生の参加を楽しみにしていることを説明してもらった。地域によっては、スタッフ参加を申し出た生徒を対象に事前打ち合わせを実施した。

### ■ 事業の成果

- ・小学生の時は何も考えず、ただ学習教室に参加していたが、スタッフとして参加しているいろんな人が運営してくださっていることが分かりました。（生徒感想）
- ・私が小学生の時、兄が夏まつりのボランティアをしていて、ずっとやってみたくて思っていた。たくさんの方が「ありがとう」「がんばれ」と言ってくださって嬉しかった。（生徒感想）
- ・一日祭りに参加したことで区の姿について知れたし、心温かい人たちに出会えて、この町は今後もさらに良い町になればな、と思った。（生徒感想）
- ・コロナ感染拡大により、地域のつながりが希薄になり、行事の参加協力が消極的になっている中、子どもたちの積極的な協力に、大人も刺激を受け、新鮮な気持ちに影響を受けて、大人も協力いただいたのではないかと感じました。模擬店のスタッフとして中学生がいるだけで活気がある。（地域担当者感想）



【 夏休み学習教室スタッフ 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・中学生の意見（企画など）を取り入れることなく、機会もなかったこともあり、中学生の中に達成感ややりがいを持たせてあげられる場作りが課題。
- ・企画の段階から中学生も参加できれば、やる気もより起きるのではと思うが、その時間を持つのが難しい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

<https://ishibe-jh.konan.andteacher.jp/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（教科担当教員）

Chance (チャンス)・Challenge (チャレンジ)・Change (チェンジ) ～地域の方とのかかわりを通して～

湖南省	活動名：甲西中学校地域学校協働本部	甲西中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人） ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・不登校生徒の増加に何かできないか。
- ・地域学校協働活動の内容を地域の方々にもっと知ってもらい参加してもらうためにどのようにPRしていけばよいか。
- ・活動資金をどのようにして確保していくか。
- ・放課後や長期休業中に小・中学生の地域での居場所を作りたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

例年は、ミニ部活（体験活動）、職業講話、みちくさコンパス（地域行事）など地域と学校が協働した活動を多岐にわたって行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度も中止になったものがあった。

以下は今年度開催した活動である。

- ・スモールティーチャー・・・小学生の夏休みの宿題を中学生が支援する活動。（異年齢交流）
- ・読み語り・・・朝の読書の10分間で読み聞かせを行う。1・2年生が対象。読み語りスタッフ6名が活動。
- ・図書室整備・・・本の登録やブックカバーをつける作業など、図書館司書さんのお手伝いや図書室の運営の補助。
- ・書写の講師・・・書写の授業の支援を行った。お手本の準備や生徒の指導を行った。全学年生徒が対象。
- ・文化体験講座・・・地域の方々を講師として招いて16の講座を開催した。第1学年で親子の活動として実施した。
- ・冬休みの学習会・・・家ででの学習環境が整わない3年生を対象に行った。計5日間13名が参加した。
- ・ミシンの授業支援・・・12月に1年生の家庭科の授業支援を行った。スタッフ9名で活動した。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

事業を行う際には、講師、参加者はマスク着用や消毒でコロナ対策を行った。合唱コンクールでは入れ替わるたびにいすや手すりの消毒にも配慮した。スタッフの中には高齢の方もいらっしゃるので体調が優れないときは無理をせずに参加を見送っていただいた。

■ 事業の成果

- ・書写では講師の方に褒められて回数を重ねるごとに上達していた。
- ・読み語りは継続して行っており、長い物語のときは話の続きを楽しみにしている生徒もいて読書への興味の喚起になっている。
- ・読み語りと家庭科での授業支援は、小中連携することで、9年にわたる支援になっている。



【 冬休みの学習会  
学習後のアウトプット 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で事業が制限されたり中止になったりした1年だった。協働するスタッフさん達の健康や生徒の教育的効果もどちらも大切に考え、方法や規模を工夫しながらこれからも事業を継続していく。
- ・地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南省の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・生徒たちの学校や地域での活動が学校のHPの「お知らせ」に紹介されています。ご覧ください。 <https://kosei-jh.konan.andteacher.jp/>



【 針地区 ふれあい祭り 】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 地域連携担当教職員 ■その他（教科担任・該当学年教員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員、教頭）

## 学校が一步を踏み出し、それを後押しする地域のチカラ ～活躍の場を広げる生徒たち～

湖南省	活動名 : 甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成31年度 地域学校協働活動推進員等数：5人（兼務5人） ボランティア登録数：14人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・授業や行事への地域の方の協力の方策
- ・来年度の「防災フェスタ」開催のあり方について
- ・不登校生徒への支援について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・校区にある2つの地域のまちづくり協議会や社会福祉協議会等の呼びかけに応じ、ボランティア部員を中心に地域行事に参加。
- ・5月には市で開催されたトレイルランに応援隊で参加。8月には初の試みとして「防災フェスタ」を開催。防災についてボランティア部の生徒が学んだことを展示したり、模型や動画で見せたりした。市の危機管理・防災課や防災士連絡会、また地元自治区や防災アドバイザーの方にも協力と参加を呼びかけ、好評だった。11月には市の広報にボランティア部の活動が紹介された。
- ・2年生の職場体験先の事業所の新規開拓。また職場体験に参加できなかった生徒のためにボランティアと一緒に正面玄関の花植え作業、また市の高齢福祉課の方に来てもらい、市内の中学校では初めてとなる認知症講座を行ってもらった。
- ・10月には地域のイベントに家庭部が手作りワッフルを販売しすぐに完売するほどの人気だった。
- ・1年生のフィールドワークに市内の事業所や地域の方の協力を仰ぎ、30コース作ることができた。
- ・不登校生徒の居場所づくりとして、地域のまちづくりセンターを借りて地域コーディネーターやボランティアが対応できる体制を作った。まだ試運転状態である。



【 防災フェスタ 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ禍での行事参加や開催を危惧する声もあり中止にすることは容易だったが、コロナ禍でもできることをやろうと取り組んできた。初の「防災フェスタ」も参加人数に配慮したり、密にならないようコーナーの設置などの工夫をして開催することができた。

### ■ 事業の成果

- ・昨年度の職場訪問でお世話になった地元企業が学校の危険箇所にご蓋を設置していただき、それに全校生徒がお礼状を書くなどの交流が生まれた。
- ・ボランティア部の生徒を中心に地域行事への参加が増えたことで、今では地域の方が楽しみにくださるまでになり、依頼も少しずつ増えてきている。ボランティア部員だけでなく、全校生徒に呼びかけることで、地域行事に参加する生徒が増えてきた。



【 家庭部が手作りワッフルを販売 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校から地域への活動は、地域にも浸透し生徒の活躍の場は増えつつあり、学校が一步踏み出し、それを地域の大人が後押しするというように、学校と地域の連携が進んでいる。しかし、まだ生徒も教員も一部の人材に頼っているため、さらに広げ、活動を持続可能にするための組織づくり、仕組みづくりを進めていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・地域コーディネーターが学校運営協議会のメンバーとなり、報告、熟議をすることで、さらに活動が認知され、広がっている。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 日枝中生が選んだ今年の漢字【輝】・【新】この二文字に思いを込めて・・・。

湖南省	活動名：日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校	学校運営協議会：■有 □無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・生徒が主役であることを意識し、学校と地域がともに生徒の成長に関わる。
- ・行事を通して地域の大人とつながっていく。
- ・育てたい子どもの姿をイメージして関わっていく。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### 【大書】日枝中生が選ぶ今年の漢字

生徒会の取組みと協力し、全校生徒一人ひとりが選んだ今年の漢字を投票してもらい、それらを集計し、学校とも相談の上、今年の漢字2点を決定。畳ほどの大きな紙に大書を仕上げるにあたり、いつも国語の書道の授業にお手伝いに入って下さる地域の方々の意見を聞きながら、積極的に取り組んでくれる2名の生徒にお願いした。



【「輝」を書く】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ禍にあり3年間実施できなかった大書を、何とか復活させたく早めの段階で学校側に打診した。
- ・コロナに必要な対策も何度も話し合い、実施する方向へ話を進めることができた。

### ■ 事業の成果

- ・大きな紙に墨で文字を書くという初めての体験に、やる気に満ちたととてもいい表情で生き生きとチャレンジすることができた。
- ・2学期の終業式で、全校生徒の前で大々的にお披露目をした彼らは自信にも繋がり書への関心にも高まった。
- ・正面玄関に門松と共に飾り、来校いただいた方々にたくさん見ていただくことができた。



【「新」「輝」大書を飾った玄関】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度の書き手の活動を見て、次年度は下級生が自ら立候補して参加してもらえとうれしく思う。
- ・3年間空いての取組みだったがとても好評だったため、これからも途切れることなく毎年継続していきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

## 地域とともにある学校づくり ～協働活動の定着化を目指して！～

高島市	活動名：高島学園地域学校協働本部	高島小学校・高島中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：53人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ 福祉活動・町づくり ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 ■その他（公民館）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

#### （1）学園全体で取り組み

今年度から小・中学校の各学校運営協議会が学園一つとなり、学園運営の組織的、継続的な改善方法について、また、今以上に保護者や地域住民に理解と協力を得られるよう、発信する方法等話し合い、また学園全体で実行に移せるよう話し合った。

#### （2）地域学校協働活動の取り組みから

協働活動の様子を共有&熟知し、より良い活動となるため委員も協働活動に極力参加することで、新たな活動やアイデアが生まれ、活性化が進んでいる。

#### （3）学校・地域連携カリキュラムの作成に向けた意見交換

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）図書（読書）の充実に向けて

学園内で読書活動を推進していることから、小学校では空き教室を低学年向けの「おはなしルーム」を学校と地域ボランティアの皆さんと心をつなげて開設することが出来た。毎週月曜日の昼休みに、本の読み聞かせが始まり大好評となった。開設に向けては、学校・地域だけではなく、中学生が「おはなしルーム」が心地良い部屋になるようにと、素晴らしい飾りを作製し、贈呈してくれた。また、中学校では朝の読書の時間、毎日の様にボランティアの方が学校に本を持って、生徒と共に本を読むという習慣が少しずつ根付いてきた。



【 人気のおはなし会 】

#### （2）中学生の地域へのかかわり

コロナ禍で地域でのイベント等が中止になる中、開催された「大溝まちづくりマルシェ」にサポーターとして参加し、地域の皆さんと共に中学生が役割を果たし、まちづくりに貢献することが出来た。



【 ゴールで待つみたらし団子！ 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年に比べると校内での活動も少し増やすことが出来た。特に3年ぶり復活の「自然体験学習」や「町たんけん」、昨年より始まった「環境整備活動」など屋外の活動等が活発になった。

### ■ 事業の成果

学校で行われる事業一つにおいても、ボランティアがそれぞれ支援出来ることを各自、団体で決めて参加してもらうことが出来るようになった。例えば、自然体験学習（踏破遠足）では、生徒と共に歩く、エイドステーションで応援、ゴールで手作りの団子を振る舞うなど、それぞれが役割を担っていた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年で6年目となる協働活動も、より多くの地域住民の皆さんに、今以上に学校に足を運んでもらえるよう、学校地域連携カリキュラムを活用し、色々な場面で呼びかけや、発信を行いたい。また、ボランティアの皆さんの感想や希望は極力受け入れるようにしたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクール会議を「コミュニティ・スクールびわこ全日本大会」として開催し、市内関係者の参加とあわせ、オンラインを活用したことにより、どこでも気軽に参加してもらうことができ、市外や県外からの参加が増えることにつながった。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（生徒会担当教員等）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

## つながり響き合う教育を目指して ～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名 : マキノ地域学校協働本部	マキノ東小学校・マキノ西小学校・マキノ南小学校 マキノ中学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度 : 平成 30 年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 ボランティア登録数 : 108 人 ■学習支援 (授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

- 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

#### (1) 小中学生、地域の方を交えた学校運営協議会での内容

小中学校ではその主体でもある児童、生徒自身の考え方や意見等を、また小学校ではボランティアとして関わって頂いている地域の方の意見等も踏まえて学校運営が出来るよう、学運協に参加頂き熟議等を行うことが出来た。どちらも対象、現場を踏まえた意見を共有、相互理解が出来、今後の学校運営に前向きな意見が出された。

- ・生徒会活動で地域と連携出来る活動を考える、マキノのPRをするなど生徒から地域と連携していく意見が出された。
- ・地域の方からは学校の方針や現在の子どもの状況を踏まえた今後の支援活動への協力について意見が出された
- ・先進地研修で「カタリ場」を視聴し、生徒も大人も共感できる内容で後の意見交換にうまくつながりよかった。
- ・学校・地域連携カリキュラムの作成に向けた意見交換



【中学生を交えた学校運営協議会】

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

#### (1) 地域の活動に協力し、自分たちの成果を地域貢献に活かす活動

マキノ中学校では、さつま芋を育て収穫したものを地域での「マルシェ」、「栗マラソン」、「収穫祭」で来訪者に焼き芋として提供した。「まち歩き」にも同行し、参加者向けに参加賞のメダルを作るなど自主的な活動を実施することが出来た。

#### (2) 小学校での協働活動の連携

今年度は各小学校で大幅に地域の方のボランティア登録が増え、コロナが一定落ち着いてきたこともあり、多くの授業に関わって頂くことが出来た。また、地域の方に参画いただきボランティアの会議を開催出来た。これにより、地域との連携カリキュラムについても多くの時間で関わってもらえる方向性が見えてきた。



【自然環境学習の指導する地域の方】

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

今年度は、コロナウイルス感染症への適切な対応が成されたこともあり、各学校で地域との協働活動が復活し、新たな地域のボランティアの参加も増えた。このため、さらに地域と学校の連携を図れるよう、学校運営協議会の委員と教師全員との懇談会を持つとともに、ボランティアの方を一堂に集めた会議を持ってもらうことが出来た。また、学校運営協議会では小学生、中学生を交え直接委員と意見交換をする機会も持ってもらうことが出来た。児童・生徒、教師、地域の方からの意見を直接聞いて頂くことにより学校運営協議会委員の主体的な活動につながればと考えている。

- 事業の成果
 

<input type="checkbox"/> 子ども 地域への理解・関心の深まり 社会貢献  <input type="checkbox"/> 地域 地域の教育力の向上、地域の活性化 社会参加の提供	<input type="checkbox"/> 学校 新たなボランティア人材の発掘 円滑な学校行事の実施 <input type="checkbox"/> 地域への理解・関心の深まり 児童生徒に社会貢献の機会の提供
---	---

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

これまでの学校、学校運営協議会、地域への働きかけと学校での熟議、ボランティアの登録に配慮して頂いたことで、地域の方との連携が進みつつある。学校運営協議会の委員については長年同一人物であることもあることから、学校運営について理解を深めた方が地域が増えていくという面からも、委員の更新に配慮していただければと考える。また、自分が住んでいる地域の地域資源の発掘、その地域に勤務している教師の地域資源への理解促進は、夏休み期間中の教師の研修にも取り入れて頂いた学校が増えたが、引き続き実施して頂けるよう働きかけていきたい。

### ■ その他 (学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会委員に教師、児童・生徒、地域の方と直接話をしてもらって熟議、懇談会等の機会を作って頂いたことにより、現場の声を直接聞いて頂き、意見交換することが出来た。今後は学校が作成する地域連携カリキュラムについてもこのような現場の意見等を踏まえて主体的な関わりを持って頂けることを期待したい。

### ■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 □その他 ( )

報告書記入者 ( 地域学校協働活動推進員 )

## つながり響き合う教育を目指して ～今津地域学校協働本部～

高島市	活動名 : 今津地域学校協働本部	今津東小学校・今津北小学校・今津中学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ○地域の特性や伝統を大切に活動を継続させていく。  
 ・北小学校の伝統行事の左義長が学校だけではできなくなっている。地域と協働して継続させる方法を検討していく。  
 ○地域を愛し、地域に誇りを持つ活動を3校共通課題として取り組む。  
 ・琵琶湖周航の歌発祥の町として、発達段階に応じたカリキュラムとして位置づけていく。  
 ○学校・地域連携カリキュラムの作成に向けた意見交換。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
 ○今津東小学校（学校支援ボランティア「はなまる広場」と民生委員児童委員母子父子部会による支援）  
 ・環境整備・・・除草作業、花壇整備、雪囲い・風除けの設置 など  
 ・学習支援・・・九九まる（九九暗唱確認）、計算チャレンジ（加減）、ミシン学習等支援  
 ・事務作業支援・学級配布物の仕分け、九九まる確認用シート・スタンプ作成 など  
 ・行事支援・・・校外学習引率支援、マラソン大会支援、新入生給食指導補助 など  
 ○今津北小学校（学校支援ボランティア「箱館応援団」と民生委員による支援）  
 ・行事支援・・・校外学習引率支援、左義長用草束の確保と搬送  
 ・学習支援・・・九九道場（九九の暗唱確認）、ミシン等学習支援  
 ・環境整備・・・学校グラウンド除草作業  
 ○今津中学校（学校支援ボランティア「今中サポーターの会」による支援）  
 ・環境整備・・・のぼり旗「ええやん今中」作成寄贈  
 ・環境学習・・・特定外来種の学習と除草、はまひるがお保存学習  
 ・福祉分野との連携・・・社協の「福祉すごろく」づくりに協力  
 ・青少年育成学区民会議との連携・・・環境整備（プランターの花植）



【 新入生給食指導補助 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
 ・学校側（各担当教員のニーズ）の要望把握に努めた。  
 ・ボランティアへの情報発信を工夫した。（LINE活用、はなまる通信発行）  
 ・コロナ対策として、対人間にアクリル板設置など子どもたちに対策が見えるようにした。

■ 事業の成果  
 ・民生委員児童委員の任期終了後も協力してくれる人が増え、学校支援の機運が高まった。  
 ・小学校から中学校への成長過程を理解するボランティアが増え、学校運営協議会でも地域の目として意見を述べるようになってきた。  
 ・子どもたちがボランティアに慣れ、感謝や挨拶が言えるようになってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 ・課題 学校の要望が実施日程の直前となることが多く、必要な人員確保が困難となることがあった。  
 ・工夫 LINEグループを活用した情報発信を行い、参加者確保に努めた。  
 ・展望 学校地域連携カリキュラムを活用し、学校支援に参画される方を拡げていく。



【 渡り廊下風除け設置支援 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）  
 ・各校の学校運営協議会委員から支援活動に参画される方が増えており、ボランティアとの垣根が低くなってきた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）



つながり響き合う教育を目指して ～朽木地域学校協働活動本部～

高島市	活動名：朽木地域学校協働本部	朽木東小学校・朽木西小学校・朽木中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：109人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・子どもたちにつけたい力
- ・学校・地域連携カリキュラムの作成（地域との関連活動の目的別分類）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朽木東小学校 … 校外行事である再発見サイクリングでは、【サイクリング実行委員会】を立ち上げ、保護者や地域の方が中心となり、計画や準備を進めることができ、開催することができた。特に、自転車の運搬や安全見守りなど「工夫して子どもたちが安心してサイクリングできるようにしたい」という地域の方の考えを大切にされた学校の理解により、子どもたちの思い出になる活動となった。
- ・朽木西小学校 … 合同防災訓練では、地域の組織である「防災福祉組」と学校が合同で防災訓練を行った。消防車や救急車が到着に時間がかかる地域であり、自分たちができる消火活動がとても大事であるため、教師や子どもが地域の方と一緒に訓練することができ、とても有意義な活動となった。
- ・朽木中学校 … 学習支援として選択総合において、事業所や地域の方の協力により、春夏秋冬の植物を使った「草木染め」を作成した。地域の方にも生徒の取り組みを知ってもらうため、園や学校だけでなく、地域の施設やバスの停留所に置くこととなった。特に、民生委員児童委員協議会の協力もあり、生徒の活動がより地域に根ざしていけるものになった。「朽木太鼓」では、朽木太鼓創設メンバーからの熱のこもった指導を受け、文化祭での発表につながった。これにより指導に関わった大人も生徒と一緒に感動や充実感を味わうことができたほか、地域文化祭でも生徒が発表し、「来年は大人も太鼓やろう」と地域の方に元気を与える活動につながった。



【朽木再発見サイクリング】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・名札の携帯 … 地域の方の名前と顔を子どもたちが知ること、学校外で出会ったときも声をかけやすい。
- ・お礼を伝える … 学習内容と関連つけて、手紙を書いたり写真を撮ったりして感謝の気持ちを伝えた。
- ・地域連携カリキュラムの作成 … 学校運営協議会で子どもたちにつけたい力を話し合い、その力をつけるための活動を園から中学校までの12年間を通して見直した。

■ 事業の成果

学校・地域連携カリキュラムの作成により、活動内容や目的が分かり地域の役割も見えやすくなるため、学校と地域が同じ方向で活動することにつながると考える。今年、「朽木地域住みよいまちづくり推進協議会」が立ち上がった際、鮎の魅力を伝えたいということで小学生に「おとり釣り」を教え、児童からは「こんな釣り方があるんや、やってみよう」と興味津々。来年度は中学生に「おとり釣り」体験をさせたいと、準備が進んでいる。また、環境整備活動では、地域団体から「子どもたちと正月飾りを作ろう」と計画や準備がされ、子どもたちも楽しく参加した。そして、ミシンの授業支援でも地域の方に関わっていただき、中学生との関わりが増えた。中学校の生徒会との話し合いから、民生委員児童委員協議会の年末訪問に、中学生の書いた手紙とプレゼントを添えることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学生の地域と関わる活動がコロナ禍の影響で激減している。しかし、中学生の力が地域では不可欠なことから、まず、生徒会や委員会との話し合いに参加し、地域との連携について一緒に考え、中学生の思いを尊重しつつ、中学生の主体的取り組みにつなげたい。

また、事業所や団体との連携を大切に、大人も子どもも元気に安心して生活できる地域にできるよう朽木の自然を活かした活動を増やしていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で、学校・地域連携カリキュラムの作成に取り組んだことで地域の方の考えや学校の考えをお互いに聞き合うことができ、思いの相違が分かり、今後の方向が見えてきた。必要に応じて会議の回数を増やしたり、保護者や各種団体にも参加を呼びかけたりし、より多様な意見を聞く機会を持つことも大切である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（担任等教職員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

## つながり響き合う地域づくりをめざして

高島市	活動名：安曇川地域学校協働本部	安曇小学校・青柳小学校・本庄小学校 安曇川中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ 各学校同士の連携 物品の調達 講師紹介 地域の方々の情報提供 ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 ■地域学校協働活動推進員 ■行政 ■その他（福祉ネットワーク・民協・自治協）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

#### ①安曇川地区合同の学校運営協議会を開催（熟議を実施）

- ・安曇川の子ども達について意見交換（なつてほしい子ども像）
- ・各学校の協働活動報告（校長・推進員）意見交換、連携できそうなこと等

#### ②学校・地域連携カリキュラムの作成

- 各小学校で学校運営協議会委員と教職員と学校支援グループが、一緒に作成。
- ・今までしてきたことの見直しや組み直し。子どもの意見も聞こうという意見があった。
- ・学校の特色を生かした、地域との連携による新たな活動について意見交換を実施。
- ・委員の方には断片的な教育活動だったが、年間の流れや学年間のつながりなどが理解できた。



【安曇川地区合同学校運営協議会】

#### ③学校運営協議会委員の地域学校協働活動への参加が増えた。

- ・協働活動の予定や計画など話し合ったほか、協働活動の依頼を学運協委員にも行い、参画につながった。
- ・定期的な活動をする学校が増えた。（第1水曜日、第2月曜日、第4水曜日等）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特殊的な活動）

#### ①学校環境整備（草刈、清掃）

- ・各校で、花壇管理や除草などは定期的（後半月1回）に子ども達と一緒に活動した。
- ・毎月の除草や木の伐採、体育館の清掃などに取り組んだ。特に体育館や運動場はきれいになった。

#### ②安中カフェでの協働活動

- ・校友会役員の生徒と意見交換し、協力・連携できることを話し合う。各委員会活動は、校友会本部と連携し進めてもらう。
- ・支援学級での活動では、地域の方と共に体験活動を実施し、交流時には話し合いの場にもなった。

#### ③廃校になった元母校の学校を拠点としたマラソン大会（安小5・6年）3回目

- ・地元の方や保育園、事業所等各種団体が連携して、マラソン大会の開催が地元で定着してきた。また、参画するボランティアスタッフも増え、多くの人に定着していると感じた。伴走者も増えてきて、良かった。

#### ④特技を活かす・生涯学習につながるサークルとのつながり

- ・読み聞かせ・朝の読書の時間に定期的に地域の方に読んでいただく。（読み聞かせボランティアグループの活躍）
- ・福祉教育等・手話サークルのメンバーの支援 自分のしているボランティアの話
- ・裁縫・ものづくり・魚のさばき・花の手入れ・生け花等々・専門的な技術で支援

#### ⑤安曇川住民自治協議会や社会福祉協議会との繋がり

- ・「クリーンアップ運動」に地域の方と中学生が参加。参加者の交流ができ、お互いにとっても楽しい活動になった。
- ・社会福祉協議会と連携し、生徒達が道の駅で共同募金活動を実施。たくさんの方が協力して下さった。

#### ⑥学習支援（ミシン支援、九九指導、町探検）、給食指導、1年生下校指導等を実施。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ①参加者には、毎日の検温とともに当日の検温も実施。
- ②マスク着用、手指消毒のほか、体調のすぐれない方は参加辞退してもらった。

### ■ 事業の成果

- ①学習支援では、ミシン支援された方から、製作品の仕上がりを見たい、子どもたちが心配、何かしてあげたい等感想を聞くことができ、参画された方々の気持ちが高まった。
- ②地域の方々の集まりの場に

久しぶりの再会で、料理や野菜の植え方、孫のこと等会話が弾み、いい居場所となっている。【活動内容啓発（学校で掲示）】

#### ③学校運営協議会の会長が、積極的に動いて支援を頼みに行っていたこともあり協力者が広がった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・作成したカリキュラムを活用し、更に協働活動の協力者を呼び掛け、つながり人口増につなげていく。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（担任・担当者）



【活動内容啓発（学校で掲示）】

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

つながり響きあう教育を目指して～みんなであたたかく見守り育てよう「学而事人」の人に～

高島市	活動名：新旭地域学校協働本部	新旭南小学校・新旭北小学校・湖西中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：129人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他〔教育相談窓口開設〕		

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
  - 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）
- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
  - (1) 湖西中学校：校内研究主題であるSDGsと学校・地域連携カリキュラムをテーマに議論をするなか、特に学校地域合同防災訓練を「しがマイタイムライン」を活用することについて意見交換を行った。
  - (2) 南小学校：来年度の学校・地域連携カリキュラムの作成にあたり、学校運営協議会委員、学校支援ボランティア、教職員が一堂に会し議論を行った。併せて年度後半から実施可能なカリキュラムについても意見交換した。
  - (3) 北小学校：昨年度実施した地域のアンケートをもとに、高学年が自分たちの住んでいる地域で各自自治会の協力のもと地域協働活動を行ったことに対する評価や課題のほか、学校・地域連携カリキュラムについても議論した。
- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
  - (1) 『徹底した学校支援活動』の展開（学校支援の会である南小「夢の会」、北小「希望の会」を核にした活動）「登下校の見守り」、「校庭などの草刈り等の環境整備」、「読み聞かせ」、「図書ボランティア」、「九九道場」、「マラソン大会の安全監視」等できることなら何でも学校の支援要請に応える。
  - (2) 『学而事人おはようミーティング』の活動（学校支援の会である湖西中学校「むくげの花の会」を核にした活動）  
中学校の要請に応じて平成30年度から毎日欠かさずことなく続けている。会員が都合のよい日、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。会員、生徒、教職員、保護者のにぎやかなミーティングの場としている。支援活動の情報交換や打ち合わせの場にもなっており、こうしたことから学校の敷居を低くさせ、また活動しやすい環境にもつながっている。
  - (3) 『郷土への理解を深める』活動  
新旭の偉人「清水安三先生」の教えである『学而事人』（学びて人に事える）をスローガンに掲げ、地域住民や関係者が協働活動に親しみをもって関わっている。中学校では、昨年度から地域住民が参画し避難行動などを学ぶ防災訓練の実施しているほか、認知症サポーター養成講座の受講、生徒の地域貢献活動として、家庭部の活動（福祉施設への手作りマグネット贈呈）に加え、ふれあい食堂や住民自治協議会への活動支援、地域イベントでは吹奏楽部が出前演奏を行った。また、北小学校では、5・6年生が自治会と協働し子どもたちがそれぞれの登校班ごとに企画運営する地域貢献活動を行った。
- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
各校の「支援の会」の世話人会で新型コロナウイルス感染防止対策についても十分協議して支援活動を行っている。
- 事業の成果  
「地域のボランティアの支援で教職員の負担が減り子どもに関わる時間が増えた。」（小学校教職員の声）。「遅刻がほとんどなくなった。」「生徒が地域のボランティア活動へ積極的に参加するようになった。」（中学校長の声）。「学校に入りやすくなった。」「以前に比べ子供たちが落ち着いて授業を受けている。」（ボランティアの声）。  
各校「支援の会」においては少しずつ保護者の会員も増えている。  
コロナ禍でも3校のボランティアのべ活動人員は約6,000人超が見込まれている。  
特に下校見守り活動が充実し、不審者の減少や運転者の交通マナーも向上した。
- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
  - ・各校「支援の会」のリーダーの発掘、自主運営化、支援の輪を広げ持続可能な体制を構築していくこと。
  - ・関係の団体や機関・施設等との連携を進め、小中学生の体験活動や地域貢献活動の場を広げていくこと。
  - ・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を広げる地域総がかりの子育てにつなげること。
- その他（学校運営協議会との協働等）
  - ・各校の「支援の会」の世話人に「各学校運営協議会委員2名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。
- コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
  - 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学年主任）



【学校地域合同防災訓練の様子】



【北小地域学校協働活動の様子】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 地域とともにある学校・子ども応援団

東近江市	活動名 : 玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：26人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○生活科（1年・2年）「サツマイモを育てよう」

ボランティアの方が、畝づくりや苗植え、マルチシート張りを協力してくださり、1、2年の児童はボランティアの方のアドバイスを受けながら、苗植えや収穫の体験学習をすることができた。学校でサツマイモを試食することはできなかったが、収穫したサツマイモを題材とした絵を描いたり、家庭での試食の様子を日記に書いたり学習の中で活用することができた。

#### ○社会科・理科・総合的な学習（3年・4年・5年・6年）

##### ・3年「校区探検」：自分たちの町の事を知ろう

総合的な学習の時間に、東は大森町・瓜生津、西は下二俣、南は大森神社や大森城址など自分たちの校区の様子を歩いて見学した。実際に見て回る中で、玉緒小校区にはたくさんの神社やお寺があることや、土器の牧場では、たくさん牛のお世話をしていることなどを知り、自分たちが住む町を今まで以上に大切に思う気持ちが育った。

##### ・4年「里山体験学習」：里山と人をつなごう大作戦

地域にある大森町の里山広場に出かけ、自然の中での薪割りや、切った木や木の枝を集めて秘密基地づくり等をした。まちづくり協議会の皆さんに丁寧に指導していただき、学校の中だけでは出来ない貴重な体験学習ができた。

##### ・5年「たんぼの学習」

農業委員さんや、地主さんの協力を得て田植えや、稲刈り、脱穀の体験学習をした。その後お世話になった方々を招いて「たんぼのご感謝祭」を開催し、米作りについて学習した成果を発表した。

##### ・6年「キャリア教育」

6年生は、将来就きたい仕事をされている方をお招きし、仕事の内容だけでなく仕事に対する思いや姿勢、その職業に至った経緯等についても教えていただいた。自分たちで調べたことだけでなく生の声を聞くことにより、自分の将来への思いをより具体的にイメージすることができた。

#### ○その他 ・図書室の環境整備 ・ミシンの点検作業（随時） ・登下校の見守り（毎日）

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染症予防を考慮しながら実践してきた昨年度までの取組をもとに、現状で可能な限りコロナ禍前の取組ができるように、可能な時期や内容についてボランティアの方とも共通理解して実施した。

### ■ 事業の成果

・ボランティアの方との打ち合わせでは、学習のねらいやご指導いただくポイントを確かめるだけでなく、児童の思いや提案等も伝え、主体的な学習になるように打ち合わせをした。その結果、児童が発信したり、ボランティアの方と話し合ったり協働したりするような学習を実現することができた。

・回数を重ねるごとにボランティアさん同士も顔見知りになり、お互いに意見を出し合ってくださいの姿があった。コロナ禍の中では、参加していただけるボランティアの方の数が減るのは当然であると思う。その中でも、学校でできる最大限の活動の実現にご協力いただき、本当にありがたく感じている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度の取組を見直し、来年度以降も実現可能な活動を検討した上で、地域コーディネーターさんをはじめ、協力いただくボランティアの方に、早い段階でお知らせできるようにしていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

玉緒小学校HP <http://www2.higashiomi.ed.jp/tamasho/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（学級担任）



【3年お茶工場での見学の様子】



【6年ゲストティーチャーを招きお話を聞く】

「必要な時に必要な支援を」を合言葉に、今後につながる継続した支援活動を！

東近江市	活動名：御園小学校地域学校協働本部	御園小学校 学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 外国人児童へのサポート活動

外国籍児童が全体のおよそ一割程度在籍しており、日本語指導教室（ひまわり学級）に通級している児童を中心に、基本的な会話や読み書きについて学習支援を行っていただいている。日本での生活の充実や学習内容が深まっていくよう、日本語の学習を中心に定期的にサポートをお願いしている。当面の間、感染症対策のため活動を中止している。



【 3年総合学習 御園まちじまん 】

② 学校行事支援・学習支援活動

高学年家庭科でのソーイングの活動補助、3年総合学習のゲストティーチャーなど、多岐にわたって支援を受けている。またマラソン大会に向けての試走練習や大会当日の安全見守り活動では、保護者の協力を得ることができ、子どもたちにとって安全で満足のある活動となった。



【 5年生 家庭科での学習 】

③ 読書活動支援（読み聞かせボランティア）

長年にわたって本校の読み聞かせボランティアとして活動されている団体に、定期的に各教室で読み聞かせ活動を行っていただいている。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

本校では、「必要な時に必要な支援を！」を合言葉に事業を進めてきている。推進員が学校のニーズを的確に把握し、それに応じて人材を発掘していただいて支援を受けている形をとっている。コロナ禍での工夫としては、マスクの着用や手指の消毒に協力をいただくなどして、感染症予防に努めた。

■ 事業の成果

推進員の交代により、従前の活動のほかに新規の取組にも挑戦しようと積極的に活動が進められている。ボランティア活動を通して、学校の様子を地域の方々に知っていただけるよい機会となり、地域とのかかわりの大切さを感じられた。ボランティアの協力により、支援の必要な児童へのサポートに回ることができ、子どもたちにとって充実した学びとなる取組となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今まで築き上げてきた地域ボランティアさんとの関係を切らせることなく、今後も地域との絆を深めていけるように働きかけていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

お問い合わせ

東近江市立御園小学校 ホームページアドレス

<http://www2.higashiomori.ed.jp/misonosho/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

輝け南っ子！！ ～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～

東近江市	活動名：八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 畑の先生による特別支援学級での植え付け作業（じゃがいも、さつまいも、大根）収穫
- (2) 芝生化されたグラウンドでの芝生刈りや水やり、施肥などのお世話
- (3) 南小学校読み語りグループによるスキルタイムでの読み語り
- (4) 大風保存会による大風作りの指導
- (5) 図書室壁面の飾り製作、飾り付け

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・特別支援学級の畑では、地域の方が先にうねを作ったり、マルチをかけて植える準備をしてくださったりすることで、スムーズな植え付け作業ができた。
- ・図書壁面では、図書室で作業を行っていたため、休み時間などは児童が興味をもって側にきてくれていたが、密を避けるため、会議室などの別室で作業をし、児童との動線も重ならないように工夫した。
- ・読み語りでは、ボランティアと児童との間隔を空けるために、自分の席に座り静かに聞くようにした。



【 特別支援学級 畑の学習 】

■ 事業の成果

- ・定期的な芝刈りなど適切な管理がされることで、常に快適な状態で授業が行われる。また、休み時間や放課後などにも子どもたちの生き生きと活動する姿が見られる。
- ・季節感あふれる壁面飾りにより、図書室に対する子どもたちの関心がさらに高まった。
- ・特別支援学級の子ども達が、畑の先生に対してお手紙や芋のツルで作ったリースのお礼や、感謝のお手紙を渡すなどつながりを深めている。



【 大風保存会と6年生大風あげ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・大風など、地域の皆様と協力しながら、徐々にではあるが、行事が実施できている。
- ・コロナ禍の続く中、どのような方策をとりながら行事を進めていくか、関係機関と相談しながら活動再開に向けて取り組んでいきたい。（市陸上記録会の指導や、地域学習、昔の暮らし、昔のあそびなど）

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・南部まちづくり協議会と連携しており、スムーズな活動ができている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域とともに歩む箕作小学校

東近江市	活動名：箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校	学校運営協議会	： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：平成 26 年度 地域学校協働活動推進員数：1人 ボランティア登録数：103人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### 学習支援

- ・全校 読み語り活動（通年）
- ・全校 花や野菜の栽培活動「畑の先生」（通年）
- ・1年 昔のあそびについて
- ・2年 町たんけん（太郎坊山・八日市図書館等）
- ・3年 町たんけん（御代参街道・くすのき・公共施設訪問等）
- ・3年 総合的な学習「ピオトープ環境学習」
- ・3年 社会科「昔の暮らしについて」
- ・4年 地域に伝わる伝統行事（大風・江州音頭）
- ・5年 田んぼの学習（田植え・生き物観察・稲刈り・脱穀・学習発表会）
- ・6年 総合的な学習「大風づくり」
- ・6年 総合的な学習「キャリア教育」
- ・5、6年 家庭科調理実習・ミシン実習補助

#### 学校行事支援、子どもの安全確保、見守り

- ・スクールガード活動支援、体育行事準備支援

#### 学校周辺環境整備

- ・グラウンド芝刈りや施肥作業、前庭や校地内の剪定作業



【 環境学習 】



【 ミシン実習 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、活動前後の手洗いや消毒はもちろんのこと、密を避けるために、クラスごとに活動時間をずらすなどの工夫をした。
- ・各学年の学習のねらいや取組のテーマ“見て・聞いて・やってみる”をモットーにした学習活動について、地域学校協働活動推進員が教職員との打ち合わせを綿密に行い、適切な支援活動がなされるように努めた。
- ・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個々に幅広く声をかけた。
- ・学校と地域、ボランティアの三者が、共に安心感と親近感、信頼感を持てるように、綿密な連携を行った。

### ■ 事業の成果

- ・地域の方々の専門性や技能を生かした支援、安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開できた。
- ・地域の方から学んでいる子どもの姿から、地域の方との連携の大切さを感じた。
- ・自分たちの住む町を学習する中で地域に対する関心が高まり、地域の一員としての自覚や地域への親近感が高まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今後も、「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆がさらに深まり、活動が充実したものにしていきたい。同じ活動であっても、子どもの実態に合わせた工夫の余地がある。めあてをしっかりと意識して取り組み、教職員と地域学校協働活動推進員との連携を密にしていくことが大切である。
- ・子どもたち、多くの地域の方から学び、その関わりからより確かな人格形成が築けるように、学校から地域への広報活動も重要である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 全教職員 ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員、教頭 ）

## 地域とつながり、地域とともに子どもを育てる学校づくり

東近江市	活動名：八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：10人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 6年生「夢訪問」  
理容師や助産師、カフェの店員など地域におられるさまざまな職業の方をゲストティーチャーとして招き、仕事の様子や自分がその仕事を選んだわけなどを伺った。
- ・ 5年 田植えや稲刈りなどの指導
- ・ 4年 竹細工などの実習補助



【 6年 夢訪問 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ 依然としてコロナ禍であるため、換気などには十分気をつけながら活動を行っている。体育館で行うなど、できるだけ広い場所を確保している。

### ■ 事業の成果

- ・ 6年生の「夢訪問」で、子どもたちは、仕事の道具を見せていただいたり、実演しておられる様子を見たりして、大変興味深く学習に取り組めた。マネキンを使って理容師体験もさせていただき、将来の職業に対する夢を膨らませることができた。
- ・ マラソン大会など、地域の方が見守ってくださっているおかげで、安心して大会の運営ができています。と同時に、声援が、子どもたちへの大きな励ましになっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 以前は、読書ボランティアの方がおられたが、コロナ禍ということもあり、一旦活動を休止しておられた。結局、読書ボランティアの後継者が見つからないということもあり、読書ボランティアは解散という形になっている。本校の教育活動の重点のひとつに、読書活動の推進を挙げているので、大変残念に思っている。
- ・ 6年生の「夢訪問」については、毎年ゲストティーチャーをお願いしている方もあり、毎年恒例行事として定着しつつあるが、十分に謝礼を払うことができず、材料費などで負担をかけてしまうこともあり心苦しく感じている。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ コロナ禍以前は、どの学年も地域の人にゲストティーチャーとして来ていただき、様々なことを学ぶ機会があった。徐々にコロナ禍前の活動に戻ってきているので、次年度は積極的に地域の力を生かした教育活動を展開していきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）



「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	活動名：八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：260人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[ ]		

Ⅲ 地域学校協働本部の実践事例

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他 ( )

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

「緊急事態宣言」や「まん延防止」など全国的に大きな行動制限があった令和3年度に比べ、制限が緩和された今年度は、基本的な感染症予防対策を講じた上で、学校ボランティア等の協力を得ながら地域学校協働活動を推進することができた。

今年度とくに力を入れたのは、6年生の総合的な学習の時間の取組の一つである、郷土の歴史学習である。万葉集の代表歌の一つとして「あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る」という額田王(ぬかたのおおきみ)の和歌があるが、その舞台となった蒲生野に本校校区も含まれるとされている。そのため、校区には歴史遺産がたくさんあり、歴史に詳しい地域住民もたくさんいる。

そこで、地域の歴史に詳しい方をゲストティーチャーに招き、実際に現地を案内してもらいながら歴史学習に取り組んだ。

6月22日(水)午前中、瓶割山(かめわりやま)を中心に歴史学習を行った。瓶割山には古墳や柴田勝家ゆかりの瓶割山城跡がある。地域住民の信仰が篤い御澤神社(おさわじんじゃ)で講話を聞いた後、登山を開始した。城跡の山ということもあり険しい登山となったが、歴史にふれながら登りきることができた。

7月14日(木)午前中、市辺押磐皇子(いちのべおしわのみこ)の墓とされる墓所で歴史学習を行った。この墓は宮内庁が管理している。ここでも子どもたちはゲストティーチャーの講話をしっかりと聞き、古代の歴史に思いを馳せながら歴史学習に取り組むことができた。

コロナ禍とタブレットPCの個人配備により教室で画像をとおしての学習が多くなる中、やはり実際に見ることや実地での体験、ゲストティーチャーとのふれあいは大事だと感じた活動であった。



【 瓶割山登山 】



【 市辺押磐皇子墓の見学 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・地域学校協働活動推進員と連携し、年度当初に年間をとおしてどのような支援が必要か検討しておく。学級担任等との打合せで詳しい内容について検討し、学校ボランティアがスムーズに学習支援が行えるようにしている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のガイドラインに則り、3密を避け、マスクの着用や事前の健康観察・検温を徹底し、児童と教職員や学校ボランティアが安心して活動できるよう配慮した。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働活動推進員と学級担任等との打合せを十分に行ったことにより、学校ボランティアから有効な支援を受けることができた。
- ・昨年度と同様のコロナ禍の中、これまでに比べ学校ボランティアに支援いただける機会は減ったが、児童にとっては地域の方とふれ合ったり、地域の方から学んだりする貴重な機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校ボランティアの高齢化や感染症防止対策等を考慮しつつ活動を充実させるためにも、学校から地域学校協働活動についての理解を図るような発信をしていく必要がある。
- ・学校を支援してもらっただけでなく、今後は地域の行事やボランティア活動への児童の参加など、双方向の取組も考えていく必要がある。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学級担任等)

報告書記入者 ( 教頭 )

## 地域の力を学校へ！ ともにあゆむ「布引っ子応援団」

東近江市	活動名：布引小学校地域学校協働本部	布引小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：55人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

通年 ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、スクールガード活動支援、教育環境整備

4～5月 5年「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え

6月 5年「田んぼの学校」田んぼの生物観察学習補助

6～7月 3年「まちたんけん」講師・郷土学習の補助

8～9月 5年「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業

11月 3年消防署見学引率補助

11月 マラソン大会 マラソンコースにて監視補助

11月 5年「田んぼの学校」まとめ学習発表会

11月 6年防災学習 講師

12月 布引っ子イルミネーション点灯（メタセコイヤ飾りつけ）

1月 6年キャリア教育 地域の先輩に学ぶ

1月 1年昔の遊び体験



【 3年 まちたんけん 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域学校協働活動推進員の出勤日（基本 木曜日）を固定することで、教員との円滑な打合せを進めることができた。

○学校だよりやHP等で、地域と学校が連携・協働している事例を取りあげて保護者や地域へ周知を行った。

○コロナ禍の中での実施になるので、検温や体調の記入、アルコール消毒やマスク着用などの感染対策をお願いした。

○地域学校協働活動推進員と教職員が密に連絡を取り合うことで、必要に応じて学習支援や監視補助など、随時対応してもらうことができた。

### ■ 事業の成果

校外学習や地域学習の相談をすることで、教材の発掘や講師の依頼など状況に応じた対応をしていただき、読書活動や郷土学習、キャリア学習等、充実した学習ができた。地域にも学校ボランティア活動が周知されており、地域学校協働活動推進員を通して学校からの要望に多数応えていただいた。

また校内マラソン大会では、本番だけでなく練習時からコースの見守りをしていただき、大変ありがたかった。学校教育環境整備にも毎年ご尽力いただいている。本年度も掲示板や棚の制作など、教職員や子どもたちにとって過ごしやすい学習環境を整えてくださっている。さらに、今年度も「子どもたちや地域に明日への希望の灯を」をコンセプトに地域企業やボランティアの協力を得て、校庭に大規模なイルミネーション点灯を実施した。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○支援ボランティアの継続性のために名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実にを行う。

○広い校地の学習環境の整備のため、引き続き施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。

○地域学校協働本部の活動について地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。



【 6年 防災学習 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等） 特になし

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり

東近江市	活動名：市原小学校地域学校協働本部	市原小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：約80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業（地域農家見学、しめ縄づくり、和楽器鑑賞、江州音頭体験、マラソン大会見守り、昔遊び交流、豆腐づくり等）
- ・お花のボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備（通年の活動）
- ・「絵手紙教室（講師は地域の方）」を年1回、お楽しみ昼休み企画を実施
- ・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境 読み語り 創作クラフト 読書祭り等のイベントなど）
- ・漢字検定の実施（7月、2月）児童のみならず、地域、教員・保護者の方からも募集

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・毎月1回、ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
- ・ぬくもり（ふれあい・手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
- ・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
- ・児童に豊かな情操が育つように、季節感や彩のある世界、相手意識を持たせた活動内容を提案する。
- ・保護者連絡アプリを利用し教育活動の見える化を行う。

### ■ 事業の成果

- ・人と仲良く過ごすことを大事にし、学校は多様な学びの場であることを知っている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
- ・保護者連絡アプリの更新を頻繁に行うことにより保護者・地域住民へ情報を提供し、協力を得ている。
- ・制限のある活動であっても、地域の人と児童の絆が深まり、学校全体に明るい笑顔と活気が感じられる。
- ・自然に生まれるあいさつや、心のこもった会話が出来る。
- ・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいOJTとなっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

#### ○課題

- ・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。
- ・各活動の前には、学校と地域が、目標の共有化を図る必要がある。
- ・事前事後の取組をおろそかにしない。コロナ禍の対策は常に考えておく。
- ・全校マラソン大会の安全な運営（スクールガードによる見守り活動7年目）

#### ○工夫や展望

- ・保護者連絡アプリや広報紙等で、地域連携事業の周知の徹底をさらに図っていく。
- ・地域の声を学校が聞くことができる場の実現。
- ・公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」
- ・学校と地域が共に成長していく活動になるよう、熟議を重ねる。



【 5年生 しめ縄作り体験 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会 設置なし

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 市原小学校地域学校協働本部長 ）

～地域の自然・人材を生かし、主体が起きて学ぶ山小っ子を目指して～

東近江市	活動名：山上小学校地域学校協働本部	山上小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：24人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【3年生 総合的な学習の時間（親子活動）「森っ子スクール」】

地域の木材製板や枝等を使いネームプレートを作った。山上小学校振興会と相谷町里山会から多くの方がボランティアとして指導に関わってくださった。日頃できない体験だったが、楽しく充実した活動になった。

【4年生 総合的な学習の時間「地域学習：千種街道を歩く」】

校区にある伊勢（現三重県）まで続く千種街道を歴史に詳しいボランティアさん達に案内していただきながら歩いた。針葉樹や広葉樹が豊かに育つ山中を気持ちよく歩く体験ができた。市原小学校との交流もあり、またやまのこ学習とのつながりの上でも充実した学習となった。

【6年生 総合的な学習の時間 国語科 地域学習】

校区で数年前に日本最古級の土偶が発掘された。その活動の中心となられた学芸員さんに、発掘当時の様子やその価値等について話していただき認識を高めた。

国語科で地域の魅力発信の学習があった。今回地域で、活躍されている2名（校

区内で6次産業化で成功された方、行政職をやめ、地域の自然や人材を生かすために起業した人）のお話をしていただいた。また、子供たちのニーズを聞きながら、繋ぎたい人を選び関わりが持てるようにした。（木地師、子供たちの遊び場を企画している人、特産物を生産販売している人・・・）



【6年生 地域学習の様子】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

【4年生 総合的な学習の時間「地域学習：千種街道を歩く」】

○肢体不自由学級児童の参加について協議し、車いすで行ける範囲で森林浴を味わった。また、地域教材の副読本に記載してある場所の見学も行い、内容を充実できるようにした。

【6年生 総合的な学習の時間 国語 地域学習】

○お話していただく方に、子どもたちの学習について詳しく伝え、子どもたちが主体的に考えるきっかけになるように配慮していただいた。パワーポイント資料など、聞きやすい環境作りにも配慮した。

○授業に何度も参加し、コーディネーターの立場で支援できることを担任と協議しながら行った。

■ 事業の成果

○地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、意欲的・主体的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感の伴った理解や、追及していくきっかけを見つけることができた。

○学習の中心がパソコンの調べ学習からインタビューや紙面アンケート等に変わり、学習内容の幅が広がった。

○地域の自然環境や人材を活用し、学校教育活動の中に地域の力を生かす機会が増えた。

○ボランティアの方々の経験や知識を生かした活動を展開していくことで、その方々にとっても自分を生かす場となり、活発な地域づくりにつながる活動になった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動の工夫や展望

○地域の優れた人材をどのように学校教育と結び付けていったらいいのか、地域に出ていくことで学習の質が向上する内容ほどのようなものがあるのかアンテナを張っていかないとけない。

○ボランティアの方の高齢化を考え、常に新たな人を見つける工夫をしていく必要がある。

○今までの取り組みで満足せず、他校の優れた実践を本校で生かせないか考え試行していくことが大事である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

山上小学校HP：http://www2.higashiomori.ed.jp/yamasho/

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

## 地域の方に支えられて、地域に学ぶ

東近江市	活動名：五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：46人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・家庭教育支援員の活動 ・夏休み勉強会 ・引き渡し訓練 ・円卓会議 ・子育てサロン ・おさがりおゆずり会

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）学習支援

- ・生け花、和太鼓などを使ったクラブ活動における支援を行う。
- ・ミシンを使った家庭科実習の支援を行う。（6年）

#### （2）学校行事支援、子どもの安全確保、見守り

- ・まちたんけん（2年）、校区探検（3年）や地域環境学習（4年）、の校外学習等の引率補助、交通安全見守り。
- ・登下校時の見守りや引率活動、挨拶運動。

#### （3）学校周辺環境整備

- ・校地内、中庭等の植木剪定、樹木の下回り整備作業等
- ・校地内花壇の除草、整備作業当



【 てんびんクラブ（生け花） 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・まちたんけんや校区探検の実施時には、グループに分けて出発時間を変えたり探検ルートをずらしたりして、できる限り人数が分散するようにした。
- ・スムーズな実施のため、ボランティアやコーディネーターの方との打ち合わせの時間を確保した。

### ■ 事業の成果

- ・地域に残る歴史的な建物を目の前にして、町並み保存会や近江商人屋敷の方に直接お話を聞くことができ、より地域に誇りや愛着を持つことができた。
- ・コロナ禍ではあるが、できることを少しでも増やしたいという思いで、読み語り活動やミシン学習の支援を再開。子どもたちは、地域の方とふれあい、たくさん学びを得ることができた。



【 2年まちたんけん 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・感染症のため、何年か続いていた裁縫支援や、福祉施設の訪問、地域のサロンとの交流といった活動を今年も中止せざるをえなかった。次年度は何らかの方法で再開できるよう方策を探りたい。
- ・学校の教育方針を学校運営協議会と共有し、ねらいにあった取組を展開できた。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ 教務主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域とつながる学校づくり「みんなで育てよう 愛東南の子どもたち」

東近江市	活動名：愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：28人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 体験活動：（1年）昔遊び（けん玉、折り紙、あやとり等）の指導と支援  
 （2年）菜の花栽培（種まき、世話）の指導と支援  
 （5年）米づくり（田植え、稲刈り、脱穀）の指導と補助
- 地域学習：（2年）町たんけん  
 （3年）ブドウ、イチゴ、ナシ、いちじく農家さんへの見学  
 （4年）地域教材（鯉江井）の見学と解説、地域の神社の祭りの解説  
 （6年）愛東の歴史（城址）見学と解説
- 学習支援：（5年）家庭科でのソーイング実習・ミシン実習補助
- 全校読書活動：ボランティア「ブックんの会」による読み聞かせ、お話の会
- 安全見守り活動：登下校やマラソン大会等で危険箇所の安全見守り、交通安全教室での指導
- 環境整備：校地内の環境整備



【 4年 井の見学 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 検温や手指消毒、室内活動でのマスク着用を実施した。
- 地域学校協働活動推進委員と教職員が打ち合わせをする時間を設定し、学校支援の年間の見通しを共通理解できるようにした。
- 学校側のニーズを地域学校協働活動推進委員にしっかり伝え、人材の掘り起こしをしてもらった。
- 学校だよりや学年だよりで、ボランティアさんの活動の様子などを紹介した。



【 交通安全教室 横断歩道の歩き方 】

### ■ 事業の成果

- ボランティアグループ「ブックんの会」による読み聞かせは、継続的に続いてい【交通安全教室 横断歩道の歩き方】  
 ることで、子ども達の読書の習慣化や質の向上につながっている。また今年度は、  
 低学年と高学年に分かれて「お話の会」を実施していただき、より読書に対する意識の向上につながった。
- 地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域の人から学ぶ活動を通して、郷土愛の育成につながっている。子ども達は、学んだことや考えたこと、実践したことをまとめ、11月の「くすのきまつり」で、保護者や地域の方々、招待したゲストティーチャーの方々に発表することができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 登録の名簿を年度ごとに見直し、異動等で教職員がかわっても、継続的に地域との連携がとれるような体制づくりが必要である。
- 地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させ、新たなボランティアの人材の掘り起こしを進める。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（担任）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	活動名：愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：35人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ① 読み語り活動

本校では、読書ボランティアの方によって行っています。全学年を対象にした読み語り、毎月1回、朝の始業前に、また、低学年対象のものが月2回程度、下校前にあります。子どもたちは、ボランティアの方による読み語りの日を心待ちにしており、朝、当番が控え室に迎えに来ます。本や絵本や紙芝居など、工夫した読み語りをしていただいています。読み語りの後、ボランティアの方々で交流の時間を持ち、お互いの工夫などを学び合い、常に良いものにしていただいています。



【 全校読み聞かせ 】

#### ② 5年生「たんぼのこ」体験学習

本校は、NPO法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の方々の協力を得て、「たんぼのこ」の学習が進められています。

農村地域の本校児童であっても、最近では農業体験が少なくなっている中、この体験は貴重な学習の場となっています。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を観察する学習を通して、米作りの苦勞と喜びを味わうことができました。お米の収穫後には、「感謝の集い」を開き、ご協力いただいたボランティアの方を招いて学習の成果を発表し、収穫の喜びと感謝の気持ちを実感する機会を持ちました。



【 たんぼのこ・田植え 】

泥だらけになった田植えや上手に鎌が使えた稲刈りなど、よい体験ができました。

#### ③ 3年生の町探検学習への支援・補助

社会科の学習として、自分たちの住む地域を知る町探検に出かけます。学級担任だけでは十分な指導が行き届きにくく、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要です。そこで、ボランティアさんを募り、地域の歴史をよく知る方が協力していただき、それぞれの場所で歴史的側面から地域の成り立ちなどについて学習ができました。子どもたちとボランティアさんとで和やかな交流ができ、子どもたちの充実した顔を伺えました。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 関わっていただく地域の方々と学校との、お互いの負担にならない適度な距離感を保つように努めています。
- 学校への地域住民の関心や思いが高まるよう、ボランティアの人数が増えるように努めています。
- 今年度もコロナ感染拡大防止の観点から、読書ボランティアさんにご協力いただき、検温、体調管理、手指消毒、マスク着用、アクリル板の設置等の対策を講じて実施しました。

### ■ 事業の成果

- ボランティアの支援により児童の学習効果が上がり、学習への励みになっている。
- 子どもたちと交流する中で、学校に対する理解が深まり支援の輪が広がっているように思われる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 子どもたちの学習を充実するため、学校職員と地域コーディネーターの連携を、さらに密にするよう努めます。
- 地域人材を効果的に学校教育につなげるために、地域の情報収集を図るためアンテナを高くして取り組みます。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 当本部では、学校の依頼に対し、情報などを集約的に持つておられる所への協力依頼を第一歩としています。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## 「まちの未来をえがこう！」地域と共に考える子供たち

東近江市	活動名：湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印		
開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人		
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）	□地域行事への参加	■学びによるまちづくり
■郷土学習	□その他 [ ]	□ボランティア・体験活動

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

6年生の学習（国語・総合的な学習の時間）「まちの未来をえがこう」で、子どもたちが将来のまちの主人公として、主体的にかつ現実的にまちづくりを考えられるように地域の人材を招聘し学習支援をした。

まず、市役所の地域職員には、少子高齢化で人口減と高齢化社会が迫っている現状を説明してもらい、地域の歴史についても専門家から講義を受けた。さらに、まちづくり協議会のスタッフには、町が発展するために人が集まるための工夫や取り組み、交通機関が必要なることを話してもらった。そして、地元にあるびわこリハビリテーション専門職大学の先生、地域で活躍する熱気球クラブや営農組合のリーダーにも将来への展望や可能性を秘めて現状を語ってもらった。

子どもたちは地域に対する理解と今後の可能性を理解した上で学習に入っていった。

### ■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学習に先じて、子どもたちが自分の住んでいる地域をより深く理解してもらうために、湖東地区3小学校の希望者を対象に現地学習会を夏休みに行った。見学は扇状地に広がった田園を支えてきた水路「井（ゆ）」や勝堂古墳群等の歴史的遺構、現在の湖東地域の産業を支える住宅メーカーや中企業ながら世界的な技術を持つ電子機器メーカー、運輸会社の交通安全研修所など特殊な技術で特徴をもつ企業を巡った。加えて西堀栄三郎記念探検の殿堂ではロボットプログラミングの体験学習も行った。

### ■ 事業の成果

子どもたちは各方面から情報を得て、①農業を生かしたまちづくり、②昔の湖東銀座（町のミニ商店街）を再生、③田園を生かした気球のまち、という3つの方向でまちの人口を増やす方法はないかと考え始め、自分たちのまち「湖東地区の未来を！」とそれぞれのグループが胸を膨らませ取り組んでいる。また出来上がった「まちの未来のプレゼン発表」は学習成果として5年生に伝達し、次年度に繋げようとしている。加えてこの学習で情報提供をしてもらった方々へも協力のお礼を兼ねてまちづくりの提案をしようとする外部発信型の意欲的な学習となっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

この学習を深めるためには、地域の特徴や歴史をより知っていることが求められる。その意味で6年間の学習集大成でもあり、低学年生活科のまち歩きや、中学年社会科の町探検や昔の暮らしの学習、5年生社会科での農工業の学習そして6年の歴史学習が地元とのつながりで捉えられていることがいっそう求められ、それぞれの教科学習との関連づけを強めたい。

一方で地元理解を深めるために、今年度は希望者を募って現地学習会を地域コーディネーターとして加わるまち協育て支援プロジェクトの主催で行った。学校教育の枠内では移動手段や時間的問題で制約があるため実施困難な部分を補おうとするもので、今後さらに参加者を増やし充実させていきたい。

まちの未来を子どもたち自身が考えがくことは、このまちの将来を担う子どもを育てることだと考えている。少子高齢化で過疎化が現実に進む中で、子どもたちが考えたことが一つでも実現し、まちの未来につながるように関連機関とも連携を図りたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

湖東中学校区の地域コーディネーターが連携して、この6年生の学習を中心に、情報の共有や具体的支援の検討を行った。一人のコーディネーターでは難しいことも協力して進められ、なおかつ同一中学校区での連携で中学進学後の学習の発展にも繋げた取り組みとなる。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（湖東中学校区内の地域コーディネーター）



【びわこリハビリ専門大学の講師】



【住宅メーカーの大送風機見学】

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



## 地域で育てよう！ いきいき湖二っ子

東近江市	活動名：湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員：1人（兼務1人） ボランティア登録数：38人 ■学習支援員を配置した学習支援 ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによる町づくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔 〕		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ①読み聞かせボランティア（ボンぼんの会）

10年以上継続している取組であり、毎月第2・第4火曜日の朝読書の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。紙芝居による読み聞かせや季節に応じた選書を工夫していただき、子どもたちは大変楽しみにしている。また、ボランティアの方の交流の場を持ち、読み聞かせのあり方や取り組みへの思いについて意見交流を行った。



【 3年生地域のお仕事体験 】

#### ②総合的な学習や生活科での地域学習

「ふるさと学習」として、地域の特色ある場所や偉人、働く人などについてお話をしていたり、見学に行ったりさせていただいた。また、地域の方に出勤授業でお話をいただいている。児童はこの学習で学んだことを、11月の「湖二っ子フェスティバル」で他学年の児童や保護者に向けて発表をした。

#### ③学習支援ボランティア

音楽会に向けて、器楽演奏の支援や合唱のピアノ伴奏を協力いただいた。また、低学年の計算（たし算、ひき算、九九）の定着のための計算ボランティアや家庭科のミシンを使った裁縫の支援ボランティアを地域の方に呼びかけ、協力いただいた。

#### ④スクールガード

今年度は40名の方に登録いただき児童の登下校の見守りをお願いしている。毎日当番制で下校の見守りをしてくださる地域もある。

#### ⑤夏休み宿題教室

長期休業中の学習支援として、平成29年から宿題教室を実施している。地域の社会人や大学生、高校生に協力を得て、学習支援を行う。



【 音楽ボランティアによる器楽指導 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ボランティアの方には、手指消毒、検温等を協力いただき、少人数の学習グループにする等、接触が密にならないようにした。
- ・地域の感染レベルに応じて、読み聞かせ等の回数を制限する。

### ■ 事業の成果

#### ①学習支援ボランティア

- ・保護者、地域の学校理解が深まり、学校・地域相互の様子についても交流をすることができ、開かれた学校づくりの一端となっている。
- ・子どもに直接かわっていただくことで、安心感と学習意欲が高まっており、保護者の喜ぶ声も聞かれた。
- ・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

#### ②ゲストティーチャー

- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
- ・学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。地域の方も、子どもたちに少しでもふるさとのことを学んでもらおうと、丁寧に指導してくださっている。

#### ③環境ボランティア

- ・数年来、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアに前庭や校舎周辺を美しく整備していただき、大変ありがたい支援をしていただいている。

#### ④地域とともにある学校づくり

- ・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組んでくださった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域コーディネーターには、ボランティアの方との連絡調整や地域の情報提供をしていただいている。次年度に向けても、地域学習の内容の精選や校外での学習時期の調整など、年間計画を見直し、コーディネーターと共有していく必要がある。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 ■その他（ 教務主任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

**おとなと子どもの「地域発見」「まなび」をつなぐ活動へ**

<b>東近江市</b>	活動名：湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員：1人 ボランティア登録数：29人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによる町づくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) まち協歴史文化プロジェクトと連携して、2年生の生活科「まちたんけん」3年生の社会科「地域学習」において、より広がりや深みを持たせた。コーディネーターも積極的にその方針に参画して、『愛知井を辿る』を意識した「まちたんけん」とした。
- (2) 本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施する等、熱心な取組状況である。昼休みに定期的に発表活動をしている。「朝読書」には、一般の読書ボランティアも巻き込んで、毎月の「読み語り」も実施した。中学校への広がりも見せた。コロナ禍にあって、昼休みの「お話し会」は今年も学年単位で実施するように工夫した。
- (3) 1年生の生活科「秋みつけ」で、今年も「すこやか杜グランドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導等もお世話いただき、今年も深みと広がりのある活動になった。ドンブリもたくさん拾うことができて、満足感も大きい。
- (4) 2年生では、今年も清水芋（里芋）掘りが実現できた。掘り起こした芋は、すべて自分たちが持ち帰るということが、楽しみをさらに深めた。子芋をはがす作業を楽しめた。
- (5) 6年生では、今年も湖東地区小中学校のコーディネーターが互いに連携して、6年生教材「町の未来を考えると」に関して、総合的な学習の時間に発展させる取組を行った。小学校ごとにプレゼン発表を試みた。本校では、『金壽堂』を使わせてもらったプレゼン大会や文化発表会を保護者等に披露することもできた。



【 6年生：金壽堂での学習 】



【 2年生：清水芋掘り 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 子どもたちが地域のよさに気づいて愛着を持てるよう、4年生の学習として、水道事務所へ訪問した折、『愛知井』の箇所に加えて、水源を祐延証長して何度も延長工事で掘削工夫された、『天明井』の現場を訪れた。
- 2年生のまちたんけん体験学習として、今年も、この地の特産である『清水芋（里芋）』掘りの体験ができた。「植える体験」と「掘る体験」を2回に亘って協力していただき、貴重な体験となった。
- 地域コーディネーター通信を、今年度も月刊で発行した。（通算で72号/12月末で）

■ 事業の成果

- 読書ボランティアやその他のボランティア等が、絡みあって複数の活動へと広がりを見せた。
- 担任とコーディネーターが連携することに加え、「まち協」歴史文化プロジェクト・子育て支援PJとの連携も継続した。特に、夏休みの「湖東再発見」「多賀でアケボノソウと天体観測を体験しよう」の広がりも生まれた。
- 1年生の生活科「秋みつけ」では、「湖東地区グランドゴルフ連盟」との連携が、すこやか杜での活動に結びついている。
- 『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなっている。
- 湖東地区のコーディネーターが連携して、6年生の教材「町の未来を考えると（国語科）」を手がかりに、実際の「町作り」への提言を行う等、コミュニティスクールへの連続性が生まれてきた。その一環として、各コーディネーターがゲストティーチャーとしても加わった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- コーディネーターと各担任との連絡調整を行うには、放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検証がさらに必要である。

■ その他

- 「まち協」子育て支援プロジェクトとの連携も模索した。
- 「まち探検」の実施において、『（一社）湖東まちづくり』のバスが利用できる便宜を図ってもらえると、教育効率も高まり、問題意識の定着にも意義があると思われる

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（各担任） 報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

子どもたちにとって安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～

東近江市	活動名：能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：72人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【環境整備】

ボランティアさんからの提案で、校舎内外の環境整備を行っている。例年に引き続き、ミシンのメンテナンスを行った。また、家庭科室使用前の清掃・準備をした。

【学習支援】

図画工作科での電動のこぎりや家庭科でのミシンを使う作業や家庭科の調理実習において学習支援を行った。機械操作や電子調理器を使う作業で多くの人が支援することにより、子どもたちが安全に活動できるようにした。

【ゲストティーチャー】

人から直接学ぶ学習や交流体験学習を大切にしている。6年生では地域の方々に「能登川のいいところパネルディスカッション」をしていただき、探究（総合的な学習の時間）の課題設定の手掛かりとなった。また、能体験学習を行い、地域の方から伝統文化を学んだ。実際に面を見つけてもらったり、目の前で演じてもらったりして、貴重な体験となった。3年生では地域で働く農家の方からお話を直接していただき、自分の住む地域の農業の様子を学ぶことができた。



【 農家さんからのお話 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ禍での子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりに今できることは何かを考えて、できることを少しでもしていくようにした。
- ・年度当初に各学年と打ち合わせを行い、1年間の見通しをもって、計画的に活動できるようにしている。
- ・推進員のネットワークやボランティアさんとのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げるとともに、お互いの交流を大切にしている。



【 能登川パネルディスカッション 】

■ 事業の成果

- ・今年度も、新たに登録して下さったボランティアさんもおり、活発に活動できた。なかなかコロナが流行する前と同じような支援活動はできなかったが、これからはコロナ禍でもできるかかわりを考え、子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをしていきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校がめざす子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。
- ・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。
- ・人から学ぶことを大切に、人とかかわる力・つながる力をつけたい。（教師も）

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして ～能登川西小学校～

東近江市	活動名：能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) ふるさと発見

2年生「町探検」、3年生「校区探検」、5年生「みずっこ調査隊」、6年生「ふるさと発見」において、コーディネーターが担任や児童を支援し、地域の自然や人や歴史を発掘し、資料を提供したり打ち合わせをしたりして主体的な学習の連携をしました。



【 3年生校区探検 】

(2) 園芸ボランティア

コーディネーターが環境ボランティアを募集して、児童とともに、プランターの苗を植えたり、草取りをしたりしました。このように地域と児童の連携による作物を育てたり、花を育てたりする取り組みは大変有意義なものです。

(3) マラソンとさわやかロードボランティア

コーディネーターが立哨ボランティアを募集して、マラソン試走日とマラソン大会で、マラソンコースの安全立哨と応援を依頼しました。沿道に立ってくださり見守り励ましてくださったことで、子どもたちのやる気が高まりました。朝の交通立哨やあいさつ運動での日常的な取組が、子どもたちの安心につながった連携でした。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 1学期末に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配付し学区の方々に理解と協力が得られるようにしました。
- 西小学校区地域教育協議会のネットワークを活用して、さらに支援者を広げる努力をしています。



【 マラソン大会ボランティア 】

■ 事業の成果

- 地域コーディネーターの働きにより、持続可能な、発展が期待できる事業となりました。
- 人との関わりを通して、子どもたちの体験が「ほんもの」の体験になり「感動」の共鳴になり、いろいろな人から認められほめられる場面が増えることで、子どもたちの自尊感情が高まり、ふるさとが好きになり、地域や自分に自信と誇りを持ちました。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- これからも持続可能で発展する取組になるように、丁寧に引き継ぎを行い、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたいと思っております。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（                      教頭 ）

## 地域に感謝 子ども応援隊

東近江市	活動名：能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：158人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1)「猪子山活動」

本校は猪子山の麓にあることから身近な教材として、全学年が年間を通して、下記のねらい（一部抜粋）のもと活動に取り組んでいる。

- ・四季折々の美しさを見せる猪子山に関わることで郷土の自然の豊かさを体感し、身近な自然を愛する態度を養う。
- ・仲間とともに活動することで、思いやりや助け合いの心を養う。
- ・活動を支援してくださっている方々への感謝の気持ちを養う。

活動には、保護者を含め地域のボランティア、外部講師、地域の有識者等、たくさんの方々が関わってくださっている。



【 猪子山活動 】

#### (2)「山路川調査」

本校5年生は、水環境学習の一環としてのひとつとして校区内を流れる山路川の水質および水生生物の観察・調査を行っている。この学習では、地域の環境の現状や環境を保全する人々の工夫や努力を理解し、自分たちにできることを考えていこうとする学習である。活動には、地域ボランティアをはじめ、『琵琶湖お魚探検隊』の方を講師に招いている。



【 山路川調査 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

できる限り活動が密になることを避けるため、本来学年合同で行う活動を、学年を二つに分け実施の日や時間を変えて行った。そのため依頼するボランティアさんの数が増えたが、快く引き受けてくださる方が多くて助かった。

### ■ 事業の成果

コロナ禍により、地域の方とともに活動する機会はここ2年減っているものの、毎週の芝生管理作業や各学年の地域学習への協力・参加、および安全確保に関する取組等をしてくださる地域の方々の姿を見て、子どもたちは感謝の気持ちを深めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化に伴い新規ボランティアの募集、組織の充実。
- ・いかに地域と連携した活動を取り入れ学習効果をあげるか。また、新たな連携・協働の在り方を探っていくこと。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各活動担当）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

**地域と共に歩む学校「くりみのこ」**

<b>東近江市</b>	活動名：能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他（学区地域教育協議会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・1年目のため、今まで行ってきた事業をふまえて、今後どのように連携していけばいいのかを話し合った。
- ・地域と家庭と学校で、どんな子どもを育てていきたいかを共有することが大切であると確認した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・大きながぶLaさんによる読書活動「読み聞かせ」「ちょっと豪華なお話会」
- ・学習ボランティアによる支援「ハウス栽培の整備やノウハウ」「そろばん」「裁縫やミシン」「米作り」
- ・環境ボランティアによる校地内整備「剪定」「草刈り」
- ・安全ボランティアによる見守り「登下校」「マラソン試走やマラソン大会」
- ・学区地域教育協議会、体育振興会、PTAの協力による「くりみフェスタ（縮小版）」開催



【 5年生稲刈り 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・PTA活動と協同し、剪定・除草作業を行った。
- ・また、PTA活動だけでは手に負えない剪定・除草作業も担った。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの顔合わせの場を設けたことで、年間の活動の見通しがもて連携しやすくなった。
- ・多くの方が登録していただいたおかげで、児童の安全確保、役員や職員の負担軽減につながった。



【 ちょっと豪華なお話会 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・さらなる地域人材の活用に向けて、各町から推進員を設けていきたい。
- ・児童の人数の減少に伴い、保護者（PTA）の人数も減る中で、地域の協力が必要不可欠になってくる。そのため話し合いも急務となる。
- ・素早い連絡・応答ができるように、コドモンへの登録への協力を仰ぐ。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・2年目となる来年は、具体的な動きを考えていく。
- ・来年度は、能登川北小学校110周年に向けて、準備を進める。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）  
 ■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（担任・事務）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	活動名：蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：22人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等  
行政 その他（ボランティアグループ三弓会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校が働活動に関わる内容等）

コミュニティスクールを今年度より導入しました。各委員がそれぞれの分野でどのように子どもとかかわっているかを交流し、子どもたちにつけたい力を共通認識できるように進めています。本校の地域学校協働活動の理解が進み、今後協力等につなげていく予定です。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材をいかしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、地域住民ならではの経験をかしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施しています。

マラソン大会の走路の安全管理と立哨は、ボランティアですべて行っており、試走を含めて3回のタイム測定が実施できています。今年度より、畑作りから焼き芋までの支援を行っていただいています。米作りもそうですが、ボランティアさんが準備から後始末まで自主的に活動しています。



【 マラソン大会の立哨 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ渦における工夫・対応等）

平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続しています。「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けています。今年度も学校の方針通り、できるだけ感染症対策をしつつ、子どもたちの体験活動を実施すべく、支援を進めてきました。

毎月定例のボランティア会議では、学校から提案された支援計画をもとにして、参加者等を決めていきます。実施した活動について反省を出し合います。また、2～3か月先を見通して参加者を募っています。今年度は、学校だより等を利用し、ボランティアの参加を募りました。

■ 事業の成果

地域の方々専門性や技能を生かした支援や安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができています。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっています。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能にふれたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができています。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動しています

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっています。

恒例となっている活動への支援については、参加されるボランティアの方々が必要内容をしっかりと把握して参加され、ボランティア会議で振り返りを行い、次年度の活動に生かすという流れができています。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの参加や育成、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題となっています。毎月のボランティア会議への参加は難しいが、できるところで支援したいという方がおられると考えます。広くボランティアを募集できるシステム作りが期待されます。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

今年度より学校運営協議会が立ち上がりました。この活動がさらに発展できるよう、コミュニティセンターやスポーツ少年団、PTA、民生委員児童委員等の地域で活動されている方と連携を深めるいい機会となっています。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）



【 3年生 まちたんけん 】

報告書記入者（ 校長 ）

**蒲生の子は蒲生で守り育てよう。**

東近江市	活動名：蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：33人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 (1)「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。  
 (2)「たんぼの学校」や「総合的な学習の時間」の取り組みでは、学校支援ボランティアに協力してもらい、学習指導をおこなっている。また、地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業をおこない、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）  
 ・2年生の生活科「野菜をそだてよう」では、野菜栽培に詳しい学校支援ボランティアに種まきから収穫までの期間長期にわたってご指導・アドバイスをいただく活動を行っている。  
 ・5年生の家庭科「裁縫・ミシン」の活動では、学校支援ボランティアに補助をしていただき、実技活動の充実を図った。  
 ・読み語りを毎週金曜日の朝学習の時間に、学校司書を合わせた5名体制で、各クラスに実施している。



【 5年 たんぼのこ 感謝祭 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
 ○今年度も学校支援ボランティアを広く地域に募集し、応募いただいた方を中心にボランティア活動を推進した。年度始めにボランティア会議をもち、活動の予定や活動内容の紹介、ボランティア同士の交流を図り、広く学校支援の活動に参加いただける形にした。  
 ○コロナ禍においても感染防止対策を行い、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。

■ 事業の成果  
 ○地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。  
 ○昨今地域での関わりが減っているなか、学校以外の方（地域の大人としての学校支援ボランティア）との関わりが持てる機会として貴重な場となっている。



【 2年 さつまいも収穫 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 ○ボランティアの方の高齢化による負担感があるため、保護者や地域の学生の方へのボランティア募集を継続して行う。  
 ○地域に広くボランティアを公募し、継続して安定的な人材確保に努める。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員  ）



## 地域の文化・歴史・人を知り、ふるさとをもっと好きになろう

東近江市	活動名：蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：41人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

4年生の日野川探検や5年生の田んぼの学校など、地域学習について、子どもたちの様子を報告しながら、自分たちの子どもが通っていた頃の蒲生北小学校を振り返った。

また、昨年度の熟議の中で、「防災」をキーワードに人と地域をつなげたいという意見が出ていたので、今年度は、学校と協力して、万が一の非常変災時に、児童を混乱なく安全に保護者へ引き渡すための「引き渡し訓練」を行った。問題が出てきても、良い経験と捉え、何度も熟議を重ねながら、最適な方法を模索した。

今後の活動につながるものとして、チラシや「いつさと応援隊」の公式LINEの試作版を作成し、実働できるボランティアを積極的に呼びかけていきたいと考えている。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### <ふるさと発見学習>

2年生生活科や3年生社会科の「町たんけん」では地域の公民館やお店、農家に出向き、子どもたちが疑問に思っていることを直接伝えた。児童からの質問にも、丁寧に答えていただけた。また、4年生総合的な学習「日野川探検」では、地域におられる専門的な知識を持たれた方から川の生き物の話をうかがった。

#### <学習支援活動>

5年生「田んぼの学習」や特別支援学級「自立（畑）活動」で、米作りや野菜作りについて、ご指導いただいた。



【 2年生生活科 町たんけん 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方との交流がある場合は、検温の記録や体調のチェック等、互いの体調管理に配慮した。また、マスク＋フェイスシールド着用やパーテーションの設置、手指消毒の励行等で感染予防を図った。

### ■ 事業の成果

子どもたちにとって、地域の方々との触れ合いは、ふるさとに愛着が湧く瞬間である。

また、実際に田んぼに入ったり、川に入ったりして、生物に触れる学習も、とても気づきが多く、貴重な体験だと言える。ただ、机上での学習とは違い、思うようにいかず、時には危険を伴うこともないとは言えない。そんな中、専門的かつ的確な指導助言をいただける方が、身近にいてくださることは、とてもありがたい。



【 5年生田んぼの学校：脱穀 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

屋外に出て活動することが多いので、天候に左右される。ボランティアの方に頼んでおいたのに、お断りしないといけないこともあり、日程を調整し直すこともあった。

本校の校区は、住宅地が多く、年々農家のボランティアの方が減っている。地域人材をどれだけ発掘できるかもまた、今後の課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

コロナ禍で、行事として行うことが難しくなっている「通学合宿」や「防災キャンプ」の取り組みを改めて立ち上げていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（教務主任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## 地域に根ざし、地域と共に育つ学校の創造を目指して

東近江市	活動名：玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：5人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）3年生玉園フェスタにおける八風太鼓の演奏

3年生玉園フェスタ太鼓演奏が伝統となりつつある。本年度小学校から継続して太鼓演奏に取り組んでいる者は途切れたが、地域の先輩方に指導をしていただき、地域文化の良さを実感することができた。このことで、より地域との関係が深まり、地域の先輩とのつながりも深まりつつある。



【 八風太鼓発表風景 】

#### （2）部活動（ソフトテニス）の指導において、地域の方から専門的な技術指導をしていただいている。

#### （3）地域の文化祭に生徒作品を展示し、学校での学習活動の成果を地域の方に見て頂く機会とした。

#### （4）第2学年において、愛東地区の県立平和祈念館スタッフによる地域に根ざした平和学習を展開している。（2月に実施予定。）

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 協働活動推進員や地域のコミュニティーセンターと連携をとり、実施上の留意点等を共有する。
- 校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘につとめる。

### ■ 事業の成果

- 地域コーディネーターを中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏取り組みは、6年目を迎え定着しつつある。本年度、コロナ禍による影響で初めて小学校からの太鼓経験者が途絶えた状態であったが、コーディネーターやボランティアの計画的な取り組みにより、ステージ発表まで仕上げる事ができた。中学校と地域の関わりを実感できる取り組みであった。
- 部活動指導においては、生徒が専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。
- 学校での学習活動を地域の方に見ていただく良い機会となった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- コロナ禍で事業や活動に制限がある中で、新たな事業を展開することに困難さを感じた。
- 「八風太鼓」の取り組みは、生徒自身が自主的に取り組みたいと思える活動で、地域文化の継承・地域の方との交流という意味でも継続発展していく意義はある。
- 太鼓のコーディネーターや、学校の要望に沿った協働活動を協議するコーディネーターの後継者が見当たらない。
- 中学生が自主的に地域のことを学んだり、地域と結びついたりする協働活動が展開できるアイデアを模索したい。



【 地域の文化祭への生徒作品展示 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）

報告書記入者（ 校長 ）

## 学校と地域が一体となって推進する学校づくり

東近江市	活動名：聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：17人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ①図書ボランティアによる読み語りを4月から各学年に定期的に行っていた。
- ②朝の挨拶運動に参加していただいた。
- ③「聖徳中学校の日（聖徳中のルーツを探る）」  
市歴史文化振興課や聖徳中学校区の聖徳太子にゆかりのある寺社から講師を招き、聖徳太子と地域との関り学ぶ。  
聖徳太子の17条憲法になぞらえて、「聖徳中学校 17条の生徒心得」を生徒会が作成し発表。
- ④部活動支援は継続的にしていただいている。



【 聖徳中学校 17条の心得 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ①コロナ禍ではあるが、出来るだけ行事等を実施する方向で進めた。
- ②吹奏楽部も地域（コミセン）等の行事に積極的に参加した。
- ③挨拶運動、読み語りについても、各学年、通常通り実施した。
- ④「聖徳中学校の日」の取組は、校区内の聖徳太子のゆかりの寺社（市神社・瓦屋禅寺・太郎坊宮）と市の歴史文化振興課から講演に来てもらって、母校愛、地域愛（郷土愛）の醸成を図った。

### ■ 事業の成果

- ①読み語りは、継続して実施しているので、年々効果は上がっている。生徒も非常に落ち着いて聞き入っている。
- ②朝の挨拶運動も継続して実施しており、徐々に挨拶をかわせる生徒が増えてきた。
- ③「聖徳中学校の日」の取組は、聖徳中学校の「聖徳」の由来が、戦後、歴史的に聖徳太子とのかかわりがある八日市の地で当時の人々が、聖徳太子のような人物に、中学生になってほしいという願いを込めて名付けられたことを知り、母校愛や郷土愛を育むことが出来た。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ①コミュニティスクールに移行するには、まだまだ課題が多い。
- ②今後、中学校教育が必要とする地域人材を発掘する必要がある。  
徐々に人材を見つけ出していく必要がある。
- ③コロナ感染症が落ち着けば、地域との関りを積極的に推進していきたい。
- ④部活動の地域移行に伴う人材の発掘。



【 読み語り 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

特になし。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（部活顧問・事務職員）

報告書記入者（ 校長 ）

『力いっぱい！心いっぱい！』地域とつながろうプロジェクト ～チーム船岡～

東近江市	活動名：船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：7人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学 校 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＝地域に見守られて＝

(1) 図書室開放隊

本校では毎週月・水・木曜日の昼休みに図書室を開放している。生徒会の担当者が図書室の鍵を解錠・施錠を行っている。そのため、20分間の昼休み内、運営できているのは10分程度である。そこで、地域の力を借りて、図書室の解錠・施錠を行っていただき、運営時間を確保した。

(2) 部活動支援の実施

昨年に引き続き男子女子ソフトテニス部と吹奏楽部、本年度からバドミントン部に対して、技術指導を行っていただいた。

(3) その他

- ・2年生で実施していた職場体験学習が中止となった。そこで、地域の数名（事業所）をゲスト・ティーチャーとし、働くことについて親子で学習を行った。【キャリア学習】
- ・子どもたちだけでは、やりきることができなかった除草作業に対して、地域の方が草刈り機等で作業していただいた。【除草作業】



【 キャリア学習 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- (1) ・コロナ感染を配慮し、現在は、解錠・施錠が中心の動きで、生徒との距離をおいている。今後は、貸し出しなども行い、生徒との交流を予定している。
- ・図書室の担当教員とボランティアさんが、連携を密にすることで、昼休み時間等の変更に対応する。
- (2) ・コロナ感染防止のため、活動日や時間等の変更が多かったため、担当教員との連携を密に行った。



【 除草作業 】

■ 事業の成果

- (1) 昼休み時間20分を有効に活用することができ、開放時間が増えたことで生徒からの喜びの声も多い。
- (2) 競技専門家からの指導は、生徒の部活動に対する取り組み姿勢に向上心をもたせることにつながった。
- (3) 学校だけでの行動・取組よりも、学習内容に深み、高まりがある。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナ禍の中、今年も多く地域交流（祭り、運動会、文化祭など）活動が中止となった。そのため、自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な活動に取り組み、参画することで、「自尊感情の育成」につなげることができなかったことが残念である。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域と学校が協働し、自然豊かな環境の整備を通して、持続可能な環境づくりを推進する。

東近江市	活動名：永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：4人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・生徒数の減少によるPTA会員数の減少に伴い、学校環境の維持が難しくなっている。
- ・校地内の木が大きくなりすぎて、落葉や落木による学校環境への影響が出ている。
- ・役員をしていただく方が高齢化し、新たな人材を見つけることが必要である。
- ・中学生が地域で活躍する場はなくさないようにしないといけない。

校地内環境整備

- 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）のコーディネートによりボランティアを見つけてくださり、グラウンドとテニスコートの間の高木の葉刈をしていただいた。
- ・地域コーディネーターが地域の会合で呼びかけをしてくださり、地域の方がボランティアで学校の除草や葉刈に来てくださった。環境面と安全面でとても助かっている。また、地域の方で自主的に校地まわりの除草作業をしてくださる方がおられ、地域の支援の温かさを感じている。



【 中学生が地域行事の司会 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・窓口を校長が担当し、教頭と連絡を取り合い、職員に連絡をした。
- ・活動の実施に際して、コロナ対策を含め事前の打ち合わせを丁寧に行った。目的の共有や配慮を要すること、当日までの準備等について具体的な打ち合わせをし、トラブルなく行えた。
- ・事務局を通じて、ボランティア登録をした。



【 ボランティアによる除草 】

■ 事業の成果

- ・教職員のみでは技術的に困難なこともボランティアの方の力をお借りしてでき、立ち枯れしていて危険な木や、校舎に接して光を遮ってしまう木等を自前の機械で伐採していただいた。
- ・地域コーディネーターが地域の会合で呼びかけてくださったことで、地域の方に学校が困っていることが気軽に発信でき、また、地域の方から学校に対しての温かい声援があった。地域の方が学校に来られることで、地域に育まれている学校という意識が生徒と職員に育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・天候に左右されることや、ボランティアの方も忙しいことから、日程調整が難しかった。
- ・20年以上前に植えられた木が育って、素人には手が付けられなくなっていることから、今後もボランティアさんの協力を得ながら、10年先を見据えた環境整備を継続する必要がある。技術を持った方が少なくなっている。
- ・生徒数の減少により学校職員の数も減り続けることから、持続可能な環境づくりを考えていかなければならない。
- ・樹木が多すぎて、機械が破損したり、燃料代がかさんだりするため、ボランティアの方の金銭的な負担が大きくなっている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 校長 ）

自分よし みんなよし 未来よし でつむぐ地域との連携

東近江市	活動名：五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

令和5年度より学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールがスタートする予定である。そのため本校校長が五個荘小学校の学校運営協議会へのオブザーバーとして参加するなど、情報収集と準備を進めている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①読書ボランティアによる読み語り

毎月1回、朝読書の時間に「ひまわりお話会」の方に各教室で読書読み語りをしていただいている。絵本や物語など想像力や感受性に訴える内容の読み語りとなっており生徒は熱心に聞いている。



【 絵本の読み聞かせの様子 】

②部活動支援

剣道部の指導をお願いしており専門的な技術をはじめ、礼儀・作法等も指導をしていただいている。生徒たちはたいへん意欲的に取り組んでおり、中体連の県大会や連盟の全国大会に出場するなど活躍している。



【 剣道部での指導の様子 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・「読書読み語りボランティア活動」についてはボランティア来校時の体調把握、学級でのマスク着用をお願いして実施している。
- ・部活動の支援にあたっては管理職、顧問と指導者とが密に連絡をとりながら、指導方法や練習日程について調整を行っている。

■ 事業の成果

読み語りボランティアの活動により読書の魅力や読書の味わい方に気づく生徒が増えた。平和に関するものや昔話などの絵本では声と視覚によって内容に引き込まれている生徒も多く見られた。

部活動支援についても専門的な指導により生徒の意欲や技能をよく引き出すことができるため、保護者からも学校に対する信頼が得られている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校の教育活動において生徒が地域と関わって学びを深めていくことや、ボランティアの方にご協力いただくことは効果的であると考えている。またコロナ禍においても工夫をこらしてできる活動・できない活動等が明確になりつつあり、できない活動によって生徒に不利益が生じないようにしている。さらに将来の部活動の地域移行をふまえ、地域で指導していただける方のリスタップ等も協働して進めたい。現在のボランティアの方や指導者の方は学校教育に非常に理解があり、今後もぜひ活動を継続していきたいと考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

五個荘地区は、「地域の子どもは地域で育てる」をキャッチフレーズに、青少年育成に関して熱心な地域であり、地域学校協働活動推進員をはじめ、多くの地域の方々に支えながら、日常活動や防災学習等の行事に協力していただいている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	活動名：愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：1人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取り組み、施設等を知り、愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取り組みを進めた。
- 「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を実施した。
  - 部活動のボランティア活動として、地域の方々と協働して歩道の花植えなどを実施した。また、保育園でのクリスマス会を企画運営した。
  - 部活動支援 夏休みまでは剣道部の外部コーチをお願いしていた。
  - 「愛と夢のつどい」で、生徒代表3名の作文発表と生徒会による司会を行った。
  - 家庭の授業で幼稚園での保育実習を行った。



【 保育園でのクリスマス会 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 学校の情報と地域の情報を交流するとともに、感染症対策についても入念に打ち合わせをした。
- 不定期ではあるが、コーディネーターと校長が話し合いを持ち、学校の困っていること、地域が学校に望んでいることの情報交換を行った。

### ■ 事業の成果

- 全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただいたりすることができた。
- 学校やPTA活動ではできない環境整備ができた。
- 生徒も地域の一員としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。



【 1年 百済寺訪問 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校行事や部活動との関係から、日程調整が難しい。
- 学校だより等で学校の活動について発信・周知しているが、コーディネーターと連携して、部活指導やゲストティーチャーなどに携っていただける地域の人材を発掘していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

生徒達の活動の様子は、メール配信アプリ「コドモン」（保護者向け）で、発信している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 湖東を愛する生徒の育成と地域とともに歩む学校づくりをめざして

東近江市	活動名：湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ①絵本の読み語り

月1回、学年・学級別にボランティアによる絵本の読み語りを実施している。

#### ②あいさつ運動（登校見守り）

青少年育成市民会議、保護司会、民生児童委員、コミュニティーセンター、PTA等との連携により、定期的に朝のあいさつ運動を実施している。

#### ③部活動支援員による部活指導

卓球部、バスケットボール部、バレーボール部において、地域の部活動支援員による技術指導をしていただいている。

#### ④学校環境整備

PTAによる年2回の除草作業に加え、地域の方がボランティアで除草や剪定作業をしていただいている。

#### ⑤地域行事への参加

地域主催の行事に参加したり、中学生スタッフとして活動したりしている。

#### ⑥地域学習

小学校との連携により、継続した取り組みを進めるとともに、地域への思いを深める取り組みをおこなっている。



【 絵本の読み語り 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

活動の狙いに迫るため、感染症対策を講じたうえで、できるだけ地域の方が学校に来ていただく機会を確保した。地域とも連携して、地域イベントへの参加やスタッフとしての活動など、地域での会議を重ねて感染症への対応を協議した。

### ■ 事業の成果

- ・絵本の読み語りでは、生徒が集中して取り組む姿が見られ、一日の学校生活の始まりの時間として、落ち着いた雰囲気づくりができた。
- ・地域学習では校区内の小学校との連携により、継続した取り組みをおこない、地域を愛する生徒の育成に向けて貴重な学びの機会となっている。
- ・部活動支援員による指導により、部活動における技術向上に成果が見られる。
- ・地域行事への参加により、地域の方に中学生の活躍している姿をみていただくことができ、学校への協力体制も向上してきた。
- ・あいさつ運動の取り組みには多くの地域の方が参加していただき、地域の子は地域で育てるという理念に基づいた取り組みが定着しつつある。



【 部活動支援員 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

湖東中学校の生徒育成に関わり、地域の各団体と学校との連携を密にするための合同会議等の実施について、地域団体主催で積極的積極的な動きをつくっていただいております。今後は活動の目的や方法などについて協議を重ねていく予定である。

湖東地域は子どもたちの健全育成にかかわる組織が充実しており、地域連携を深めることでそれぞれの立場での思いを共有し、さらに発展させていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 校長 ）



地域コーディネーターを中心とした地域人材による学校・地域の環境整備

東近江市	活動名：能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：27人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

1 能登川地区まちづくり協議会が主催している、駅前に設置されているプランターの花植活動に、例年、本校生徒も参加しています。

花植は春と秋の2回行い、その後の水やりなどの世話は、生徒が当番を決め、学校への登校前に行っています。夏休みや冬休み中も欠かさず行っています。

本校では、この取組を「フラ輪ー・プロジェクト」と称し、今では、生徒会事業の1つに位置づけ、引き継がれているイベントとなっています。

3年前から、この取組に地域学校協働ボランティアの方々も加わり、一緒に作業を行いました。その結果、地域学校協働活動推進員の提案により、この取組を中学生だけではなく、中学校区の小学校や高等学校にも呼びかけ、地域全体の取組に広げていく方向で進行しています



【 駅前での花植活動 】

2 毎月、小学校、中学校の校地内の草刈りや樹木の剪定作業に来ていただいています。

地域コーディネーターの呼びかけで、毎回5～6人のボランティアの方々に分けをして草刈り、樹木の剪定のお手伝いをしていただきました。例年PTA奉仕作業などでも校地内の環境整備をお願いしていましたが、今年も新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点より中止となり、環境整備をしていただく機会が激減した中、ボランティアの方々には大いに助けていただきました。



【 グラウンドでの除草作業 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

3年前から生徒会図書委員会が行う昼休みの図書室運営を図書委員会とボランティアの方々も協働していただいております。ただ、今年もコロナ禍の中、対面で行う活動もあるため、残念ながら活動していただけませんでした。次年度こそは再開できるように準備を進めていきたいと考えています。

■ 事業の成果

1 まちづくり協議会と学校との間に、地域学校協働活動推進員が入ったことで、きめ細かな打ち合わせが効率的に行えた。また、中学校だけの協力体制から小学校や高校を巻き込む事業へと広がりを見せた。

2 学校の環境整備につきましては、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症等まん延防止の観点より、PTA奉仕作業を中止するなど、学校の環境整備をしていただく機会が激減する中、地域コーディネーターをはじめボランティアの方々には大いに助けていただきました。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校行事の中でボランティアにどのようにかかわっていただくかを検証すること。  
○ボランティア活動とは言うものの、消耗品（本校では混合油の購入費）等の購入予算がないこと。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の力で心豊かにたくましく育まれる蒲生の子どもたち

東近江市	活動名：朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：3人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 部活動支援
  - ・外部コーチ（協働活動支援員）の方に来校いただき、剣道部、サッカー部、バレー部、コンピュータ部の指導をしていただいた。
- ② ボランティア・体験活動
  - ・地域コーディネーターさんの支援をいただき、東近江市社会福祉協議会ヘルパーステーションせせらぎの窓に美術部で描いた絵を飾ってもらった。



【 剣道部の指導の様子 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ① 部活動支援
  - ・指導前の検温やマスクの着用。手指の消毒等の感染防止対策の実施。
  - ・感染予防を考慮した練習メニューの作成とその指導。
- ② ボランティア・体験活動
  - ・絵の作成時、密にならないような指導。



【 せせらぎに飾られた絵 】

### ■ 事業の成果

- ① 部活動支援
  - ・優れた指導により、技術面はもとより、精神面においても生徒の能力が向上した。
  - ・能力が向上することで、部員一人一人に自信が芽生えた。
- ② ボランティア・体験活動
  - ・地域コーディネーターの働きによって円滑に、地域と連携した取組を進めることができた。地域への社会貢献活動を行うことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・指導の時間がさらに確保できると望ましい。
- ・地域コーディネーターの方とは、今後コロナ禍にまつわる様々な課題や今後の活動について指導や助言及びご協力をいただきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 部活動顧問 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## One Team 柏原 「はびろの里未来コミュニティ」

米原市	活動名：柏原学区地域学校協働本部	柏原小学校 柏原中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心にご記入ください。）

- ・柏小…8月に、はびろウォークの下見を行い、学校運営協議会委員と教職員全員でコースやチェックポイント、地域に関する講話の内容などについて確認した。
- ・柏中…防災訓練の内容を学年ごとにする事で、毎年担当者が変わっても継続的に実施できるようにした。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・柏小「はびろウォークラリー」…柏原地区を縦割り班に分かれて歩き、地域の方たちや歴史、自然などとふれあった。チェックポイントでは、クイズに挑戦したりお話を聞いたりした。また、チェックポイントでは学校運営協議会委員やボランティアとジャンケンをするなどの交流ができた。クイズには皆が協力して真剣に考え、ジャンケンではこのチェックポイントでも大変な盛り上がりだった。
- ・柏中「地域防災訓練」…7月に本校体育館・校舎等を使ってコロナ禍における防災訓練を行った。全校で市の防災危機管理課から防災講話を聞き、その後1年生は避難所の設営、2年生は消防署による救命講習、3年生はかまどベンチを使って炊き出しを行い、参加いただいた保護者や地域住民に提供した。近隣の福祉施設の利用者にも避難所の見学をしていただいた。



【 はびろウォークラリー 】



【 地域防災訓練：かまどベンチを使っての炊き出し 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・柏小…屋外での活動だったがマスク着用と手指消毒をしっかりと行った。集合時に並ぶときも間隔を開けるように指導した。
- ・柏中…コロナ禍での災害を想定し、炊き出しはレトルトのカレーライスとし、炊飯とお湯沸かしのみとした。その簡易さが、生徒にとって取り組みやすいものとなり、割り当てられた仕事に責任を持って取り組むことにつながった。

### ■ 事業の成果

- ・柏小…子どもたちは学校の外での活動に心弾ませ、のびのびと活動することができた。今年は清滝方面での活動で、地域のことを改めて知ったり、より詳しく探求したりすることができた。また、上学年は下学年の子たちに寄り添って歩いたり、皆がクイズに参加できるように声をかけたりすることができ、リーダーシップを発揮するよい機会となった。
- ・柏中…保護者・地域住民のみならず、行政や関係機関と連携しながら実施することで様々な内容を取り入れた事業となった。避難所設置と炊き出しでは生徒が活動の主体となり、災害を自分事として捉えるための貴重な体験となった。生徒にとっては、将来、地域を担う一員となるんだという意識が芽生える取組となった。学年ごとの活動は集団づくりとしても役に立った。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・事業の実施は学校運営協議会委員やボランティアの協力なしでは難しい。コロナ禍での対応が今後も続きそうなことから、臨機応変に活動計画を変更できる組織作りが必要である。また、このような状況を踏まえた新たな計画を模索しなければならない。また、各園校の交流についても慎重に考えていかなければならない。そのために、学校運営協議会と連携し、さらなる情報の共有や熟議が重要である。

### ■ その他

- ・事業には学校運営協議会委員にも積極的に参画していただいている。こども園は学運教には参画しないが、柏原区では従来から連携をしており、今後もこども園と小・中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 中学校校長・小学校教頭 ）

「子どもは地域の宝」 ～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名： 河南学区地域学校協働本部	河南小学校・河南中学校・ かなん認定こども園 学校運営協議会： ■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：4人(兼務2人) ボランティア登録数：130人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)  
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他( )

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)  
 ・Withコロナをふまえ、地域人材の力をいかに活用すべきか、その方法等について協議した。  
 ・学校運営協議会主催「河南学区まいばら教育フォーラム」の内容や開催時期、感染症対策について協議した。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)  
 河南学区は、中山道の宿場町(醒井・番場)であった地域のため、歴史・文化の史跡が多く、小中学校とともにふるさと学習に取り組んでいる。その活動には、地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また、小学校での「ふれあいひろば」では、地域の方々にご協力いただきながら実施している。



【 ふれあいひろば 】

■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)  
 ・学習ボランティアや講師はできるだけ河南学区在住の方々にご協力願うため、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。  
 ・今年度も「河南学区まいばら教育フォーラム」の参加者を学校支援ボランティアに限定し、密を避けた。

■ 事業の成果  
 ・河南中学校の家庭科の手縫いやミシン縫いの授業では、教員1人ではなかなか目の届かないところを、4名のボランティアの方々に数時間学習支援をしていただくことで、きめ細かい指導ができた。  
 ・音楽科の和太鼓教室では、その道に長けた地域の方3名に演奏指導をしてもらい、充実した取組であった。さらに3学期には、国語科の書写指導もしていただく予定である。



【 和太鼓教室 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 ・今年度も、コロナ禍のために、かなん認定こども園との活動を実施することができなかった。  
 ・各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が管理職に偏る傾向にある。そのため、「地域連携担当教職員」にその職務を任せられる校内体制の構築が必要である。

■ その他(学校運営協議会との協働等)  
 ・小中連携による「河南学区学校運営協議会」を立ち上げて4年となる。今年度も、「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱいあいさついっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」の3本柱で事業の推進を図っている。  
 ・学校運営協議会委員には、地域学校協働推進員や社会教育委員が参画し、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働推進事業の一層の連携を図っている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)  
 ■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他( )

報告書記入者( 教頭 )

## ふるさと伊吹 ふるさとを愛する心を育てる地域協働活動

米原市	活動名：伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校 伊吹小学校 春照小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 いぶき認定子ども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：4人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

#### ○ICT支援事業（ICTAM：イクタム）

・学校のICT機器を使って子どものA（遊び場）M（学び場）を創り出す事業。毎月、希望者を募り、土曜日を利用して活動している。毎回30人前後の子どもたちが参加をしている。

#### ○読書推進活動

・読書大好き強調月間…朝のモジュールの時間に、読み聞かせボランティアの方に来ていただき読み聞かせをしていただいた。  
 ・こもれび読書会…地域にある施設を借り、芝生広場でのあおぞら読書や、地域の方の読み聞かせなどを楽しんだ。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○環境整備・栽培ボランティア

・昨年度に引き続き、花壇やプランターに花の植え付け等の栽培活動をしていただき、季節の花で学校を美しく彩ってくださった。  
 ・また、自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草や剪定作業が大変であることから校地の除草・剪定作業をお願いしている。  
 ・今年度、協力いただいたボランティアの方が、校舎中庭で剪定した松の枝を、地元伊吹山資料館でのミニ門松づくり活動に活用していただいた。その際、試作品を学校にいただいたので玄関に飾らせていただき、お正月の雰囲気作りにも活用させていただいている。



【 ボランティアによるミニ門松 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

子どもとの接触がある活動については、計画段階から児童・生徒が安全に活動できるよう場の設定やプログラム検討し、学校運営協議会の場で様々なご意見をいただいたり、事前打ち合わせの際に協議したりして万全を期した。

### ■ 事業の成果

・教職員だけでは円滑に行うことができない活動を、ボランティアに助けていただき、年間を通じて美しい学校環境づくりや維持にご尽力いただいた。  
 ・読み聞かせや図書室の整備に来ていただき、読書環境の充実が図れた。  
 ・専門的な知識をもっておられる方に支援していただき、学習が充実した。



【 ハローパーティー 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度も「伊吹地区教育フォーラム」が中止となったが、各校園の学運協の取組を紙面交流した。校区内の連携を深めるためにも、アフターコロナを見据えているいろいろな手立てを探っていききたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

・今年度、春照小の国際交流活動である「ハローパーティー」に対して、伊吹小学運協よりウクライナ出身のピアニストをご紹介いただいた。各校の活動が地域協働活動の中で共有されてきたことの表れではないかと感じている。  
 ・今後もボランティアさんが活動してよかったと感じていただけるよう「地域の学校」という協働意識を教職員全員がもち、活動に取り組んでいきたい。また、ボランティアの裾野を広げていけるよう募集も続けていく。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（主任事務主査）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 故郷を愛し、人との関わり、自分を磨く、子どもの育成を地域とともに

米原市	活動名：米原学区地域学校協働本部	米原中学校 米原小学校 まいばら認定こども園 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：90人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校 ■地域学校協働活動推進員等 □行 政 □その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○農園活動・環境整備活動を中心とした活動 ○小・中・園一体とした活動の推進  
○飛び出し坊や製作や収穫感謝祭（教育）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○総合的な学習の時間での農業指導や農園整備の実施、収穫感謝祭の開催  
○生徒会との連携によるアルミ缶回収や親子愛校作業の開催  
○認定こども園の農園の環境整備（芋苗の手配や芋つるの処分）、環境整備（網戸の整備など）  
○小学校 夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業、農園の整備作業  
○園・小・中が共同で実施した活動 飛び出し坊やの作成、教育フォーラムの開催

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○2名のコーディネーターをそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として学校との連携調整を密にした。  
○中学校内に地域支援本部室を設置していることから、校内で地域の方と接する機会が増え、コロナ禍ではあったが、随時活動を進めることができた。コーディネーターには何回も学校園にも足を運んでいただき、積極的に活動いただいた。  
○本校にはPTA組織がなく、親子愛校作業は有志による参加のみであったため、学校ボランティアにも参加いただき除草作業をお手伝いいただいた。学校ボランティアの方で学校内及び周辺の草刈りを2日間実施していただいた。そのほか各校園でコロナ禍であっても学校園の環境を整えることができた。

### ■ 事業の成果

○各学年の総合的な学習の時間に、地域学習としてきつまいも・ネギ・大豆・大根・タマネギ等の栽培を行った。農業指導をされている方に畑をトラクターで耕作していただき、農作物の植え付けや収穫の方法について指導をしていただいた。日頃お世話になっている関係機関や地域の方をお呼びして全校で開催した収穫感謝祭にあわせて薪作りや火起こしをお願いした。収穫感謝祭には地域ボランティアに参加いただき、生徒との交流をもつことができた。また、3年生の福祉学習では生徒が育てた葉ポタンのプランター運びに協力いただいた。  
○本校では、生徒会を中心にラヴプロジェクトとして、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行っている。その趣旨を理解していただき、地域での回収活動や後始末に協力いただいた。  
○今年も引き続き、交通安全啓発の飛び出し坊やコーディネーターの協力を得ながら制作することとなった。中学校の生徒にデザインを募集し、色塗りなどの作業をボランティアの方と一緒に実施することができた。また、小学校6体、園3体、中学校6体の飛び出し坊やを作成、各校園に配布し、通学路等の危険箇所を設置する予定である。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○コロナ禍の中であったが、充実した活動ができてきているのは、地域コーディネーターの人柄と尽力による部分が多い。この活動が持続し、発展するためにも、コーディネーターを補佐しつつ、次のコーディネーターを育成していくことが必要である。  
○地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを学校とコーディネーターが連携し発掘していく必要がある。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの指定を受け、6年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するための両輪となりうまく機能していると感じている。今後、新型コロナの心配がなくなれば、生徒が地域へ外向き社会貢献できる取組を推進したい。

### ■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 学年主任 ）



【 飛び出し坊や製作 】



【 収穫感謝祭（焼き芋） 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域人材を生かした特色ある学校づくり～DAITOアクティビティ～

米原市	活動名 : 大東学区地域学校協働本部	大東中学校・大原小学校・山東小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 山東幼稚園・大原保育園 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度 : 平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数 : 8 人 ボランティア登録数 : 7 人 ■学習支援 (授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・ DAITOアクティビティの活動内容について (※DAITOアクティビティとは、生徒が主体的に考え、地域とともに取り組む活動をいう)、本校の課題であるコミュニケーション能力の育成について、どのような取り組みが有効であるか協議を行った。伊吹山登山学習、ベンチ作り体験、茶道体験教室などの活動内容を具体的 (実施日、方法等) に協議し、実施することができた。
- ・ 新しい制服について
- ・ 学習支援
  - 基礎学力向上のため、夏季休業や冬季休業、テスト前に補充教室を行った。
  - 理科の授業で実験などの支援を地域ボランティアに依頼した。
- ・ 部活動支援
  - バスケットボール部と陸上部で、専門的な技術指導をしていただいた。

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ・ 大東中学校では、中学生と地域の方が一緒に、タブレット等を利用して年4回「三島池撮影会」を実施した。また、図書館司書やボランティアを交えて「校内ビブリオバトル」を開催し、図書室利用や読書への関心を高めた。他にも、「ベンチ作り体験」、「茶道体験教室」や「車イス・ユニバーサルスポーツポッチャ体験」などを行った。
- ・ 大東中学校では、来年度からの新制服移行に向けて、「制服検討委員会」を立ち上げ、生徒と地域の方の声を取り入れながら新制服をどうするかを決めていった。また、制服の校章やボタンのデザインを生徒から募集し、決定した。
- ・ 「かつび伊吹」「ジョイスポパーク」などの地域のイベントに生徒たちがボランティア・スタッフとして参加し、地域の方々との交流を深めることができた。

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・ 生徒たちが主体的に取り組めるよう、自由参加型の活動を多く実施した。

### ■ 事業の成果

- ・ 生徒たちがDAITOアクティビティの活動に参加し、主体的に取り組むことができた。
- ・ 生徒の学習活動が充実した。
- ・ 地域の方に学校の教育活動に関心を持ってもらうことができ、学校行事に参加してもらうきっかけ作りとなった。



【 校内ビブリオバトル 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 潤沢に使える予算の確保が必要である。
- ・ 人材発掘・人材確保をさらに進めたい。
- ・ 児童・生徒の声を取り入れながら、さらに充実した活動にしていきたい。



【 ベンチ作り体験 】

### ■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・ 地域の願いを踏まえて、地域とともに歩む学校づくりをしていきたい。
- ・ 学校にも地域にもメリットがある取り組みを推進していきたい。

### ■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他 ( )

報告書記入者 ( 地域連携担当教職員 )

## 地域の子どもの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名：双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校・坂田小学校・息長小学校 おうみ認定こども園 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：30人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他( )

- 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)  
 ○各学校園経営全体計画についての学校からの説明を受け、目指す子ども像の具現化にむけた取組について議論を深めた。その具体的な取組を定め、1年間の活動をまとめた。  
 ○また、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぎつつ、積極的に活動を進めていくことを再度確認した。



【3年生 字探検】

- 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)  
 (1) 地域の方に学び、地域の方と学ぶ学習活動  
 ・1年生(生活科)…「昔あそび体験」昔あそびをいくつか紹介していただき、子どもと体験活動を行った。  
 ・3年生(社会科)…「字探検」それぞれの字の特色や、古来からの産業や遺物、自然について地域の方に教えていただいた。  
 ・6年生(総合的な学習)…「平和学習」戦争についての学習発表会に参加し、助言や質問に応じていただいた。  
 (2) 読み聞かせボランティアによる読書活動  
 ・毎月2回、朝読書の時間に各学級にて読み聞かせの実施・図書室の環境整備をしていただいた。  
 (3) 学校の環境整備  
 ・「花いっぱい学校運動」の一環として、春と秋の花づくりに支援をいただいた。地域ボランティアの方に花の仮植作業や学校花壇への植え付けを行っていただいた。  
 ・校舎周辺の草刈りと環境整備をしていただいた。

- 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)  
 ○担任からの要望を学校担当者がとりまとめ、学習の目的の共有と補助内容について地域学校協働活動推進員と打合せを行った。その際に地域ボランティアに協力いただきやすいよう日程を早期に決定するようにした。  
 ○事前確認の打合せと、事後の振り返りを地域学校協働活動推進員と学校担当者で行い、次年度に向けて改善点を挙げた。  
 ○児童からのお礼の手紙等を通して、学んだことや感謝の気持ちを地域ボランティアの皆さんへ伝え、活動の様子は通信にして各家庭・地域に知らせた。  
 ○感染症予防対策として、活動内容の見直しをしたり、できる限り広い会場を使用したりした。また、感染状況の変化に伴い変更や中止が必要な場合についても速やかな判断・連絡ができる体制をとった。

- 事業の成果  
 ○図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来校していただき、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくれたことで、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。  
 ○保護者や地域の方に学校に入っていたり、学校から地域に出かけたりすることで、地域とともにある学校づくりにつながっている。各ボランティアの皆さんには準備や分かりやすい説明をしていただけたので、子どもたちは安心感や満足感を得ながら学習ができた。  
 ○専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習が充実した。  
 ○子どもたちが活動する場所の木の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださるおかげで、安全で美しい学校環境づくりが行えた。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望  
 ○特に中心となってくださる方々の活動が多くなり、負担がかかっている。  
 ○新しくボランティアを申し出てくださった方も含めて学習を継続していくことができるよう配慮する。  
 ○今年度活動していただいたことをもとに他の学校・園に広がりをもたせ、地域全体の取組となっていけるとよい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)  
 ■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(主任事務主査) 報告書記入者(                      教頭 )



地域との連携・協働し、一緒に学校・ふるさと日野への誇りを高める学習を目指して

日野町	活動名：日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	学校運営協議会	：	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]						

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○地域の人々や施設から学ぶ「町探検」（第2学年）、「歴史ウォークラリー」（第6学年）、「日野菜学習」（第3学年）

- ・第2学年では、校区内の各施設（商店・公共施設等）をグループで見学する町探検を実施。訪問施設は約20施設。地域の施設を具体的に知るだけでなく、そこで活躍する人々との直接の交流から学習を深めた。
- ・第3学年は日野菜の植え付け・収穫について指導していただいた。学習のまとめとして、お世話になった方を招待し、「日野菜はかせ発表会」を実施した。
- ・第6学年では、校区内の歴史的施設等をウォークラリーで見学する学習を実施。事前にふるさと館の館長からのガイダンスを受け、見学地では、観光ボランティアの方に案内していただき、ふるさと日野への誇りを高める学習となった。



○子どもたちの学習活動を活性化させるボランティア活動等

- ・図書ボランティア：メンバーは6名。活動日は毎週火・金曜日。子どもたちが読書活動に関心を高めるための環境整備作業を中心に活動をしている。活動内容は、学校図書司書、学校図書担当と連携し、時期に合わせた活動を行っている。
- ・家庭科ボランティア：メンバーは日赤奉仕団（日野分団・鎌掛分団）。高学年の裁縫活動について、学習支援していただいている。毎回、2～3名が授業支援していただいている。
- ・なかよしコンサート（年4回開催）  
地域で音楽活動をされている個人・グループを招き、休休みにコンサートを開催している。

■ 実施に当たっての工夫

- 子どもたちの学習が深まるためにも、地域の方に指導・支援をお願いした。また、子どもたちが学習したことをまとめて、お世話になった地域の方に発表する場を設けた。
- 教員は、事前にふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）と学習活動の全体計画を作成する中で、育てたい子どもの姿や付けたい力を明確にすることで、関係機関の思いを大切にしつつ、学習の質が高まるよう意識した。
- 地域の高等学校（日野高校）音楽部のみなさんによる「なかよしコンサート」を実施した。

■ 事業の成果

- 学習活動の成果を発表会や学習成果物により関係者へ発信することで、地域の方々へ学校教育活動への理解を深めることができています。継続的に学習活動に参加してくださっている方も増えており、教育活動のねらいを意識して児童へかかわってくださる方も存在する。
- なかよしコンサートのように、学習活動以外の場面でも、地域で活躍する方々と学校がつながる活動を計画、実践することができた。コンサートは、毎回、多くの児童が集まり、音楽活動への意欲や関心を高める取組となっている。また、今年度は地域の高校 音楽部による「なかよしコンサート」を行うことで、地域の高校を知り、憧れを持つよい機会となった。



【 なかよしコンサート 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校教育活動により地域の皆様への理解と参画を推進するために、今年度も地域内の2つの公民館長と話し合いの機会を持った。次年度からのコミュニティ・スクールがスムーズに運営できるように、さらに地域の理解者を増やしていくことが求められる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校だよりやホームページで学校の取組を広く発信している。  
日野小学校ホームページ：https://www.fureai-cloud.jp/hino-es/

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（各学年担当職員）



報告書記入者（ 教頭 ）

## 学校・家庭・地域の ～ きずな・つなぐ・むすぶ ～

日野町	活動名：西大路地域学校協働本部	西大路小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 創立150周年記念事業等に関する各事業部の取り組み
- ・ 3年総合的な学習 名人さんに学ぼう の取り組み
- ・ 環境整備作業、運動会準備等の取り組み



【 西大路マルシェ 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 自立学習（特別支援学級）

特別支援学級の児童が、野菜を栽培している地域の方々にお願いをして野菜を分けていただき、自分たちが育て、収穫した野菜と合わせて、マルシェ（青空市場）を開催した。児童がチラシを作製・配布し、地域の方々に来校していただいた。

児童は、野菜を分けてもらったり、販売したりする活動の中で、人との接し方や積極的に活動する力を学ぶことができた。売上金でトートバックを作成し、独居老人宅へプレゼントすることで、達成感や地域の方々を意識することができた。

#### (2) 総合的な学習（3年 名人さんに学ぼう）

3年生の児童が、総合的な学習で地域の名人さんに弟子入りし、学ぶ学習を行った。（日野祭り囃子、郷土料理、丁稚ようかんづくり）

この活動により、地域の良さを学び、愛郷心を育むことができた。

#### (3) 環境整備作業（全校）

毎年、2学期開始直前に行っている環境整備作業へ、児童・保護者とともに参加して活動していただいた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も新型コロナウイルス感染症防止策を徹底して行いながら計画・実施した。

### ■ 事業の成果・実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

昨年度末に、総合的な学習の活動年間計画を見直し、地域の方々がかかわってくださる活動についても、単発で実施されないように進めていくことができた。さらに、全学年に広がる活動にできればと考える。



【 名人さんに学ぼう 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会は、今年度5回の会議を予定しており、様々な意見の交換・熟議をし、現状の相互理解と課題解決に努めていく。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年担任）

報告書記入者（                      教頭 ）

「なんぴが好き」～子どもたちに「人と関わる力・思いを伝える力」をつけよう～

日野町	活動名：南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：約60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校運営協議会準備委員会として、4回の会議を開催。地域、保護者、学校からの「こんな子どもに育てほしい」という願いを共有し、運営目標を「子どもたちに『人と関わる力・思いを伝える力』をつけよう」と定めた。
- ・組織を運営する上で必要となる「規約」を協議する中で、地域の中のどのような方に関わっていただくよいか、学習カリキュラム等と関連付けて議論を重ねた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○郷土野菜「日野菜」を通じた地域とのつながり

- ・今年、農林水産省から地理的表示（GI）保護制度の認証を受けた「近江日野産日野菜」。本校の学区には、この日野菜の原種を守り育ててきた「南比都佐地区原種保存会」があり、年間を通して子どもたちの指導に携わってくださっている。この日野菜学習は約20年前に始まり、今では全校の子どもたちが学年に応じた形で参加する、本校地域学習の大きな柱となっている。
- ・4年生の秋に種をまき、育ちの良いものを選んで植えかえて冬を越す。5年生の夏前に種を刈り取り、地域の方の指導を受けながらよい種を選別し、販売も行っている。種は、保護者の方だけでなく、広く地域の方にも買っていただいている。
- ・収穫した日野菜は、子どもたちの手でえび漬けやさくら漬けにしている。各家庭で漬け方や味の違いがあり、今年度は2年生が地域の漬物名人といっしょにさくら漬けに挑戦した。普段日野菜が苦手な子どもも、浅漬けの日野菜を試食して「おいしい」と喜んでいた。



【 刈り取った日野菜からの種取り 】

○南比コミュニティ・デイ「師匠に弟子入り」

- ・地域と学校とのつながりを深めることを目的に開催した。まず、子どもたちが日頃の学習の成果を発信した。生活科や総合的な学習の時間で学んだこと、国語の学習で取り組んだ「南比未来プラン」のプレゼンテーション等、保護者の方だけでなく、地域の方にも参観いただくことができた。続いて、地域の方に教わる「師匠に弟子入り」では、墨絵や竹細工、江州音頭やストリングアートなど、9つの講座に約30人の幅広い年代の「師匠」が来てくださり、体験活動を楽しんだ。



【 名人に弟子入りして竹箸づくり 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・感染症対策を十分に行った上での交流活動が行える状況に戻りつつある。ただ、地域の高齢者施設との交流は未だ難しいため、学習の様子を収めた動画等を送っている。

■ 事業の成果

- ・地域の方、特に小学校にお子さんやお孫さんが通っておられない世帯の方が学校に来てくださる機会が増えた。子どもたちはもちろんのこと、地域の方も「次も来たい」と喜んでくださる方が多く、新たな活動へとつなげていきたい。
- ・子どもたちは地域の方に見守られていることに感謝し、「南比がすき」という思いを深めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望、学校運営協議会との協働等

- ・来年度には、学校運営協議会を発足する予定である。「師匠に弟子入り」のように地域の様々な技や伝統を子どもたちへ伝えていただけるよう、地域の関係諸団体と連携して活動を広げていき、子どもたちがさらに郷土への思いを深められるようにしたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名 : 必佐地域学校協働本部	必佐小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 見守りあいさつ運動

朝の登校時間帯に、必佐小見守り応援隊やPTA有志の皆さんが交代で校門付近に立ち、見守りあいさつ運動に取り組んだ。

#### (2) 体験的な学習への支援

焼き芋や米作りなどの指導を経験豊かな方にお願ひし、裁縫やミシン縫いなど、適切な個別支援を必要とする学習では、アドバイスや手助けなどの支援をお願いした。

#### (3) ふるさと学習支援

日野町の特産品である日野菜の栽培や伝統行事など、ふるさとをテーマにした総合的な学習で、地域の方に指導をお願いした。



【 登校時の見守りあいさつ運動 】

### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

本事業の広報とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業に対する理解と協力を得られるようにした。見守り活動の全体会議で、各団体の代表の方々に年間の見通しを説明し、協力を依頼した。学年で集合し指導を受ける場面は減らし、学級単位など少人数で換気など、感染対策を行って実施した。

### ■ 事業の成果

見守りあいさつ運動を数年続けてきたことで、地域の方々子どもたちのつながりが増してきた。あいさつを交わすことだけでなく、子どもたちの登校のリズムがこれまで以上に身につけてきている。スムーズな学校生活のスタートに結びついてきている。「必佐小学校見守り応援隊」を組織し、数年経てきたことで見守りあいさつ運動の他、学習ボランティアや支援者として参加して下さる方が増えた。

ボランティアの方々の適切な支援のおかげで、子どもたちは技能を習得できただけでなく、「苦勞しながらもできた」という達成感を味わうことができた。



【 ミシンの使い方を支援 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域にたくさんおられる適任の方がまだ把握できていない。今後も引き続き人材の開拓に努めていく必要がある。指導者の思いや指導方針をもとにしつつ活動推進員からの提案も織り交ぜながら打合せを綿密に行う必要がある。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営の様子や子どもたちの学習の様子を下記記載のURLで紹介している。

<https://www.fureai-cloud.jp/hissa-es/>

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

未来の桜谷をつくる ～地域の人とともに地域を学び、地域の良さを感じる～

日野町	活動名：桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：100人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校や地域の課題と育てたい子ども像を熟議するとともに、支援者・指導者として参加されている「HOTけん桜谷隊」、老人会を中心とする地域の方々から総合的な学習の時間や社会科・理科などの学習、田植えや野菜栽培などの活動にどのように関わってほしいとよいか。また、地域との連携・協働体制づくりに向け、学校でできること、地域でできることを考えながらともに子どもを育てる体制づくりについて話し合いを進めている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

- 1・2年生が地域の方16名とともに「昔遊び体験」を行った。参加された方が手作りの竹トンボや空気鉄砲などを持参され、子どもたちは終始生き生きと活動できた。最後に感謝の気持ちを込めて手紙と朝顔の種のプレゼントしたところ「涙がでそうにうれしかった」という参加者からの言葉もいただいた。
- 1学期より4年生は裏山の樹木を使って「わたしの好きな木」の活動を行っている。自分の好きな木を選び、その木の四季の変化を追っていく。3学期には、シイタケの菌打ちや林研さんに裏山の樹木の種類や間伐材の再利用方法について教えていただく。
- 5年生、6年生は、家庭科の学習で、「東桜谷ソーイングクラブ」や「東西桜谷健康推進委員」の方に裁縫や調理実習で協力をしていただき、子どもたちも丁寧にアドバイスを受けながら安心して実習に取り組むことができた。
- 学校運営協議会が本格的に始まり、協議のほかにも学運協の方以外にも保護者や地域の支援者の方に参加していただき、給食試食と授業参観、そして教職員も含めての「地域とともにある学校づくり研修会」を行った。教職員と地域の方が「育てたい子どもの力や課題」について熱心に熟議を行った。



【 竹とんぼを楽しむ1・2年 】

■ 実施に当たっての工夫

- 参加される方の多くが地域の高齢者であるため、活動の種類や日程調整を含め、事前に丁寧な打ち合わせ等を行った。
- コロナの感染状況を見ながらも、つながりを維持できるようにどうすれば実施可能かを見直しながら、感染防止対策を徹底しつつ子どもと地域が連携・協働できる活動を進めてきた。



【 地域と学校で熟議を進める 】

■ 事業の成果

○今年度は、昨年度の振り返りから、感染防止対策を徹底しながら活動を実施してきた。地域の方との協働によるいも植え、田植えなどの栽培活動も実施することができた。また、他の栽培活動・調理実習等も実施することができた。また、5年生の調理実習ではできたみそ汁を健康推進委員さんとともに味わい、交流することもできた。学校側と地域側両者のWIN-WIN的なつながりが生まれている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ふるさと学習カリキュラムの年間計画が系統だったものであるかを見直し、改善する必要がある。この改善を図るために、学習に関わる教員全体で内容について協議すべきであるし、参加して頂く地域の方からも意見を聞き、教員が異動しても継続できるカリキュラムを作成していきたい。
- 学習活動に参加して下さった地域の方に、アンケート調査（感想や意見を記述していただく）を行い、その意見をもとに活動の振り返りを行うことができた。年度末に参加して下さった方全員を対象に再度年間の振り返りを含めたアンケート調査を実施したい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○学校運営協議会が導入されたことで、地域と学校が「子ども」についてお互いの考えを出し合い話し合う機会が増え、今年度も保護者を含めた地域の方27名と学校の教員が、お互いの思いや考えを交流する場を設定することができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## ふるさと日野町を愛し、誇りに思う気持ちを育む地域協働活動

日野町	活動名 : 日野中学校地域学校協働本部	日野中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：個人50人、団体8団体 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）総合的な学習の時間「郷土学習」

- ・1年生では地域のいろいろな分野の専門的な方に講演を行ってもらった。生徒たちはお話を聞き「日野町にはこんなにも誇れるものがあると初めて知った。」「自分のふるさとなのに、知らないことが多くて、聞くのがとても楽しかった。」と感想に書いている。グループ別に講師の方にアドバイスをもらい、自分たちから地域に出向き学習を深めた。それを模造紙にまとめ発表会へとつなげていった。2年生では「職場体験」で地域の方にお世話になり、3年生ではさらに学習を深め、地域の方や日野町長のお話を聞き、最終的に「わが町をこのようにしていきたい」という宣言文を生徒たちが企画立案をし、日野町長に発表をした。これらの活動ではかなり多くの地域の方の協力をいただいた。

#### （2）朝の読み聞かせ

- ・週1回、朝読書の時間に日野町の4つの読み聞かせグループの方に交代で「読み聞かせ」をしてもらう。この活動はかなり定着してきた。

#### （3）環境整備

- ・地域の方の協力を得ながら、生徒会が主催で花壇に花文字を制作した。美しく咲いたので、地域の方の提案でドローン撮影も行ってもらった。

#### （4）見守り

- ・家庭科の保育実習で、地域民生委員の方に往路の見守りをしてもらった。

#### （5）部活支援

- ・吹奏楽部や美術部などの技術指導を地域の方に指導してもらった。



【 日野商人について講演を聞く 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方に協力いただく前には地域コーディネーターと各学年の担当者と共に話し合いを持ち、感染対策についても打ち合わせを行うようにした。

### ■ 事業の成果

総合的な学習の時間での「郷土学習」では、地域の方は多くの方々が中学生に日野町のことを知ってもらえるならと喜んで協力してくださり、生徒たちも小学校からの学習の積み重ねもあり、さらに深い学習をしていこうとする姿勢が見られ、お互いが響きあうような良い活動となった。

部活指導では美術部や吹奏楽部において、専門的な知識や技能を持つ方々にあたたかく熱心に指導していただき、技術向上だけでなく喜びや楽しさを感じる活動となっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・総合的な学習の時間での郷土学習で協力していただける人材をさらに探していきたい。
- ・さらに多くの部活動で理解と協力を得られる方を探していきたい。
- ・今後も学校の要望と地域の方々の願いがマッチングするような活動を模索していきたい。



【 朝の読み聞かせ 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・生徒たちの活動の様子は学校だよりや学校ホームページで広く発信している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年担当職員、用務員）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 私たちの地域学校協働活動～地域が一体となり子どもたちの学習を支える～

竜王町	活動名 : 竜王町地域学校協働本部	竜王こども園・竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度:平成22年度 地域学校協働活動推進員等数:6人(兼務1人) ボランティア登録数:659人(平成22年からの累計) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校のグランドデザイン(学校教育目標)を学校運営協議会でも熟議しベクトルを共有していく必要がある。

### ■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

#### (1) 学習支援

- ・令和2年度より取り組んでいる「はなまる先生」を継続し、児童が家庭で行った宿題プリント等の丸つけをボランティアが行い、生み出した時間を先生と子どもが関わる機会として増やすことにより、先生、子ども双方から満足の声を得ている。

#### (2) 学校行事支援

- ・学校事業等に、子育て中の保護者も参加できるように託児支援を行った。
- ・ジョギング大会中の横断見守りを行い、学校行事に参加する児童の安全確保を行った。

#### (3) 地域学習

- ・「地域学習」に力を入れ竜王にまつわる伝統や歴史等の地域資源を理解し、竜王への愛郷心を育てるきっかけの一つとしている。



【古墳見学】

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・学校支援中、児童との間隔をとりながら親身な対応を心がけている。
- ・ボランティアを募集する際に、保護者や家族(祖父母)に声をかけている。

### ■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部に届いた児童からの感謝の手紙を暑中見舞いや年賀状に添付をすることで、子どもたちの感謝の声を直接ボランティアに伝え、喜びを感じてもらうことで、ボランティアのやりがいを提供できた。
- ・ボランティアに参加することで、子どもや孫の学校での家庭とは違う姿を見ることができ、新たな発見ができた。
- ・ボランティアと児童が顔見知りになり、日頃から地域でのコミュニケーションが取れた。



【稲刈り体験】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域には優れた知識や技術を持った人材がたくさんおられるにも関わらず、ボランティアの継続や新規発掘に苦慮している。拠点となっている公民館に来てくれる方には声かけられるが、地域で活動する方にまで声かけられない。
- ・学校と地域で双方向性のある展望を持った活動を行うためには、社会に開かれた教育課程をいかに実現するかが重要な鍵となる。そのため、地域連携にかかる年間活動計画を作り、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。
- ・統括地域学校協働活動推進員を公民館に設置しているが、学校からの急な支援依頼の対応に苦慮している。

### ■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・学校運営協議会で熟議した内容(どんな子どもに育ってほしいか、そのためには、子どもの健やかな成長に地域はどう関わることができるかなど)を地域学校協働本部でいかに具現化していくか検討を加えたい。
- ・より深い学校支援を行うためには、地域学校協働本部と学校運営協議会が一層連携を密にする必要がある。
- ・町内にある校園全てに学校運営協議会は設置できているが、まだ地域学校協働本部との連携の完全な実現にまで至っていない。
- ・学校と地域と地域学校協働本部等が連携をしていく必要があるが、地域学校協働本部に任せきりになっている。

### ■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ( )  
 報告書記入者 ( 公民館 公民館係 )

## 地域と幼稚園と保護者が手を取り合っ て ～トライアングル大作戦～

愛荘町	活動名 : 愛荘町地域学校協働本部	秦荘幼稚園	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 令和4年度 地域学校協働活動推進員等数: 2人 ボランティア登録数: 51人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他 ( )

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

#### ◎保育活動支援

・田植え、稲刈り、野菜栽培収穫、絵本読み聞かせ、誕生会 絵本の修繕 発表会の衣装作り

#### ◎保育環境整備

・園庭整備、樹木植え、タイヤ遊具の設置、園舎や旧駐車場の除草(年3、4回)、花壇の花植え  
 きらりんデー: 毎月1回(PTA幼稚園サポーター) はたっこハウスの修繕、下駄箱制作(秦中職場体験)

### ■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

#### ◎園庭整備

・樹木植えとタイヤ遊具  
 ・草刈り

#### ◎園外保育の引率支援(安全見守り)

・バス遠足(5歳児ひわこ博物館・4歳児荒神山・3歳児五個荘公園)  
 園外散歩の引率

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

◎誕生会は学年毎に分散して行うため、催しもボランティアさんをお願いして3回実施



【 秦荘中学生職場体験にて  
はたっこハウスの修繕 】

### ■ 事業の成果

◎昨年度よりも、地域のボランティアさんが園への関わりに戸惑いがなくスムーズに参加してもらえるようになってきた。また、園の要望に対して人材を探し、ボランティアさんと園とを円滑に繋ぐことができた。  
 ◎ボランティア募集の手作りポスターを地域の公共施設や店に掲示させていただいたところ、それを見て町外の方が園のボランティアとして活動して下さることになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

#### ◎今後、ボランティアとしての継続性。

田んぼ体験は若い世代に、園のボランティア継承を考えてくださっているので、今後も継続していくことができる。

### ■ その他(学校運営協議会との協働等)

◎協働活動推進員(コーディネーター)が運営協議会の一員であり、会議で検討された課題にスムーズに対応することができる。



【 5歳児 田植え体験 】

### ■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(PTA)

報告書記入者 ( 地域学校協働活動推進員 )



## 地域に学び、地域とともに子どもを育てる

愛荘町	活動名：愛知川幼稚園地域学校協働本部	愛知川幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：10人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・コミュニティスクールの在り方について
- ・地域の特色とそれを生かした保育内容、人材の発掘について
- ・コロナ禍における活動や行事の推進について

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ・絵本の読み聞かせ

月一回の読み聞かせは、子ども達がどんな絵本を読んでもくれるのかを楽しみに待っている姿があり、ボランティアの方にも親しみをもっている。

#### ・一人一鉢栽培

毎年、地域の方が土づくりから始め、丹精込めて育てられたマリーゴールドの苗を全園児分持って来てくださり、子ども達に植え方を教えてくださっている。

子ども達はいただいたマリーゴールドを丁寧に扱いながら自分の鉢に植えて、大切に育てている。

#### ・じゃがいも掘り

園の畑に植えたじゃがいもを民生委員や主任児童委員のみなさんに掘り方を教えていただきながら、掘り起こしている。『頑張って大きくなったじゃがいもやから、出てきたおいもはやさしくそっと置いてあげてね。』と声をかけて、大事に扱うよう教えてくださり、子ども達と一緒に収穫してくださっている。

#### ・壁面制作

保護者ボランティアが季節にあった壁面を制作してくださっている。“子ども達の作品も一緒に飾りたい”との思いから、ボランティアが作ってくださったキッドに子ども達が色をつけたり顔を描いたりして作った作品をうまく生かした装飾にする等、取り組みがグレードアップしている。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・長く続けていくために “できる人ができる時にできることから” をモットーに無理なく活動を進めている。

### ■ 事業の成果

- ・継続的に実施している活動（絵本の読み聞かせ）は、ボランティアが組織化され、園と連携・協働する体制ができている。
- ・壁面飾りは、子ども達の作品も合わせて、より充実した装飾ができている。
- ・運動会で行った“和太鼓”について、地域の方から太鼓の歴史やたたき方を教えていただき、地域の文化や伝統を学べるよい機会となった。また山川原地域総合センター『ふれあい太鼓のつどい』で披露できた。保護者にとっても地域の文化・伝統を再確認できる機会となったと感じている。
- ・地域の方に来ていただくことで職員だけでは指導できない貴重な体験活動ができている。また活動を通して、人と人とのつながり、園と地域・関係団体とのつながりも深まってきている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・園玄関にボランティア（愛知幼応援団）の掲示板を作成し、ボランティア活動の写真やお知らせをその都度、掲示している。来園者や保護者に紹介すると共に、“こんなボランティアならできるかな”と考えてくださるきっかけになればいいなどと思っている。
- ・地域の『ひと・こと・もの』を活用し、子ども達が地域の良さや特色に気付けるような体験を取り入れていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今後も地域コーディネーターを中心に関係団体との連携・協働を深め、“地域で子ども達を育てる”という意識を高めていきたい。



【 マリーゴールドの苗植え 】



【 太鼓のたたき方を教えてもらいました 】

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## みんなで作る みんなの秦荘東小学校

愛荘町	活動名：秦荘東小学校地域学校協働本部	秦荘東小学校	学校運営協議会	： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：80人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]				

### ■ 事業を考案する主体

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 学校行事や環境整備について、ボランティアの積極的な募集について（特に児童の保護者・祖父母への参加の呼びかけ）
- 地域学校協働活動の取り組みの発信

### ■ 地域と学校が協働した活動

#### ○学校支援活動

- ・学習支援【農業体験】稲の栽培（5年）…田植え、稲刈り、脱穀、しめ縄づくり  
やまいも栽培（4年）…植木鉢での栽培  
農業ボランティア、J A、役場の協力を得て、学習を進めている。  
特にやまいもは愛荘町の特産でもあり、やまいも振興会の指導の下、  
郷土学習をかねて行った。



【 やまいも植えつけ（4年） 】

#### 【福祉学習】アイマスク、車いす、手話体験（3年）

社会福祉協議会、ボランティア団体の方による授業

- ・環境整備【運動場とその周辺の除草等】【校内消毒作業】

#### ○図書ボランティア

- ・読書活動支援【読み聞かせ】 毎週火曜日 朝
- ・図書環境整備【絵本消毒】 図書室の絵本表紙の消毒活動（火・木）

#### ○郷土学習【社会科】3年（身近な地域の調査）…金剛輪寺、歴史博物館、古墳公園の調査では、お寺の住職や学芸員からの案内と説明を受けた。

6年（第二次世界大戦）…遺族会の方より戦中や戦後の生活について聞き取りを行う。



【 読み聞かせ（毎週火曜） 】

### ■ 実施に当たったの工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

実施にあたっては、地域学校協働活動推進委員、学校側（教頭・地域連携担当教員等）が連絡を取り合い、活動の調整にあたった。新型コロナウイルス感染症への対策として、校舎内での活動では、人数を制限して実施した。（5年では、稲の栽培後収穫祭を行ったが、学級毎に実施し、ボランティアの方も人数をしぼって参加いただいた。）

### ■ 事業の成果

感染対策を行った上で、ボランティアの方の協力を得た活動を年間を通して実施することができた。子どもにとっては地域の人々と顔見知りになり、地域の中の一員とである意識が高まってきた。2学期後半から感染症の拡大の兆候がみられたので、新たに図書室の絵本と廊下・階段等の消毒を行うこととなり、安心・安全な学校づくりを進めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

農業体験や登下校の見守りでは、継続してボランティアに参加している方が多いが、年々高齢になられ活動の継続が課題となっている。各種団体や行政など幅広く地域の方の支援をいただいているが、保護者の参画は少ない。今後、在校生の保護者や祖父母への活動への参加への参加を呼びかけ、地域・保護者で子どもの成長を支える活動の充実を進めていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域住民の自らの経験や知識を学校の教育に生かし、生きがいを感じる場が設けられるように地域学校協働本部を中心に地域への発信とともに地域資源を生かした教育活動の計画を進めていきたい。

### ■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

愛荘町立秦荘西小学校 地域学校協働活動 「手と手(てっとうて)」

愛荘町	活動名：秦荘西小学校地域学校協働本部	秦荘西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：19人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 ■その他（民協○Bつながり隊）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、秦荘西小学校の特色を生かした事業の進め方について意見交換した。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容について共通理解した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○5・6年生家庭科 手縫い・ミシン支援

6、7、10月に5・6年生の家庭科で手縫いの基礎、ミシン学習の支援をしていただいた。初めての手縫いでは玉止めや玉結びに苦戦する子どもが多く手を取って教えていただいた。なみ縫いを利用したブローチ作りでも仕上げまで手伝っていた。また、初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときはいねいに教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができた。



【 手縫い・ミシン支援 】

○5年生米づくり

学習田として田んぼを使わせていただき、田植えと収穫を社会科の学習と総合的な学習の時間の活動として実施した。農作業の工夫や思いなど話していただくとともに、田植えの体験学習の指導に当たっていただいた。（稲刈りは中止）

○読み聞かせ活動（月のくまさん）

毎週木曜日（8：20～8：35）に1年生と特別支援学級を対象に読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や子どもたちの興味関心により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 5年生 米作り 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域コーディネーターから募集案内を出していただき、協力内容を具体的に挙げ、支援していただける活動を回答していただいた。依頼窓口は原則として地域コーディネーターにまとめ、ボランティア各位との連絡調整をしていただいた。

○ボランティアの方の中には高齢の方もおられるため、依頼するにあたり本校の感染防止対策について説明をするとともに、状況に応じていつでもご辞退いただけることをお伝えした。

○収穫した作物と一緒に調理したり、食したりする活動はできなかったが、つるを利用してのリース作りをしたり、家庭へ持ち帰り、家庭内で話題を共有しながら味わうことができた。

■ 事業の成果

○地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な活動を安全に実施することができた。

○3年生では、町探検をし、地域の人からいろいろな話を聞いたり、共に活動したりすることを通して、自分たちが住む「愛荘町」の良さを見つけることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○ボランティアの高齢化が進みつつあるので、新たな人材の開拓が必要。

○本校にあるブドウの栽培が地域と連携して続けられるようにボランティアの方を募る。

○新型コロナウイルス感染症対策をしながら、地域と子どもの関係を深められる活動を検討する。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（該当学年教員）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## ふれ合い・分かち合い・つながり合い「愛がいっぱい愛知川小」の地域学校協働活動

愛荘町	活動名：愛知川小学校地域学校協働本部	愛知川小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・本校のボランティア活動内容についての情報共有。
- ・子どもから子どもへ引き継がれている「〇〇あい」を意識した児童主体の縦割り活動について、地域学校協働活動によって何かバックアップできないかを検討した。そこで、本校同窓会の提案で学校スローガン「愛がいっぱい愛知川小」を取り入れたデザインの新しい登校班旗を作成することとなり、その制作費用を本校同窓会が負担し登校班長への贈呈式を行うことができた。
- ・本校ボランティア活動のPR方法について検討。



【 新登校班旗贈呈式 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・5・6年家庭科ボランティア・・・5・6年生の手縫いやミシンの指導については、担任だけでは指導が追い付かない現状であったが、今年度は全ての授業で常に数名のボランティアの方が補助をして下さったおかげで子どもたちへ行き届いた指導を行うことができた。
- ・トイレ清掃ボランティア…月一回4～5名のボランティアの方に補助的なトイレ清掃をして頂いている。
- ・6年キャリア教育での地域の人材による出前授業…今年度3名の方に来て頂いた。
- ・読み聞かせボランティア など



【 キャリア教育出前授業 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・6年キャリア教育出前授業では、授業をクラスごとに分け複数回行うことで密を避けるよう工夫した。
- ・コロナ禍の消毒作業等で人手不足となる状況の中、トイレ清掃については月一回、また除草作業についても適時行って頂けた。

### ■ 事業の成果

- ・6年キャリア教育では、地域の方からご自身の仕事の内容だけでなく、夢を持つことの大切さや、夢に向かって進むことで困難をどう乗り越えるか、また夢や目標に向けて今何をすべきかなどのお話を、ユーモアを交えながらそれぞれの方が魅力あふれる授業をして頂いた。それらは子どもたちへの刺激となり、熱心にメモを取ったり、たくさん質問をしたりするなどの様子が見られ、大変有意義な時間となった。
- ・様々なボランティアにたくさんの方が来校され、その方々と親しげに話す様子や挨拶を交わす子どもたちが多く、地域の方々とのつながりがもてたことも成果であった。
- ・登校班贈呈式では、同窓会会長から登校班長一人一人への旗の贈呈が行われた。子どもたちは会長の挨拶を聞いて、たくさんのボランティアの見守りで安心・安全に登校できていることに対する感謝の気持ちを感じながら、班長としての責任と自覚を培うことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの人材確保については、現在来て頂いている地域の方々や教職員及び推進員の声かけによって今年度本校にたくさんの方が足を運んで下さった。今後においても更にボランティアのつながりの輪を広げていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ 教務主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 学校の教育活動をバックアップする東っこ応援団

愛荘町	活動名：愛知川東小学校地域学校協働本部	愛知川東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

### ■ 事業を考案する主体

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

#### ・学校ボランティアの拡充に関して

ボランティア募集すべき内容について話し合った。トイレ清掃や環境整備作業などの活動について多くの地域の方々に関わっていただいたり、知っていただいたりする必要がある。今後ミンボランティア等の他にも環境整備作業やトイレ清掃に関してもボランティアを募っていく方向で活動を推進する。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ・学校運動場環境整備活動

今年度、昨年度と運動会の開催に向けて、例年行ってきたPTA環境整備作業が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止、縮小開催となったため運動場の草が大変目立つこととなった。そこで学校と地域学校協働活動推進委員等で協議し、学校役PTA員とボランティアの方で、運動場及び学校周辺の除草作業を行った。少数での作業であったにもかかわらず、作業がとても捗った。また、PTAとの合同作業以外にも3回にわたり児童が気持ちよく運動会を迎えられるようにとボランティアが集まってくださり、除草作業を中心とした環境整備作業を行った。



【 環境整備作業 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

できる限り人数は少人数にした上で、外での活動であるが、身体的距離をとっての活動になるように場所決めを行った。また、学校だよりによりボランティアによる環境整備作業について広報することで保護者の方より問い合わせをいただき、参加いただくことができた。

### ■ 事業の成果

運動会前ということもあり、運動場の除草や1年生広場の清掃を中心に作業していただいたが、多くの保護者、ボランティアの方々の参加により、約2時間程度で作業を完了することができた。また、ボランティアの方と教員と保護者が一堂に会して作業することで、毎年この時期に除草作業を教員で行っていることを知っていただき、「来年も協力するから」と優しいお声がけをいただいた。また今年度より、学生ボランティアにも来ていただいている。主に1年生の生活支援にあたっていただいているが、とても臨機応変にたくさんの児童と関わり、教育効果があがっている。次年度以降も、学生ボランティアの拡充にあたっていきたい。



【 稲刈り体験 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年度より内容が大きく変わったので、来ていただける行事や作業の整理ができていなかった。来年度はより多くの方に学校に来ていただけるよう活動や事業の紹介を積極的に行ってきたい。また、稲刈り体験学習では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5年生のみの活動となったため、次年度以降全学年で実施できるよう工夫していきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域は学校の応援団・学校は地域の応援団 ～地域と学校の協働を通して～

愛荘町	活動名：秦荘中学校地域学校協働本部	秦荘中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：2人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域学校協働活動の内容を地域に知らせ参加につなげるにはどうすればいいか。
- ・大学生をはじめとする若いボランティア人材をどのように確保していくか。
- ・中学校生徒の上級生から下級生に勉強を教える活動を生徒会活動として実施できないか。



【 2年生職場体験 】

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・2年生職場体験学習における33カ所事業所への依頼と受け入れ。
- ・社会を明るくする運動に生徒会も参加。
- ・いくつかの神社の春祭りにおける巫女等の地域行事への参加。
- ・地域の元プロ野球選手から本校野球部への激励と差し入れ。
- ・9月の体育大会前を中心としたグラウンド除草作業及び学校周辺環境整備。



【 地域の元プロ野球選手の激励 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・全ての行事をコロナ禍により中止にしてしまうのではなく、可能性を模索しながらの実施。
- ・手洗い、消毒、換気の徹底。時と場所によるマスクの柔軟な着用。
- ・県や国の動向、近隣校の実施状況等を参考にしながら総合的に判断。

### ■ 事業の成果

- ・コロナ禍の中で多くの取り組みを実施することはできなかったが、工夫しながらできることを考えて実施した。
- ・特に2年生職場体験は、昨年度も今年度も実施しており、生徒たちにとってたいへん意義のあるキャリア教育となった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で事業が制限されたり中止になったりしたが、方法や規模を工夫しながら、今後も事業を継続していこうと考えている。
- ・地域の中で活動を重ねる中で、地域のよさに触れ、地域の温かさを感じ、愛荘町に愛着と誇りを子どもたちに持たせたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・令和3年度からコミュニティスクールとなり、学校運営協議会の開催を続けてきたが、昨年度はコロナ禍で授業参観ができなかった。しかし、今年度の学校運営協議会では子どもの授業の様子を参観していただくことができ、よりよい子どもの育ちについて協議を深めることができた。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 知を愛し 人権を尊び 地域との連帯にも生きる愛知中生

愛荘町	活動名：愛知中学校地域学校協働本部	愛知中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：49人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・昨年度より、学校運営協議会が立ち上げられた。本年度は、その中に「活動部会」を設置し、以前から実施していたり、新たに構想したりしている事業を、各部会の活動として整理し直した。部会の一つである「環境部会」では、プランターの花づくり・除草作業・美化活動・花壇づくりに取り組むなど、学校教育活動を支援する実践を行っている。今後も、学校の願いが実現できるように、学校運営協議会事業を計画していきたい。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ①愛荘町社会福祉協議会と連携した取り組み

7月29日に、愛荘町福祉協議会主催の「ボランティアカフェ スタートアップイベント」を本校で行った。ラッピング講座では、自主的に高齢者を支援する生徒の姿も見られた。



【 ①愛荘町社会福祉協議会との連携 】

#### ②NPO法人コレジオ・サンタナと連携した取り組み

10・11月に開催された「国際交流子ども絵画展」に参加し、協力した。多くの地域の方や町内にあるブラジル人学校のサンタナ学園の児童生徒たちと共に準備を進めた。ポルトガル語の話せる生徒が通訳を行い、お互いに交流を深める活動となった。



【 ②NPO法人コレジオ・サンタナとの連携 】

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・参加者の検温・マスクの着用・手指の消毒などの、基本的な感染対策を徹底するとともに、実施に当たっては、人数制限や活動時間の短縮や、会場の換気をこまめに行うなどの工夫をした。  
 ・コロナ禍だからこそ大切にしたい内容の活動を考えて創り出すように心がけた。

### ■ 事業の成果

①生徒たちに福祉についての気づきや学びがあった。また、スタッフの方や地域の方と触れ合うなかで、共感や協力する態度がみられ、学校の中だけではできない体験ができ、深い学びとなった。  
 ②同じ町内にブラジル人学校があることを知り、交流することにより、同じ地域に住む多様な人たちのことに思いを馳せる経験となった。多文化共生社会を実感する体験ができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

#### ○学校と地域学校協働活動推進員（学校支援ボランティア）の連携

・校長や学校運営協議会の意を受けて地域教育資源（人・物など）とつなげる。  
 →今後、学校の構想する取り組みへの地域教育資源を発掘していきたい。

#### ○「学校支援ボランティア」の活動を支援（本校は愛荘町の「支え愛ポイント制度受け入れ機関」の登録済み。）

・部活指導ボランティアの方を「学校支援ボランティア」として登録する。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

・中学校の教育活動への支援を考えると、それ相当の知識と技量などの専門性が必要となる。今後、学校運営協議会と連携をとり、学校が求めている地域教育資源（人・物など）を発掘し、学校教育活動に結びつけていきたい。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

**地域とともに、子どもも大人も笑顔いっぱいの甲良西 (nishi) 学区を創ろう**

<b>甲良町</b>	活動名：甲良西小学校地域学校協働本部 「笑nishi (えにし)」	甲良西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：9人 ボランティア登録数：25人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
  - ・運営方針（組織の在り方）
  - ・活動内容（子どもとともにできることは何か、組織拡大および地域ボランティア発掘について）
  - ・広報活動（通信、防災無線等）

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
  - ・西小サミットの開催（児童会との活動方針、活動計画の策定、卒業制作に向けての児童のプレゼン紹介など）
  - ・学校学習環境整備作業（特別教室の清掃、手形壁画の作成および保護者への協力依頼）
  - ・各教科、特別活動における地域ボランティアの活用計画について（クラブ活動、家庭科）
  - ・地域と共に創る卒業制作活動（学校花壇の制作およびボランティア依頼）

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・基本的な感染症対策の徹底およびマニュアル等を参考に実施の可否を判断。
  - ・全校生徒参加の西小サミットでは、6年生の参加、他の学年のTeamsによるオンラインでの参加など、参加者を制限。
  - ・コロナ禍の制限下でも、感染症対策をとりながらどういったことができるのかといった視点を大切にし、感染症対策はどうするのか活動主体である子どもの視点にたって、大人も子どもともに考え、子どもの創造性、豊かな心を育てるためにできる限りの活動を実施する方向で話し合った。



【 運動会入退場門制作 】

- 事業の成果
  - ・笑：大人も子どももコロナ禍の制限の中であるが、地域の支援とともに活動することで、子どもの「笑」顔を通して、人と関わり合う良さや温かさを感じることができた。
  - ・ni：学習活動を通して、「ni」んたい強く取り組むことで、成果物や学びのあしあとをふり返り、温かな声をかけもらい、自尊感情を高めることができた。
  - ・shi：人との関わり方が温かく、友達への優しさを感じられる言葉や行動がふえた。地域と共にあることを実感し、子どもも学校もいろいろな人の支えの中で学び、共に働き、育っていこうとする「shi」勢が見られるようになった。



【 第2回西小サミット（プレゼン） 】

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
  - ・講師、ボランティアの高齢化に伴う新たな資源の発掘および確保
  - ・子どもの主体性、創造性を生かした学校運営のための学校及び地域の支援内容や方法の検討
  - ・地域、学校、子ども3者の願いや困り感などの整理、実態調査等を今後継続させていく。
  - ・協働活動推進員（コーディネーター）を中心とした地域、学校組織との協働活動を継続させていく。

- その他（学校運営協議会との協働等）
  - ・昨年度、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げ、1年目の活動となった。今後は実効的なコミュニティ・スクールの在り方を考え、協議会内で検討していき、学校運営の支援を行っていきたい。また、地域の担い手として活躍できる子どもの育成を目指す中で、子どもも大人も笑顔になれる学校づくりを行っていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）  
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（                      教頭                      ）



## 「地域とともに多賀の子を育てよう」 多賀町地域学校協働本部の取組

多賀町	活動名 : 多賀町地域学校協働本部	町内6校園	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：116人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）読み聞かせ（小・中・幼・保・こども園）

長年実施している校園と中学校では、静かに聞く体制が整い、保幼小中連携の成果が表れている。コロナ禍のため、クラス単位の少人数、および短時間での読み聞かせを実施した。

#### （2）福祉・琴・環境学習（小・中）

地域のサークル等がゲストティーチャーとなり、琴や福祉などについて、本物に触れる機会を持ち、体験を交えて学習した。福祉学習では、思いやりについて考えるとともに、手話・点字なども教えていただいた。また、環境学習では、中学校特別支援学級の生徒に、花・野菜作りを収穫から販売まで、年度当初から継続して指導していただいた。



【 福祉学習（手話） 】

#### （3）自然保育時の見守り（こども園）、園外活動時の見守り（幼稚園）

自然保育を重視したこども園では、近くの高取山へ定期的に出かける活動が行われている。その際、雨天時も出かけるため、毎月当番制で保育士とともに見守り活動をしていただいた。子どもたち自身が活動内容を決め、セミをつかまえたり、枯葉を集めたり、箆を使ってササ舟を作るなど自然遊びも教えていただいた。また、幼稚園では、新こども園の建設に伴い、グラウンドが使用できる近隣施設での活動が実施されたため、見守り活動が始まった。毎月の活動を当番制にし、ボール遊びや虫つかみ、遊具遊びの見守り等にご協力いただいた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

読み聞かせでは、クラス単位で、短時間実施するようにした。見守り活動では、時にマスクを外すなど体調管理等もしながら活動した。福祉学習等では、グループ学習を極力減らし、クイズを取り入れる等児童が積極的に参加できるようにした。

### ■ 事業の成果

福祉学習では、より内容の濃いものにするために、ボランティアの方も工夫改善をされ、子どもたちにとり記憶に残る学習ができた。特別支援学級の生徒に対し、種まきから収穫・販売まで一連の流れを指導していただき、毎日の野菜の生育状況を共有できた。また、こども園の自然活動見守りや幼稚園の園外活動見守りでは、昔の遊びを教えていただくなど、園児とボランティアの方との交流がより深められた。



【 自然保育見守り（生き物探し） 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援の更なる充実を図るため、より多くのボランティアを創出することが必要である。ボランティアの募集をより広くおこない、子どもたちが本物に触れる学習をすすめられるよう学校との連携を図っていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

定期的にボランティア活動だより「ボランティア通信」を発行し、地域・校園・公共施設で回覧および掲示。更には一年間の活動報告書を作成し、全ボランティア登録者に配布したり、会議等で紹介するなど活動内容について周知した。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（教務主任、各学年担当者）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

## 令和4年度 地域未来塾 活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	20	水曜放課後学習会	東中学校	東中学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		さわやま教室	佐和山小学校	佐和山小学校	○	
		くろがねもち教室	城東小学校	城東小学校	○	
		学力補充教室	西中学校	西中学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	
		夏休みきらり学習教室	城北小学校	城北小学校	○	
		土曜日曜教室・てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区 支援地域協議会
		学び育ちLL教室	中央中学校	中地区公民館	○	
		水曜ゼミ	南中学校	南中学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		がってん教室	城南小学校	城南小学校	○	
		夏休み学習教室	亀山小学校	亀山小学校	○	
		彦根中地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		5年生学習支援教室	河瀬小学校	河瀬小学校	○	
		学力向上教室	高宮小学校	高宮小学校	○	
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中学校区 支援地域協議会
		夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	鳥居本小学校	○	
		地域未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	
ホップタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○			
ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○			
湖南市	4	放課後質問教室	石部中学校	石部中学校		
		放課後学習会	甲西中学校	甲西中学校		
		地域みらい塾	甲西北中学校	菩提寺まちづくりセンター 岩根まちづくりセンター		
		日枝中未来塾 日本語教室学習会、3年生放課後学習会	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	5	はびろ学習会	柏原中学校	柏原中学校		
		いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		放課後&夏休み全校学習課	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		米原学習室 (MGK)	米原中学校	米原中学校		
		土曜パチスタ	河南中学校	河南中学校		
日野町	2	ちょこっと学習会	日野中学校	日野中学校		
		立ち寄り学習処 ちょき		日野町少年センター		
竜王町	1	土曜龍王塾 (雲竜塾、昇竜塾)	竜王中学校	竜王中学校		
多賀町	1	土曜講座 (サタスタ)	多賀中学校	多賀中学校	○	(株) TOMONI

## あたたかい地域の大人との関係の中で、安心して学習に取り組める場づくり

彦根市	活動名 : 水曜放課後学習会	東中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 図書室		開始年度: 平成26年度	
年間開催日数: 28日 (開催ペース: 週・1日)		地域学校協働活動推進員等数: 2人 (兼務2人)	
平均参加人数: 11人		学習支援員等 平均人数: 4.5人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎・基本でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。生徒たちが地域の人とつながる場をつくる。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が主体的に決めたことをやり遂げられる支援を心がけている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。1学期は3年生の低学力の生徒を中心に、2学期からは、2・3年生の希望する生徒を受け入れ、生徒の自主性を尊重して運営。生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、学習の振り返りを記入する時間をとり、ボランティアとの交流に活用。コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底し、座席の取り方、換気などに配慮。

### ■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係はよく、生徒は積極的に質問しながら学習を進めている。複雑な家庭環境の生徒が、ボランティアに悩みを打ち明けたり、他愛もないおしゃべりをしたりする中で、元気を取り戻す場にもなっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

実施時間に会議が重なるなど、多忙な教員に意識をもって関わってもらうことは難しく、「協働」の形の再検討が必要。学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいように、担任をはじめ教職員と連携し、情報共有していきたい。

報告書記入者 (地域コーディネーター)



【学習会の様子】

## 個に応じた学習支援 ～わかる楽しさを感じて楽しく学ぶ場づくりを～

彦根市	活動名 : さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 彦根市立佐和山小学校		開始年度: 令和3年度	
年間開催日数: 20日 (開催ペース: 月3~4日)		地域学校協働活動推進員等数: 2人 (兼務2人)	
平均参加人数: 13人		学習支援員等 平均人数: 6人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習にしんどさが見られる児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学校 (担任や担当教員) と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで子どもたちが安心して聞ける関係づくりに努めた。少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組んでいる。また、終盤20分程度は、宿題に取り組む時間とし、今学習している内容についてもつまづき等の支援にあたっている。予習も視野に入れて宿題指導をしているため、授業に対する意欲や理解を深めることにつながっている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

児童も学習支援者も、検温等で体調管理は当然のこと、教室への出入り時には必ず消毒を義務付けている。また、一人分の学習スペースを十分に確保するよう子どもたちにも声をかけている。

### ■ 事業の成果

昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを子ども自身が感じて前向きに学習に取り組んでいる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてより良い手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者 (地域学校協働本部担当)



【学習指導の様子】

## 個に応じた支援で、やる気アップ！学力アップ！

彦根市	活動名：くろがねもち教室	城東小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：学校（各教室） 年間開催日数：3日（開催ペース：夏季休業中） 平均参加人数：25人／1日 ・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：4人／1日

### ■ 活動の概要と目的

- ・3年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。
- ・夏季休業終盤の3日間、8：30～10：00に実施。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・1学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。
- ・各学年3人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導・支援を基本とする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・1学期末個別懇談会で保護者に案内する。
- ・友達同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

### ■ 事業の成果

- ・2学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、8：30開始としたことにより、生活リズムを整えるきっかけになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・下校時の見守り等への協力もいただければ、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。



【一人一人がめあてをもって取り組む】

報告書記入者（地域連携担当教員）

## 「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！ 未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	西中学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：理科室、被服室 年間開催日数：30日（開催ペース：5月～2月 週1回） 平均参加人数：19人 ・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 学習支援員等 平均人数：8人

### ■ 活動の概要と目的

- ・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・元教職員の学習支援員を多く動員し、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。
- ・各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。
- ・夏季休業中は、各学年の学力補充教室と連携して実施した。
- ・コーディネーターを2人体制にして、2会場で学習会を実施し、蜜を避け集中して学習ができる対策を行った。
- ・学習支援員の検温と健康チェック、手指消毒を学習会の開始前に実施した。

### ■ 事業の成果

- ・個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。
- ・地域の方や大学生との交流が深まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。また、高齢の方を学習支援員に動員することで感染症による健康面について心配される。

### ■ その他

- ・特別な支援を必要とする生徒への個別の学習支援を高めていく学習会の体制を検討する必要がある。



【放課後学習教室】

報告書記入者（教頭）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名 : 放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 教室 年間開催日数: 16日 (開催ペース: 週1日) 平均参加人数: 15人 ・学習形態 : <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度: 平成24年度 地域学校協働活動推進員等数: 2人 学習支援員等 平均人数: 3人	

- 活動の概要と目的
  - ・算数科を中心に基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を4～6年生の希望者を対象に年間16回開催した。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。
- 事業の成果
  - ・児童に個別に対応することができるため、その児童が持つ困り感に寄り添い、理解を深めることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。



【 6年生のバックアップ教室 】

報告書記入者 ( 教頭 )

夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名 : 夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 教室 年間開催日数: 3日 (開催ペース: 年3日) 平均参加人数: 60人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度: 平成26年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 学習支援員等 平均人数: 4人	

- 活動の概要と目的
  - ・実施日時: 夏季休業中の3日間 (7月21日 (木) 22日 (金) 25日 (月))、いずれも8:30から10:00まで
  - ・目的: 算数科を中心とした、個別の学力補充
- 特徴的な学習支援内容
  - ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
  - ・感染防止対策として、健康状態の確認、マスクの着用、入退室時の手指消毒、換気を行い、自教室の自席での学習とした。
- 事業の成果
  - ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。



【 個別指導の様子 】

報告書記入者 ( 教頭 )

来てみる・やってみる 「土曜日曜教室・てみる」

<b>彦根市</b>	活動名：土曜日曜教室・てみる	中央中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：理科室 年間開催日数：10日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：8人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。2時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動に広がることも期待している。



【1対1を基本として実施】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するようにしている。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わり方の質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者（ 教頭 ）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

<b>彦根市</b>	活動名：学び育ちLL教室	中央中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：中地区公民館 年間開催日数：44日（開催ペース：週1日、月4回） 平均参加人数：14人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：10人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。



【 LL教室の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中央中学校の土曜教室てみると同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設けて活動について発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では対面を避け隣の席から学習を見守れるようにしている。

■ 事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や特別支援の配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部 「水曜ゼミ」	南中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：南中学校 年間開催日数：12日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：15人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） 学習支援員等 平均人数：3人	

- 活動の概要と目的
 

○放課後学習「水曜ゼミ」（11～2月）は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。基本週に1回のペースとしているが、今年度は昨年度同様12月に集中講座として4日間連続で開催した。

○未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、今年度も実施していない。
- 特徴的な学習支援内容
 

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。
- 事業の成果
 

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。また生徒用タブレット端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（ 教 頭 ）

## 「わかった」「できた」子供の笑顔のために

彦根市	活動名：がってん教室	城南小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：100人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：3人	

- 活動の概要と目的
 

夏季休業中の午前3日間を設定し、1学期の学習内容を中心とした学力補充を行う。
- 特徴的な学習支援内容
 

夏季休業中の課題や児童自身が付けたいと考える力にあった学習など、個々に選択できるようにする。また、学年によっては、演習を中心とする「どんどんコース」、参加児童同士で話し合ったり教え合ったりできる「じっくりコース」など、学び方を選ぶことができる。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 

開催要項は全家庭に配布するとともに、目的や取り組み方等を担任より児童へ説明する。強制はしないが、1学期末の個別懇談会で、個別に参加を促すこともある。実施場所が密にならないようにした。
- 事業の成果
 

学習に自信がもてなかったり、夏季休業中、どのように学習や課題を進めたらよいか不安に思ったりする児童の支援の場となった。小集団での学習や個別に質問ができる環境で、安心して学びに向かうことができたと思う。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 

参加児童の実態や人数によっては、十分対応できない日もあった。支援員の増員の検討をしていく必要がある。



【 がってん教室での児童の様子 】

報告書記入者（ 地域連携担当 主幹教諭 ）

**夏休み学習教室 ～基礎・基本の学力の定着を目指して～**

彦根市	活動名：夏休み学習教室	亀山小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：亀山小学校教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：80人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：6人	

- 活動の概要と目的
  - ・夏季休業中の3日間（7月21日・22日・25日）、いずれも9：00から10：30まで実施した。
  - ・基礎・基本の学力の定着を目的としている。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・基礎・基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応できるようにし、子どもが理解できるよう支援した。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・1学期末の個別懇談会の機会に、学習教室に参加させたい児童（基礎・基本の定着が十分でないと思われる児童）の保護者に趣旨や方法を説明し、理解を得るようにした。
  - ・教室の消毒や換気、室内温度をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。
- 事業の成果
  - ・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたり、プリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・「基礎・基本の定着が十分でない児童に個別に指導する」という趣旨を保護者に理解していただき、昨年度より参加人数を絞ることで、よりきめ細かな支援ができた。今後も同様の規模で学習教室を実施していきたい。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

**学びを育む学習会**

彦根市	活動名：彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：被覆室 年間開催日数：39日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：16人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：3人	

- 活動の概要と目的
  - ・毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、何を学習してよいのかわからない生徒も多数いる。そこで、地域の方々と大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・夏季休業中の補充学習および質問教室では、全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行っている。
  - ・3年生の放課後学習会では、10月から毎週火曜・木曜を基本にして、生徒が持参する学習教材や、基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が行っている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。
- 事業の成果
  - ・学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに、意欲的に取り組んでいた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。
- その他
  - ・活動状況は、本校HPにて掲載している。<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>



【 3年放課後学習会 】

報告書記入者（ 教 頭 ）



## 5年生 算数科学習支援教室

彦根市	活動名 : 5年生学習支援教室	河瀬小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 5年生教室 年間開催日数 : 15日 (開催ペース : 週5日) 平均参加人数 : 30人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プリント等採点) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (休み時間) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成23年度 地域学校協働活動推進員等数 : 2人 学習支援員等 平均人数 : 1人	

### ■ 活動の概要と目的

- ・5年生算数科の学習支援を行い基礎学力の定着を図る。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・個別の学習支援 ・プリントを採点する。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・本校に教育実習に来た本校卒業生の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・5年生の学習進度に合わせて支援をしてもらった。2学期末は、既習学習の復習を中心に支援をしていただき、3学期は、面積の学習に特化してクラスごとに支援をしていただいた。



【復習プリントをチェックしてもらう児童】

### ■ 事業の成果

- ・従来は、休み時間を利用して担当が1人で復習や定着度合いを見取っていたが、2人体制で指導することで短期間に効率的に指導することができた。
- ・児童も担任以外の先生に教えてもらえるということで、意欲的に取り組み、定着を図ることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・本来ならば、夏休み学習補充教室を実施予定であったが、今年度もコロナ禍の影響で補充教室は中止となった。ただ昨年度実施した、2年生の九九マスター教室で子どもたちも意欲的に取り組めた姿があったので、今年度は、5年生の算数科の学習支援を計画し実施した。
- ・今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。

報告書記入者 (地域連携担当者)

## 地域と共に育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名 : 学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室 年間開催日数 : 2日 (夏季休業中) 平均参加人数 : 60人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 令和3年度 地域学校協働活動推進員等数 : 2人 (兼務2人) 学習支援員等 平均人数 : 4人	

### ■ 活動の概要と目的

- ・基礎学力の定着及び学力のさらなる向上を図る。
- ・学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・国語と算数を中心に補充学習を進める。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・コロナ禍のため、密を避け、前半後半の2つのグループ制にした。前半は、基本コースとし、授業の復習や夏休みの宿題に取り組んだ。後半の応用コースでは、ガッテンプリントなどの発展問題に取り組んだ。

### ■ 事業の成果

- ・少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。また、学習支援員を地域住民から募ったことにより、地域未来塾だけでなく、ほかの学習にも協力をいただけるようになり、継続して子どもたちの学力支援をいただくことができた。



【学力向上教室】

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援員の確保に努めていきたい。

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

## 地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：10日（開催ペース：夏休み） 平均参加人数：4人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員数：1人 学習支援員等 平均人数：2人	

- 活動の概要と目的
  - ・生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・基礎的な学力の補充
  - ・長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・参加者の募集については、学力の補充が必要な生徒を教員が選んでいる。
  - ・実施にあたっては、マスクを着用し、密を避け、個別に指導をする。
- 事業の成果
  - ・生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
  - ・地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
  - ・学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが、課題である。
  - ・平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保という面から、なかなか難しい。



【夏休み補充教室】

報告書記入者（          地域連携担当者          ）

## 輝く笑顔 一人ひとりの「わかった!」をめざして

彦根市	活動名：夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：鳥居本小各教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：25人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：3人	

- 活動の概要と目的
  - 国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の3日間（7月21日(木)、22日(金)、25日(月))、いずれも、8:30から10:20まで実施した。
- 特徴的な学習支援内容
  - 基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - 個別指導が望ましいと判断した児童への、担任からの呼びかけにより参加を募った。会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大や基礎基本の熱中症発症の防止に努めた。
- 事業の成果
  - 学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さに目を向ける児童の姿も見られた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。



【夏休み国語算数教室】

報告書記入者（          教頭          ）

## 生徒の自主性を尊重し、リラックスして学習に取り組める場

彦根市	活動名 : 地域未来塾	稲枝中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 3年教室、図書室、大会議室 年間開催日数 : 28日 (開催ペース : 週1回・月4日) 平均参加人数 : 20人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (三者懇談会時) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成28年度 地域学校協働活動推進員等数 : 2人 学習支援員等平均人数 : 4人	

- 活動の概要と目的
  - ・自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・7月、夏休み、2月までの毎水曜日、保護者懇談会の期間に→3年生を対象に定期考査や高校入試に向けた学習支援
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・生徒の募集→3年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集  
3年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や受験対策を必要とする生徒に勧める。
  - ・コロナ対策→当初の応募希望者が多く、普通教室を二部屋で実施したり、図書室や大会議室を利用して、密にならないように席を取って実施してきた。
- 事業の成果
  - ・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
  - ・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・地域未来塾の講師の発掘が大変である。
  - ・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。
- その他



【 質問教室の様子 】

報告書記入者 ( 地域コーディネーター )

## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名 : かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 音楽室 年間開催日数 : 15日 (開催ペース : 月3日) 平均参加人数 : 18人 ・学習形態 : <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成30年度 地域学校協働活動推進員等数 : 6人 (兼務1人) 学習支援員等平均人数 : 5人	

- 活動の概要と目的
  - ・4・5年生の児童を対象に、6月より月に3回程度の学力補充の時間を計画した。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・5月に年間を通して受講できる希望者を募った。さらに、担任より個別指導が望ましいと考える児童に参加を促した。
  - ・児童がつまづきやすい学習内容 (概数、小数のわり算、割合など) を中心に、プリントを作成している。
- 事業の成果
  - ・算数科の基礎的な学習内容を復習することで、児童の学力向上につながっている。また、たくさん問題を解くことを通して、「できるようになった」と自信をもたせることができた。
  - ・学習を通して、児童と地域の方が交流することができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・今後も取組を継続するにあたり、学習支援員さんの人材確保が心配である。
  - ・教員が時間をかけて、学習教材を準備している点は課題である。



【 学習支援の様子 】

報告書記入者 ( 地域連携担当教員 )

**わくわく はえみ学習**

彦根市	活動名 : ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 各教室、図書室、音楽室 年間開催日数 : 12日 (開催ペース : 月1日) 平均参加人数 : 21人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 令和2年度 地域学校協働活動推進員等数 : 0人 学習支援員等 平均人数 : 4人	

- 活動の概要と目的
  - ・ 確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習
- 特徴的な学習支援内容
  - ・ 一つの学級を2グループに分け、各グループに2名の指導者を配置した。課題は、学習内容に合わせて難易度を分けて用意した。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・ 下校時の安全面の配慮から、基本的に全員参加としている。1クラス10~13名の人数で、十分に間隔を空けて学習できるようにしている。
- 事業の成果
  - ・ 普段の学習よりも子どもの人数は少なく、指導者の数は多いため困っている子どもに対して、十分に関わることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・ 指導して下さる方と学校、また担任との日程調整や内容確認を早めに行うことで、学習プリントの準備等、計画的に行う。



【 ホップタイム 】

報告書記入者 ( 地域連携担当職員 )

**基礎的・基本的な学力の定着を目指して ~「できる・分かる」喜びを~**

彦根市	活動名 : ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 2年教室・4年教室 年間開催日数 : 50日 (開催ペース : 週2日) 平均参加人数 : 5人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成27年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 2人	

- 活動の概要と目的
  - ・ 少人数による個別指導を実施することにより、基礎的・基本的な学力の定着を目指す。また、児童に「できる・分かる」喜びを味わわせる。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・ 課業日の月曜日 (1~3年) 水曜日 (4~6年)、学期ごとに参加児童を募集し定員を8名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題 (プリント等) を準備して実施したりし個別の進度で学習を進める。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・ 全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4~7名という少人数で実施している。感染症対策として、常時換気・マスク着用・密にならないような座席配置に留意している。
- 事業の成果
  - ・ 学習に苦手意識のある児童にとって、分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・ 今年度、昨年度指導にあたっていただいた学習支援ボランティアのお一人が、都合によりぐんぐんクラブの指導ができなくなった。地域学校協働活動推進員のご尽力で代わりの方を何とか探していただいた。学習支援ボランティアの確保も課題の一つになっている。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていく必要性を感じている。



【ぐんぐんクラブでの学習の様子】

報告書記入者 ( 教頭 )

学習習慣の定着を目指すための放課後学習

湖南省	活動名 : 放課後質問教室	石部中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 普通教室 年間開催日数 : 75日 (開催ペース : 週2~3日) 平均参加人数 : 15人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成28年度 地域学校協働活動推進員数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 3人	

- 活動の概要と目的
  - ・家庭での学習がうまく進まない生徒に放課後の教室を使い、予習や復習をすることで学習習慣の定着をめざす。
  - ・今年度は、2年生で平日放課後にテーマ別学習会を開催した。(教員と学習支援員で開催)

- 特徴的な学習支援内容
  - ・定期テストに向けて、学習でのわからないことを教える。
  - ・学校の宿題のわからないところを支援する。
  - ・実技教科の遅れている作業を援助する。
  - ・テストのポイントとなる部分を再度講座として開設する。(テーマ別学習会)



【 2年テーマ別学習会 社会 】

- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・手洗い、検温、マスク着用など基本的な感染症対策実施
- 事業の成果
  - ・家庭での学習習慣をつけるために効果があったと考えられる。
  - ・意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・支援する人材の確保
  - ・冬季は、6時間授業を行うとほとんど放課後の時間がない。部活動との兼ね合いが難しい。
  - ・学年が上がるにつれ、学習内容が難しく専門の教科以外は教えることが難しい面もある。
  - ・定期テスト前に生徒の需要が集中しがちである。

- その他
  - ・2年のテーマ別学習会では、教室定員を上回る希望者が殺到するなどの嬉しい誤算もあった。

報告書記入者 ( 校長 )

やる気をサポート! ~生徒たちの未来づくり・夢づくり~

湖南省	活動名 : 放課後学習会	甲西中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 第2理科室 年間開催日数 : 25日 (開催ペース : 週1日) 平均参加人数 : 15人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成26年度 地域学校協働活動推進員等数 : 3人 学習支援員等 平均人数 : 4人	

- 活動の概要と目的
 

本校の生徒の課題として、家庭学習がほとんどできていないことが挙げられる。家庭での学習環境が整っていないことも考えられるが学習方法がわからないことも要因である。そこで、地域の方や大学生などに学習ボランティアとして支援していただき、自主的・主体的な学習習慣を身につけるため、学習会を8月から放課後に週1回1時間実施している。

- 特徴的な学習支援内容
 

毎回5教科のプリントを使用して学習に取り組んだ。3年生については過去の入試問題にチャレンジした。

- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
 

参加者が多い時には図書室など広い会場を使用して密にならないようにした。常に換気のため窓を開け、学習会前後にはアルコールでの手指消毒を徹底した。

- 事業の成果
 

その場だけでなく家に持ち帰って学習の続きをするなど、家庭での学習習慣につながっている。継続して参加する生徒が増えてきている。

- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 

学力に課題やしんどさのある生徒にもっと参加してもらいたい。そういった生徒には個別に声かけを行う。



【 放課後学習会 】

報告書記入者 ( 地域学校協働活動推進員・教頭 )

## 生徒の家庭学習をみまもります ～地域で支える地域の子ども～

湖南省	活動名：地域みらい塾	甲西北中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：菩提寺まちづくりセンター・岩根まちづくりセンター		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：30日（開催ペース：月2回）		地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務4人）	
平均参加人数：各会場10人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

- 活動の概要と目的
  - ・学習の場の提供
- 特徴的な学習支援内容
  - ・学習の進み具合をみながら、希望に応じ個別に支援
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・事前申込み無しでの自由な参加とし、時間内であればいつ来てもいつ帰ってもOK。校内にポスターの掲示、チラシの配布、メール配信システムを使って開催のお知らせをしている。
- 事業の成果
  - ・さまざまな理由で自宅では自主学習しづらい生徒が、落ち着いた雰囲気の中で集中して学習に取り組んでいる。生徒同士が教え合い学んでいる時もある。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・家庭環境などさまざまな事情で学習が遅れがちな、本当に必要な生徒に対して支援ができていないのではないかと。
- その他
  - ・今年度より、開催会場が2会場に増えたが、学習支援等への謝金の補助が前年度と同じなので、限界を感じている。



【夏休みに岩根まちづくりセンターにて】

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

## 輝く明日を築く生徒の育成を目指して ～日枝中未来塾～ 外国籍生徒日本語教室学習会・3年進路支援

湖南省	活動名：日枝中未来塾 ～日本語教室学習会、3年生放課後学習会～	日枝中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：日本語教室		開始年度：平成29年度	
年間開催日数：22日（3年生進路支援は週1）		地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

- 活動の概要と目的
  - ・学力保障や学校生活安定のために、支援が必要な生徒に対して、学習支援員や本校卒業の先輩大学生の支援のもと学習会を実施する。
- 特徴的な学習支援内容
  - ・外国籍生徒への「やさしい日本語」での対応を通じて生徒たちへの学習支援を行い、生活の安定と進路支援を目指している。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・基本的には希望参加であるが、三者懇談会や教育相談を通して、生徒の状況を把握して、参加を勧める。
- 事業の成果
  - ・個別に丁寧な支援を行うことによって、基礎学力の定着、生徒の学習意欲の向上や、進路に対する前向きな姿勢が見られる。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
  - ・毎年の取組によって、一定の参加者があり学習会として成果をあげている。
  - ・長期休業中に定期的実施するために指導者の安定的な確保が必要。
- その他
  - ・タブレットの翻訳機能、ポケトークなどの機器を充実させて支援を充実させる。



【日本語教室学習会】

報告書記入者（ 学校支援員、教頭 ）

## 自分でつかむ自分の未来「はびろ学習会」

米原市	活動名 : はびろ学習会	柏原中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 柏原中学校図書室 年間開催日数 : 2日 平均参加人数 : 18人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 令和4年度 地域学校協働活動推進員等数 : 3人 (兼務3人) 学習支援員等 平均人数 : 2人	

■ 活動の概要と目的

- ・長期休業中に自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への学習支援
- ・学習習慣の定着と自学自習ができる力を付けるきっかけとする

■ 特徴的な学習支援内容

- ・参加者各自が教材を準備し、自分のペースで自主的に進めることを基本とした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・初年度ということもあり、校長が各教室に向向いて事業の目的や方法を説明し、希望者を募った。図書室で行い、机1台に2人までの利用として密にならないようにした。また、自分の都合に合わせた時間に参加してもよいとし、学習会に参加しやすいようにした。

■ 事業の成果

- ・予想したより多くの生徒が参加した。基本的には全員黙々と取り組み、質問のある生徒は積極的に質問する姿を見せた。自学自習の習慣を付けさせるきっかけとなった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・まずは、支援者の確保が難しい。CS委員とも連携しながら探していきたい。次に、部活動との兼ね合いが難しい。学習習慣をつけさせることが目的でもあるので、他の長期休業日やテスト前の土日にも実施していけるよう検討していきたい。



【 はびろ学習会の様子 】

報告書記入者 ( 校長 )

## 学力補充「いつやるの、今でしょう！」教室

米原市	活動名 : いつ今教室	大東中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 会議室、図書室ほか 年間開催日数 : 30日 平均参加人数 : 10~30人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成25年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 4人	

■ 活動の概要と目的

- ・概要 定期テスト前や長期休業中、また、3年生入試前の時期に学力補充やテスト対策を実施する。
- ・目的 低学力生徒の基礎学力定着と向上  
自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への支援  
希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援

■ 特徴的な学習支援内容

- ・参加希望者を募って実施
- ・課題プリントを作成し、参加生徒の学力レベルに応じた指導
- ・各生徒の疑問や質問に個別に対応

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・各テスト前や長期休業前に参加募集の案内を作成しての呼びかけ

■ 事業の成果

- ・生徒からは「丁寧に教えてもらえるのでわかりやすい」という感想が多い。
- ・保護者からの事業継続実施を望む声が多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援員の一定数の確保や日程調整、開講日数増加の検討



【 2学期期末テスト前 】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 放課後学習会 & 夏休み全校学習会

米原市	活動名：放課後&夏休み全校学習会	伊吹山中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：本校ランチルーム 他 年間開催日数：放課後13日 夏休み4日 平均参加人数：50人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員数：0人 学習支援員等 平均人数：5人

### ■ 活動の概要と目的

定期テスト前の放課後や長期休業中を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分のペースに応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得する。さらに、授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組み、個別に質問できる場として開催した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、自由に質問ができるような形態をとっており、多くの生徒が参加を希望し、学習を進めることができています。

部活動に配慮して、長期休業中は、部活動のない午後に行い、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。

### ■ 事業の成果

長期休業中や、部活動停止期間となる定期テスト前に実施したことで、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

生徒のニーズに応じるようにするため、学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。



【 放課後学習会 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の力を活用し、人との関わり、自分を磨く子どもの育成をめざす

米原市	活動名：米原学習教室（MGK）	米原中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：米原中学校 年間開催日数：70日（8月1週目5日間、10月以降月平均10日開講） 平均参加人数：20人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：2人 学習支援員等 平均人数：1～2人

### ■ 活動の概要と目的

・コロナ禍の中、学習面で不安を抱える生徒も多い中、長期休業中に低学力の生徒を中心に学習支援を行った。3年生は2学期から放課後の時間を活用し、3教科(国語・数学・英語)の講座を開催した。

・英語検定講座は専門の講師を迎え、3級4級の2講座を7回開催した。

・3学期は入試の小論文講座を1月に4回開催した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

・今年度は、8月の第1週に1～3年の全学年、生徒が課題を持参し、元教員と地域ボランティアが個別指導を行った。3年生は11月より入試に向けた3教科の講座を開講した。1月には入試の小論文対策として元国語教員が指導にあたった。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・全保護者あてに、案内を出した。課題の多い生徒は担任から直接声をかけた。

・夏季学習について、3年生を中心に1、2年にも拡大して質問教室を実施できた。

### ■ 事業の成果

・一人では課題に取りくめない生徒も、課題を提出することができた。3年生については講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を2学期から行うことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・教員の働き方改革の視点からも本事業は有用であるが教員OB等講師の確保が難しい。

・朝の始業前の時間にも補習・質問教室ができるといいがこれも講師の確保が難しい。



【 MGKの様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）



## 笑顔いっぱい・学びいっぱい活動 ～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名 : 土曜バチスタ	河南中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 多目的教室 年間開催日数 : 15日 (開催ペース : 月2日) 平均参加人数 : 8.8人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成29年度 (今年から活動名変更) 地域学校協働活動推進員等数 : 0人 学習支援員等 平均人数 : 2人	

### ■ 活動の概要と目的

月2回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のために、その場を提供して、生徒の学びの基礎を育成する。

### ■ 特徴的な学習支援内容

本校を卒業した大学生を講師に招き、自主的に学習を進めるうえで、わからないところをすぐに質問できる体制を構築した。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

保護者宛の文書や学校通信によって周知した。9:00から12:00の間の都合のつく時間帯で参加可能にした。

### ■ 事業の成果

家庭ではなかなか集中できない生徒も、土曜学習会に参加することで黙々と取り組む雰囲気の中、わりと集中して学習に取り組んでいた。わからないところなどは講師の大学生に質問でき、理解を深めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

講師の大学生の都合もあるため、開催日を事前に決定することに苦慮した。定期テスト前など多くの生徒が参加する傾向があり、今後も学習する場の提供は必要と強く感じた。

### ■ その他

前日に、昇降口に案内をたて、メール配信で開講予定を事前に周知した。



【 土曜バチスタの様子 】

報告書記入者 ( 校長 )

## 気軽に訪ね、気軽に学ぼう、ちょこっと学習会

日野町	活動名 : ちょこっと学習会	日野中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 図書室 年間開催日数 : 9日 (開催ペース : 定期テスト前2回) 平均参加人数 : 40人 ・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成30年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 6人	

### ■ 活動の概要と目的

一人では学習に向き合えない生徒や、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的として、学習支援員の支援のもと学習会を実施している。

### ■ 特徴的な学習支援内容

本年度は、参加者増を考慮テスト前に実施することにした。全学年を対象にしたことと、支援員を経験豊富な元教職員と本校卒業の大学生にお願いすることで、生徒にとって、より質問しやすく、また身近に感じられる学習会になったと考える。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

全校生徒に参加者募集のチラシを配った。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と、積極的な参加を促してもらった。

### ■ 事業の成果

家庭では、なかなか学習に取り組めない生徒も、集中して学習に取り組めた。また、学習支援員に分からないことを質問することで、理解を深めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

普段から学習に向き合えない生徒の参加は少ない。来年度は曜日と参加者を固定して、補充教室的に行うことも取り入れたい。



【 学習の様子 】

報告書記入者 ( 教 頭 )

## 一緒に勉強してスッキリさせましょう！ ちょっと ききたい ちよき

日野町	活動名：立ち寄り学習処 ちよき	日野中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：日野町少年センター 年間開催日数：60日（開催ペース：週1～2日） 平均参加人数：5人 ・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員数：0人 学習支援員等 平均人数：4人	

### ■ 活動の概要と目的

家庭学習の習慣が十分でない生徒が、学校帰りに気軽に立ち寄り、日常の中学校の学習で十分理解できなかったところを、大学生や教員経験者の指導を受けて学習する場所を提供し、基礎学力や学習意欲の向上を図った。

### ■ 特徴的な学習支援内容

昨年度の反省を生かし、今年度から全学年を対象とし、学習支援員は大学生や教員経験者を配置し、できるだけ気楽に質問・学習ができるように努めた。

また、基礎学力の不足した生徒や家庭学習の習慣のない生徒に対しては、できるだけ個別指導で細部まで指導できるよう配慮した。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

参加者の募集については中学校と連携し、全校生徒に二度チラシを配布し募集した。また、部活動や学校行事との調整を行いながらより参加しやすくするように努めた。

### ■ 事業の成果

日頃の学習で理解できていないところを学びなおすことができ、また学習習慣が定着していない生徒にとっては決められた時間に学習できる機会となり、参加者は満足していたようである。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学年によって参加人数に差異がある。また、学校でも同様の学習支援活動が開催されているが、そこの住み分けと同時に、学校に登校しづらい生徒や、学校の活動には参加しづらい生徒への呼びかけをどうするかが課題である。



【 活動の様子 】

報告書記入者（学習支援コーディネーター）

## 土曜龍王塾～「望み高かれ！」輝く未来に向け“志高く生きていく生徒の育成”を目指して～

竜王町	活動名：土曜龍王塾（雲竜塾・昇竜塾）	竜王中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：竜王中学校 年間開催日数：土曜日 6回 平均参加人数：土曜日 35人 ・学習形態：■個別の学力補充 ■教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：15人	

### ■ 活動の概要と目的

竜王中学校OB・OGを中心とした大学生や教員OBなど、地域住民から幅広く協力を得て、中学校3年生を対象に秋以降の土曜日に学習を一層深めたい子どもたちの学ぶ機会として、また、家庭学習の習慣が十分に身につけていない子どもたちへの学習支援の場の創出として事業を実施する。

### ■ 特徴的な学習支援内容

雲竜塾（発展的な学習・特色選抜入試対策）と昇竜塾（基礎的基本的学力の定着）の2つのコースを設け、生徒のニーズに合わせ、子どもたちの主体的な学習を支援する内容としている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年度に引き続き、検温・消毒を実施し、教室（会場）を分けて実施した。

### ■ 事業の成果

受講生も多く、学習支援に貢献するとともに、大学生や教員OBなどの地域住民が講師として協力し、学校と地域が連携・協働する場となっている。また、参加した受講生は希望校に進学する割合が高くなっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今後、受講生が増えた場合、教材や謝礼などの経費をどう捻出するか、また、継続可能な指導者の確保をどうするかが課題である。



【 土曜龍王塾の様子 】

報告書記入者（生涯学習課 生涯学習係 主査）

## 中学生の学力向上を図る土曜講座の取組 ～ 教育委員会・学校・塾等の連携 ～

多賀町	活動名 : 土曜講座 (サタスタ)	多賀中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 多賀中学校 年間開催日数 : 17日 (開催ペース : 月3日) 平均参加人数 : 30人 ・学習形態 : <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度 : 平成21年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 4人	

### ■ 活動の概要と目的

中学生の学力向上を目的として、土曜日の午前中、多賀中学校を会場として希望生徒に対して、塾講師の指導による学力講座を開講している。

### ■ 特徴的な学習支援内容

提携塾に講師派遣を依頼し、学年別に国語・数学・英語の3教科の学習講座を開講。大学生ボランティアも加わり、丁寧な学習支援を行っている。中学校とも連携し、年間指導計画に沿った学習内容となるようにしている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

中学校の各学級で生徒・保護者へ案内文書を渡してもらい、中学校と連携して募集。コロナ感染防止のため、中学校に会場変更し、換気・消毒など感染対策の徹底を図っている。

### ■ 事業の成果

「安価で学習をする機会が得られ、土曜日の規則的な生活リズムが確立できる。」と好評である。また、学校と連携した指導と効果的な個別支援により、学習に自信をつけた生徒も多い。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

奨学金受給者・大学生中心に広く募集を呼びかけることで、学習ボランティアへの参加者数を拡大し、より充実した個別の学習支援が図られるようにする。



【 土曜講座風景 (3年生) 】

報告書記入者 ( 町担当者 )

令和4年度 放課後子ども教室 活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
近江八幡市	8	寺子屋 八幡	八幡小学校	八幡コミュニティセンター		
		寺子屋 沖島	沖島小学校	沖島小学校		
		寺子屋 岡山	岡山小学校	岡山小学校		
		寺子屋 金田	金田小学校	金田コミュニティセンター		
		寺子屋 馬淵	馬淵小学校	馬淵小学校		
		寺子屋 むさ	武佐小学校	武佐小学校		
		寺子屋 安土 「マリアナ教室」	安土小学校	安土小学校		
		寺子屋 老蘇 「こども学習教室」	老蘇小学校	老蘇コミュニティセンター		
草津市	1	放課後子ども教室	笠縫小学校	笠縫小学校		
栗東市	6	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東		
		はるたっこ広場	治田小学校	治田小学校 コミュニティセンター治田		
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校	治田東小学校		
		治田西のびのび広場	治田西小学校	治田西小学校		
		大宝わくわくタイム	大宝小学校	大宝小学校		
		さんさん・キッズ	大宝東小学校	大宝東小学校		
野洲市	7	野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域 教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	三上小学校	コミュニティセンターみかみ	○	
		篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校	コミュニティセンターしのはら	○	
		ぎおう子ども体験教室	祇王小学校	祇王小学校、篠原小学校、 永原御殿跡	○	
		北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校	コミュニティセンターきたの	○	
		中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校	コミュニティセンターなかさと	○	
		中主地域子ども教室（兵主学区）		コミュニティセンターひょうず	○	
東近江市	7	マナビーみその	御園小学校	御園コミュニティセンター		
		みなみっこ学習会	八日市南小学校	南部コミュニティセンター		
		八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校	八日市コミュニティセンター		
		放課後子ども教室「まなびい」	市原小学校	市原小学校		
		わくわく夏休み勉強会	五個荘小学校	五個荘コミュニティセンター		
		夏休み宿題教室	湖東第二小学校	湖東第二小学校		
		東近江アミーゴ教室	市内小中学校	福祉センター ハートピア		
日野町	5	日野小チャレンジ教室 (日野小てらこや)	日野小学校	日野小学校		
		放課後チャレンジ教室	西大路小学校	西大路小学校		
		書道教室・科学教室・茶道教室	南比都佐小学校	南比都佐公民館		
		放課後必佐寺子屋	必佐小学校	必佐小学校		
		放課後学習補充教室	桜谷小学校	桜谷小学校		
多賀町	1	学びっこタイム	大滝小学校	大滝小学校		

## 学校と地域が協働で子どもたちを育む ～地域資源を活かしたあたたかい交流～

近江八幡市	活動名：寺子屋 八幡	八幡小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：八幡コミュニティセンター 年間開催日数：29日（開催ペース：月2～4日） 平均参加人数：25人		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員数：15人 平均スタッフ数：5人
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室のもち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

### ■ 活動の概要

- ・学習支援…3年生の児童（希望者）が月2回木曜の6時間目にコミセンで、地域の方や先生と宿題に取り組む。
- ・地域資源を活かした活動…「沖島まるごと体験塾」「カロム教室」「（コミセン利用団体の指導による）書道教室」「さつまいも収穫体験」「百人一首教室」

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・屋外活動を増やした。屋内では毎回検温・手指消毒・座席を離しての着席・飛沫防止パーテーション使用・換気などをこころがけた。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・チラシの配布や、申込書の提出、寺子屋の際の安全な登下校について等、学校や放課後児童クラブにはたくさんのご協力をいただいている。

### ■ 他事業との関わり

- ・寺子屋だけでなく、まち協の各部会も子ども育成のための活動をしている。夏休みの事業（沖島まるごと体験塾、書道教室）に関しては「夏休みイベント特集号」と題し、納涼まつり（八幡まち協文化部会）、子ども食堂（福祉部会）、防災教室（安全安心部会）、平和学習会（人権部会）などの行事を子どもたちが参加しやすいよう1枚にまとめて配布した。

### ■ 事業の成果と課題

- ・スタッフの皆さんの熱意ある活動で、子どもたちも慣れ、何回も参加してくれる子もいた。
- ・今後は大学生・高校生等、次世代を担う若い人材にもスタッフとして来てもらえるようにしたい。



【さつまいも収穫体験の様子】

報告書記入者（八幡学区まちづくり協議会）

## 自分の「めあて」をしっかり持って、最後まで学習に取り組める児童の育成

近江八幡市	活動名：寺子屋 沖島	沖島小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：沖島小学校多目的ホール 年間開催日数：60日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人
・活動内容：■学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室のもち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

### ■ 活動の概要

- ・宿題や自主学習・読書に取り組む。水曜（全校）・金曜（低学年）を活動日に設定。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・学習支援員に質問したり、指導を受けたりしながら各自の学習に取り組む。
- ・水曜活動ではコグニッショントレーニングにも取り組んだ。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校の教員が補助的に指導にあたることもある。

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・定期的に開催しているので、学習の積み上げ（特に自主学習による復習定着効果）がみられた。
- ・活動が宿題に重心を置きすぎると家庭での学習習慣づくりが不十分になるため、活動内容の設定を適切にすること。
- ・読書も時間的に確保できるため、読書習慣の育成がはかれた。



【放課後学習の様子】

報告書記入者（教頭）

## 新たな発見、新たな学びを

近江八幡市	活動名：寺子屋 岡山	岡山小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：岡山小学校 年間開催日数：18日（開催ペース：月4日程度） 平均参加人数：15人		開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に30分～1時間程度実施した。学習支援員は4名でいずれも元教員である。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍における新しい学校生活にあわせ、3密を回避できる学習環境を設定している。元教員の学習支援員が担当しているため、宿題等の課題や授業の補習的な内容ではなく、それぞれの専門性を生かして、国語、社会、算数の発展的な学習を行った。算数では数の仕組み、位とりの楽しさを味わい、国語では論語などの漢文や古文なども提示し、子どもたちの探求的な学習意識の向上をはかった。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

特になし

### ■ 他事業との関わり

特になし

### ■ 事業の成果と課題

発展的な学習内容や中学校や高等学校で学ぶ内容に取り組んだり、紹介したりすることで子どもたちの学習への興味・関心を高めることができた。ただ、学習支援員が毎回教材を工夫し準備しているが、予算が十分でない。



【学習の一場面】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 安全で安心な放課後の居場所づくり

近江八幡市	活動名：寺子屋 金田	金田小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：金田コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：11月より週1日） 平均参加人数：16人		開始年度：平成29年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

・4年生の児童（希望者）が放課後コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・市スポーツ推進課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。  
 ・主に宿題や、子どもたちの主体的な学習を中心にプログラムを組んだ。  
 ・密集を避けた座席の配置や活動部屋を確保した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

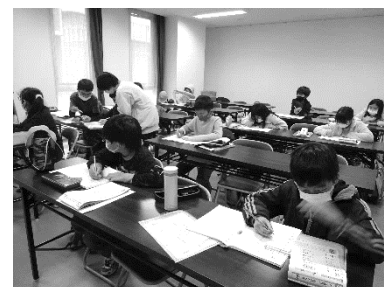
・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。  
 ・スポーツの際はスポーツ推進員さんとも連携した。

### ■ 他事業との関わり

・特になし

### ■ 事業の成果と課題

・事後のアンケートでは児童も保護者も大満足な様子で、楽しく充実した活動を振り返っていた。  
 ・コロナ禍のため、コミュニティセンター会議室の利用者人数に制限があった。



【 学習の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 学校も 地域も 無理なく 進められる活動を目指して

近江八幡市	活動名 : 寺子屋 馬淵	馬淵小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 馬淵小学校 図書室		開始年度: 令和4年度
年間開催日数: 1日		地域学校協働活動推進員数: 1人(兼務1人)
平均参加人数: 3人		平均スタッフ数: 3人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他( ) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・あやとりや折り紙などの昔遊びで、子どもと地域の方との交流を持つ。
- ・迎えに来た保護者と家庭教育支援員が話せる場を設定する。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・放課後子ども教室への参加で通常下校の人数が足りなくなるのを防ぐため、学校で児童の預かりが必要なPTA行事や学校行事のある時に行う。また、必ず、保護者に迎えに来てもらう。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・なし

### ■ 他事業との関わり

- ・家庭教育支援基盤構築事業

### ■ 事業の成果と課題

- ・児童と地域の方(更生保護女性会)が交流する場が持てた。
- ・児童は折り紙や、あやとりをした経験がなかったようで、できるようになったことをとても喜んでいました。
- ・全校児童が段々減っていく中、放課後に児童を残して活動させるのは難しい。また、地域の方や支援員に責任をもって活動を進めていただくのも難しい。しかし、働き方改革もあり教員が主体で事業を進めるのも難しい。



【 折り紙で地域の方と交流 】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 「むさっこ ウキウキ さわやか アクション」でむさっこを元気に！

近江八幡市	活動名 : 寺子屋 むさ	武佐小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 各教室		開始年度: 令和4年度
年間開催日数: 10日(開催ペース: 月2日)		地域学校協働活動推進員数: 1人(兼務1人)
平均参加人数: 10人		平均スタッフ数: 1.5人
・活動内容: <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他( ) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・平日の放課後に学習補充を主なねらいとして「寺子屋むさ」を開催している。
- ・教職につくことを目指している地元の大学生が学習支援員として学習を支援する。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・特にありません。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学習支援員の大学生は、本校の児童が通う学童の指導員およびスクーリング・ケアサポーターも兼務しており、ふだんから児童とのかかわりが深く、児童からの信頼も厚い。

### ■ 他事業との関わり

- ・運動会や卒業式など、学校行事にもボランティアとして運営に協力をしてもらっている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・学習支援員が大学生であること、また人数が1人のみであることから、次年度の学習支援員を探す必要がある。
- ・現在は活動内容が学習支援のみであるが、地域学校協働活動推進員や学習支援員の強みや特技を生かした体験的な活動も積極的に取り入れていきたい。



【3年生 ふるさと新聞作り】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 様々な文化に触れ、多様性を感じて育つ

近江八幡市	活動名：寺子屋安土「マリアナ教室」	安土小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：安土小学校		開始年度：平成27年度	
年間開催日数：30日（開催ペース：週・月3日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）	
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（仲間づくり） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

- ・外国にルーツのある子どもたちとその友達を対象に学習支援と仲間づくりを行う。
- 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・外国籍児童は5名であるが、その友だちも含めて学習活動や仲間づくりを行っている。
  - ・日本の昔遊びや外国の遊びを体験する。
  - ・コロナ禍において、密集を避けるため普通教室から図書室や体育館で実施した。
- 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
  - ・コミュニティセンターで開催している子ども体験活動のチラシを学校で配布したり、放課後児童クラブに参加を呼び掛けたりした。



【 マリアナ教室での様子 】

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・日本の社会ではまだまだ少人数である外国籍の子どもたちにとってアイデンティティを大事にする場所になった。また、学年や学級の友だちも多文化を理解する機会になった。
- ・放課後学習のこれからの課題は、指導して下さるボランティアの方のさらなる人材発掘と人材確保である。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 寺子屋老蘇で学習方法を身に付け基礎学力アップ！地域とともに

近江八幡市	活動名：寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：老蘇コミュニティセンター研修室		開始年度：平成30年度	
年間開催日数：12日（開催ペース：週1日 学年別）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：7人		平均スタッフ数：3人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

- ・基礎学力の定着をめざした学習活動をする。
- ・地域の学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。
- 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
  - ・計算力・漢字力の向上をめざし毎回初めに「百ます計算」や漢字の書き取りをした。
  - ・決められた学習をするのではなく、各々が目標を決め学習を行った。
  - ・昨年度より時間を30分短くし、1時間で集中力を重視して行った。
  - ・学校や放課後児童クラブとの関わり・連携を行った。
  - ・対象の3、4年生が6時間授業の火曜日に設定しコミュニティセンターを活用できるようにした。
  - ・放課後児童クラブが校地内にあるので、終了後、指導員が子どもたちを校地内まで送っていただいた。



【 寺子屋老蘇 】

### ■ 他事業との関わり

- ・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業期間に「寺子屋」を全学年対象に実施している。漢字検定の募集案内に協力いただいた。

### ■ 事業の成果と課題

- 成果
- ・コロナ禍での実施なので、学年別に少人数で学習する機会となり、よい支援を受けられた。
  - ・学習に集中して取り組むことができるようになった。
  - ・学力が低い児童の基礎学力が向上した。
- 課題
- ・プリントの採点や整理に指導者の手が取られてしまうので、児童が自主的に課題を選んだり、自己採点したりできるシステムの構築が望まれる。
  - ・下校時刻が遅くなるので、保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童がいる。

報告書記入者（ 教頭 ）



## からくりボックスを作ろう！LEGOブロックのワニを動かそう！

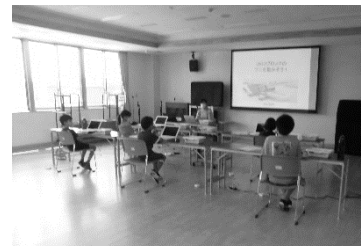
草津市	活動名：放課後子ども教室	笠縫小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：笠縫まちづくりセンター 年間開催日数：2日（各日 2回） 平均参加人数：7人		開始年度：平成30年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 ■行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 ■NPO等関係者 ■その他		

### ■ 活動の概要

- ・小学校1年生と2年生は、ギアの動きを確かめながら、LEGOブロックでからくりボックスを組み立て、「動く」仕組みを考える。
- ・小学校3年生から6年生は、LEGOブロックでワニの組み立てを行い、プログラミング学習環境で動きをプログラミングする。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・プログラミング学習を通じて、論理的思考力や創造性、問題解決能力等の向上を図った。
- ・コロナ禍における工夫として、入退室時の手指の消毒を徹底した。また、座席を余裕のある配置とし、こまめな換気を行った。



【 教室の様子 】

・受講後からくりボックスやプログラミング教材を児童に渡すことで、児童が学んだことを家庭内で共有できるよう配慮した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・スタッフで構成する運営委員会において、本事業の内容について協議を行った。
- ・小学校と児童育成クラブと連携して、対象児童に対し本事業のチラシ配布を行った。
- ・児童育成クラブに通っている児童とそうでない児童が交流できよう座席の配置を工夫した。

### ■ 他事業との関わり

- ・特にございません。

### ■ 事業の成果と課題

成果：プログラミング学習を通して、普段面識のない児童同士が交流することができた。

児童がプログラミング学習に興味を持つきっかけとなり、児童の将来の選択肢を増やすことに繋がった。

課題：コロナ禍ということで一回当たりの参加児童数を制限することとなった。児童の交流の幅を広げるためにも、参加を希望する児童が一人でも多く参加できる工夫が必要である。

報告書記入者（市担当者）

## 放課後のあそびば葉山東ふれあい子ども広場

栗東市	活動名：葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：葉山東小学校体育館・コミュニティセンター葉山東 年間開催日数：30日（開催ペース：週・月4日） 平均参加人数：26人		開始年度：平成17年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：12人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ ■その他（クラフト） ・教室の持ち方：□平日放課後 □土曜日 □長期休業日 ■その他（毎週水曜日）但し、学校行事、休校期間を除く ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他		

### ■ 活動の概要

- ・放課後安心して活動のできる居場所づくり
- ・挨拶（礼儀作法）

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・お楽しみ会を学期終了前に開催、全員でゲームやビデオ（アンパンマン）を観ながら、この後、おやつ食べながら交流。
- ・手指の消毒、体温、マスク着用の徹底をする。
- ・3つの密をさけるために、密閉空間、密集、密接場所を常に意識しながら活動する。



【 お楽しみ会 】

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・上級生が下級生の面倒を見ることが、子どもの成長とともに仲良くでき、お互いに困った時に助け合うことの大切さを学ぶ。

### ■ 他事業との関わり

- ・葉山東学区ふれあいまつりに参加し、クラフトの皆さんが作った作品を展示し参加する。

### ■ 事業の成果と課題

- ・学年やクラスの違った子どもたちが地域の方々に寄り添い、ふれあいを深めることの大切さを学ぶことができました。
- ・スタッフの年齢が70歳以上の高齢者となり、もう少し若い方に声かけをしながら募集をする。

報告書記入者（コミセン葉山東 職員）

## いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

栗東市	活動名：はるたっこ広場	治田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：治田小学校体育館、コミュニティセンター治田 年間開催日数：15日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：16人		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：6人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（自由遊び） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
- ・高学年の授業により、体育館が使用できない間はコミュニティセンターで宿題に取り組んだりしました。体育館では、ボール遊びやなわとび、バドミントンなど軽スポーツを中心に自由遊びをしました。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・お楽しみ会を学期終了前に開催しました。
- ・手指の消毒、体温、マスク着用の徹底をしました。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいています。

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっています。



【 自由遊び 】

報告書記入者（ 市担当 ）

## 新しいことにどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

栗東市	活動名：チャレンジはるひがっこ	治田東小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：治田東小学校体育館 年間開催日数：21日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：16人		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：7人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにしました。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・10月ポッチャ遊び、11月クリスマスツリーの飾り付け、12月クリスマス会、2月節分豆まきと季節に応じた体験活動を実施しました。
- ・手指の消毒、体温、マスク着用の徹底をしました。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっています。



【 クリスマスツリーの飾り付け 】

報告書記入者（ 市担当 ）

## 地域と学校が連携しなかつくりと人権意識を高めるのびのび広場

栗東市	活動名： 治田西のびのび広場	治田西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：治田西小学校 年間開催日数：19日（開催ペース：月1～2日） 平均参加人数：22人 ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（平和学習など） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：8人

### ■ 活動の概要

・地域と学校が連携し、互いに助け合い、励まし合う活動を通して、人権意識を高め差別をなくしていこうとする態度の育成や連帯意識の高揚を図り、地域でのなかつくりを進めてきた。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・人権学習、集団遊び、創作活動、スポーツ活動など毎回内容を変えながら、様々なジャンルの活動を行った。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・学校教員も参画して、地域のボランティアの方とともに活動を運営。

### ■ 他事業との関わり

・地域のグランドゴルフクラブとの連携、本校の外国語活動指導助手による国際理解教育、本校の講師による障がい者理解教育。

### ■ 事業の成果と課題

・参加希望人数は22人である。軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動を通じて、子どもたちは楽しく過ごし、異学年同士の子どもの交流もでき、仲間意識が育ちつつある。サポーターとして事業に関わっていただいている地域の方々や、地域の様々な団体の方々と一緒に活動することにより、地域の方々と子どもたちとの交流を深めることができた。



【国際理解教育】

報告書記入者（ 教諭 ）

## いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

栗東市	活動名： 大宝わくわくタイム	大宝小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大宝小学校体育館 年間開催日数：1日 平均参加人数：6人 ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：9人

### ■ 活動の概要

・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただき事業活動を行いました。  
 ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により毎週の活動は中止し、次年度の参加者募集のアピールとして実施しました。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・家族への感謝を伝える内容の絵はがきを作りました。  
 ・手指の消毒、体温、マスク着用の徹底をしました。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいています。

### ■ 他事業との関わり

・特になし

### ■ 事業の成果と課題

・絵はがき作りを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。  
 ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。  
 ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっています



【絵はがき作り】

報告書記入者（ 市担当 ）

## 明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

栗東市	活動名：さんさん・キッズ	大宝東小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大宝東小学校体育館 年間開催日数：20日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：19人		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：13人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力いただきながら事業活動を行いました。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、パドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにしました。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・9月ペットボトル絵付け・人形作り、10月ハロウィン帽子作り、11月ポッチャ、12月スノードーム作り、2月写し絵と季節に応じた体験活動を実施しました。
- ・手指の消毒、体温、マスク着用の徹底をしました。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっています。



【 自由遊び 】

報告書記入者（市担当）

## まず一度やってみよう。いろいろなことを体験して、初めて分かることがいっぱいある！

野洲市	活動名：野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターやす 年間開催日数：60日（開催ペース：週・月1日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成18年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：3人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要

いけ花教室・絵手紙教室・親子クッキング・日本舞踊や茶道教室など学校での基礎的な学習の他に、派生的に子どもたちがやって見たいと思う体験学習を主体的にテーマに掲げ、子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをわらっている。地元のお店に協力いただき材料の購入をはじめ、職人さんの出前講座で手作り体験も行っている。座学だけでなく「季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！」と、手・身体を使って体験・学習することに重きをおいて進めている。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学年ごとではなく、全学年同時に同じ内容の課題に取り組んで、協力しあい、見習いながら、それぞれの共同体験学習に取り組んで、成果を上げている。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

月に1回土曜日の午前中に開催しており、学校の放課後ではないため、直接的な関わりはない。しかし、定期開催なので、生活のリズム形成に関わっていると思われる。

### ■ 他事業との関わり

例年、開講式は5月にすべての参加者及び保護者も交えて、文化小劇場にて開講式を開催、これから1年一緒にやろうという気持ちを盛り上げて連帯感を築いている。

### ■ 事業の成果と課題

長年にわたり「子どもクラブ」を開催し、同じ子が1年生から6年生卒業まで継続して参加している。最初はおぼつかない様子だったが、卒業するころには立派に体得し、家庭においても成果を発揮していることが想像されて非常に喜ばしい。



【 わくわく子どもクラブ茶道 】

報告書記入者（コミュニティセンターやす事務局）

## 新しいことにチャレンジしてみよう。仲間と一緒に楽しもう。「楽しいクラブ活動」

野洲市	活動名：三上楽しいクラブ活動	三上小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターみかみ 年間開催日数：39日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：6人（3～20人）		開始年度：平成14年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：1.5人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他（日曜、祝日） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

生け花、茶道、将棋、フラメンコ、ロボットプログラミング教室  
 （5月～3月まで月1回）、かけっこ教室（8月～9月に3回開催）

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・昨年と同様、体調チェック（体温等）シートを作成し、毎回提出してもらう。
- ・消毒、マスク着用、距離を置いての活動、参加人数の制限を設けた。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校の現状、活動内容を確認して参考にしている。

### ■ 他事業との関わり

- ・コミュニティセンターで開催した悠紀まつりに生け花を出展、またステージ発表にフラメンコが出演し、地域の方々や保護者の方に成果をみってもらう機会を作っている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・今年度は人数制限をもうけながらであるが、茶道を再開することができた。
- ・新しくロボットプログラミング教室を高学年を対象に始めた。また、今までは月1回の定期開催をベースに行ってきたが、期間限定の「かけっこ教室」を開催し、初の試みであったが参加した子どもたちに盛況であった。
- ・新しいサポーターがなかなか見つからない状況は続いているが、単発の活動であればできる可能性もあると考える。



【 かけっこ教室 】

報告書記入者（三上地域教育推進委員会事務局）

## 自然に触れ、人に触れ、さまざまな体験を通して健やかな成長を育む

野洲市	活動名：篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターしのはら 年間開催日数：29日（開催ペース：週・月2～3日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成17年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・青少年の心地よい居場所づくり、体験の場の推進・充実を図り創造性と自主性に富んだ健全な成長を願う。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・料理教室では作った料理やケーキを持ち帰ることにした。
- ・いくつかの工作教室やフラワーアレンジメント教室では、机一つに一人を定員とし、2部制にするなど工夫した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校を通じて、事業募集のチラシを配布していただいた。

### ■ 他事業との関わり

- ・文化祭にフラワーアレンジメント教室、手編み教室、食品サンプル作り教室、レジン工作教室に参加の児童の作品を展示した。

### ■ 事業の成果と課題

- ・持続している教室は児童の習熟度を考え、2部制にすることで、スムーズな進行ができた。
- ・少ない児童数の中で、偏りなく参加してもらえ工夫を凝らすことが課題である。



【 フラワーアレンジメント教室 】

報告書記入者（篠原地域子ども教室運営協議会事務局）

## いろんなことにチャレンジしよう!! 「ぎょう子ども体験教室」

野洲市	活動名 : ぎょう子ども体験教室	祇王小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 祇王小学校グラウンド・篠原小学校グラウンド・永原御殿跡		開始年度: 平成17年度
年間開催日数: 45日		地域学校協働活動推進員数: 1人(兼務1人)
平均参加人数: 10名		平均スタッフ数: 8名
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他( ) ・教室の持ち方: <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎週土日) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・サッカークラブと永原御殿跡発掘体験を企画した。
- ・サッカークラブは、毎週土曜日に開催。
- ・永原御殿跡発掘体験は、夏休みの企画で4日間の日程で開催した。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・体調の確認と体温チェック、マスクの着用を徹底し、密にならないよう参加日を複数回設けた。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校や地域と、企画や募集を連携している。

### ■ 他事業との関わり

- ・なるべく多くの子どもたちに参加してもらえるよう日程・内容の調整をしている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・地域の人と交流することで、子どもたち自ら地域の大切さを学んでくれている。



【永原御殿跡調査発掘体験】

報告書記入者(コミュニティセンターぎょう事務局)

## いろんな活動を通じてみんなと触れ合う「北野っ子フレンドリークラブ」

野洲市	活動名 : 北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: コミュニティセンターきたの		開始年度: 平成8年度
年間開催日数: 20日		地域学校協働活動推進員数: 1人
平均参加人数: 25人		平均スタッフ数: 5人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他( ) ・教室の持ち方: <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他( ) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・青少年育成会が中心となり、土曜日に2時間各種活動を行っている。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・マスク着用、体調確認、体温チェック等を徹底し、密を避けるため可能な限り大ホールや研修室など大きな部屋で実施した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校を通じてチラシを配布し、卓球教室等の屋内スポーツは小学校の体育館を利用している。

### ■ 他事業との関わり

- ・コミセンきたの夏まつりで作品展示等を行っている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・地域の指導者と交流する中で、多くの子どもたちが成長している。ただ、指導者やスタッフの確保に苦慮している。



【料理教室】

報告書記入者(コミュニティセンターきたの事務局)

## 体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名：中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターなかさと 年間開催日数：20日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成18年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

茶道クラブ、手芸クラブ、各月1回、年間10回を小学生以上対象で行っている。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

【茶道クラブ】お茶菓子を個包装の物にし、茶道具も使いまわししないようにしている。

【手芸クラブ】各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校を通じてチラシ（申込用紙）を配布している。

### ■ 他事業との関わり

学校行事と子ども教室事業の日程調整を行い、参加しやすい環境づくりに努めている。

### ■ 事業の成果と課題

〔課題〕・子ども達の習熟度にバラツキがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。

・子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。

〔成果〕・集中力の持続性や達成感を得られ、そのことが学習意欲の高揚に結び付く一助となっていると考えられる。



【手芸クラブの様子】

報告書記入者（中主地域子ども教室運営協議会事務局／中里学区）

## 仲良く楽しくみんなでチャレンジ！心豊かな中主っ子

野洲市	活動名：中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターひょうず 年間開催日数：12日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成18年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

学区の小学生を対象にコミュニティセンター職員が事業の計画・実施をしている。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も前半は新型コロナウイルス感染拡大により事業の延期・中止を強いられましたが、後半からは人数制限や換気・消毒などに配慮しつつ活動している。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校の行事と重ならないように連携をとり、小学校を通じて募集チラシを子どもたちに配布している。

### ■ 他事業との関わり

コミュニティセンター主催の収穫祭において、茶道クラブの生徒にお抹茶コーナーの手伝いをしてもらっている。

### ■ 事業の成果と課題

年間の回数としては少ないが、遊びや体験の中で子どもたちは作法を学ぶと共に仲間を思いやる心や協調性を身に付けていっているように感じる。

また、のびのびと過ごすことが出来る居場所作りにもなっているようである。



【フラワー教室・寄せ植え】

報告書記入者（中主地域子ども教室事務局／兵主学区）

## みんなでわいわいがやがや、楽しくにほんごのしゅくだいをしよう

東近江市	活動名：マナビーみその	御園小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：御園コミュニティセンター 年間開催日数：2日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：6人		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

御園小学校に通う、日本語を母語としない親をもつ児童を対象にした長期休業中における日本語及び学習支援を行う。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方（元教職員等）の協力を得て日本語が十分でない児童にゲームも取り入れ交流しながら少人数で日本語や学習支援を行う。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

担任やS Wなど関係職員も参加して共通認識の上で連携して支援を行う。

### ■ 他事業との関わり

校区内で実施されるまち協等のイベントへの参加を促すために担任を通じて関係するチラシを配布している。

### ■ 事業の成果と課題

日本語学習や長期休業中の学習課題に取り組む児童に個別に丁寧寄り添って支援をすることで、次学期に向けて学習意欲の動機づけとなっている。また地域住民の交流の機会にもなっている。



【日本語・学習支援「マナビーみその」】

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

## わかった！できた！～地域の人々と学ぶ学習会～

東近江市	活動名：みなみっこ学習会	八日市南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：南部コミュニティセンター 年間開催日数：8日（夏休み4日、冬休み2日・春休み2日） 平均参加人数：13～20人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5～10人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

・長期休業中の宿題や課題等の支援を通じて、学習習慣を身につける。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・会場：学年によって会場を分ける。児童の間隔をあける。換気等。  
 参加者：マスクの着用をお願い。事前の検温と記録の持参。会場での手指消毒。  
 学習支援ボランティア：フェイスシールドの用意。検温、体調確認。（高校生ボランティアは、保護者の了承を得て参加）  
 ・地域学校協働本部事業として学校と連携して事業をすすめている。学習会へ学校の先生が来てくださった際は、子どもたちの意欲が高まったように思える。必要に応じて学校と連絡調整し児童に応じた対応を行うことも考えたい。



【学習会の様子】

### ■ 他事業との関わり

・南部地区まちづくり協議会（学ぶと遊びのまち部会）の事業として共同で学習会を行っている。ボランティアの募集だけでなく交流活動の用品類や学生ボランティアへの謝礼などに支援いただいている。

### ■ 事業の成果と課題

・参加した子どもたちは、支援者に質問して考えたり参加した子ども同士で教え合ったりして意欲的に活動できている。  
 ・子ども達の学習支援の受け皿として、地域児童の見守りを行えた。  
 ・地域や学校のコロナウイルス感染状況等を踏まえて連絡や調整が必要となるため、実施判断が難しいことがある。  
 ・学習会が必要な児童への参加の働きかけができるといいが具体的な対応はできていない。交流会的な内容も合わせて実施できるように考えていきたい。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



## 地域・学校・家庭が手を携えて支えあう学習会「2022夏休み宿題お助け会」

東近江市	活動名：八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：八日市コミュニティセンター 年間開催日数：4日 平均参加人数：4人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・地域の児童の夏休み宿題を、地域ボランティアが支援する。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・学習の合間に「読み語り」や「レクレーション」「クイズ」「ラジオ体操」「音楽鑑賞」などを取り入れて、学習活動にメリハリをつける。
- ・高校生ボランティアが子どもたちに関わり、元教員が高校生をサポートする。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・主催団体から、年に数回、校長に活動報告をして指導助言を受ける。

### ■ 事業の成果と課題

- ・地域学校協働活動（放課後子ども教室）にかかる活動として「夏休み宿題お助け会」を4日間実施できた。
- ・高校生ボランティアが多数応募してくれた割に、参加者が少なかった。（本年度はコロナ禍での再開にあたり、全児童への周知は避け、コミセンだよりの案内に止めた。）
- ・送迎の負担があり、遠方の子どもの参加が難しかった。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員・教頭 ）



【 ギター演奏に合わせて 】

## 地域で学び、地域で育つ「市原っ子」の明るく楽しい共同学習の場

東近江市	活動名：放課後子ども教室「まなびい」	市原小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：図書室、コンピュータ室 年間開催日数：13日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：20人		開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員数：3人 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（コンピュータを活用した自主学習eライブラリ、初めてのプログラミング） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・1年生～3年生は前半16:00～17:00 保護者送迎
- ・4年生～6年生は後半17:00～18:00 保護者送迎
- ・30分間は図書室で自学・共同学習、30分はコンピュータ室で「eライブラリ」または上学年は「プログラミング」学習

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・『まなびい ふりかえりカード』に「今日のめあて」を記入して学習に取り組む。
- ・終了時、児童は「まなびいふりかえりカード」に成果などを記入している。
- ・児童が主体であることを決めている。支援者は必要な時に寄り添うのみ。
- ・eライブラリでの学習を個々に積み上げている。
- ・令和2年度から「初めてのプログラミング」を上学年でおこなっている。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・要請はしていない。一般教員は適宜自由に児童の様子を見に来る形。
- ・管理職・事務職員がPCの準備、受付を手伝い、後始末、施錠などの管理は管理職・事務職員。

### ■ 他事業との関わり

- ・特に無し

### ■ 事業の成果と課題

- ・「まなびい」の日を楽しみにしており、参加申し込みを継続するなど、リピーターが多い。
- ・児童は「小学校（図書室）は学びの場」と認識しているので、主体的に学習を行っている。
- ・担当している人への挨拶、靴を並べて脱ぐなどのマナーが育ってきた。

報告書記入者（ 市原小学校地域学校協働本部長 ）



【まなびい：上学年プログラミング】

## みんなでがんばる、楽しいわくわく「夏休み勉強会」

東近江市	活動名：わくわく夏休み勉強会	五個荘小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：五個荘コミュニティセンター		開始年度：令和3年度
年間開催日数：3日（開催ペース：不定期）		地域学校協働活動推進員数：2人
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：8人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（レクリエーション） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

・子どもたちの学習の場や地域の大人と子どもとの交流の場をつくり出すことを目的として、開催。五個荘地区内在住・在学の小学校1年生から6年生を対象に募集した。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・高校生や大学生によるレクリエーション、塾講師や元教師による辞書の引き方（英語等）の内容を取り入れ、定期的に休憩を入れながらスケジュールを立てた。
- ・早く課題が終わった子どもには、読書や折り紙などを用意して、静かに過ごすことができるように工夫した。
- ・琵琶湖博物館・大津科学館への館外研修を一日実施した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

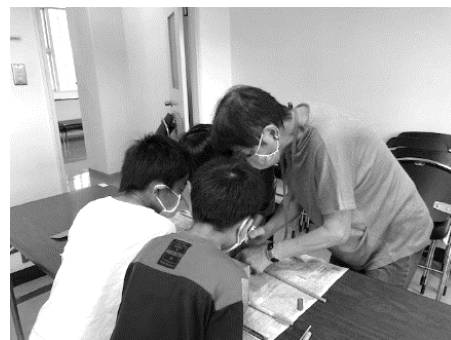
・学校とコミュニティセンターが連携し、各学年のドリルを学習教材として準備した。

### ■ 他事業との関わり

・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・地域の方々と子どもたちとの交流ができた。
- ・各学年のドリルの解答を学校が準備しておいたことで、その場で課題の採点ができた。
- ・実施前に学校の職員と地域の方々とが打合せを行い、1日でも学校職員が協力できると、さらに子どもたちへの指導がスムーズに行くように思う。



【 地域の方と工作 】

報告書記入者（ 地域連携担当者教職員 ）

## 夏休み宿題教室

東近江市	活動名：夏休み宿題教室	湖東第二小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：湖東第二小学校 多目的室		開始年度：平成20年度
年間開催日数：3日（開催ペース：週3日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：20人		平均スタッフ数：7人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

長期休業中の学習支援

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・ボランティアの方には、手指消毒、検温等を協力いただき、少人数の学習グループにし、接触が密にならないように教室を分けた。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・担任や関係職員もできるだけ参加し、指導のポイントなどを共通理解しながら学習支援を行う。

### ■ 事業の成果と課題

・子どもに直接かかわっていただくことで、安心感と学習意欲が高まっており、保護者の喜ぶ声も聞かれた。



【 夏休み宿題教室 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 外国にルーツを持つ子どもの居場所づくり

東近江市	活動名：東近江アミーゴ教室	市内小中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：東近江市福祉センター ハートピア 年間開催日数：36日（開催ペース：毎週土曜日） 平均参加人数：8人		開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員数：1人（統括CO） 平均スタッフ数：7人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

- ・毎週土曜日、午後2時から午後4時
- ・市内外国にルーツを持つ児童生徒の学習支援
- ・国語科、算数科等を中心とした宿題の学習支援

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・参加者それぞれの課題に応じた個別教科学習の実施
- ・コロナ対策として、マスクの着用、手指消毒、机の消毒、部屋の換気を実施

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校からの宿題の支援

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

- ・個々の課題に応じた学習支援をすることで、課題克服の成果が感じられる。
- ・参加した子どもたちにつながりが生まれ、よい居場所となっている。



【 学習支援の様子 】

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

## “わかる・できる・楽しい”を実感する子どもの育成を目指す「日野小てらこや」

日野町	活動名：日野小チャレンジ教室 (日野小てらこや)	日野小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：少人数教室 年間開催日数：45日（開催ペース：週3日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

今年度は10月から開始した。算数について、学習の土台となる計算等の復習のための補充プリントに取り組んだ。夏季休業期間中は夏休みの宿題教室を開催した。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

補充プリントを多数用意し、児童の実態に合わせて取り組めるよう工夫した。参加児童数を少数とし、個別指導が充実できるようにすることや、隣との間隔を十分確保して感染予防にも配慮した。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校から、対象学年全員にチャレンジ教室への参加の文書で呼びかけをした。個別懇談時には、担任からも保護者に声かけをして学力補充の機会として周知をした。

### ■ 他事業との関わり

- ・特になし

### ■ 事業の成果と課題

(成果) 少人数指導で、毎回、集中して学習に取り組む児童の姿が見られた。学習問題に児童がつまづいている姿を素早く指導員がつかみ、個別指導を行い、「わかった。」「次はできる。」とつぶやき、自信を高める姿が見られた。

(課題) 今年度は4年生以上を対象に事業を行なった。対象学年を拡大してほしいとの声が保護者からもあり、実施方法、回数、参加方法を検討していく必要がある。



【 集中して学習する児童の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 放課後にじっくり ゆっくり 勉強タイム！ 放課後チャレンジ教室

日野町	活動名：放課後チャレンジ教室	西大路小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：図書室、2年教室、3年教室 年間開催日数：20日（開催ペース：週・月4日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：3人
・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室のもち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

### ■ 活動の概要

・学習に支援が必要な児童（2～6年対象）を中心に、放課後、国・算のプリントを行う。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。  
 ・前半（2年生または3年生）、後半（4～6年生）の二部制とし、1回の受講人数を5名にして実施している。  
 ・2年教室、3年教室と図書室を利用し、一人一人が広いスペースを確保することと、終了後には消毒・換気を徹底している。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・出席カードを作り、学習前には確認する。  
 ・学童に行く子どもは、この学習を終えてから学童に向かう。

### ■ 他事業との関わり

なし

### ■ 事業の成果と課題

〈成果〉少人数での学習なので、個々のつまづきが分かり、それに応じた学習をすることができた。

〈課題〉申し込み時点で、「意欲をもって参加する」が条件であるが、十分に徹底できているとは言えず、力を発揮しきれていない児童もあった。受講説明の際に十分な説明が必要であると考えられる。



【放課後チャレンジ教室の様子】

報告書記入者（教頭）

## 「なんびが好き」 ～地域の学び場づくり～

日野町	活動名：書道教室・科学教室・茶道教室	南比都佐小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：南比都佐公民館 年間開催日数：約60日（開催ペース：月2書道・茶道 月1科学） 平均参加人数：21人（書道） 8人（科学） 7人（茶道）		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人（書道・茶道） 1人（科学）
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室のもち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

### ■ 活動の概要

・硬筆、毛筆の書き方の基礎を習得する。（書道教室）  
 ・様々な実験を通して、科学の楽しさを味わう。（科学教室）  
 ・茶席の基本作法を学ぶ。（茶道教室）

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・書道教室では、毎月の作品を公民館ロビーに常時展示し、地域の方に見ていただいている。  
 ・各教室とも、検温や手指消毒等基本的な感染症対策に加え、密にならないよう、広いホールや部屋で実施している。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・11月に実施した「南比コミュニティ・デイ」では、茶道教室の講師が“師匠”となり、茶道の体験講座を実施した。

### ■ 他事業との関わり

・秋の文化祭に書道作品を出品したり、茶席を開いたりしている。

### ■ 事業の成果と課題

・全校の1/4以上の児童が参加しており、中には複数の教室に参加している児童もいる。学校では十分できない学びや体験を楽しみに参加しており、活動が定着してきている。  
 ・地域の方が講師となって下さっており、地域の良き学びの場であるとともに、学校と地域をつなぐ場の一つともなっている。



【地域の方に教わる茶道教室】

報告書記入者（教頭）

## 「分かった」「できた」を増やし、子どもたちの学習意欲を引き出す

日野町	活動名 : 放課後必佐寺子屋	必佐小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 学習室 年間開催日数: 10日 (開催ペース: 週1日) 平均参加人数: 5人 ・活動内容: <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度: 平成29年度 地域学校協働活動推進員数: 0人 平均スタッフ数: 3人

### ■ 活動の概要

3～5年生の児童を対象とした補充学習

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

教科は算数、対象学年を3～5年生に限定する。四則計算を中心に授業内容の理解の不十分な部分の補充を行う。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

参加児童は授業終了後、下校せずに放課後15:35～16:20に学習室で学習する。下校は保護者の迎えを基本とする。

### ■ 他事業との関わり

特になし

### ■ 事業の成果と課題

放課後教室を実施したい時間帯での指導者の確保が難しい。参加児童を増やしたいが、十分な指導体制を組めないため、必要と思われるすべての児童の参加は難しい。

報告書記入者 (教頭)



【 個別対応ができる学習室 】

## 子どもたちの算数学習意欲を向上させ学習習慣の確立を図る取組

日野町	活動名 : 放課後学習補充教室	桜谷小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 学習室 年間開催日数: 14日 (開催ペース: 週・月1、2日) 平均参加人数: 12人 ・活動内容: <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度: 平成29年度 地域学校協働活動推進員数: 1人 (兼務1人) 平均スタッフ数: 3～4人

### ■ 活動の概要

算数科の学習意欲の向上と学習習慣の定着を目標に、夏休み中に4回、1学期の復習を中心に実施する「放課後学習夏休み版」(4回)と基礎的な学習の積み上げに重点を置き、学習意欲の向上を図る「放課後基礎補充学習」(10回)を実施した。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

2学期以降は、コロナのステージが下がったので、フェイスシールドは外しているが、児童が入れ替わる際の机のアルコール消毒と窓を開放して実施している。児童1、2人に対して1人の指導者がつき、丁寧に理解できるまで教えている。

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校側は管理職または児童の担任が指導者ととともに必ず参加している。参加する児童に必要な課題内容を担任から聞き、克服できるような学習プリントを用意して学習を進めている。放課後児童クラブに入っている児童は学習後放課後児童クラブに戻るという体制で行っている。

### ■ 他事業との関わり

なし

### ■ 事業の成果と課題

丁寧な見取りと指導をしていただけたので、どの子も安心して楽しく学習することができている。授業でわからなかったところを放課後学習補充の先生に質問して教えてもらっている子もいた。今回は基礎的な学力補充に重点を置いて進めてきたが、さらに発展して学びたい児童に対しても放課後補充教室が必要であるかを子どもからの希望を聞きながら検討をしていきたい。

報告書記入者 (教頭)



【 放課後学習補充教室の様子 】

## 学びも遊びも充実した学びっこタイム（放課後子ども教室）

多賀町	活動名： 学びっこタイム	大滝小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大滝小学校 年間開催日数：約60日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：16人（1・2年生全員）		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：指導者2人、ボランティア1～2人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要

低学年児童の下校時の安全確保、学習時間の確保、地域住民とのふれあいを目的に、大滝小学校と連携して、年間約60日間、毎週木曜日・金曜日に実施している。

### ■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

木曜日は宿題ののち、キーホルダー作りや昔遊び等を、金曜日は英語、地域サークル等によるゲームやバランスボール、読み聞かせ（本に関するゲーム）などを実施している。工作では、多賀町産の木材の端材を譲り受け活用している。ボランティアにはローテーションにより様々な活動に関わっていただいている。また、児童に月間予定を事前に配布し活動に興味を持たせるようにしている。ボール遊びなどの外遊びを定期的に実施し、宿題時に交互の座席を工夫した。



【 宿題のあと、おりがみで作品作り 】

### ■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

「学びっこタイム」は多賀町教育委員会を中心にした活動であるが、担任の先生方が業務の合間に児童のようすを見に来てくださり一緒に活動されることも多い。多彩な活動内容にも注目してくださっている。放課後児童クラブとの関わりは特にない。

### ■ 事業の成果と課題

児童は毎回楽しみに参加しており、保護者も事業の継続を希望されている。昔遊びを多く取り入れ、地域の方から学べるようにした。また、ボール遊びを定期的に実施したことで、ボール投げが苦手な児童も少しずつ上達してきた。ボランティアの方からは「自分も勉強です」など良い感想が聞かれ、ほぼ欠席なく参加されている。ボランティアの拡大を図り、事業内容を充実させるため、地域住民やサークル等にも広く募集していく。

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

# 放課後児童クラブの現状

令和4年5月1日現在

## 1 放課後児童クラブ数実施状況

### (1) 小学校の状況

小学校区数	218か所	児童数	78,734人
小学校1～3年生の総数	38,544人	*4～6年	40,190人

### (2) 放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合計
	75	160	104	339

### (3) 放課後児童クラブの状況

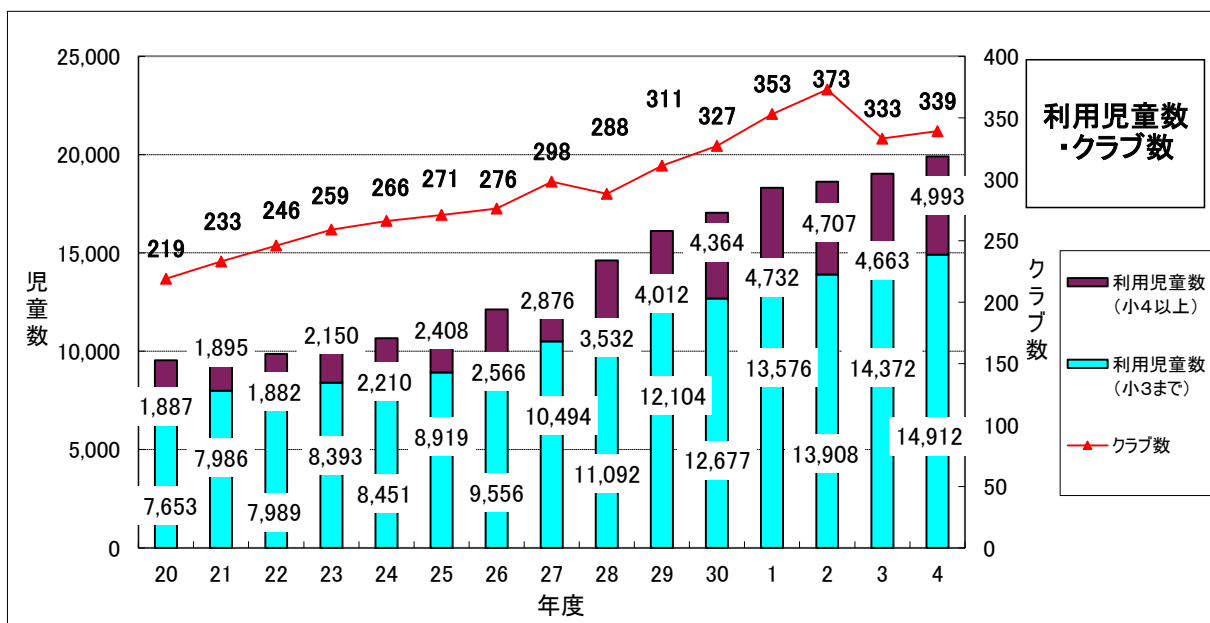
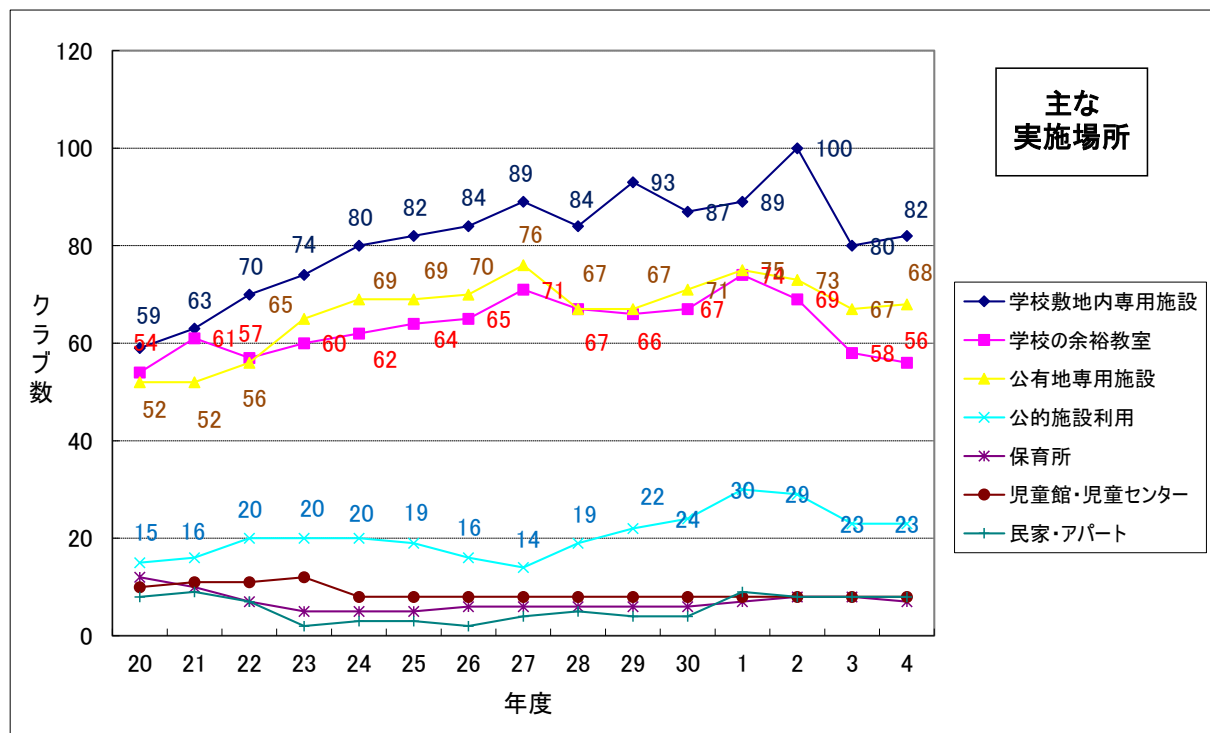
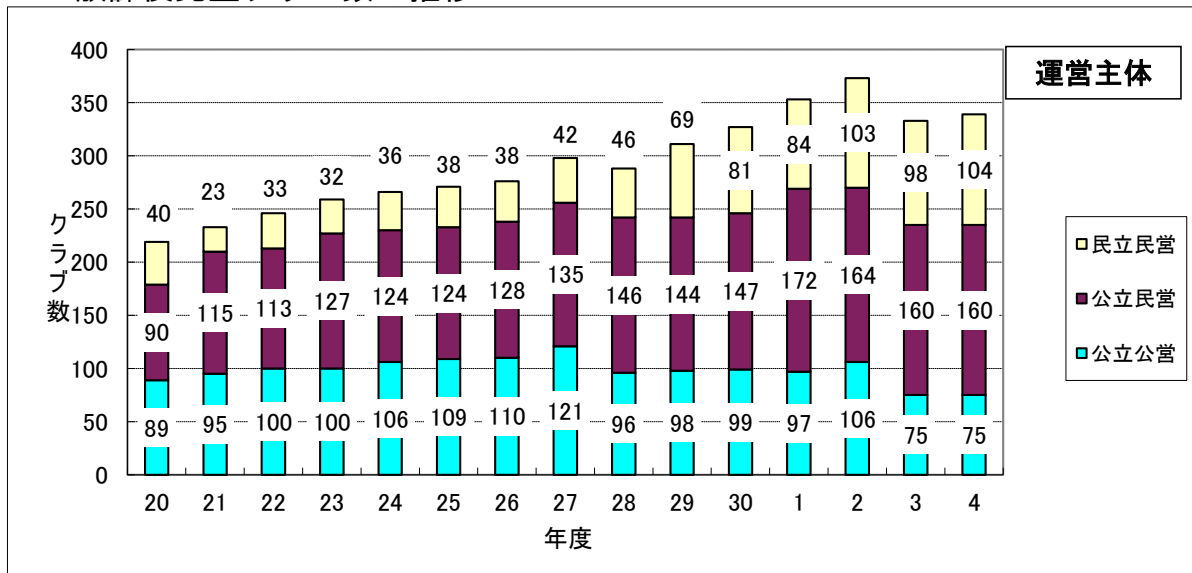
調査項目	公立公営	公立民営	民立民営	合計
実施場所別児童クラブ数				
児童館・児童センター	1	2	5	8
学校の余裕教室	35	24	0	59
学校敷地内専用施設	23	62	0	85
公有地専用施設	13	55	0	68
民有地専用施設	2	0	22	24
民家・アパート	0	0	8	8
公的施設利用	1	12	10	23
団地集会室	0	1	0	1
保育所	0	1	6	7
幼稚園	0	0	0	0
認定こども園	0	0	1	1
空き店舗	0	2	49	51
その他	0	1	3	4
合計	75	160	104	339
登録児童数別児童クラブ数				
10人以下	0	0	4	4
11人～20人	1	4	12	17
21人～30人	13	43	38	94
31人～70人	24	68	42	134
71人以上	37	45	8	90
合計	75	160	104	339
障害児受入数別児童クラブ数				
受入なし	10	14	37	61
1人	13	18	23	54
2人	12	25	24	61
3人	10	28	7	45
4人以上	30	75	13	118
合計	75	160	104	339
平日の終了時刻別児童クラブ数				
17:01～17:30	1	1	0	2
17:31～18:00	15	0	0	15
18:01～18:30	20	39	10	69
18:31～19:00	39	118	51	208
19:01～20:00	0	2	41	43
20:01～21:00	0	0	2	2
21:01～22:00	0	0	0	0
合計	75	160	104	339
休日の開館状況別児童クラブ数				
土曜日(毎週実施以外)	55 (6)	48 (88)	51 (43)	154 (137)
日曜・祝日	0	25	2	27
長期休暇	75	153	102	330
学年別児童数				
小学校1年生(障害児)	1,822 (96)	2,735 (136)	1,146 (44)	5,703 (276)
小学校2年生(障害児)	1,621 (71)	2,392 (156)	1,032 (29)	5,045 (256)
小学校3年生(障害児)	1,347 (72)	1,932 (166)	885 (48)	4,164 (286)
小学校4年生(障害児)	820 (19)	1,345 (126)	620 (28)	2,785 (173)
小学校5年生(障害児)	416 (19)	750 (81)	287 (18)	1,453 (118)
小学校6年生(障害児)	182 (9)	412 (47)	161 (12)	755 (68)
その他(障害児)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計(障害児)	6,208 (286)	9,566 (712)	4,131 (179)	19,905 (1,177)
学年別利用(登録)できなかった児童数				
小学校1年生(障害児)				13 (0)
小学校2年生(障害児)				6 (0)
小学校3年生(障害児)				3 (0)
小学校4年生(障害児)				6 (0)
小学校5年生(障害児)				9 (0)
小学校6年生(障害児)				4 (0)
合計(障害児)				41 (0)

注：( )内の数は、再掲である。

### (4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合計 B
		市(特別区)	町	村	
19	100%	13	6	0	19

## 2 放課後児童クラブ数の推移





## 令和4年度 土曜日の教育支援 活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
湖南省	9	いしべっ子学習教室	石部小学校	石部まちづくりセンター		
		夏休み宿題教室	石部南小学校	石部南小学校		
		さんさん教室	三雲小学校	学区内のまちづくりセンター等の公共施設		
		ひがしっこ教室	三雲東小学校	三雲まちづくりセンター		
		土曜教室	岩根小学校	岩根まちづくりセンター		
		学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	菩提寺小学校		
		菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		
		しもしょう土曜教室	下田小学校	下田まちづくりセンター		
		やってみよう!!みとっこ	水戸小学校	水戸小学校		
東近江市	15	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東・西・北 小学校、朝桜中 学校	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級	蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (キッズフラワー)		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組		蒲生コミュニティセンター	○	
		キッズダンス教室 (初級)		玉緒小学校	わたむきホール	
	キッズダンス教室 (中級)	玉緒小学校		わたむきホール	○	
	小学生のプログラミング教室	玉緒小学校	玉緒小学校	○		
	中学生のプログラミング教室	玉園中学校	池田町 葉菜屋 (はなや) の母屋	○		
	農業体験・田園アートクラブ	玉緒小学校	上大森町 農地・田	○		
	小中学生のネイティブスピーカー英会話	玉緒小学校 玉園中学校	村町の公民館等	○		
竜王町	5	竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王小学校 竜王西小学校	竜王町農村女性の家 竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ サイエンスクラブ		竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 書道クラブ		竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ チャレンジクラブ		竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 竜王ユースプラス		竜王町公民館 他		

## 地域で子どもたちを育てるいしべっ子学習教室

湖南省	活動名：いしべっ子学習教室	石部小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：石部まちづくりセンター 年間開催日数：5日（10回） 平均参加人数：70人 ・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：18人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

長期休業期間に集中して学習に取り組める場を提供し、子どもたちの学習意欲が高まるよう支援している。今年度は宿題などの学習以外に絵ハガキ教室を開いた。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

まちづくり協議会に協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。まちづくり協議会の部会には駐輪場の案内や受付を担当していただき、地域の方が子どもたちを育てる体制づくりを図った。

今年度より、中学生ボランティアを募集した。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習できるように配慮した。宿題のプラス学習としてプリントやオリジナルワークを用意し、終了時間までしっかりと学習できるようにした。

### ■ 事業の成果と課題

地域の学習支援ボランティアやまちづくり協議会の協力で支えられ、のべ348人の子どもたちが参加し、集中して学習に取り組めた。今年度、暑中見舞いハガキを作成する絵ハガキ教室を取り入れたところ、たくさんの子どもたちが参加をし、今後も宿題以外の内容を検討していきたい。以前いしべっ子学習教室に参加していた子が中学生となり、ボランティアとして参加してくれたことがとてもうれしく、今の子どもたちもいつかスタッフとして参加してくれることを期待している。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進委員 ）

## みなみっこ 土曜講座 「夏休みの宿題を中学生に宿題を教えてもらおう！」

湖南省	活動名：夏休み宿題教室	石部南小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：石部南小学校 年間開催日数：12日 平均参加人数：40人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：10人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

夏休みの宿題支援（高学年）  
水鉄砲を作ってみよう（高学年）  
プラバンを作ってみよう（低学年）

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

中学生ボランティアに来てもらうように事前に中学校との打ち合わせを行った。毎年協力して下さる地域ボランティアには早めに予定を連絡した。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

参加者が多い講座の場合は密にならないように会場を分けて行った。体験教室で使う道具は感染予防対策の為、自分の物を持ってきてもらった。



【 中学生に宿題を教えてもらう様子 】

### ■ 事業の成果と課題

夏休み子ども教室に参加していた卒業生が後輩の子どもたちに宿題を教えている姿がみられた。中学生には自尊感情を高める活動となった。小学生も顔なじみの中学生に教えてもらうことで、スムーズに宿題をすることができた。

土曜講座の開催曜日が平日に偏りがちなので親子での参加が少ない。休日に開催することも検討していく必要がある。

高学年向けの体験学習に偏りがちなので、低学年向けの内容を検討していく必要がある。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

## 地域ぐるみで子どもを見守る「さんさん教室」

湖南省	活動名：さんさん教室	三雲小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：学区内まちづくりセンター等の公共施設		開始年度：平成27年度	
年間開催日数：10日		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：20人		平均スタッフ数：12人	
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

夏休みの宿題や自主学習の支援活動を実施した。下学年（1～3年）は、牛乳パックヨーヨーの作成を行った。上学年（4～6年）は、ボランティアサークルより講師を招いて竹とんぼ製作を行った。例年人気のある「抹茶体験」は、全学年を対象に実施した。秋季には、「歴史探訪」（行き先：天保義民碑・弘法杉・八丈岩等）を実施した。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

三雲学区まちづくり協議会と連携し、各地区からスタッフを配置することで、安全面を配慮した。材料費の支援を受けたり、地域で活動されている人材の紹介をいただいたりした。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ感染症対策として、検温・消毒・換気を行い、会場を4カ所に設定し密を避けるようにした。学年も上学年と下学年を別々の日程とした。また、自作の作品で遊ぶことができるように内容を変更した。「歴史探訪」では、屋外の活動ではあるが、マスクの着用を徹底した。

### ■ 事業の成果と課題

学習だけではなく地域の方と作品作りに取り組むことで、世代間の交流が生まれた。「抹茶体験」では、自分で抹茶を点てるという貴重な体験もすることができた。「歴史探訪」では、チラシを工夫して作成したことで参加者が増えた。参加者からは「地域の歴史を知る良い機会だった」「語り部さんの手作り資料や語りがすごく良かった」との称賛の声が寄せられた。

### ■ その他

甲西中学校の生徒により「スモールティーチャー」が、学習や工作等の活動の見守りとして活躍してくれた。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



【 中学生による支援活動 】

## 地域と協働して開く「ひがしっこ教室」

湖南省	活動名：ひがしっこ教室	三雲東小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：三雲まちづくりセンター		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：7～8月8回・10月1回・11月1回）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）	
平均参加人数：32人		平均スタッフ数：10人	
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・甲西中学校区の三校（甲西中学校、三雲小学校、三雲東小学校）、みくも学区まちづくり協議会と連携して計画、実施している。地域で活動中のボランティアサークルに協力いただき、竹とんぼ制作やお抹茶体験、折り紙アート（うちわ制作）、お習字等の体験学習と夏休みの課題学習、自主学習の支援、秋には三雲小学校と合同で「ふるさと歴史探訪」を2回開催している。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・みくも学区まちづくり協議会と連携し、体験学習の講師、スタッフの派遣に協力いただいた。【 竹とんぼ制作 】  
 ・地域のボランティアセンター（ボランティアグループ）の活用。  
 ・卒業生（大学生）への参加呼びかけ。 ・甲西中学校から「リトルティーチャー」（生徒ボランティア）。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・会場での検温、消毒、マスク着用、換気、実施前後の机、いすの消毒。密を避けるため広い部屋の利用、学年を低、高学年に分けて参加日を設定した。 ・参加児童、保護者への感想の記入。  
 ・全10回終了後、みくも学区まちづくり協議会、三雲小学校と合同で振り返りの反省会を実施している。

### ■ 事業の成果と課題

・コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりとすることで、児童、スタッフともに安心して参加できた。  
 ・さまざまな工夫や内容から今年度も参加者が多かった（夏休み中に友だちに会える楽しみ、課題学習にしっかりと取り組める環境整備、初めてでもアドバースをもらいながら挑戦できる習字、竹とんぼ制作や折り紙アート、お抹茶など多様な体験学習）。  
 ・支援する側になって中学生、大学生が毎年参加してくれる。これが成果であり、今後も継続していくことが課題である。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



## 自尊感情を高める学習支援

～ できた！わかった！が実感できる ～

湖南省	活動名：土曜教室	岩根小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：岩根まちづくりセンター		開始年度：平成22年度	
年間開催日数：20日		地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：2人	
平均参加人数：6人		平均スタッフ数：8人	
活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・通常学級で個別の指導・支援を要する児童（3～4年生）のうち、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として個別の学習支援を実施している。形態は、全体指導者1名と個別支援者約6名と事務局1名でなされている。国語と算数の基礎的内容を窓口として自尊感情を高めることを目指している。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・事務局は、本校の学校支援員を兼ねているため、児童の実態をよく把握している。スタッフは、校区在住の元教員や保育士および教育や福祉等を志す学生等で構成している。  
・前任者からの情報により土曜教室に興味を持って市外から参加する学生もいる。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

・学生スタッフによるグループワークを導入した。  
・指導・支援の質が保てる範囲を維持できる人数にすること。  
・毎回行うスタッフによる反省会によって、個々の児童の課題を共有し、個に応じた手立てを決定する。

### ■ 事業の成果と課題

- カルタなどのグループワークによって、よりよい人間関係づくりができた。
- 失敗経験が多いため、自信を失っている児童が多い。根気よくほめて認めて励ますことで、児童の自信につながり、自尊感情が高まり、学ぶ意欲を引き出すことができた。
- 1対1対応での支援によって、かけ算の九九やカタカナ・漢字の習得ができてきた。
- 家庭の状況が厳しく参加しにくい児童への働きかけが課題である。



【学生によるグループワーク】

報告書記入者（校長）

## 学び、体験 そして地域を知ろう！ 土曜日教室

湖南省	活動名：学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：菩提寺小学校		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：1・2か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：2人（兼務2人）	
平均参加人数：39人		平均スタッフ数：5人	
活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

菩提寺学区は小学校二校があり、年10回の活動のうち5回（内1回中止）は、二校合同（内2回、菩提寺まちづくり協議会支援のもと）で開催。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の方に、講師・指導を依頼。他に支援員としての参加もあった。また、中学校のボランティア部員の参加が大きな支援となっている。  
地元の川に生育する生き物を調べたり、学区内の竹を利用しての作品を作ったりして、地域のことを知る良い機会になっている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も密にならないように、会場の分散や広い場所を確保。換気等にも注意。

### ■ 事業の成果と課題

まだまだ続くコロナ禍で、制限はあったがほぼ予定通りに開催できた。  
まちづくり協議会からのサポート体制が変わった分、対応を再確認する必要がでてきた。

### ■ その他

広報紙や学校のホームページに活動の様子を載せ、多くの人に本事業を知ってもらえるように努めている。



【地元の川の生き物調べ～第一回活動～】

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

## 土曜日の教育支援活動 ～地域の子供がつながる～ わくわく体験 マジック教室

湖南省	活動名：菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター 年間開催日数：7日（開催ペース：1.2か月に1回） 平均参加人数：40人 ・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

菩提寺学区にある菩提寺北小学校と菩提寺小学校の2校が菩提寺まちづくり協議会支援の下、毎年10回開催予定で計画を立てている。（大山川の魚調べ・蛍鑑賞（中止）・学習教室2回・絵画教室・ポンポン船作り・マジック教室・門松作り・書道教室・竹馬作り）計9回実施

今年度初めて、マジック教室を開催。3種類のマジックを教えてもらい最後には前に出て、皆に披露するところまで指導を受けた。大変楽しそうに参加してくれた。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

どの活動も、準備をし、指導して下さるのは地域の方で、長い間続いている活動もあれば、初めてお願いする活動もある。今回取り上げたマジック教室は用務さんがマジックをされているのを聞きお願いしたところ、そのお仲間と共に開催してくれた。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍ではあるが、今年度は出来る限り感染対策をしてほぼ実施することができた。（蛍鑑賞は悪天候のための中止）

### ■ 事業の成果と課題

子どもたちはどのようなものにも興味を持ち、やってみたいと思っているのか、また多くの活動で親子参加でとしているので、親子で体験し、面白く参加できるものをこれからも考えていきたい。

### ■ その他

まちづくり協議会からのサポート体制が少し変わった今年度だったが、うまく機能したのではないかと考えている。

両校合同で行う活動のサポート・資金面・参加者の保険など地域の子どもたちへの協力をありがたく思う。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



【 不思議な輪っか 】

## 活動が中止に…参加者への対応方法とその後 ～しもしょうサマースクール2022～

湖南省	活動名：しもしょう土曜教室	下田小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：下田まちづくりセンター 年間開催日数：1日 平均参加人数：10人 ・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員数：3人（兼務2人） 平均スタッフ数：10人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

今年度はコロナ禍ではあるが、通年のサマースクールの方式に戻す方向で活動を企画した。

下田まちづくりセンターを会場とし、7月20日（水）、21日（木）、22日（金）の3日間、2年生から6年生を対象に募集をしたところ、たくさんの児童が参加申し込みをしてくれた。実施に向けてコーディネーターを中心に準備してきたが、直前になって、下田小学校区内での新型コロナウイルス感染症の感染者が多く出たため、20日の朝8時の時点で中止を決定、参加児童の保護者へ連絡をした。12月23日には、「書道を楽しみましょう」を実施することができた。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

サマースクールの会場を下田まちづくりセンターにすることで、夏休みなどの長期休みに下田小学校の児童が地域の施設を利用していることを地域の方々に知ってもらい、地域の方々と児童とのコミュニケーションのきっかけになればと考えている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度より、参加児童保護者との連絡方法としてSNSを利用することにし、募集チラシや2次案内にQRコードをつけておき、登録をお願いした。今回中止となり、その連絡にもSNSを使うことができ、コーディネーターの負担が軽減した。

### ■ 事業の成果と課題

問い合わせにもSNSを利用することで、コーディネーターと保護者の双方が時間などを気にせず都合の良いときにやり取りができるようになり、保護者のささいな疑問の解決にも役立った。ただ、保護者の中には登録をしていない方もいたので、活動中止の連絡は学校からタウンメールも送信してもらい全体に伝わるよう工夫した。

### ■ その他

活動中止となったことを保護者に連絡もしたが、連絡漏れで児童が会場に来る可能性があるためコーディネーターが集合時間に会場で待っていたところ、中止と知っている児童が友達と一緒に会場である下田まちづくりセンターで夏休みの宿題をするため集まってきた。まちづくりセンターの職員の方に児童が許可をいただき、空調のあるロビーで宿題をさせてもらえることになった。児童が自主的に地域の施設を利用できるのも、地域の方々の理解と見守りがあるからこそだと感謝している。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

湖南省	活動名：やってみよう！みとっこ	水戸小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：水戸小学校 図工室 年間開催日数：10日（開催ペース：1日） 平均参加人数：20人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ ■その他（ 地域活動 ）		開始年度：26年度 地域学校協働活動推進員数：2人（兼務2人） 平均スタッフ数：3人	

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・夏休み、冬休みに同じ中学校区の小学生、中学生、大人が共に活動する場をつくる。
  - ・地域活動（水戸菜園・清掃作業）への参加。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・CS理事会で話し合いを重ね、保護者や子どもたちに地域の一員として行事への参加を発信。その際学校の学習とつながりが持てるように工夫した。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・夏はクラフトづくり、冬は書道教室を開催した。学年を制限し人数が増えた場合は教室を分けて対応。夏休み、冬休み初日に設定することで体調管理も不安なく行えた。
  - ・地域のセンターがワクチン接種会場となったり感染症予防対策で納涼祭と敬老会、まちづくりフェスタが中止となった。敬老会では地域のおじいちゃんとおばあちゃんに子どもたちが書いたお手紙をお弁当に添える予定だったが後日自治会や民生委員さんから手渡してもらうこととした。
- 事業の成果と課題
  - ・コロナ禍で人が集まるといことが少なくなっている中で、小・中学生と大人も一緒にものづくりに取り組めてよかった。夏休みも冬休みも募集を6年生限定にしていたので来年度は対象を広げられるようになればと思う。地域に子どもたちが活躍できる場を、と計画を立てているが中止になった際、地域の方や団体との円滑なコミュニケーションをはかる重要性を再認識した。
- その他
  - ・学校に来てくださる方は子どもたちとの活動を楽しんで主体的に参加しておられるが、学校のために「してあげている」ようなところがまだまだある。活動を続け発信していくことで地域の方に「水戸の子がいるやん！子どもたちに任せよう」と言ってもらえたり、それが子どもたちの自信につながるような取組みをしていきたい。



【 冬休み 書道教室 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東・西・北小学校 朝桜中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：8人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成14年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：1人	

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
  - ・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法についても話をしている。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。他に指導者間のネットワークも利用。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちに感じてもらう次年度のクラブ員増につながるよう工夫をしている。
  - ・コロナ対応としては、活動中のマスク着用はもちろん、活動を始める前にも大人全員の検温および手指消毒を実施している。
- 事業の成果と課題
  - ・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、積極的に練習に集中する様子が見られる。
  - ・初心者と継続のクラブ員とで同じ内容を教えるのに無理があるときもある。
  - ・動き自体が地味なものなので、その面白さが理解されにくい。



【 お稽古の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名 : 蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 蒲生コミュニティセンター		開始年度: 平成 24 年度
年間開催日数: 10 日 (開催ペース: 月 1 日)		地域学校協働活動推進員数: 1 人 (兼務 1 人)
平均参加人数: 18 人		平均スタッフ数: 1 人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・初級のメンバーはほとんどがダンス未経験者である。また低学年が多い。
  - ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気大切にしている。そのため、子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。
  - ・初級はメンバー数が多いので、より広い場所 (小ホールフロア) に会場を移して密にならないようにしているが、小ホール事業の関係で十分な練習時間が取れないことがある。
- 事業の成果と課題
  - ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。保護者も協力的である。
  - ・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。
  - ・練習時間が短いため全体の動きを合わせるの難しいことがある。



【 練習の様子 】

報告書記入者 ( 蒲生マックスクラブ 事務局 )

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名 : 蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 蒲生コミュニティセンター		開始年度: 平成 26 年度
年間開催日数: 10 日 (開催ペース: 月 1 日)		地域学校協働活動推進員数: 1 人 (兼務 1 人)
平均参加人数: 10 人		平均スタッフ数: 1 人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
  - ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)
  - ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
  - ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。初級を終えた子どもが中級へ進みやすいように同じ指導者が体系的に教えてくれている。
  - ・少人数のため密にはならないが、活動中は常に窓を開けておくなど、換気に注意している。また活動前に検温と手指消毒を行っている。
- 事業の成果と課題
  - ・子どもたちはより難度の高い技能を希望するようになり、意欲的な取組の姿勢が見られた。
  - ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるためステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【 練習の様子 】

報告書記入者 ( 蒲生マックスクラブ 事務局 )

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：10人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：1人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。中級を終えた子どもが上級へ進みやすいように同じ指導者が体系的に教えてくれている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組の姿勢が見られた。
- ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【 練習の様子 】

報告書記入者（蒲生マックスクラブ 事務局）

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER（キッズフラワー）	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：6日（開催ペース：2か月に1日） 平均参加人数：16人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成14年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人	

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
- ・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・作品を年度末のマックスクラブ発表会などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
- ・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。



【 活動の作品 】

報告書記入者（蒲生マックスクラブ 事務局）



## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名 : 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 蒲生コミュニティセンター 年間開催日数 : 45 日 (開催ペース : 週 1 日) 平均参加人数 : 13 人 ・活動内容 : <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		開始年度 : 平成 28 年度 地域学校協働活動推進員数 : 1 人 (兼務 1 人) 平均スタッフ数 : 2 人

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学3年生以上を対象にしている。
- ・週1回の合同練習と楽器を家に持ち帰っての練習で、技術レベルが落ちないようにしている。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
- ・指導者の知り合いなどで他地域の指導をしている方の協力も得ている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・発表会や地域のイベントに出場して、ステージ発表に対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれている。
- ・週一回の練習のため、上達速度が遅い。個人差または学年差があり、全員のレベルをそろえるのが難しい。
- ・クラブ員数が年度によって違うため、一定の演奏レベルを保つのが難しい。

### ■ その他

- ・コロナ禍のため、息を吐く吹奏楽はより感染防止に気を使わざるを得ない。



【 発表会の様子 】

報告書記入者 ( 蒲生マックスクラブ 事務局 )

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名 : 蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 蒲生コミュニティセンター 年間開催日数 : 10 日 (開催ペース : 月 1 日) 平均参加人数 : 15 人 ・活動内容 : <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		開始年度 : 平成 14 年度 地域学校協働活動推進員数 : 1 人 (兼務 1 人) 平均スタッフ数 : 2 人

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
- ・マックスクラブ発表会で地域の子どもたちに体験教室を実施している。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・職員以外の人にも声をかけ、幅広く人材を探している。
- ・クラブ員の保護者に当番制を敷き、活動日には1名ずつ補助として入ってもらっている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・子どもの自主性を尊重し出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
- ・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。
- ・活動時は間隔を空け隣接した子ども同士の感染に注意している。

### ■ 事業の成果と課題

- ・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
- ・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・制作時間に個人差があるが、早く終わった子どもには複数の作品制作をすすめている。



【 作陶の様子 】

報告書記入者 ( 蒲生マックスクラブ 事務局 )

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター		開始年度：平成20年度
年間開催日数：7日（開催ペース：1～2か月に1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：11人		平均スタッフ数：4人
・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ ■その他（郷土学習）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・館外活動が基本であり、子どもの五感を使っている活動が中心である。
- ・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
- ・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を、その回の内容に応じて依頼している。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するものなどでクラブ員の興味を引き付けるようにしている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・東近江地域への理解を深めることができた。
- ・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしていても遅い早いが出てくる。
- ・活動場所が野外のため、天候に左右される場合がある。
- ・指導者が特定の団体のため、事業が似たようなものになってくる。



【 登山の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

## 子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター		開始年度：平成14年度
年間開催日数：27日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：15人		平均スタッフ数：5人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・わらべ組を卒業した高校生や大学生・社会人などに指導してもらっている。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。
- ・練習時間をいつもより短くして、マスクをしながら練習している。

### ■ 事業の成果と課題

- ・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。



【 発表会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

## 夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名 : キッズダンス (初級)	玉緒小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: わたむきホール 年間開催日数: 48日 (開催ペース: 月4日) 平均参加人数: 10人 ・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		開始年度: 平成27年度 地域学校協働活動推進員数: 1人 平均スタッフ数: 2人	

- 活動の概要・特徴的な活動  
インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図ってみた。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫  
今年はコロナ禍でもあり、地元等への発表は控えた。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)  
新型コロナウイルス感染症が長引き、わたむきホールに会場を変えてダンス会場の換気、教室の消毒、体温測定、手指の消毒等を厳重に行った。
- 事業の成果と課題  
コロナ禍による巣ごもりでの運動不足解消には大きな成果があったと考える。



【 教室の様子 】

報告書記入者 ( 玉緒地区地域教育協議会 代表 )

## 夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名 : キッズダンス (中級)	玉緒小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: わたむきホール 年間開催日数: 48日 (開催ペース: 月4日) 平均参加人数: 10人 ・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ( )		開始年度: 平成27年度 地域学校協働活動推進員数: 1人 平均スタッフ数: 2人	

- 活動の概要・特徴的な活動  
インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や他の人とも合わせられる事を重点に中級での上達を図ってみた。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫  
今年はコロナ禍でもあり、地元等への発表は控えた。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)  
ダンス会場の換気、教室の消毒、体温測定、手指の消毒等を厳重に行った。
- 事業の成果と課題  
子どもがダンスに興味を持てた。今後仲間づくりの視点を大切にしていきたい。



【 教室の様子 】

報告書記入者 ( 玉緒地区地域教育協議会 代表 )

## プログラミングで楽しもう！

東近江市	活動名：小学生のプログラミング教室	玉緒小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：玉緒小学校内		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：5日（開催ペース：月1日）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：12人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

- 活動の概要・特徴的な活動  
パソコンの起動など初歩的な所から始めた。子どものスキルに合わせて取り組んだ。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫  
平和堂の催し、発表会に参加した。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
手指の消毒の徹底。マスク、体温測定は事前に行い、教室の換気も行った。
- 事業の成果と課題  
楽しんで活動することができた。コマンドの利用ができるようになった。



【 平和堂の催しに参加 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

## プログラミングで楽しもう！

東近江市	活動名：中学生のプログラミング教室	玉園中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：池田町 葉菜屋の母屋		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：週1回）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：4人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

- 活動の概要・特徴的な活動  
パソコンの起動など初歩的な所から始めた。子どものスキルに合わせて取り組んだ。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫  
平和堂の催し、発表会に参加した。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）  
手指の消毒の徹底。マスク、体温測定は事前に行い、教室の換気も行った。
- 事業の成果と課題  
子どもたちが楽しめた。  
コマンドの利用ができるようになった。



【 プログラム画面 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

## 自然を楽しもう！

東近江市	活動名：農業体験・田園アートクラブ	玉緒小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：上大森町 農地・田		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：2日（開催ペース：月1日）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：20人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・自然の中での田園や畑で走り回る事で、健全な遊びにより健康の増進を図り、情操を豊かにする。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・豊かな田園資源の活用で大人と子どもで楽しみ、心身の健全な育成を図る。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・マスクの着用、アルコールで手指の消毒、手洗いの励行を行う。
  - ・密集密接にならないように工夫する。
- 事業の成果と課題
  - ・事業を行う日程の都合上、天候に左右されやすい。
- その他
  - ・地元の農家さん等の協力が必要。



【 芋掘り体験 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

## 英語を楽しもう！

東近江市	活動名：小中学生のネイティブスピーカー英会話	玉緒小学校・玉園中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：村町の公民館等		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：週1回）		地域学校協働活動推進員数：2人	
平均参加人数：5人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（英会話 ）			

- 活動の概要・特徴的な活動
  - ・児童・生徒のレベルに沿った英会話レッスンを行う。
  - ・子どもの英語の活用力を育てる。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
  - ・従来から子どもキッズ活動に参加していた子が大きくなり、英語を教えに参加してくれる。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
  - ・マスクの着用、アルコールで手指の消毒、手洗いの励行を行う。
  - ・密集密接を避けて換気を十分に行う。
  - ・身近な会話の中で英語に親しみを持ち、活用できるようにする。
- 事業の成果と課題
  - ・英語に親しみを覚え、日常会話の中で活用できる。
  - ・自然に使えるように、少しずつ行っていく。



【 活動の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

## 目指せ！なんでも作れるパティシエを

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：竜王町農村女性の家・竜王町公民館		開始年度：平成27年度（中断年度あり）
年間開催日数：年間6日（開催ペース：2～3か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：3名（兼務3名）
平均参加人数：16名		平均スタッフ数：1名
・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・町内在住の健康推進員（栄養士）を講師に迎え、調理の基礎を学びながら、技能の向上をはかり、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・町健康推進員を長年務めておられる地元栄養士の方の指導を受けることで、お菓子作りを通じて健康や栄養について分かり易く学ぶことができる。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地元の特産品（果樹等）を活用し、季節イベントにあったおうちでも簡単に作れるお菓子や料理作りをしている。

・感染拡大防止のために始めたすべての工程をひとりで調理することが、結果、自立に繋がっている。

### ■ 事業の成果と課題

・おうちでも実際に作ったりすることで、親子の時間作りやおうちの手伝いもできるようになり、家庭での実践に結びついている。

・感染対策の一環から、全ての工程を一人で調理することで、調理の実践力が高まっている。

・クラブで習得した調理技術が、家庭でのお手伝いの幅を広げている。また、家族間のコミュニケーションが高まっている。

・子どもにもわかりやすいようにイラストを挿入したレシピの作成や食材の買い出しなど、職員の負担は大きい。



【 クリスマスケーキ作り 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

## ボクもワタシもワクワク科学博士

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：平成18年度
年間開催日数：年間8日（開催ペース：2か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：3名（兼務3名）
平均参加人数：16名		平均スタッフ数：3名
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ ■その他（ 郷土学習 ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・小学校1年生～6年生までの異年齢の子どもたちが地域の人々との交流を深めながら、科学工作や実験等を通じて、新しい学びや技能の向上をはかり、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師が講師として指導をすることで、低学年の子どもでも分かり易く学ぶことができる。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・参加者は低学年が多いため、原則保護者同伴で開催をしているので、兄弟等小さい子どもがいる家庭は、事前に連絡をいただき家族参加も可能としている。

・屋内での活動は間隔を広くとるなど、密にならないように工夫している。

### ■ 事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察会、野鳥観察会、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容を楽しく学ぶ機会を提供することにより、理科離れが叫ばれる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。

・家族参加も可能なため、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。

・活動開始から10年以上が経過しているが、1年生から参加できるクラブのため人気が高い。一方、低学年は保護者同伴とはいえ、対象者が1年生から6年生までと幅広く、みんなの歩調を合わせた活動の進め方が難しい。



【 野鳥観察 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

## 5 一筆一筆に心を込めて思いを伝える

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館		開始年度：平成23年度
年間開催日数：年間22日（開催ペース：月2回）		地域学校協働活動推進員数：3名（兼務3名）
平均参加人数：18名		平均スタッフ数：2名
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・書道を基礎から学び、硬筆と毛筆の技能向上はもちろんのこと、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・県の展覧会等でも受賞経験のある有段者（元町職員）が講師として指導をすることで職員との連携や情報共有が取りやすい。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・小学校2年生から6年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができていますので、6年生まで継続してくれる子どもが多い。  
・マスクの着用はもちろんのこと、机に1人ずつ着席し、密を回避している。

### ■ 事業の成果と課題

・技能の向上をめざして、練習（復習）を重ねる継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。  
・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。  
・月2回のペースで開催をしているため、学校行事や他の習い事などと重なり、日程変更をする場合の調整に苦慮している。



【 毛筆練習 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

## 仲間とともに限界にチャレンジ

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：平成22年度
年間開催日数：8日（開催ペース：2か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：3名（兼務3名）
平均参加人数：21名		平均スタッフ数：3名
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 郷土学習 ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

・県内にある屋内外の体験施設等を訪問し、チャレンジをしながら、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々や仲間と交流を深め、協力しあう大切さ何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・町生活安全課や消防署、赤十字奉仕団等のボランティア団体の協力を得ながら、活動内容を組むことで、普通の学校生活では体験できないことを体感知識を身に付けられる。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、原則クラブ生のみでの参加を条件として開催している。  
・今まで泊まりで開催していた防災キャンプは感染拡大防止対策として日帰りの防災キャンプに変更して開催している。

### ■ 事業の成果と課題

・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、職員だけでは十分でないため、保護者等の協力を得なければ活動が難しいことがある。野外活動のボランティア確保が必要である。  
・カヌー体験、防災デイキャンプ、スキー教室等では、受講料以外の諸経費を毎回負担金として徴収するため保護者の負担が大きい。普段体験できない貴重な経験ができるということで保護者の理解は得られている。  
・活動内容のマンネリ化や小学生が体験できる屋外アクティビティには、子どもの安全確保のため、大人の引率が必要など様々な条件が重なり内容の決定に苦慮している。  
・野外活動が中心となるため、天候に左右され実施できないことが多い。



【 アドベンチャー体験 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

## 輝け！煌めけ！子ども吹奏楽団

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ 竜王ユースプラス	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：昭和62年度
年間開催日数：年間50日（開催ペース：毎週土曜日）		地域学校協働活動推進員数：3名（兼務3名）
平均参加人数：15名		平均スタッフ数：3名
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

### ■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・音楽の基礎知識を学びながら演奏技能の向上と両小学校の異年齢の子ども同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

### ■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方が講師として指導を行うことで、わかり易く学ぶことができる。

### ■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・3名の講師が各個人の技能にあわせた練習をすることができる。
- ・希望楽器の調査を行い、講師が体格や肺活量をみて子どもにあった楽器を選べる。
- ・卒業生のほとんどが、中学校で吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。
- ・楽器演奏による飛沫感染を防止するため、間隔をあげ一方向を向いて演奏している。
- ・唾抜き部分にビニールを被せ、楽器に溜まる唾の処理を的確に行い感染対策を行っている。

### ■ 事業の成果と課題

- ・新しく入部したクラブ生に、経験者が補助をする姿も見られ、責任感や協調性を養うことができた。
- ・開催時間帯が夜間であるため、保護者の送迎等による理解とあわせて防犯対策を十分に講じる必要がある。



【 発表会出場 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）



## 「地域における家庭教育支援基盤構築事業」市町取組状況一覧

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	家庭教育支援 チーム数	家庭教育 支援員数
大津市					※(1)	※(20)
彦根市		・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	3	7
長浜市					※(1)	※(9)
近江八幡市	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	12	13
草津市	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	0 ※(1)	0 ※(20)
守山市						
栗東市	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	1	1
甲賀市	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	1	8
野洲市						
湖南市	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	6	10
高島市	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	0	0
東近江市				・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	5	5
米原市						
日野町	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	1	3
竜王町	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組	・家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型	1	2
愛荘町						
豊郷町						
甲良町						
多賀町						
事業実施市町数	8市町	9市町	9市町	10市町		

○令和2年度モデル市：彦根市・湖南市  
 ○令和3年度モデル市町：近江八幡市・日野町  
 ○令和4年度モデル市町：東近江市・竜王町  
 ●訪問型の家庭教育支援活動については、市・町として施策に明確に位置付け、取り組みを進めている箇所  
 ※本事業以外で活動している家庭教育支援チーム数および支援員数

## 彦根市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等をする中で、親子に関する問題の解決を目指す。

### ■本年度の活動

#### （１）家庭教育支援事業運営委員会の開催（市教委での開催）

市教育委員会事務局、子育て支援部局、福祉部局、モデル校、  
県SSW・SVによる運営委員会の開催（年２回）

#### （２）家庭教育支援チーム会議の開催（各小学校での開催）

当該校の管理職、関係教員、SSW、家庭教育支援員、市事業担当者

#### （３）家庭教育支援員の配置とアウトリーチ型支援の実施

モデル校の家庭教育支援地域協議会に家庭教育支援員を配置し、訪問型の家庭教育支援を実施するとともに、同一中学校区内の全小学校で支援できる体制を構築。新規中学校区内の２小学校にも事業を拡充。



【 チーム会議の様子 】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・長期休業明けの児童の状況を注視し、必要な支援に努めた。
- ・家庭教育支援員は、マスクを着用し、訪問家庭の了解を得たうえで対面、相談業務にあたった。
- ・会議は、基本的な感染予防対策を徹底するとともに、市主催の会議はWEBを活用した。

### ■本年度の成果

- ・家庭教育支援員が、保護者の子育てを労い、悩みを聞くなどの関係性を築く中で、子ども理解が進み、親子関係が改善し不登校傾向が緩和した事例や、登校を渋っている児童の家庭に対して、家庭教育支援員が訪問することで一緒に登校できるようになった事例等がある。
- ・学校教育や福祉施策ではなく、家庭教育支援により、環境の改善を図り、子どもの課題改善につながっている。

### ■今後の課題

- ・地域として一貫性のある家庭教育支援を実施し、地域におけるつながりや地域力の向上を図るとともに、事業実施校の拡充を図りたい。
- ・家庭教育支援員を安定的に確保できる仕組みづくりが必要である。

報告書記入者（生涯学習課 職員）

## 家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業

彦根市（旭森小学校）本事業開始年度 令和2年度	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>	
年間活動日数（のべ）	（ 90日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 2 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（旭森小学校）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

#### ○学習講座・行事の実施等

行事はコロナ感染対策を講じつつ実施した。行事の細かな参加の仕方等事前に保護者に詳しく説明し本人に無理のない範囲の行事の参加を促した。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を行い、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨や支援する家庭の絞り込みを行った。また、長期休みや学期の始めにチーム会議を開催し、進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。日常的にも教育相談担当が窓口となり、週末に児童や家庭の様子を情報共有した。

#### ○保護者に対する情報提供等

ミニケース会議等を継続的にもち、家庭状況や保護者の状況を把握して対応した。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援を週1回程度定期的に行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登校したり、下校したりした。初めは保護者も児童も緊張気味だったが、家庭教育支援員といろいろな話をしながら活動すること安心につながり、感情の安定にもつながっている。

### ■ 特徴的な活動内容

○児童は家庭教育支援員と一緒に下校することで、体験不足の児童も四季を感じ楽しんで下校することができた。

○教員は、常に情報を共有し組織として行動を連携した。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○家庭教育支援員にケース会議に同席していただき、情報を共有することで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

### ■ 事業の成果

○保護者や児童との信頼関係が築けた頃より、児童の学校生活が落ち着きだし、保護者が学習用具に関心をもち、購入され、学校の教育に関心をもちたれるようになった。

○定期的な家庭訪問が保護者との信頼関係につながり良いときには、自ら子どもを送り出そうとする姿勢が見られるようになり、学校の教員とも積極的にはなそうとする様子が見られるようになった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話して下さるようになった。

### ■ 事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。



【定期的にケース会議を実施】



【徒競走大会における児童支援】

## 学校・家庭・支援員の連携の真ん中に子供を置いて

彦根市（佐和山小学校） 本事業開始年度 令和2年度		家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
		B：家庭教育支援員数	（ 2 ）人
		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 2 ）か所
		D：前項（C）の配置場所名	佐和山小学校、
年間活動日数（のべ）	（ 160 日）		

### ■ 活動の具体的内容

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

昨年度に引き続き、不登校傾向や別室登校児童の家庭を対象とし、家庭教育支援チームを設置している。家庭訪問や学習支援、登下校時の付き添い等、児童の様子や家庭の実態に合わせて保護者との連携を図りながら、個に応じた支援にあたっている。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

学期に1回、家庭教育連携担当教員と2名の家庭教育支援員で、連絡会議を行い、個々の児童の様子や支援の成果と今後の方向性について話し合っている。また、スーパーバイザーのSSWにもアドバイスをいただき、必要に応じて保護者との面談を設定してより良い支援につながるよう努めている。また、必要に応じて関係者で会議を行い、家庭への支援について検討している。

#### ○保護者に対する情報提供等

不登校傾向で、保護者と一緒に短時間登校している児童や月に数回放課後登校している児童について、家庭への働きかけや保護者支援が有効と思われる家庭について、担任を通じて家庭教育支援の活用を働きかけている。必要に応じて、担当教員からも保護者に家庭教育支援事業について伝えるようにしている。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

保護者と連携を取りながら、週に1回の訪問時間を決め、定期的に家庭訪問を実施するなかで、子どもや保護者との信頼関係を築いている。家庭に出向いてその時子供が興味を示すことを一緒にしたり、保護者と話をしたりして、学校と家庭を結ぶ大きな役割を担っている。

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○子供や家庭に寄り添った支援

兄が不登校傾向で学校への登校が難しい中、何とか登校できていた児童Aが、今年度に入ってほとんど登校できなくなり、学校からの働きかけにも難しさを感じるようになった。そこで、家庭教育支援について保護者に提案し、支援員と保護者の面談の後に定期的な家庭訪問を行うこととした。週1回の訪問で、少しずつ支援員にも慣れて、訪問時には児童の好きなことで一緒に遊ぶようになった。また、一度はウサギを見に行く目的で、授業時間内に学校（ウサギ小屋）まで支援員と歩いてくることができた日もあった。保護者にとっては、学校（教員）とのつながりに加えて、教員ではないが学校につながる立場の支援員との連携ができることで、児童について相談したり一緒に考えたりする場が増えたという安心感につながっている。また、支援員から家庭での児童の様子を聞くことができ、学校としての支援の在り方をより具体的に考えやすくなった。

### ■ 実施に当たった工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 別室で過ごす子供たちへの支援については、手洗いや手指消毒はもちろん、学習・生活指導時、給食時には、パーテーションを活用している。
- 家庭訪問については、訪問前の体調管理や検温等を行い、体調によっては訪問を控えるなどして感染予防に努めた。

### ■ 事業の成果

- 児童や保護者との信頼関係を作ることができ、学校と家庭とをつなぐ役割も果たしている。訪問日や時間を決めておくことで、児童も保護者も安心して訪問を受け入れられている。

### ■ 事業実施上の課題

- 不登校児童についての理解が深い者が、支援員をしているため、学校や保護者との連携が強化できているものとする。また、時間的にも融通のつく支援員でないと、子どもや保護者へのかかわりが途切れがちになる。こういった地域人材の確保が難しい。
- 支援を継続するためにも、支援時間を増やしてつながりを深めたいが、時間の確保と調整が難しい。

報告書記入者（ 家庭教育支援担当 ）

## 家庭と学校をつなぐ～すべては子どもの笑顔のために～

彦根市（金城・平田小学校）本事業開始年度 令和4年度	
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（100日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 3 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	金城小学校（ベース校） 平田小学校（派遣校）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

地域の民生児童委員また通学路アドバイザーの方に、支援員としての依頼をし、事業内容について説明した。無理のない範囲で活動してもらうことにした。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

事業の中心となる県のSSWを中心に、支援員、学校管理職で、取組状況や成果と課題について話し合った。また、今後の活動内容についても話し合い、次年度入学予定の保育園や幼稚園、こども園に通う気になる家庭へもアプローチしていくような活動もしていく方向となった。

#### ○保護者に対する情報提供等

支援が必要と思われる家庭に対しては、担任や教育相談担当教員などから、事業と支援者についての話をし、理解を得て、実際に担任や担当教員と支援者宅を訪問したり、学校で対面する機会をもったりして支援員と顔合わせを行った。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

保護者および児童と支援員との顔合わせを行ったうえで、実際に曜日を決めて週に1回程度訪問し、朝の送り出しの支援を行った。最初は、支援員と学校教員またはSSWとの複数で訪宅し、慣れてきたら支援員のみで訪宅してもらうようにした。

### ■ 特徴的な活動内容

○朝の登校の際、スムーズに家を出られない児童の支援を行った。時には、玄関で母親からランドセルなど荷物を預かり、集合場所または学校まで一緒に行ってもらった。また、別の家庭については、保護者が早朝に出勤してしまうため、インターホンを押して登校を誘う声掛けをしてもらった。時には、学校で別室にいる児童に声をかけてもらうこともあった。

○SSWと支援員と学校で取組についての振り返り、今後の見通しなどについて話し合った。

特に、うまくいった内容、また困ったこと、今後の対応のことなど話し合うことで、支援員がより活動に見通しをもてるようにした。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○保護者と支援員の顔合わせについては、学校の担当者と支援員とが一緒に訪宅し、紹介し、どのように支援していくかなどについて知らせた。子どもとは、学校で顔合わせを行い、「また、お家に誘いに行くね。」などと話し、顔を覚えてもらった。

不登校児童については、訪宅し、保護者とともに顔合わせを行った。

○訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

### ■ 事業の成果

○児童や保護者と顔合わせを行うことで、学校など自宅以外の場所でもかかわりをもつことができた。また、保護者との信頼関係が強まり、母親のよき相談相手になっていることで、母親や児童の心の安定につながっている。

○学校が行っていたこと（朝の訪宅など）の一端を担ってもらえ、大変助かった。また、安心して依頼できる方なので、今後もお願いしていきたい。

### ■ 事業実施上の課題

○保護者のニーズと支援者の都合が合わなかったり、タイミングを計ったりすることが難しかった。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 近江八幡市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

経済的に厳しい、就労形態が子育てのしにくさにつながっている、子どもの関わり方に困難を感じている等、様々なしんどさを抱え込んでいる家庭がある。また、行き渋りや不登校の児童数は、年々増加傾向にある。

家庭教育支援を目的とする子育てサロンを開くと、行動力のある保護者は参加し、子育てに関する情報を提供することができている。しかし、不安を抱えていて支援を必要とする保護者にとっては、サロンに参加することはハードルが高く、不安や悩みを発信できる場にはなっていない。保護者自身が抱える課題によっては、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い、話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合もある。

今年度は、コロナ禍でも以前より人と関わることが可能になったこともあって、家庭教育支援員と民生委員等の地域との連携で見守りや声掛けをすることで、家庭支援が行えた例が昨年度より増えた。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。「顔見知りになる」「ちょっと話せる」といった、つながりをつくることで、保護者の情緒的な安定を図り、安定した子育てができるようにつなげる。

### ■本年度の活動

#### （１）市内12小学校における各家庭支援チームによる活動の展開

- ・定期的な支援チームでの情報共有会議
- ・各学期の参観行事や懇談会時にサロンの実施
- ・家庭教育支援員による支援活動

#### （２）市子育てサロンの実施と家庭教育支援員の交流

- ・市内就学前・小学校の保護者対象の子育てサロンの実施（学期に1回ずつ。2学期は県教委と共催「子育て・親育ち語り合い講座」）
- ・家庭教育支援員の実践交流会の開催（学期に1回ずつ）

#### （３）家庭教育推進協議会における協議（7月と2月）

- ・「家庭教育支援員の活動の充実に向けて」「不登校支援について」

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

1回目の市子育てサロンでは、参加者同士の距離を維持できる状態にして、会場で三密を避けられるよう、広いスペースで開催した。第2回目は、グループトークの際、飛沫ガードパネルを隣席との間に設置して感染予防を行った。またオンライン参加を可能とした。

### ■本年度の成果

年3回実践交流会を行うことで、家庭教育支援員の果たすべき役割について、研修の場を持つことができた。また、各校の現状を出し合い、それぞれの学校でできることを検討することができた。

### ■今後の課題

家庭教育支援の必要性が学校現場に浸透しつつあるが、教職員の理解はまだ十分ではない。現場の先生方に、本事業で目指す姿の認識をより広めていきたい。また、支援を必要とする保護者と学校のニーズに応えられるよう、事務局と学校とが連携を密にすることも必要である。



【市子育てサロン】



【家庭教育支援員交流会】

## つながりの輪を広げ、安心をつくる家庭教育支援

近江八幡市	本事業開始年度	平成 23 年度
活動内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>		
年間活動日数 (のべ)	244 日	

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	( 12 ) チーム
B : 家庭教育支援員数	( 13 ) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 12 ) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	
(八幡小学校、島小学校、沖島小学校、金田小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、北里小学校、馬淵小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校)	

### ■ 活動の具体的な内容

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

- ・不登校や問題行動をはじめとする教育相談対応が必要な児童の家庭や地域での状況を把握するため、校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、家庭教育支援コーディネーター、訪問教育相談員等でケース会議を開催し、状況の確認と家庭への支援の方法を探る。状況によっては、地域の民生委員との情報共有を図っている。

#### ○学習講座・行事の実施等

- ・学校を会場に「子育てサロン」を開催し、保護者が子育てについて気軽に話せる機会を設定する。子育てサロンは、講師の話や講座もあれば、家庭教育支援員がコーディネートし、外部から講師を招き（保護者が講師になるサロンも有）、楽しい活動を取り入れるサロンの開催もあった。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・毎月開催する家庭教育支援チーム連絡会において、学校と地域が情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や指導にいかしている。特に長期休業前には、気になる児童をピックアップして地域での見守りを依頼している。
- ・より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やSSW、福祉のケース検討会等へつなげている。
- ・民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めている。

#### ○保護者に対する情報提供等

- ・保護者が多数参加する場に、「家庭教育支援員」として出向き、活動の一端を紹介する。また、その場を活用して保護者などから情報収集を行うことで、家庭支援につなげている。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

- ・連絡会議やケース会議の内容をもとに、家庭教育支援員が主催する子ども食堂等の機会を活用して、気になる家庭への声かけをしている。また家庭教育支援員と民生委員が連携し、気になる保護者へ声掛け、見守り等の支援を行っている。

### ■ 特徴的な活動内容

- 保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる&保護者同士がつながる座談会の開催。小物作り、ケーキ作り、大人の美文字レッスンなどの活動を取り入れ、リラックスした雰囲気の中で交流することで、保護者が抱える子育ての悩みや不安を少しでも軽減する。

- 各校のニーズに応じた学習会の開催。(テーマの例: スマホ依存、良い睡眠をとるために、子どもの下着選びについて)

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- これまでコロナ感染予防対策の観点から、交流に制限をかけている学校が多かったが、今年度はコロナ対策を講じた上で楽しい活動のある会を開催し参加者数が増加した。
- 保護者や祖父母からの相談の中で、必要に応じて家庭教育支援チームで情報を共有し、担任やSCを含めて多面的な支援ができるよう働きかける。家庭教育支援員は、つなぎ役としての働きを大切にしている。

### ■ 事業の成果

- 行事に合わせて実施することで、たくさんの保護者に家庭教育員の存在を知ってもらうことができた。その中で、悩みを持っておられる保護者の人間関係や児童との関わり方など家庭教育支援員から学校へと情報を共有することができた。
- 家庭教育支援員と担任との情報共有を定期的に行い、具体的な家庭教育支援につなげることができた。

### ■ 事業実施上の課題

- 家庭教育支援員の果たす役割を、全職員に共通理解を図るとともに、教育相談担当者や管理職などが運営に積極的に関わる必要がある。
- 訪問型家庭教育支援活動の実施について、アセスメントや支援の具体的な方法を立てることが難しい。



【子育てわくわくサロン  
ケーキ作りのようす】



【子育てサロン  
フォトデコレーションのようす】

報告書記入者 ( 生涯学習課 職員 )

## 草津市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和 29 年）より人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる若い世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

### ■本年度の活動

#### （１）家庭教育事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立こども園、小学校、中学校の各単位 P T A 等の実施する家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 P T A 等における特色のある家庭教育学習事業を支援した。

#### （２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。今年度においては、家庭教育に関する講座を 2 講座開講した。また、乳幼児健診やすこやか訪問にて、家庭教育のチラシや家読のリーフレットを配布し、家庭教育の大切さについて啓発を行った。

#### （３）家庭教育に関する情報発信

家庭教育サポート事業実施時に、テーマに合ったチラシなどを配布し、情報発信を行った。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

対面での開催は消毒の設置や換気等、感染症対策を十分行い実施。

対面で開催したものを撮影し、後日、市 Y o u T u b e にてオンデマンド配信を行った（1 講座）。

### ■本年度の成果

家庭教育講座 2 講座

1 歳 6 か月健診における家庭教育の啓発（チラシ配布）

すこやか訪問における家読の啓発（リーフレット配布）

### ■今後の課題

- ・近年のライフスタイルの変化により、学校を活用した家庭教育学習機会の確保が困難であるため、新たな手法による学習機会の創出の検討が必要である。
- ・保護者のニーズに対応したテーマの講座を開講するなど、工夫を凝らす必要がある。



## 草津市家庭教育サポート事業～地域で育む家庭の力～

草津市	本事業開始年度	平成 26 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容			A：家庭教育支援チーム数	( 0 ) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数	( 0 ) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 0 ) か所
( 38 日 ) (すこやか訪問除く)			D：前項 (C) の配置場所名	( - )

### ■ 活動の具体的内容

#### ○学習講座・行事の実施等

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身につけるため、学校や市の施設を会場とした保護者向けの学習機会の提供や家庭教育に関する情報発信を行い、家庭の教育力の向上を図るとともに、子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

#### ○保護者に対する情報提供等

家庭教育サポート事業実施時にテーマに合った啓発チラシやリーフレットを配布するなどの情報発信を行った。

#### ○学校と連携した家庭教育機会の提供

小学校との連携のもと、時期・テーマ等実施希望調査を行い、希望に合致する外部講師を生涯学習課が招聘し、学習機会を提供する。(今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を希望する学校がなかった)

#### ○絵本 de うちどくサポート広場

1歳6か月の乳幼児健診で、家庭読書をツールとした家庭でのコミュニケーションの育みの推進を図るため、家庭教育啓発チラシの配布、絵本の掲示および読み聞かせに関する図書館司書による読書相談などを月3回(年間36回)実施(今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、チラシ配布のみ実施)。また、すこやか訪問にて家読に関するリーフレットを配布。

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

・対象年齢等を限定することにより保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整

#### ○1歳6ヵ月健診の場を活用した家庭教育サポート事業

・たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布するとともに、家庭での読書環境に関するアンケートを実施し、口頭で家読の啓発を行う。(今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により家読チラシ配布のみ実施)

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

○「親子で考える！スマートフォン時代の子どもたちに大人ができること」においては、対面で開催したものを撮影し、後日市 YouTube にてオンデマンド配信を行う。

### ■ 事業の成果

#### ○家庭教育講座 2講座

「親子で考える！スマートフォン時代の子どもたちに大人ができること」 講師：石川 千明

「アンガーマネジメントに関する講座(仮)」 講師：安岡 寛

#### ○1歳6ヵ月健診における家庭教育の啓発(チラシ配布)

#### ○すこやか訪問における家読の啓発(リーフレット配布)

### ■ 事業実施上の課題

#### ○学校と連携した家庭教育サポート事業

新型コロナウイルス感染症の影響のみならず、近年のライフスタイルの変化などにより、学校を活用した家庭教育学習機会の確保が困難になってきているため、新たな手法による学習機会の創出の検討が必要である。また、多様化するニーズを汲み取り、関心の高いテーマを設定するなど、より多くの保護者に受講いただけるよう工夫を凝らす必要がある。

報告書記入者 ( 生涯学習課 職員 )

## 栗東市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。保護者が学校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応できていないのが現状である。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭養育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことをめざす。

### ■本年度の活動

#### （１）就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

各小学校を会場に実施する就学時健康診断では、子育ての悩みや不安の相談ができる相手や相談体制があることを保護者に呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。悩みを抱える保護者の身近で気軽な相談相手となるよう、対応することができた。



【校内適応指導教室での支援】

#### （２）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童を中心に支援し、送迎時に保護者に気軽に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

#### （３）連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が学校の担当者や当該児童の担任に対して、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

#### （４）保護者に対する情報提供

「学校だより」等で家庭教育支援員を紹介し、子育てに悩んだときはいつでも相談できることを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を位置づけた。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍において、家庭で過ごす時間が増えたことにより、親が子どもと接する時間が増え、子育ての悩みも多くなりつつあるが、相談までたどりつかない保護者がまだまだいる。しかし、個別に働きかけ、対応を行うことで、保護者や児童に手厚い支援を行うことができた。

### ■本年度の成果

家庭教育支援員がじっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。家庭でどんな力を育てていくのか等について、気軽に相談できる信頼関係も強くなった。さらに、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

### ■今後の課題

家庭教育についての講演会や相談会をさらに多く設定し、学んだり交流したりする機会をたくさんの保護者に提供していく必要がある。そのために、情報の発信力を強化する方法について検討していきたい。

報告書記入者（栗東市教育委員会事務局学校教育課 家庭教育支援担当）

## 子育ての悩みを気軽に相談できる体制づくり ～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	本事業開始年度	平成 30 年度
活動内容		
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		
年間活動日数 (のべ)	(76日※) ※見込み	

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A: 家庭教育支援チーム数	( 0 ) チーム
B: 家庭教育支援員数	( 1 ) 人
C: 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 1 ) か所
D: 前項 (C) の配置場所名	( 治田東小学校 )

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

支援活動の企画・運営、関係機関との連携等を担う人材として、学校で教育相談の担当としての経験がある地域人材を選定している。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

家庭や地域の状況に応じた支援や、学校の担当者や該当児童の担任にアドバイスができるよう、学校に設置している。

#### ○学習講座・行事の実施等

実施していない。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が学校の担当者や該当児童の担任に、保護対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

#### ○保護者に対する情報提供等

学校日より等で家庭教育支援員の紹介をし、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を位置づけた。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

場合に応じ、支援員が家庭訪問等による情報提供や相談対応に取り組んでいる。



【個別の学習支援】

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

各小学校を会場に実施する就学時健康診断では、子育ての悩みや不安の相談ができる相手や相談体制があることを保護者に呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。悩みを抱える保護者の身近で気軽に相談相手となるよう、対応することができた。

#### ○校内適応指導教室における支援・保護者相談

送迎時に保護者に気軽に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

○コロナ禍において、家庭で過ごす時間が増えたことにより、親が子どもと接する時間が増え、子育ての悩みも多くなりつつあるが、相談までたどりつかない保護者がまだまだいる。集合して講演会等を開催することができず、互いに学びあう場を設けることが難しかったが、個別に働きかけ、対応を行うことで、保護者や児童に手厚い支援を行うことができた。

### ■ 事業の成果

○連絡会議や日誌を通じて、学校と情報を共有することで児童への支援を効果的に行うことができた。

○家庭教育支援員がじっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。

### ■ 事業実施上の課題

○保護者が自分の子育てについて振り返ったり、保護者同士が家庭教育について気軽に交流したりする機会をどのように設けていくとよいか、PTA との連携等、効果的な設定方法を検討していきたい。

○福祉部局との連携をどう深めていくかが課題である。

報告書記入者 ( 治田東小学校 教頭 )

## 甲賀市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

市では、新しく造成された住宅地が増え、核家族、共働き家庭が急増し、仕事と家事と子育ての中、日々の忙しさから子どもとゆっくり向き合う時間が取れない家庭が多い。加えて、地域での人間関係の希薄化や、一度も子育て支援センターを利用する機会が無いまま低年齢で入園してしまうなど、相談相手が無く、育児不安を抱える保護者や、育児力の低い保護者が増加している。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

- ・各サポーター（家庭教育、子育て、ブックスタート）の育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。
- ・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

### ■本年度の活動

#### （１）地域人材の養成等

- ・甲賀市子育てサポーター養成講座（３講座）
- ・ブックスタートサポーター研修会（１回）

#### （２）学習講座・行事の実施等

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、  
５園６回実施済みまたは予定）  
（小学校、４校実施予定）

- ・ブックスタート事業（年間 27 回）

#### （３）保護者に対する情報提供

- ・家庭教育についてのブックレットをブックスタート時に配布
- ・各子育て支援センターに「早寝早起き朝ごはん」の啓発コーナーを設置



【学習講座の様子】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

【講座】手指消毒の徹底、検温の実施。部屋の換気。席の間隔を確保した。

【ブックスタート】読み聞かせ時の消毒の徹底。読み手・聞き手双方の間隔を確保した。

### ■本年度の成果

- ・コロナ禍の影響により実施できていなかった園での講座や子育てサポーター養成講座を再開した。
- ・子育て親育ち講座（小学校）の内容を拡充した。

### ■今後の課題

- ・子育て親育ち講座について、より効果的な支援になるよう内容の工夫が必要である。

報告書記入者（子育て政策課職員）

## “親力” アップをめざして ～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	本事業開始年度（平成）23年度
活動内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 14日） ※予定。ブックスタート事業除く

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 8 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（甲賀市子育て政策課）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

- ・甲賀市子育てサポーター養成講座（3講座）  
実施日／10月5日、12日、19日  
場 所／甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」  
対象者／市内在住・在勤の20歳以上の方、14名参加
- ・ブックスタートサポーター研修会（1回）  
実施日／11月9日  
場 所／甲賀市役所別館  
対象者／ブックスタートサポーター、園での読み聞かせサポーター、18名参加



【早寝早起き朝ごはん】の啓発コーナー】

#### ○学習講座・行事の実施等

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、5園6回実施済みまたは予定）  
（小学校、4校実施予定）

#### ○保護者に対する情報提供等

- ・家庭教育についてのブックレットをブックスタート時に配布  
（年間27回、約600冊配付）
- ・各子育て支援センターに「早寝早起き朝ごはん」の啓発コーナーを設置  
（市内5か所、設置期間／12月中旬～3月末）



【子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）】

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、小学校）

園の参観や学校での参観、授業で、親もしくは親子と一緒に家庭教育について学ぶ。テーマは食育、命の大切さ、運動、ふれあい、絵本の読み聞かせの大切さなど。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 手指消毒の徹底、検温の実施。部屋の換気。席の間隔を確保した。

### ■ 事業の成果

- サポーター養成講座では、市の支援体制を広く知ってもらうことができ、登録者数を増やすことができた。受講者からは、昔と今の育児の違いや具体的な応急処置法について知ることができ勉強になったとの声があった。
- 園での子育て親育ち講座は、わらべうた遊びや食育をテーマに実施し、保護者からは、ゆっくりと子どもと触れ合える時間になった、今後の子育てに役立つ知識を得る機会となったとの声が聞かれた。

### ■ 事業実施上の課題

- 子育て親育ち講座の対象を広げたが、コロナの影響もあり開催数は少なく、実施園・校は限られている状況である。周知方法、や内容を検討していく必要がある。

## 湖南省における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化、コロナ禍における地域交流機会の制限等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまう保護者が増えている。また、ひとり親家庭の増加や貧困など家庭教育の充実に難しさのある中で、学校生活に適應できない子どもが増えている。このように保護者の困り感が子どもたちに影響しているのが現状である。

### ■家庭教育支援で目指す姿

子育ての支援を必要とする保護者が、地域をはじめとした様々な人とつながることで、子育てに対する不安感を和らげ、ひいては子どもの育ちを豊かにすることができるような体制づくりが求められる。家庭教育の自主性を尊重しつつ、不安を抱える保護者への情報提供や学習の機会の設定などのアプローチ、さらに、助けを求めることが難しい保護者へ支援を届けるアウトリーチの取組が期待される。

### ■本年度の活動

#### (1) 家庭教育支援員連絡会議の開催

- ・ 8月26日(金) 県SSWSV上村先生、県生涯学習課川口先生にお越しいただき、家庭教育支援員間の取組概要の報告、情報交換を行った。また、両先生よりご講話をいただき、参加者にとっての大きな学びの場となった。

#### (2) 中学校区別運営会議の開催

- ・ 4中学校区別に、地域学校協働活動推進員、家庭教育支援員、管理職、市教育委員会事務局が出席し、現状報告、情報交換。

#### (3) 市教育委員会との懇談

- ・ 2月2日(木) 県SSWSV上村先生、県生涯学習課川口先生と市教育委員会事業担当者との懇談。

#### (4) 家庭教育支援チームによる活動

- ・ 本市では、4小学校2中学校6チームが、各校の状況に応じて、「訪問型支援」や気軽に参加できる「子育てサロン」、保護者のつながりの場となる「子育て講演会」の開催等、工夫を凝らした活動を展開している。

- ① 菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」
- ② 三雲小学校…チーム名「みくもっこ支援委員会」
- ③ 石部小学校…チーム名「さんぼ」
- ④ 菩提寺北小学校…チーム名「あすなるカフェ」
- ⑤ 甲西北中学校…チーム名「めっせーじ」
- ⑥ 甲西中学校…チーム名「チーム甲西中」(今年度新規結成)



【家庭教育支援員連絡会】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍により、保護者も学校へ来にくい現状が続いているが、感染対策を講じてこれまでの取組を継続していくよう努めている。

### ■本年度の成果

本市では、目指すべきモデルとなる「訪問型支援」を展開しているチームがある。連絡会議等での情報交換では、家庭教育支援員よりその工夫や苦労について直にうかがうことで参加者が学びを深めることができた。また、甲西北中学校区では、甲西北中学校、菩提寺小学校、菩提寺北小学校の3校合同で「子育て講演会」を開催。中学校区3校の家庭教育支援員が連携を密にすることで、家庭教育支援における小中連携の道すじをつけることができた。市内のこのような取組を受け、この事業に新たに組みたいという学校が増えつつあることも大きな成果と考える。

### ■今後の課題

各チームにおける家庭教育支援員と学校、関係機関との緻密な情報共有、連携が必要。それぞれの役割を明確にしたうえで、子どもや保護者の支援にあたることが大切である。今後は、家庭教育支援の重要性、必要性を市レベルで考えていくために、関係機関に周知し、連携していくことが課題となる。

## ハンドクラフトを通じて、保護者に寄り添う場所作り

湖南省 本事業開始年度 平成 25 年度 活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施	家庭教育支援員や支援チームに関すること A：家庭教育支援チーム数 ( 6 ) チーム B：家庭教育支援員数 ( 10 ) 人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 ( 6 ) か所 D：前項 (C) の配置場所名 菩提寺小学校、三雲小学校、石部小学校、 菩提寺北小学校、甲西北中学校、甲西中学校
年間活動日数 (のべ) (480 日)	

### ■ 活動の具体的内容

- 子育てサロン「さんぽ」を開催。(1ヶ月に1～3日)
- 家庭教育支援講座を開催(年1回。今年度は11月19日に開催)
- 家庭科室のミシンの調整等、子どもたちの学校生活のサポート。

### ■ 特徴的な活動内容

- 子育てサロン「さんぽ」  
1ヶ月1～3回、「開放日」を決めて、コミュニティルームでプチ手芸教室を開催している。  
手芸の内容は、季節感や話題性があり、2時間程度で完成出来るものを考えている。  
手を動かしながら、色々な話が出来る場を目指している。
- 家庭教育支援講座  
年に1回、外部の講師を招いて、普段は体験することが難しい、ハンドクラフト作品の講習会。  
今年度は土曜日に親子参加型の講習会を企画・開催した。  
信楽在住の陶芸作家を講師に招き、来年の干支のうさぎの置物を作った。



【うさぎの置物作り】

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- 当日朝の検温とマスクの着用、手の消毒をお願いし、少人数で開催した。

### ■ 事業の成果

- 開催する手芸の内容によって、少人数ではあるが参加者がある。また、「子どもがやってみたいというので習いに来ました」と参加する保護者もいる。「黙々と手を動かしたのは久しぶり」「自分の時間を持てた」との声があった。
- 前年度までの家庭教育支援講座は、「平日は仕事で参加しづらい」との声があったため、今年度は土曜日に設定し、親子で作る陶芸教室にしたところ、定員を超える応募数があった。「親の方が夢中になってしまいました」「親子でよい土曜日がすごかったです」と好評だった。

### ■ 事業実施上の課題

- 月初めに開催日や内容等を文書でお知らせしているが、参加者が極端に少ないこともしばしばある。  
平日に開催していることで、仕事を持つ保護者は参加・利用しにくいのか、子育て等の悩みを話せる場が他にあるので、サロンを利用する必要がないのか、見極める必要がある。
- 土曜日に講座を開催したところ、多数の応募があったことから、子育てサロンを、年に何回か土曜日に開催し、保護者に「学校でこんなことをやっている」「こんなことができる」という認識を広げて、参加者を増やしていきたい。
- 子育てサロンの開放日を、学校行事を優先して決めているため、日や曜日の固定が難しく、都合をつけて継続的に参加してもらえらる支援員を増やすことが難しい。次年度は開放日の年間スケジュールを立てるか、曜日の固定を検討したい。

報告書記入者(地域学校協働活動推進員)

## 高島市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

子育てに関する情報は日々変化しており、様々な考え方があふれている。このため、自身の子育てに対しても「これでいいのか」という不安や「情報どおりにしなければならぬ」と負担に感じてしまう保護者がいる。子育て世代が働きに出ている間、祖父母世代が子育てに関わることも多いが、考え方の違いにとまどうことがある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

「地域の子どもは地域で育てる」という考え方のもと、祖父母世代も今の子育て現場でどんなことが起きているのか、また子育て世代がどんなことに興味を持っているのかを各種講座で学び、自身の経験を活かしながら周囲の大人とともに地域で子どもを育てていく。

### ■本年度の活動

#### （1）共育学習会

日々の暮らしの中にある「家事」をテーマに、家族の巻き込み方や、家事を楽しめる考え方について教えていただいた。本学習会では親と子がともに育つために学んでおきたいことをテーマに取り上げ開催する。



【共育学習会（お手伝い）】

#### （2）子どもにどうかかわりあうか講座

公民館と市内の園・学校が協力し、同年代の子どもを持つ親同士が情報交換したり、交流を図ることを目的に開催する。

今年は「防災」「いのち」「インターネットと子どもとの関わり」などそれぞれが身近な題材を取り上げ学んだ。



【子どもにどうかかわりあうか  
講座（防災）】

#### （3）地域教育力向上講座

子どもを取り巻く現状や子育てに関する情報について周囲の大人とともに学ぶ講座。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

昨年同様、講師の先生と関係団体の協力により1講座で期間限定動画配信を行った。

### ■本年度の成果

コロナが落ち着いた時期には事業を取り入れる園・学校が増えた。

### ■今後の課題

事業に参加したことの無い家庭にも情報が届くよう関係各課と連携を図る必要がある。

報告書記入者（社会教育課 担当）



## 家族、地域で支える子育て

高島市	本事業開始年度	平成 26 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容			A：家庭教育支援チーム数	( ) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数	( ) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( ) か所
( 7 日)			D：前項 (C) の配置場所名	(例 ○○小学校、 ○○支援センター等)

### ■ 活動の具体的な内容

#### ○学習講座・行事の実施等

共育学習会、子どもにどうかかわりあうか講座等、親と子どもがともに育ちあえるようなテーマを取り上げての学習会や、学校行事など同年齢の子どもを持つ保護者同士が集まる機会を利用した講座を開催した。子どもの年齢が近いと、不安や心配を感じる事柄も共通するところが多いため、講師には参加者から事前に聞いた質問に関するお話もしていただいた。



【共育学習会 (お手伝い)】

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○講師と関係機関の協力により期間限定の動画配信を行った。(昨年実施)

#### ○市立図書館より関連図書を集めて展示・貸し出しできるコーナーを設け来場者に自由に手に取っていただいた。(昨年実施)

#### ○「はぐっとナビたかしま」(母子手帳アプリ) のチラシを会場に設置するなど子育てに関する情報提供を行った。

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

#### ○チラシでの感染症対策呼びかけ、席の間隔確保など

### ■ 事業の成果

○講師の先生が講座終了後も会場に残り、質問できなかった参加者へ対応してくださった。時間中に質問できなかった方も個別で相談することができ、来場者に好評であった。

○参加型の防災講座を実施した学校では「親子で楽しく学ぶことができた」や「子どもが自分の身を守る為のスキルを身に付けることの大切さを感じた」などの意見が聞かれ、家庭でも話題となっていた。



【関連図書コーナー】

### ■ 事業実施上の課題

○事業に参加したことのない家庭にも情報が届くよう関係各課と連携を図る必要がある。

## 東近江市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

近年、核家族化、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化により、保護者にとって身近な手本となる人がいない、悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、児童・生徒の抱える課題が複雑化多様化する傾向にあり、家庭教育はますます大切な役割を担うようになってきており、学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していく必要がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てについて困り感のある保護者や、家庭教育について課題のある家庭の保護者を対象にアウトリーチ型の支援を届ける。※家庭教育支援員と対象の家庭に関わる学校関係者を中心に家庭教育支援チームを作り、家庭教育支援員が保護者に寄り添う形で子どもの育ちを支援する。

※東近江市では家庭教育支援員を「スマイルサポーター」と呼び、保護者に寄り添う家庭教育支援に取り組んでいる。

### ■本年度の活動

#### （１）市内５小中学校における各家庭教育支援チームによる活動

- ・家庭教育支援チームでの情報共有
- ・家庭教育支援員による家庭訪問、相談活動、保護者支援
- ・家庭教育支援員による子育てサロンの実施

#### （２）東近江市家庭教育支援員連絡会の実施

- ・年４回の家庭教育支援員連絡会を実施
- ・年２回の家庭教育支援員・校長（担当者）合同連絡会の実施
- ・各家庭教育支援員の取組報告や情報共有を行う

#### （３）東近江市家庭教育講演会の実施

- ・保護者、学校関係者、民生・児童委員、社会教育関係者を対象に１１月２７日に実施

#### （４）家庭教育支援研修会の実施

- ・県SSWSV上村先生による講演



【 連絡会の様子 】



【家庭教育講演会の様子】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・県や国のガイドラインに沿った相談活動等の実施や会議の開催

### ■本年度の成果

東近江市では今年度から家庭教育支援基盤構築事業を実施している。各校でアウトリーチ型支援をどのようにして保護者に届ければよいか不安を持つ家庭教育支援員もいたが、５名がそれぞれの方法で尽力してくださった結果、保護者へ支援を届けることができた。それらの取組方法を市内小中学校に周知して、事業実施校の拡充を図りたい。

### ■今後の課題

- ・家庭教育支援員の発掘と事業実施校の拡充

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

## 保護者に寄り添う家庭教育支援で安心感を届ける

東近江市	本事業開始年度	令和4年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>		A：家庭教育支援チーム数 ( 5 ) チーム B：家庭教育支援員数 ( 5 ) 人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 ( 5 ) か所 D：前項(C)の配置場所名 (箕作小学校、八日市北小学校、五個荘小学校、八日市西小学校、玉園中学校)
年間活動日数 (のべ)	( 288 日 )		

### ■ 活動の具体的内容

※東近江市では家庭教育支援員を「スマイルサポーター」と呼び、保護者に寄り添う家庭教育支援に取り組んでいる。

- 地域人材の養成等
  - ・市家庭教育講演会への参加を保護者、民生委員児童委員に呼びかけ、家庭教育に関心を持っていただいた。
- 家庭教育支援チームの設置・活動等
  - ・家庭教育支援員配置を希望した小中学校に家庭教育支援員を配置して、各校に家庭教育支援チームを設置している。
  - ・各校の家庭教育支援チームで、支援対象家庭を検討して家庭教育支援員による支援を行っている。
- 学習講座・行事の実施等
  - ・家庭教育支援チームに学校運営協議会が関わり、学校運営協議会の提案により子育てサロンの実施を予定している。
- 連絡会議・ケース会議の設置、運営等
  - ・各校での家庭教育支援チーム会議（ケース会議）は適宜実施していただいている。
  - ・市内家庭教育支援員連絡会では、年4回開催してお互いの活動を報告して情報共有を図っている。
  - ・市内家庭教育支援員・校長（担当者）合同連絡会では、事業実施に際しての連絡を行ったり、学校長に参加していただき各校での家庭教育支援チームの取組等について報告していただいたりしている。
  - ・「学校を核として地域力強化プラン」に係る運営委員会では、家庭教育支援基盤構築事業についての取組報告と協議を行っている。
- 保護者に対する情報提供等
  - ・各校で家庭教育支援員の活動に関するちらしを作成して保護者にお知らせしている。
- 訪問型家庭教育支援の実施等
  - ・重点的に支援が必要な家庭については、訪問型家庭教育支援を実施している。

### ■ 特徴的な活動内容

- 訪問型家庭教育支援
 

家庭教育支援員に学校へ行き渋りのある児童宅へ訪問していただいている。母親の言葉かけでは朝の準備が進まず、逆に母親に対して児童が反抗的な態度をとることも多い。親子関係が難しい家庭であるが、家庭教育支援員が訪問することで親子関係が親、子、支援員の三者関係となって雰囲気がよく会話も和やかにできた。また登校のための身支度を家庭教育支援員が手伝えることで、いつもより早い時間に登校することができた。
- 別室登校親子への支援
 

家庭教育支援員に別室登校をしている親子に関わっていただいている。これまでは別室で過ごす親子に同じ教員が続けて関わることが難しかったが、家庭教育支援員に継続して関わっていただくことで親子に安心感を持って登校していただくことができていた。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 活動前の手指消毒とマスクの着用等の感染症対策を行っている。

### ■ 事業の成果

- 家庭教育支援員に児童生徒や保護者へ寄り添う姿勢を持って支援活動をしていただけたことで、児童生徒や保護者からの信頼を得られた。それにより訪問型家庭教育支援等の保護者への支援が届くようになった。
- 保護者支援を継続して実施することで、効果が高まっていると感じる。

### ■ 事業実施上の課題

- 今年度の取組で、出勤時間数が限られている家庭教育支援員が円滑に保護者支援活動を実施していくためには、児童理解に長けている方や、実施校での勤務実績があつて児童を理解されている方が適任であることが分かってきた。しかし、そういった人材は限られており今後事業実施校を拡充していく中で課題となると考えられる。

報告書記入者（生涯学習課 指導主事）

## 日野町における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、誰ともつながらず、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいない孤立家庭が増え、育児への不安やストレスを抱える親が増加傾向にある。

また、生活習慣の乱れや経済的な困窮などの課題を抱えた家庭は、コロナ禍でより一層増加の一途をたどり、家庭教育支援の必要性がますます高まっている状況にある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

これから親になる方や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、学習機会や仲間づくりの場の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。そのために、あらゆる手段を駆使し、子育て家庭を地域と結びつけることが必要である。



【親子ふれすて】

### ■本年度の活動

#### （１）交流の場「親子ふれすて」の開催

毎月１～２回、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと交流することで、情報交換や子育ての悩みの解消の場となっている。

#### （２）学習講座の実施

- ・子育て学習会・・・保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校（３講座）
- ・就学前学習講座・・・全小学校（５校）で年１回
- ・マイナス１歳からの子育て講座・・・１講座
- ・子育て親育ち講座・・・２講座

#### （３）地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座・・・２講座
- ・家庭教育支援に関する研修会及び情報交換会・・・２回

#### （４）訪問型家庭教育支援

- ・ケース会議の実施。チーム内で情報共有にあたっている。

今後、家庭教育支援員の確保をし、より一層支援の周知を図る。



【親育ち講座】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・各講座の開催にあたっては、オンライン配信を実施し、自宅でも参加できるよう配慮した。
- ・対面での実施には、定員制による人数制限を行い、基本的な感染症対策（三密の回避、マスクの着用、消毒換気の実施）を徹底した。

### ■本年度の成果

- ・親子ふれすての開催により、保護者同士のつながりが生まれ、交流や情報交換の場として、子育ての悩みやストレスの解消につながった。
- ・各種講座の開催により、子どもとの関わり方や成長段階に合わせた接し方などを保護者に学んでもらうことができた。
- ・各事業の実施にあたり、学校や関係課と連携して取り組み、多角的に充実した支援を行えた。
- ・子育てサポーターとして、新規２名のサポーターを確保することができた。（合計１２名）
- ・学校では行き届かない第三者との関りがあることで、新たな切り口からの家庭教育支援ができた。
- ・家庭教育の受け止め先が増えた。

### ■今後の課題

- ・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。
- ・支援者の確保に努め、地域とのつながりを増やす努力が必要である。

報告書記入者（生涯学習課 職員）

## 「ゆっくりおおきなあれ」～子育て・親育ちを支える就学前学習会～

日野町	本事業開始年度	平成 23 年度
活動内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>		
年間活動日数 (のべ)	( 43日)	

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	( 2 ) チーム
B：家庭教育支援員数	( 2 ) 人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 2 ) か所
D：前項 (C) の配置場所名 (日野小学校・桜谷小学校)	

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

子育てサポーター養成講座 2 回

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

子育て支援チーム会議 6 回

#### ○学習講座・行事の実施等

子育て・親育ち講座 1 回

親育ち講座 1 回

親子ふれすて 12 回

就学前学習講座 5 回

PTA 子育て学習会 3 回

マイナス 1 歳からの子育て講座 1 回

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

訪問型家庭教育支援ケース会議 (2 ケース) 各 3 回

子育て支援チーム会議 6 回

#### ○保護者に対する情報提供等

子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」(毎月 1 月発行)

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

3 ケース支援を実施

### ■ 特徴的な活動内容

○家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校などの保護者が集まる機会(授業参観、1 日入学など)に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。

○これから結婚や出産を迎える方や乳幼児期の子育て中のお父さんお母さんを対象として、命が宿るマイナス 1 歳から、子どもの成長・発達について学ぶためにマイナス 1 歳からの子育て講座を開催する。

### ■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

○検温、手消毒の実施、定期的な換気。定員制による人数制限。

### ■ 事業の成果

#### ○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1 日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子どもとの関わりや声掛けなどについて学ぶ機会としている。保護者からは「子どもとの時間を大切にしたい」「講座を受けて前向きな気持ちになった」など概ね高評価を得ている。

#### ○マイナス 1 歳からの子育て講座

出産前から両親が子育てについて学習し、講座を通じて家庭内におけるワンオペ育児の抑制や子育てに対する不安を解消

### ■ 事業実施上の課題

#### ○親子ふれすて

参加者の年齢が全体的に下がっており、各イベント内容を変更することが課題となっている。運動会やおでかけなどは年齢を限定して募集をおこなったが、多くのかたが参加いただけるために今後年齢を下げたイベント内容を考える必要がある。

#### ○子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促すなど、しっかりと成長していく必要がある。



【子育てサポーター養成講座】



【就学前学習講座】

## 竜王町における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

家庭における子どもたちの生活は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、「新しい生活様式」への適応を求められている。この状況下、従来から家庭の教育力向上に取り組んでいるものの、皮肉にも子どもたちの日常では今まで以上にスマートフォン、ゲーム等の情報通信機器に割く時間が多くなったことなどから、睡眠不足に陥るなど「基本的な生活習慣」が崩れ、このことが起因して、家庭学習の習慣が十分に根付かない状況である。

一方、保護者においては、核家族化や地域でのつながりの希薄化など家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭が抱える問題も複雑化・多様化が進み、家庭の教育力低下や孤立が顕著となっており、従来の啓発・研修型の家庭教育支援では十分とはいえず、訪問型の「とどける」「つながる」仕組み作りが必要である。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

学校教育のめざす「生きて働く基礎学力の定着」と生涯学習の掲げる「規則正しい生活習慣の確立」を『車の両輪』と位置付ける中、学社連携の下、子どもたちの『学ぶ力の向上』に向け、家庭教育の担い手である保護者などを対象として、テーマを設定し、研修会を開催する。

また、保護者同士や地域の多様な人々とつながる場（プラットホーム機能）の提供や子育てに関わる悩みなどを共有し、解決へとつなげるべく相談支援活動を展開する。さらに、必要に応じて家庭訪問（アウトリーチ型）による支援を行う。

加えて、家庭教育支援チームを組織し個々の事例等への対応に学ぶこととするとともに、竜王町家庭教育支援運営委員会を設置して、支援チームの取組により顕在化した課題を整理し、その経過を検証することにより当町に求められる家庭教育支援のあり方について方向付けを行うこととする。

### ■本年度の活動

- (1) 竜王町教育フォーラム 2022 の開催（11月5日）
- (2) 家庭教育支援サポーターによる支援の実施（月10日程度）
- (3) 家庭教育支援事業主催研修会の実施（年3回）



【 竜王町教育フォーラム 2022 】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

検温や消毒などの物理的対策と人数制限や会場変更などの企画内容を見直し開催した。人数制限を行うことで、多くの方に参加いただけない点が課題であった。また、人と人とのつながりを持つときに、対面で心地のよい距離でかかわりを持ちたいところではあるが、感染症への配慮が必要な状況にあり、人との関係づくりにおいても配慮を行いつつ実施した。

### ■本年度の成果

小学校が支援につなげたい家庭と徐々にではあるがつながりを持つことができ、地域の支援人材（ソーシャルキャピタル）にもつなげることができた。また、多種多様な背景を持つすべての家庭を包摂する地域社会づくりに向けた方向性が見えてきた。

### ■今後の課題

家庭教育支援サポーターは、事業の発展を考えると増員するとともに、資質の向上は必須である。従事していただくにあたり、継続した研修機会の保障が必要であり、新たなサポーターの発掘も喫緊の課題である。

報告書記入者（生涯学習課 生涯学習係 主査）

## 竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～心豊かでたくましい竜王っ子をめざして～

竜王町	本事業実施年度 平成23年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 下記参照 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 2 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（竜王町教育委員会）

### ■ 活動の具体的内容

- 家庭教育支援チームの設置・活動等
- 訪問型家庭教育支援の実施等
  - ・家庭教育支援サポーターによる支援の実施（月10日程度）
    - ・ひだまりサロン（子育て応援サロン）の実施
    - ・地域の活動への支援
    - ・小学校での支援
- 学習講座・行事の実施等
  - ・竜王町教育フォーラム2022の開催（11月5日）
  - ・家庭教育支援事業主催研修会の開催（3回）



【ひだまり学舎での活動支援】



【家庭教育支援事業主催研修会】

### ■ 特徴的な活動内容

- 竜王町教育フォーラム2022
 

11月5日（土）午後開催。対象者は、町内教職員、PTA関係者、社会教育関係者、地域住民等。「私からあなたへ、そして、家庭から地域へ。みんなで育もう！心豊かでたくましい竜王っ子～『早寝早起き朝ごはん』と『減らそうスマホ時間』を合言葉に～」のテーマに基づき、兵庫県立大学准教授の竹内和雄先生をコーディネーターに「小・中学生と大人が共に考えるインターネットとのつきあい方～ウィズコロナ、Society5.0の社会を生きる～」と題し、パネルディスカッションを開催し、小学校1年生から中学校3年生を対象に実施したアンケート調査の結果を基に当町の子どもたちとスマホとの関係について、児童・生徒・保護者・教諭の生の声を聞くとともに、ネット接続の状況やスマホ依存度など、その現状を学ぶ機会となった。
- 家庭教育支援サポーターによる支援の実施
 

今年度の新たな取り組みとして、ひだまりサロン（子育て応援サロン）を月1～2回程度実施し、支援を届けたい家庭とのつながりの構築に注力した。子どもとの遊びや生活における支援を中心とした地域の活動への支援を通じて実施した。また、登校に不安がある児童やその保護者を対象とした支援を小学校と連携して実施した。
- 家庭教育支援事業主催研修会
 

大学講師や町内医療機関の医師などを講師に、「虐待と子育て支援」、「子どもと睡眠」、「運動と発達」をテーマに3回の研修会を実施した。子育てをすることで不安や悩みなどを抱えている保護者を対象に貴重な学びの場となった。

### ■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 教育フォーラムでは、コロナ対策を徹底し開催することを強く示した案内チラシを別途作成し、PTA関係者に配付した。コロナ禍においても183名の参加者を集めることができた。広い会場での開催、受付や退出口の分散、席の間隔確保、入場制限、検温・消毒などを始めとする徹底したコロナ対策を行った。

### ■ 事業の成果

- 教育フォーラムでは、当町の子どもたちとスマホとの関係、ネット接続の状況から、コロナ禍の影響が大きいと推測されるとはいえ、全国平均を上回る危機的状況にあるスマホ依存度について、参加者が喫緊の課題として受け止める場となった。アンケート結果では、「早速家庭で話し合う、基本的な生活習慣を見直すきっかけづくりになった」という声も聞かれ、基本的な生活習慣の確立に向け、家庭教育の重要性を改めて認識するとともに、参加者の一部にはスマホ使用にかかる家庭でのルールづくりを実践する姿が見られた。
- 小学校が支援につなげたい家庭と徐々にではあるがつながりを持つことができ、地域の支援人材（ソーシャルキャピタル）にもつなげることができた。

### ■ 事業実施上の課題

- 教育フォーラムは、参加者が固定化傾向にあり、真に家庭教育支援が必要な家庭への啓発や支援には、直接的に結びついていない。「気づき」が必要な家庭の関係者に参加してもらえる研修会や啓発方法について検討していく必要がある。
- 家庭教育支援サポーターは、事業の発展を考えると増員するとともに、資質の向上は必須である。従事していただくに当たり、継続した研修機会の保障が必要であり、新たなサポーターの発掘も喫緊の課題である。

報告書記入者（生涯学習課 生涯学習係 主査）

## Ⅷ コミュニティ・スクール推進事業

### 1 目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

### 2 事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

#### (1)CSアドバイザー派遣

##### ①趣旨

- ・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（CSアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。
- ・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

##### ②CSアドバイザー

CSアドバイザー

わたしたちがサポートします！

							
安藤 清代 元滋賀県立 草津養護学校長 (CS設置校)	伊藤 照男 元滋賀県立 彦根小学校長 (CS設置校)	北島 泰雄 元草津市立 草津第二小学校長 (CS設置校)	北辺 禎雄 元長浜市立 虎郷小学校長 (CS設置校)	武井 哲郎 立命館大学 准教授 博士(教育学)	高木 和久 文部科学省 CSマスター	松田 幸夫 長浜市立 余呉小中学校 主任事務主査 (CS設置校)	山田 薫 元滋賀県立 伊香高等学校 校長 (CS設置校)

(令和4年度 滋賀県教育委員会作成 滋賀のコミュニティ・スクール リーフレットより)

#### ③派遣実績

令和5年2月10日現在

派遣日 出役時間	派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要 ①参加者 ②テーマ・内容
4月18日(月) 16:00 - 17:00	第1回 滋賀県CSアドバイザー会議	8名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員 7名 ② 学校運営協議会の正しい理解と効果的な運用を目指して
5月17日(水) 14:00 - 15:30	水口高等学校 職員研修会	山田 薫	① 水口高等学校教職員 40名 ② コミュニティ・スクール設置の意義と地域連携について
5月31日(火) 15:00 - 16:00	粟東高等学校 学校運営協議会	山田 薫	① 学校運営協議会委員、学校管理職等 9名 ② 学校の現状や地域の特性を踏まえた学校づくりについて
6月27日(月) 10:00 - 12:00	彦根市南地区公民館 教頭研修会	松田 幸夫	① 彦根市内小中学校教頭、行政関係者等 30名 ② コミュニティ・スクールの導入促進・充実に向けて
7月5日(火) 9:00 - 12:00	彦根市南地区公民館 彦根市生涯学習課員および社会 教育委員研修会	伊藤 照男	① 彦根市生涯学習課員、社会教育委員等 10名 ② コミュニティ・スクールの導入促進・充実への方途
7月12日(火) 19:00 - 21:00	米原市役所 米原市コミュニティ・スクール推進事業 等地域・学校の連携に関する研修会	北辺 禎雄	① 米原市内学校運営協議会委員、行政関係者等 80名 ② コミュニティ・スクール推進事業の線形印的な取組について
7月14日(木) 13:30 - 15:00	三雲養護学校 学校運営協議会	安藤 清代	① 三雲養護学校管理職、学校運営容疑会員 6名 ② 三雲養護学校におけるコミュニティ・スクール事業について
8月1日(月) 11:00 - 12:00	新旭養護学校 職員研修会	安藤 清代	① 新旭養護学校教職員 40名 ② 特別支援学校における「コミュニティ・スクール」の取組み
8月8日(月) 9:00 - 12:00	野洲市役所 野洲市管理職研修会	高木 和久	① 野洲市内小中学校教職員 25名 ② コミュニティ・スクール設立にあたっての校長のビジョン形成のあり方について



10	8月30日 (火)	守山養護学校	安藤 清代	① 守山養護学校管理職 3名(校長・教頭・主幹教諭)
	15:00 ~ 17:00	コミュニティ・スクール説明会		② 令和5年度 県立守山養護学校 学校運営協議会設置について
11	9月20日 (火)	大津市役所別館	北辺 禎雄	① 大津市内学校運営協議会委員、行政職員等 80名
	14:00 ~ 16:00	コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動の推進に係る研修会		② 学校と地域の連携・協働に向けて ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～
12	10月20日 (木)	愛荘町秦荘庁舎	高木 和久	① 地域学校協働活動推進員、愛荘町内教職員、行政担当者等 20名
	15:00 ~ 17:00	地域学校推進部会		② 学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員の役割
13	10月27日 (木)	桐原コミュニティセンター	伊藤 照男	① 市内教職員、学校運営協議会委員、行政担当者等 14名
	14:30 ~ 17:00	コミュニティ・スクール研修会		② コミュニティ・スクールの取組をどう充実させるか
14	11月2日 (水)	粟東中学校	武井 哲郎	① 粟東中学校管理職、学校評議員、行政担当者 15名
	10:00 ~ 12:00	コミュニティ・スクール個別説明会		② 学校と地域の協働はなぜ必要か？ーインクルーシブな学びと育ちの場をつくるためにー
15	11月8日 (火)	堅田高等学校	山田 薫	① 堅田高等学校管理職 3名
	15:00 ~ 17:00	管理職研修会		② コミュニティ・スクールの立ち上げと推進体制の構築について
16	11月16日 (水)	守山中学校・高等学校	山田 薫	① 守山中学校・高等学校管理職 3名
	10:00 ~ 11:30	CS設置に係る連絡会		② 来年度からのコミュニティ・スクール設置に係る準備および留意事項について
17	11月18日 (金)	日野町林業センターホール	松田 幸夫	① 日野町立学校管理職、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、行政担当者 約50名
	19:30 ~ 21:00	日野町コミュニティ・スクール合同研修会		② 地域とともにある学校 コミュニティ・スクールについて～学校を核とした地域づくり～
18	11月24日 (木)	多賀町役場	高木 和久	① 多賀町教育長、行政担当者等 7名
	13:30 ~ 15:00	コミュニティ・スクール導入のための準備に係る研修		② 地域と共に歩む学校園づくり
19	11月24日 (木)	桐原コミュニティセンター	伊藤 照男	① 市内教職員、学校運営協議会委員、行政担当者等 30名
	14:30 ~ 17:00	コミュニティ・スクール研修会		② コミュニティ・スクールの取組をどう充実させるか
20	11月29日 (火)	甲賀市役所別館	伊藤 照男	① 甲賀市内小中学校管理職、行政担当者等 23名
	15:30 ~ 17:00	コミュニティ・スクールに係る学校運営協議会委員研修会・第3回管理職研修会		② コミュニティ・スクールの導入に向けて～持続可能な「地域とともにある学校」のために～
21	12月6日 (火)	第2回 滋賀県CSアドバイザー会議	6名	① CSアドバイザー、県生涯学習課 6名
	10:00 ~ 12:00			② 滋賀県の状況について、情報交換
22	12月7日 (水)	守山養護学校	安藤 清代	① 守山養護学校管理職、各学部主事、各分掌部長等 10名
	16:00 ~ 17:00	守山養護学校運営委員会		② 令和5年度 県立守山養護学校 学校運営協議会設置について
23	12月16日 (金)	信楽高等学校	山田 薫	① 信楽高等学校管理職、学校運営協議会委員、陶芸部生徒 23名
	15:00 ~ 16:50	第3回学校運営協議会		② 穴窯見学、陶芸部生徒との懇話、意見書提出について
24	1月27日 (金)	愛荘町役場秦荘庁舎	北辺 禎雄	① 愛荘町内学校園長、教育委員、行政担当者等 20名
	15:00 ~ 17:00	第2回地域学校協働活動実行委員会		② CSを活性化する地域・家庭・学校の連携・協働による取組
25	2月11日 (土)	長浜市役所高月支所	松田 幸夫	① 各校園代表、行政担当者等 約100名
	13:30 ~ 15:30	令和4年度長浜市学校運営協議会各校園代表者会		② 滋賀県内のコミュニティ・スクールを取り巻く状況・実践事例等
26	2月13日 (月)	第3回 滋賀県CSアドバイザー会議	6名	① CSアドバイザー、県生涯学習課 6名
	15:00 ~ 16:30			② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について、令和5年度の方針について
27	2月16日 (木)	草津市教育研究所	北島 泰雄	① 各校代表、行政担当者 約23名
	15:30 ~ 16:45	第2回コミュニティ・スクールくさつ研修会		② 今年度取組の報告および次年度構想の検討
28	2月22日 (水)	彦根市立城西小学校	松田 幸夫	① 新規導入小・中学校教職員・次年度学校運営協議会委員、行政担当者等
	15:10 ~ 16:10	コミュニティ・スクールの導入と充実に向けた研修会		② コミュニティ・スクールの次年度導入に向けて
29	2月24日 (金)	八日市養護学校	安藤 清代	① 八日市養護学校管理職、学校運営協議会委員 約10名
	10:00 ~ 12:00	第3回学校運営協議会		② 今年度の教育活動や卒業生の進路状況、学校評価と次年度の学校運営について

(2)コミュニティ・スクールの研修の充実 (詳細は「I 推進協議会の取組」の項に掲載)

- ① 「学校を核とした地域力強化プラン」(新規導入市町等対象)研修会
- ② 「学校を核とした地域力強化プラン」(事業推進市町等対象)研修会
- ③ 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

(3)「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会の開催

- ・CSアドバイザーから2名が参加し、アドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

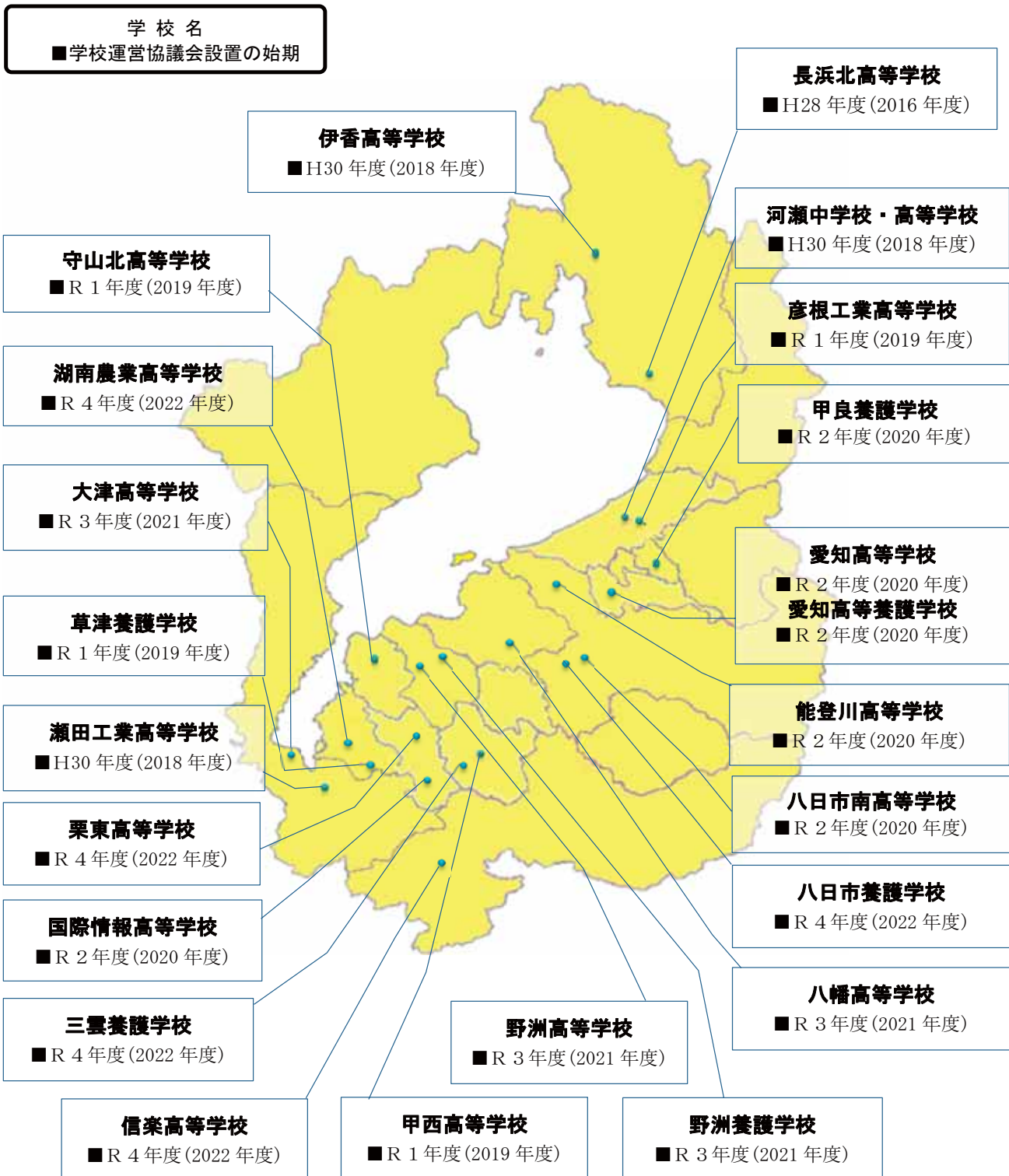
(4) 県立学校の学校運営協議会設置推進

県設置方針を策定

- ・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。
- ・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

令和4年度（2022年度）学校運営協議会の設置校

協議会数：22 … 高等学校 17 校（県立中学校 1 校）  
特別支援学校 6 校



(5)令和4年度版 「滋賀のコミュニティ・スクール」リーフレット

※電子データもご活用ください。(滋賀県学習情報提供システム「におねっと」内に掲載)


URL および 二次元コード

[https://www.nionet.jp/lldivision/community\\_school/file/r4cs\\_hp.pdf](https://www.nionet.jp/lldivision/community_school/file/r4cs_hp.pdf)



～ 5校の取組について紹介（CSリーフレットより抜粋） ～


**県立能登川高等学校**  
「イルミネーションの設置」



能登川共盛会・商工会青年部・ライオンスクラブの方々と一緒に“Lighting Bell in Notogawa”のイルミネーションを設置しました。

～生徒の声～  
「地域の小学生や大人の方々と協力して、きれいなイルミネーションができました。来年もぜひ参加したいと思います。」

**日野町立西大路小学校**  
「弟子入り体験」



▼日野祭囃子  
▲わら織工づくり

地域人材と一緒に、ふるさと学習を進めます。地域から学び、地域に発信し、地域に愛着と誇りをもつ子を育てます。

**学校運営協議会での“熟議”が  
様々な活動に活かされています。**

**甲賀市立貴生川小学校**  
「はじめよう やってみよう」



きぶかわっこの主体性を育むことを目指し、「はじめよう、やってみよう」の合言葉を地域と学校で掲げました。「大人も子どもも心かようあいさつ」に向け、地域あがりの取組を推進中です。

**米原市立大東中学校**  
「地域とともに伊吹山を感じる」



6月に1年生は、プロの登山家の竹内洋岳氏の講演を地域の人と一緒に聞き、次の日に学校運営協議会の会長や地域のボランティア、そして竹内氏と一緒に伊吹山に登りました。

**県立野洲養護学校**  
「防災設備の見学」



学校運営協議会では、『防災』をテーマに進めています。校舎屋上に設置してある自家発電装置を見学し、専門的な視点から実際場面での効果的な運用に向けた意見を頂きました。

～地域の声～  
「おはよう！気をつけてな！」朝の挨拶で自然と笑顔になるから不思議です。人と人のつながりを深くし、笑顔が生まれる「あいさつ」を継続していきたい。

～生徒の声～  
「伊吹山に登ってみて、景色がとてもきれいで達成感を感じました。地域の方のお話も聞くことができ、とても充実した登山になりました。」

～協議会委員の声～  
「大規模災害に備えて、日頃から地域のリスクを把握しておくことや、学校、児童生徒・保護者、地域、関係機関等の情報共有と連携が大切。」

**令和4年度**

**「学校を核とした地域力強化プラン事業」実践事例集**

**令和5年（2023年）3月**

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL：077-528-4654

FAX：077-528-4962

MAIL：ma06@pref.shiga.lg.jp

ホームページ：「におねっと」<https://www.nionet.jp/>